平成 28 年度防災・減災に関する県民意識調査
報　告　書

平成２８年 10 月

広　　島　　県

― 目　　次 ―

第１章　調査の概要

１ 調査の目的――― 1
２ 調査の設計――― 1
３ 回収結果――― 1
４ サンプル設計――― 2
５ 調査結果の見方――― 4

第２章　回答者の属性

Ⅰ あなた自身について ――― 5
１　居住している市区町 ――― 5
２－１ 住まいの地域 ――― 5
２－２ 住まいの場所や周囲の状況 ――― 5
３　年齢（平成 28 年 4 月 1 日時点） ――― 6
４　性別 ――― 6
５　主な生活形態 ――― 6
６－１　住宅の種類 ――― 6
６－２　耐震性の有無 ――― 6
６－３　集合住宅の階数 ――― 6
７－１　同居の家族 ――― 7
７－２　同居人のうち自力避難困難者の有無 ――― 7
８　地域での防災活動への関わり ――― 7
９　町内会などへの加入状況と親密度 ――― 9
10　居住年数 ――― 11
11　広島県への愛着の有無 ――― 12
12　最近の関心事項 ――― 14

第３章　調査結果

Ⅱ 災害に対する意識と経験について ――― 15
１　自然災害や防災・減災への関心の有無 ――― 15
２　居住地域で被災する可能性 ――― 17
３　災害へ対する不安 ――― 26
４　災害による被害経験の有無 ――― 35
５　気象警報が役立った経験の有無 ――― 37

６　災害や防災・減災に関する考え方 ―――― 39
７　防災活動の盛況度 ―――― 52
８　居住場所で想定される災害の危険性 ―――― 54
９－１　災害の危険性を知ったきっかけ ―――― 56
９－２　災害の危険性を知ろうと思ったきっかけ ―――― 59
９－３　災害の危険性の確認方法 ―――― 62
10　災害の危険性はないとした理由 ―――― 65
11　災害の危険性を知らない理由 ―――― 68
12　災害情報の入手方法 ―――― 71
13　防災情報メールの認知度 ―――― 74
14　防災情報メールを登録しない理由 ―――― 76
15　防災教室等の参加経験 ―――― 79
16　防災教室等に参加しなかった理由 ―――― 81
17　防災教室等が開催されることを知っていた場合の参加意向 ―――― 84
18　防災教室等の有効な告知方法 ―――― 86
Ⅲ 災害に対する備えや災害時の行動について ―――― 89
19－１　災害への備えについて ―――― 89
19－２　災害への備えの開始時期 ―――― 101
20　避難場所の確認方法 ―――― 112
21　災害への備えをしている人の割合について ―――― 115
22　災害への備えの期待度について ―――― 119
23　災害への備えの考え方 ―――― 123
24－１　避難勧告等の発令の有無 ―――― 132
24－２　避難勧告等の発令時の避難状況 ―――― 134
24－３　避難勧告等の発令時，近所の人の避難状況 ―――― 136
24－４　大雨警報発表時の被害の不安 ―――― 138
24－５　大雨による被害状況 ―――― 140
24－６　避難行動を開始するタイミング ―――― 142
25　災害や防災に関する番組の視聴頻度 ―――― 144
26　インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度 ―――― 146
27　周囲の人と災害や防災に関する話をする頻度 ―――― 148
28　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度 ―――― 150
29　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけ ―――― 152
30　「みんなで減災　はじめの一歩」の認知度 ―――― 155
31　「みんなで減災　推進大使」の認知度 ―――― 157
32　「みんなで減災　推進大使」を知ったきっかけ ―――― 159

＜参考資料＞

調査票 ―――― 161

第 1 章　　調 査 概 要

第１章　調査概要

１　調査の目的

広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の成果目標の達成度を把握するとともに，県民が防災・減災に関する行動に移る動機や行動内容，情報の入手手段等の実態を把握・分析し，広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の次年度以降の具体的な取り組みに反映することを目的とする。

２　調査の設計

調　査　地　域	広島県全域
調　査　対　象	広島県内在住の満 20 歳以上の男女
標　本　数	10,000 人 （広島地域生活圏　5,000 人，備後地域生活圏　3,000 人，備北地域生活圏　2,000 人）
抽　出　方　法	層化２段階無作為抽出法（選挙人名簿により抽出）
調　査　方　法	郵送配布，郵送回収（督促状１回送付）
調　査　期　間	平成 28 年 8 月 22 日（月）から平成 28 年 9 月 15 日（木）まで

３　回収結果

対　象　者　数	10,000 人
回　収　数	5,503 人
有 効 回 収 数	5,483 人（男性 2,589 人・女性 2,855 人・不明 39 人）
有 効 回 収 率	54.8%
規正標本数（※）	52,271 件

（※）規正標本数

本調査では，３生活圏それぞれに与えられた標本数（広島 5,000，備後 3,000，備北 2,000）を生活圏別に層化した各グループの規模の大きさにより，比例配分した。また，地域別に十分な集計・分析が可能な回収数を確保するため，あらかじめ，抽出時に人口比の低い市区町村を最低 200 サンプル確保するように設定した。そのため，回収結果全体では実際の人口比に対して多くサンプル数を設定した市町村の結果が実際よりも大きく反映することになる。これを補正するために，その他の市町村の標本に加重をし，規正標本数をもって集計，分析を行った。

４　サンプル設計

１）母集団　　広島県内の市町に居住する満 20 歳以上の県民
２）標本数　　10,000
３）地点数　　市部　　91 地点
　　町部　　9 地点　　計 100 地点
4）抽出方法　　層化２段階無作為抽出法

（１）　層化

県内の市区町村を単位に次の３区分に分類し，層とした。

広島地方生活圏：広島市中区，広島市東区，広島市南区，広島市西区，広島市安佐南区，広島市安佐北区，広島市安芸区，広島市佐伯区，呉市，竹原市，大竹市，東広島市，廿日市市，安芸高田市，江田島市，府中町，海田町，熊野町，坂町，安芸太田町，北広島町，大崎上島町

備後地方生活圏：三原市，尾道市，福山市，府中市，世羅町，神石高原町

備北地方生活圏：三次市，庄原市

（注）母集団は平成 28 年３月末日現在の各市町村住民基本台帳を基に推計したもの

（２）　標本数の配分

３生活圏それぞれに与えられた標本数（広島 5,000，備後 3,000，備北 2,000）を生活圏別に層化した各グループの規模の大きさにより，比例配分した。また，地域別に十分な集計・分析が可能な回収数を確保するため，あらかじめ，抽出時に人口比の低い市区町村を最低 200 サンプル確保するように設定した。

（３）　抽出

①平成 22 年国勢調査時に設定された調査区（国勢調査区）を第１次抽出単位として使用した。

②調査地点数については，１調査地点あたりの標本数が 20 になるように，各層に割り当てられた標本数から算出し決めた。

③調査地点数の抽出は，抽出地点数が２地点以上割り当てられた市町については，抽出間隔を算出し，等間隔抽出法で抽出した。

④抽出に際して，各層内における市町の配列順序は，平成 22 年国勢調査における「市町村コード一覧」の配列順序に従った。

⑤抽出調査地点における対象者の抽出は，調査地点（町・丁目・街区・番地等を指定）内から，選挙人名簿により等間隔抽出法で抽出した。

⑥以上の作業の結果から得られた生活圏別の標本数調査地点は次のとおりである。

抽　出　調　査　地　点　数　一　覧

生活圏	抽出地点			標本数
広島地方生活圏	広島市	中区	(12地点)	240
		東区	(12地点)	240
		南区	(12地点)	240
		西区	(13地点)	260
		安佐南区	(13地点)	260
		安佐北区	(12地点)	240
		安芸区	(11地点)	220
		佐伯区	(12地点)	240
	小計		(97地点)	1940
	呉市		(14地点)	280
	竹原市		(10地点)	200
	大竹市		(11地点)	220
	東広島市		(13地点)	260
	廿日市市		(12地点)	240
	安芸高田市		(11地点)	220
	江田島市		(10地点)	200
	安芸郡	府中町	(11地点)	220
		海田町	(11地点)	220
		熊野町	(10地点)	200
		坂町	(10地点)	200
	山県郡	安芸太田町	(10地点)	200
		北広島町	(10地点)	200
	豊田郡	大崎上島町	(10地点)	200
	計		(153地点)	3,060

生活圏	抽出調査地点			標本数
備後地方生活圏	三原市		(21地点)	420
	尾道市		(27地点)	540
	福山市		(64地点)	1,280
	府中市		(15地点)	300
	世羅郡	世羅町	(12地点)	240
	神石郡	神石高原町	(11地点)	220
	計		(150地点)	3,000
備北地方生活圏	三次市		(57地点)	1,140
	庄原市		(43地点)	860
	計		(100地点)	2,000
合計			(500地点)	10,000

５　調査結果の見方

（１）本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第２位を四捨五入しているため，全項目の回答比率の合計が 100.0％とならない場合がある。

（２）複数の回答を求めた質問では，回答比率の合計が 100.0％を超えることがある。

（３）報告書中の図表では，コンピューター入力の都合上，回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

（４）文字数が多い選択肢については，意味を損なわない程度に選択肢を省略しているものがある。

（５）図表中の「ｎ」は number of cases の略で，回答者総数または分類別の回答者数を示す。各比率はｎを 100％として算出している。

第２章　回答者の属性

第２章　回答者の属性

Ⅰ　あなた自身について

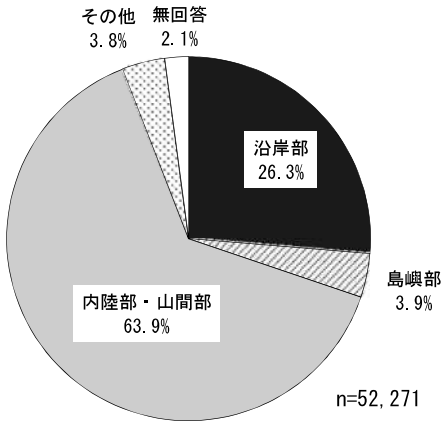
１　居住している市区町

市町村		回答数	構成割合（%）
広島地方生活圏	広島市中区	2,582	4.9
	広島市東区	2,194	4.2
	広島市南区	2,613	5.0
	広島市西区	3,501	6.7
	広島市安佐南区	4,236	8.1
	広島市安佐北区	2,688	5.1
	広島市安芸区	1,437	2.7
	広島市佐伯区	2,488	4.8
	呉市	4,285	8.2
	竹原市	504	1.0
	大竹市	528	1.0

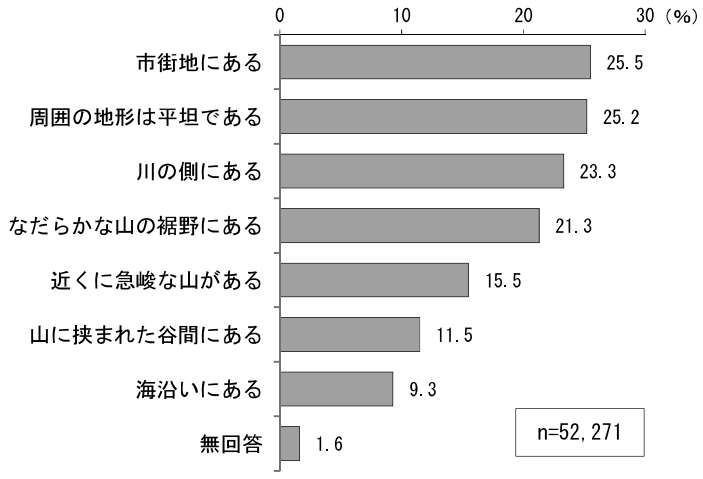
市町村		回答数	構成割合（%）
広島地方生活圏	東広島市	3,453	6.6
	廿日市市	2,093	4.0
	安芸高田市	558	1.1
	江田島市	480	0.9
	府中町	930	1.8
	海田町	523	1.0
	熊野町	439	0.8
	坂町	236	0.5
	安芸太田町	126	0.2
	北広島町	362	0.7
	大崎上島町	146	0.3

市町村		回答数	構成割合（%）
備後地方生活圏	三原市	1,796	3.4
	尾道市	2,609	5.0
	福山市	8,449	16.2
	府中市	750	1.4
	世羅町	312	0.6
	神石高原町	178	0.3
備北地方生活圏	三次市	991	1.9
	庄原市	701	1.3
	無回答	82	0.2
	計	52,271	100.0

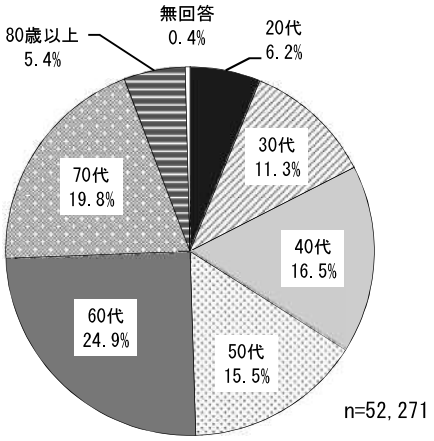
２－１　住まいの地域



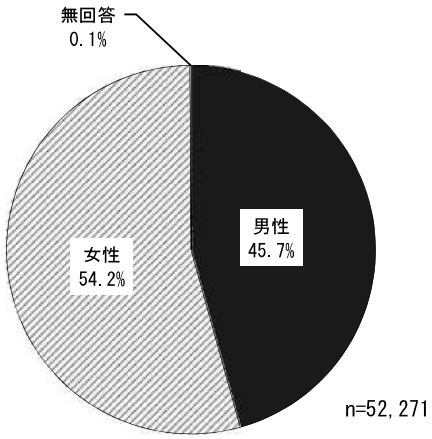
２－２　住まいの場所や周囲の状況



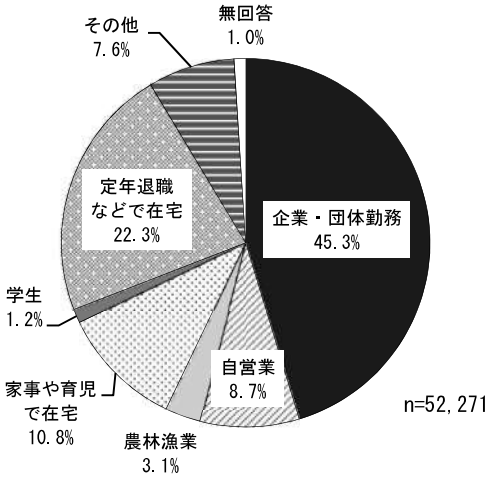
３　年齢



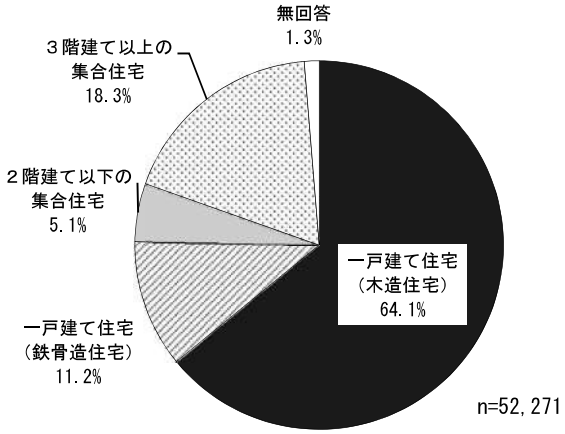
４　性別



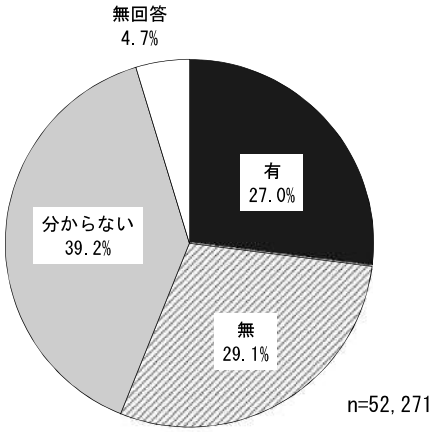
５　主な生活形態



６－１　住宅の種類



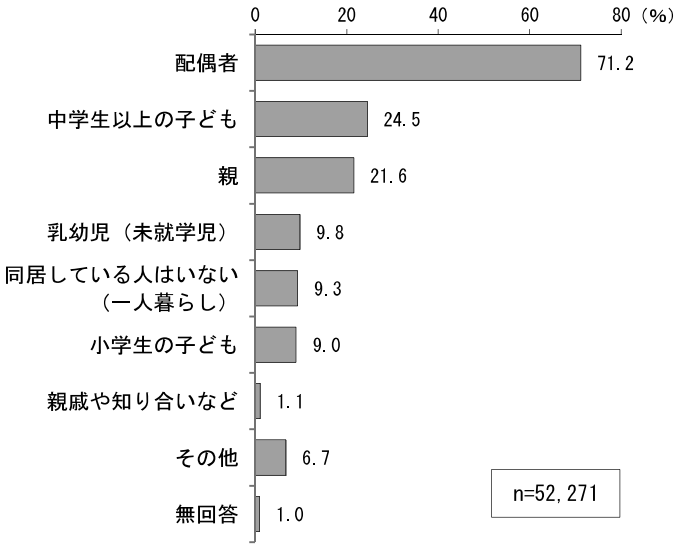
６－２　耐震性の有無



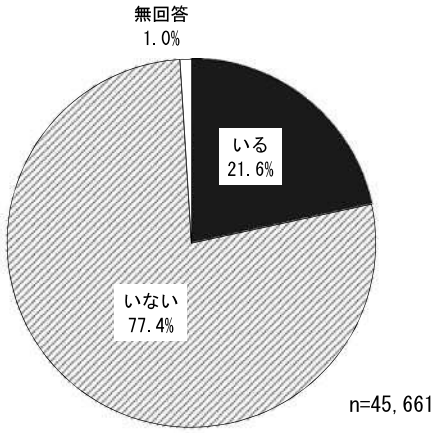
６－３　集合住宅の階数

	２階建て以下の集合住宅		３階建て以上の集合住宅	
	回答数	構成割合（%）	回答数	構成割合（%）
１階	1,190	44.4	884	9.2
２階	1,367	51.0	1,643	17.1
３階			2,169	22.6
４階			1,480	15.4
５階			982	10.2
６階以上			2,313	24.1
無回答	125	4.7	111	1.2

７－１　同居の家族

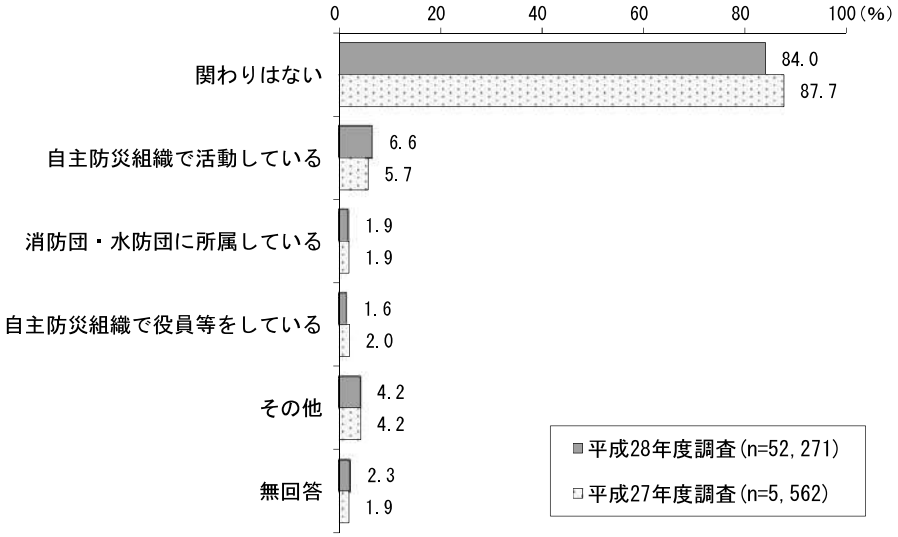


７－２　同居人のうち自力避難困難者の有無



８　地域での防災活動への関わり

● 地域での防災活動への関わりについて教えてください。（○はいくつでも）



地域での防災活動への関わりについて，「関わりはない」との回答が 84.0％と最も高く，次いで「自主防災組織で活動している」（6.6％），「消防団・水防団に所属している」（1.9％），「自主防災組織で役員等をしている」（1.6％）の順となっている。

経年比較すると，大きな差はみられない。

【図表　地域での防災活動への関わり（年代別）】

（%）

		自主防災組織で活動している	自主防災組織で役員等をしている	消防団・水防団に所属している	関わりはない	その他	無回答
全　体(n=52,271)		6.6	1.6	1.9	84.0	4.2	2.3
年代別	20代(n=3,254)	1.5	0.1	0.3	96.7	0.9	0.5
	30代(n=5,910)	2.3	0.2	2.5	93.9	1.1	0.1
	40代(n=8,610)	6.0	1.5	2.8	86.1	2.2	1.8
	50代(n=8,096)	6.3	0.4	4.7	84.4	3.3	1.3
	60代(n=12,995)	8.3	2.6	0.8	82.8	4.3	1.9
	70代(n=10,370)	10.0	3.3	0.4	75.2	8.1	4.0
	80歳以上(n=2,832)	3.8	0.2	1.6	79.5	7.7	7.8

地域での防災活動への関わりについて，年代別にみると，「関わりはない」との回答がすべての年代で第１位となっている。20 代，30 代では９割を超え高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　地域での防災活動への関わり（性別）】

（%）

		自主防災組織で活動している	自主防災組織で役員等をしている	消防団・水防団に所属している	関わりはない	その他	無回答
全　体(n=52,271)		6.6	1.6	1.9	84.0	4.2	2.3
性別	男性(n=23,878)	9.1	2.3	3.2	81.1	3.2	1.8
	女性(n=28,349)	4.4	1.1	0.7	86.5	5.0	2.6

地域での防災活動への関わりについて，性別にみると，男女ともに上位２項目は同様となっている。「関わりはない」との回答は女性（86.5%）が男性（81.1%）を 5.4 ポイント上回っている。

【図表　地域での防災活動への関わり（生活形態別）】

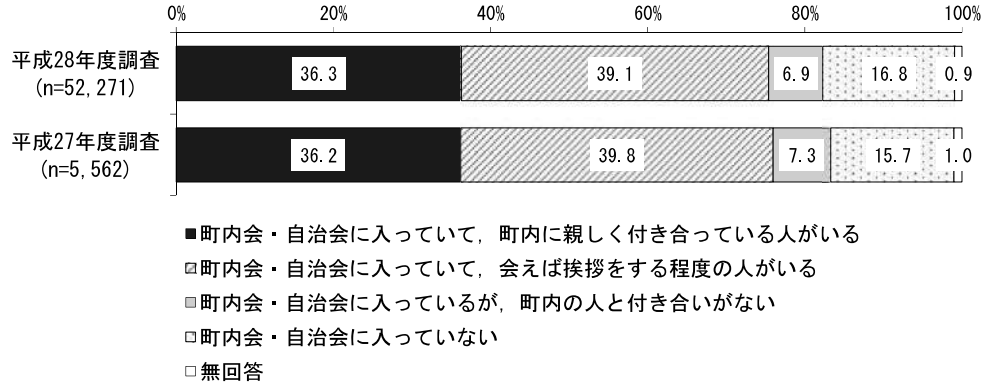
（%）

		自主防災組織で活動している	自主防災組織で役員等をしている	消防団・水防団に所属している	関わりはない	その他	無回答
全　体(n=52,271)		6.6	1.6	1.9	84.0	4.2	2.3
生活形態別	企業・団体勤務(n=23,691)	5.6	0.7	2.6	87.7	2.4	1.2
	自営業(n=4,538)	8.1	1.3	3.2	81.6	4.6	1.3
	農林漁業(n=1,639)	16.4	4.3	6.0	63.1	8.5	4.4
	家事や育児で在宅(n=5,629)	4.6	2.1	0.7	87.3	2.8	2.9
	学生(n=618)	1.5	0.0	0.0	98.5	0.0	0.0
	定年退職などで在宅(n=11,662)	9.6	3.3	0.5	78.6	6.1	3.0
	その他(n=3,954)	1.7	0.6	0.6	84.7	9.6	3.0

地域での防災活動への関わりについて，生活形態別にみると，すべての生活形態で上位２項目は同様となっている。「関わりはない」との回答は学生では約 10 割と他の生活形態に比べ高くなっている。

９　町内会などへの加入状況と親密度

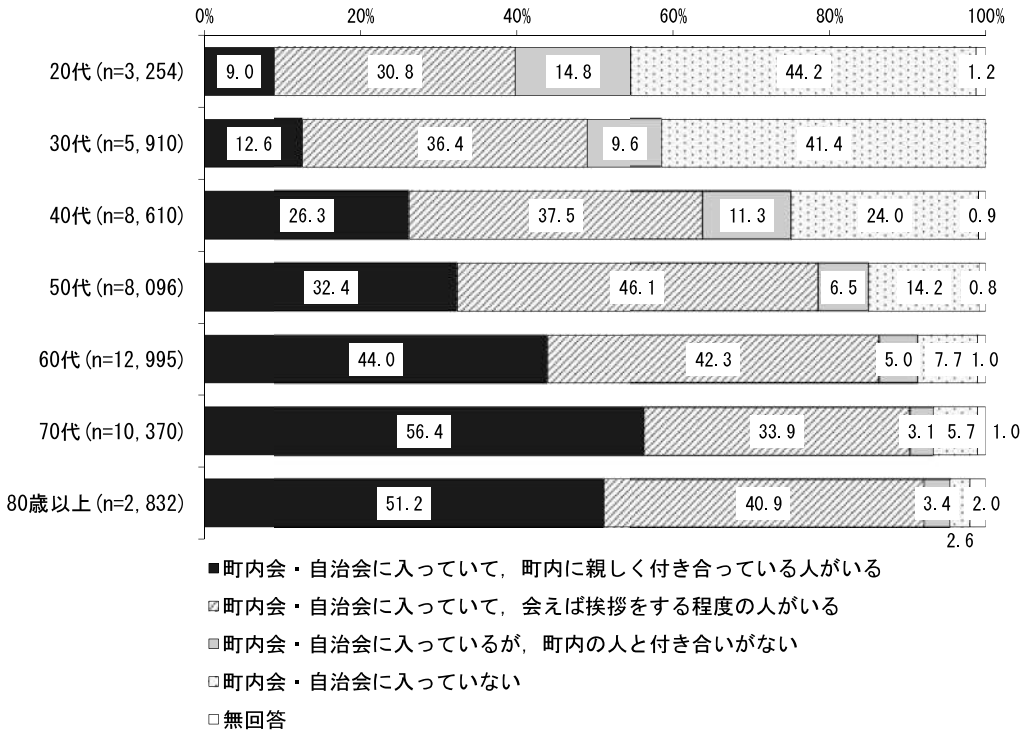
● あなたは，町内会・自治会に入っていますか。
　また，町内の人々とどれくらい親しく付き合っていますか。（○は１つ）



町内会などへの加入状況と親密度について，「町内会・自治会に入っていて，会えば挨拶をする程度の人がいる」との回答が 39.1%と最も高く，次いで「町内会・自治会に入っていて，町内に親しく付き合っている人がいる」(36.3%)，「町内会・自治会に入っていない」(16.8%) などの順となっている。

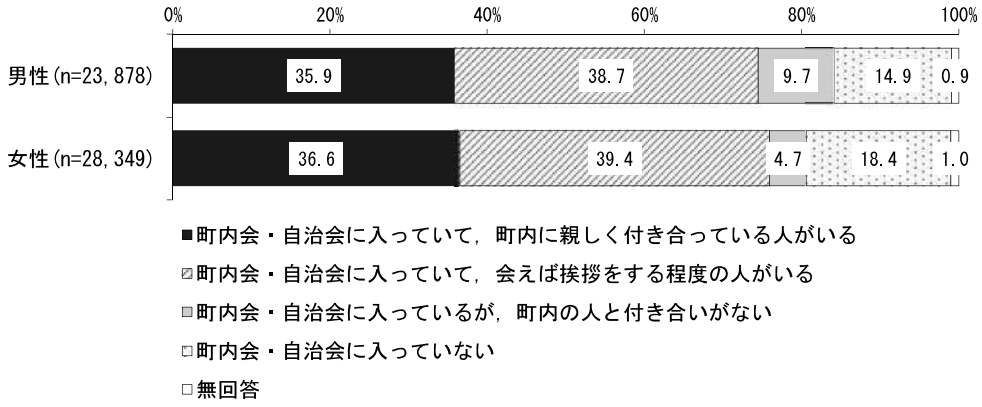
経年比較すると，すべての項目において大きな差はみられない。

【図表　町内会などへの加入状況と親密度（年代別）】



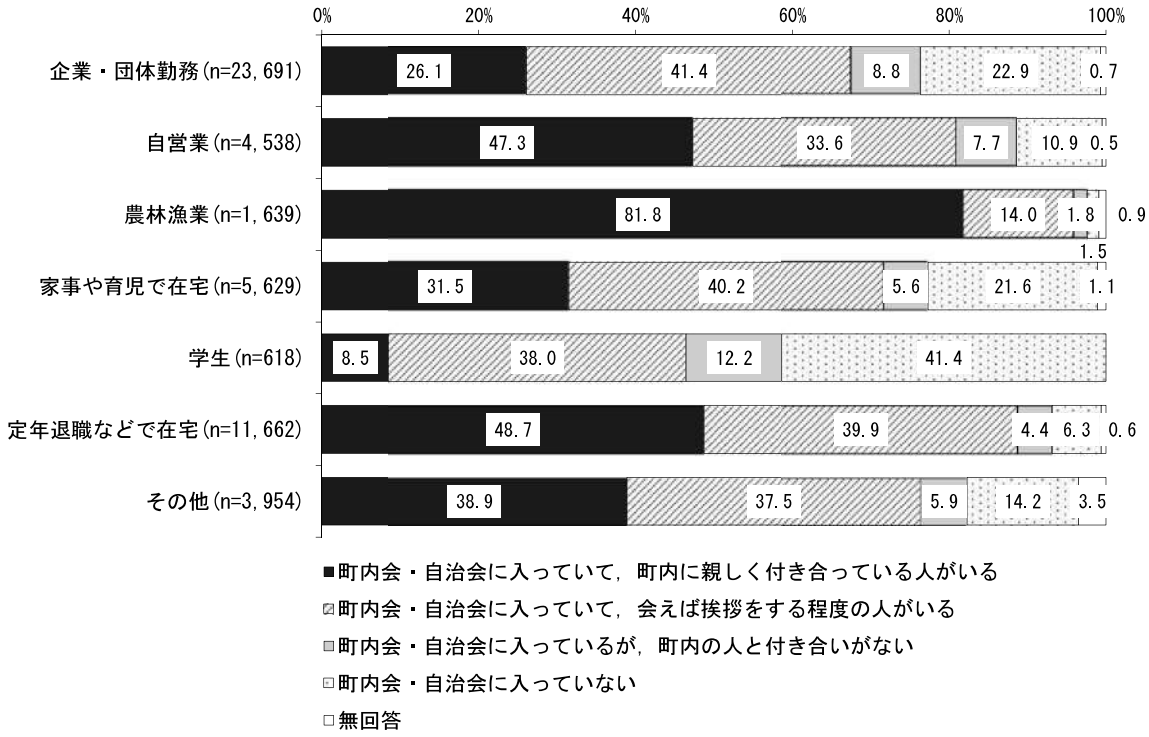
町内会などへの加入状況と親密度について，年代別にみると，「町内会・自治会に入っていて，町内に親しく付き合っている人がいる」との回答は 70 代で５割台半ばと高くなっており，年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「町内会・自治会に入っていて，会えば挨拶をする程度の人がいる」との回答は 50 代で４割台半ばと高くなっている。「町内会・自治会に入っていない」との回答は 20 代，30 代で４割台と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　町内会などへの加入状況と親密度（性別）】



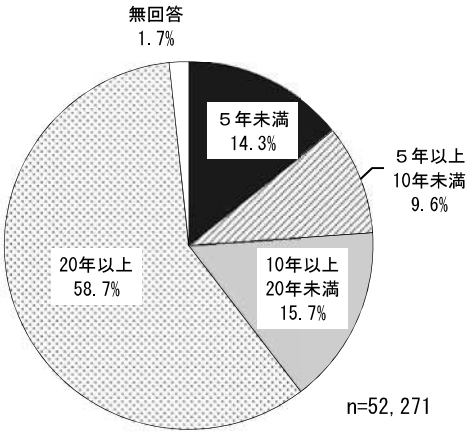
町内会などへの加入状況と親密度について，性別にみると，「町内会・自治会に入っているが，町内の人と付き合いがない」との回答は男性（9.7%）が女性（4.7%）を 5.0 ポイント上回っている。

【図表　町内会などへの加入状況と親密度（生活形態別）】



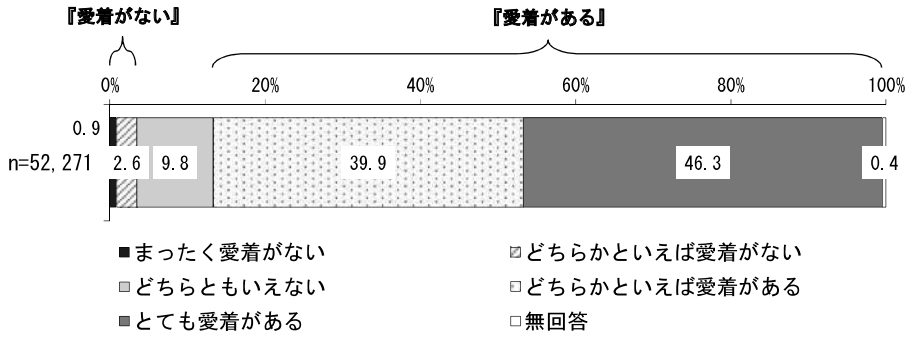
町内会などへの加入状況と親密度について，生活形態別にみると，「町内会・自治会に入っていて，町内に親しく付き合っている人がいる」との回答は農林漁業で８割超，「町内会・自治会に入っていない」との回答は学生で４割超と高くなっている。

10　居住年数



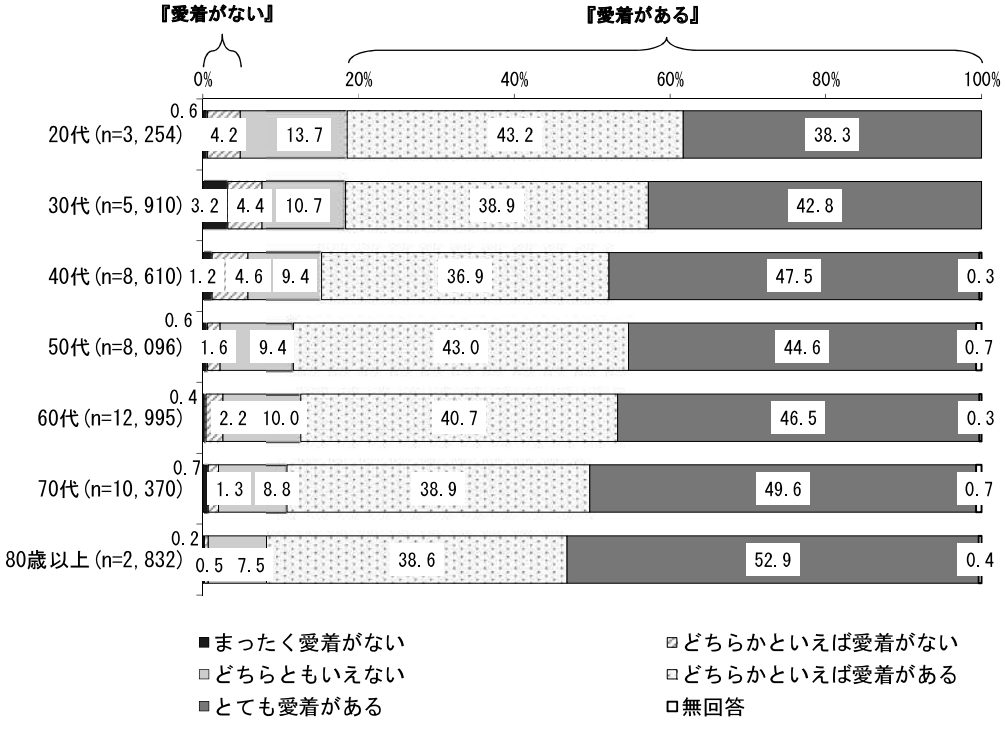
11　広島県への愛着の有無

● あなたは，「広島県」に愛着がありますか。（○は１つ）



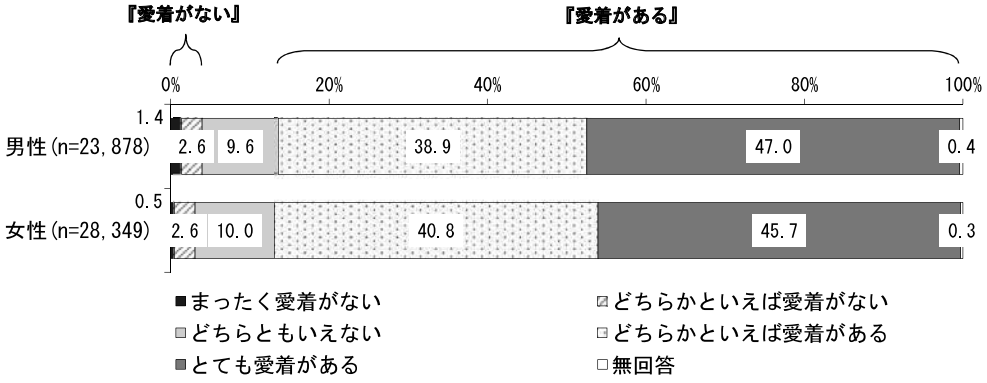
広島県への愛着の有無について，『愛着がある』（「とても愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた割合）との回答が 86.2%，『愛着がない』（「まったく愛着がない」と「どちらかといえば愛着がない」を合わせた割合）との回答が 3.5%となっている。

【図表　広島県への愛着の有無（年代別）】



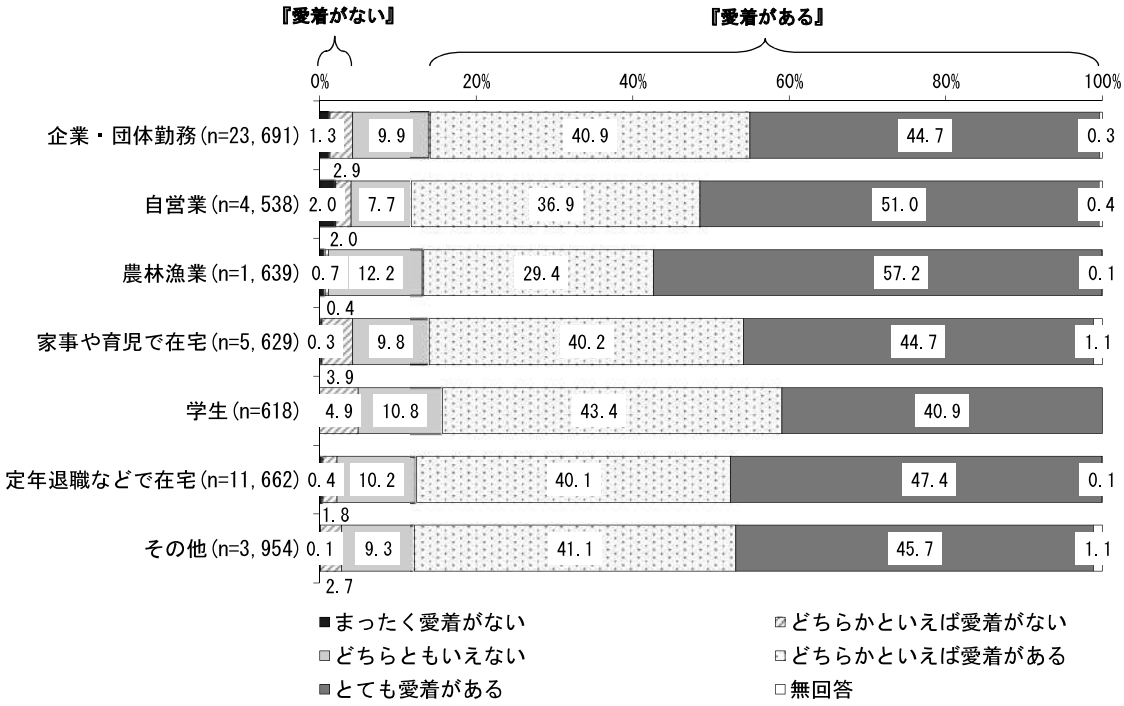
広島県への愛着の有無について，年代別にみると，『愛着がある』との回答は 80 歳以上で９割超と高くなっており，年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　広島県への愛着の有無（性別）】



広島県への愛着の有無について，性別にみると，『愛着がある』との回答は男女ともに８割台半ばと大きな差はみられない。

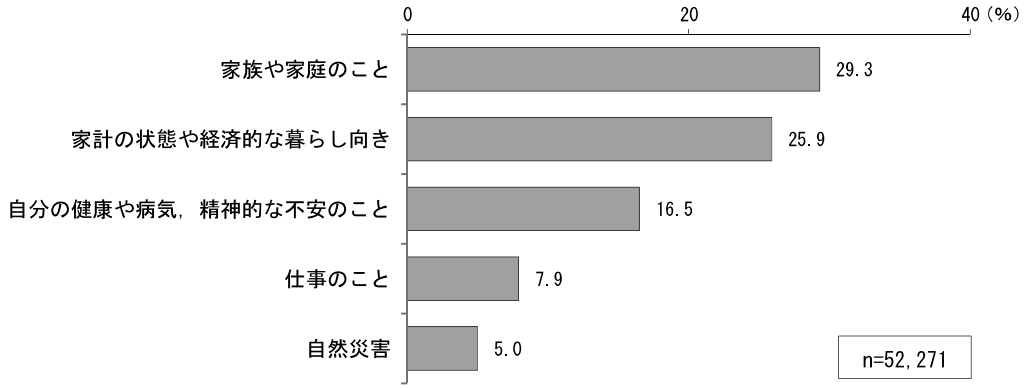
【図表　広島県への愛着の有無（生活形態別）】



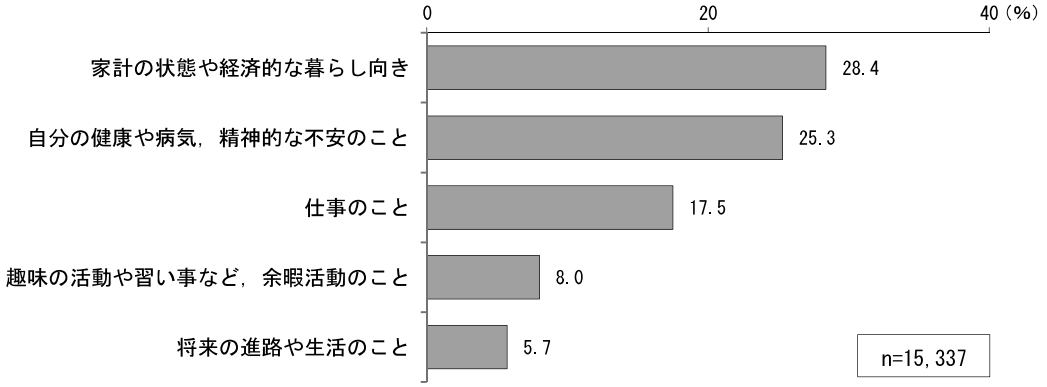
広島県への愛着の有無について，生活形態別にみると，『愛着がある』との回答はすべての生活形態において８割台と高くなっている。

12　最近の関心事項（上位５項目）

● ここ最近のあなたの関心事項は何ですか。下記に挙げるもののうち，最も関心のあるものから３つを選び，回答欄にその番号を記入してください。



「家族や家庭のこと」を選んだ人が次に選ぶ項目



最近の関心事項について，１位に選んだ関心事項は「家族や家庭のこと」との回答が 29.3%と最も高く，次いで「家計の状態や経済的な暮らし向き」(25.9%)，「自分の健康や病気，精神的な不安のこと」(16.5%) などの順となっている。

そのうち，「家族や家庭のこと」を選んだ人が次に選ぶ項目は「家計の状態や経済的な暮らし向き」が 28.4%と最も高く，次いで「自分の健康や病気，精神的な不安のこと」(25.3%)，「仕事のこと」(17.5%) などの順となっている。

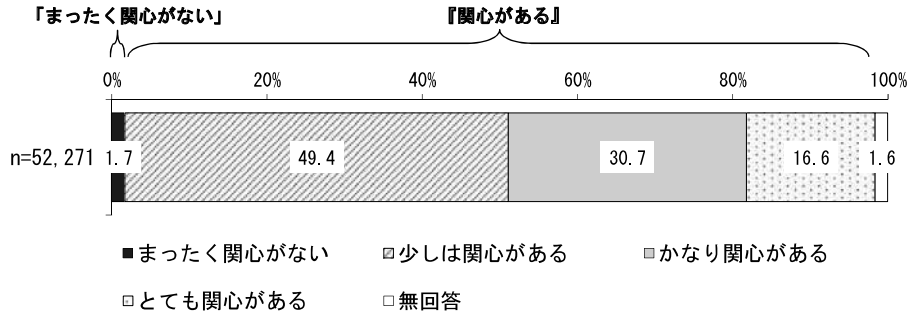
第 3 章　　調 査 結 果

第３章　調査結果

Ⅱ　災害に対する意識と経験について

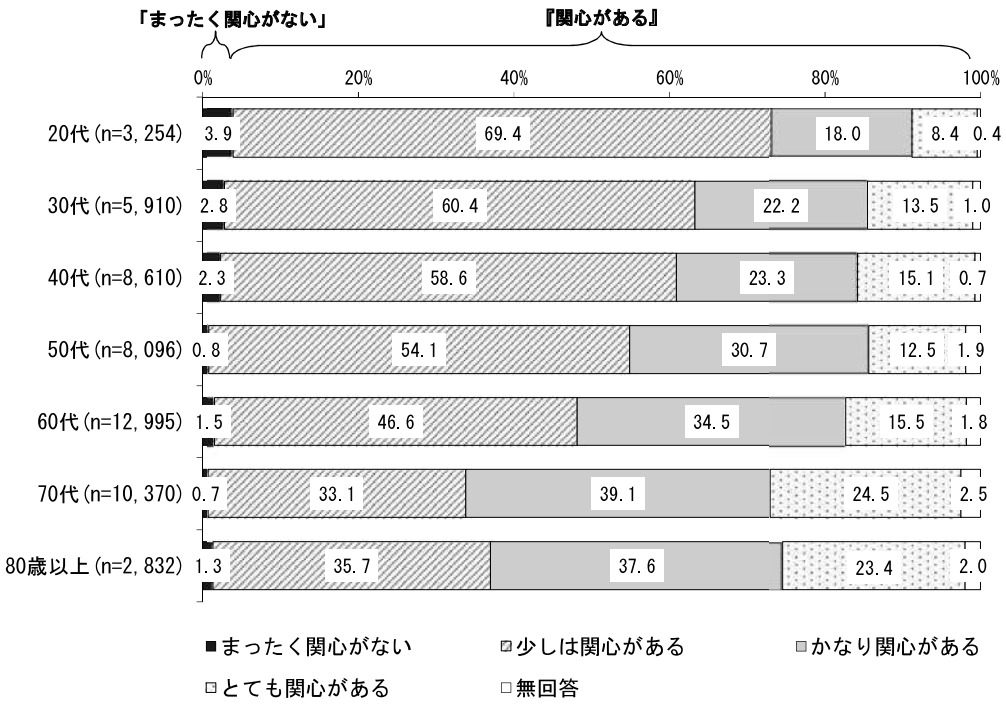
問１　あなたは，自然災害や防災・減災といった事柄にどれくらい関心がありますか。

（○は１つ）



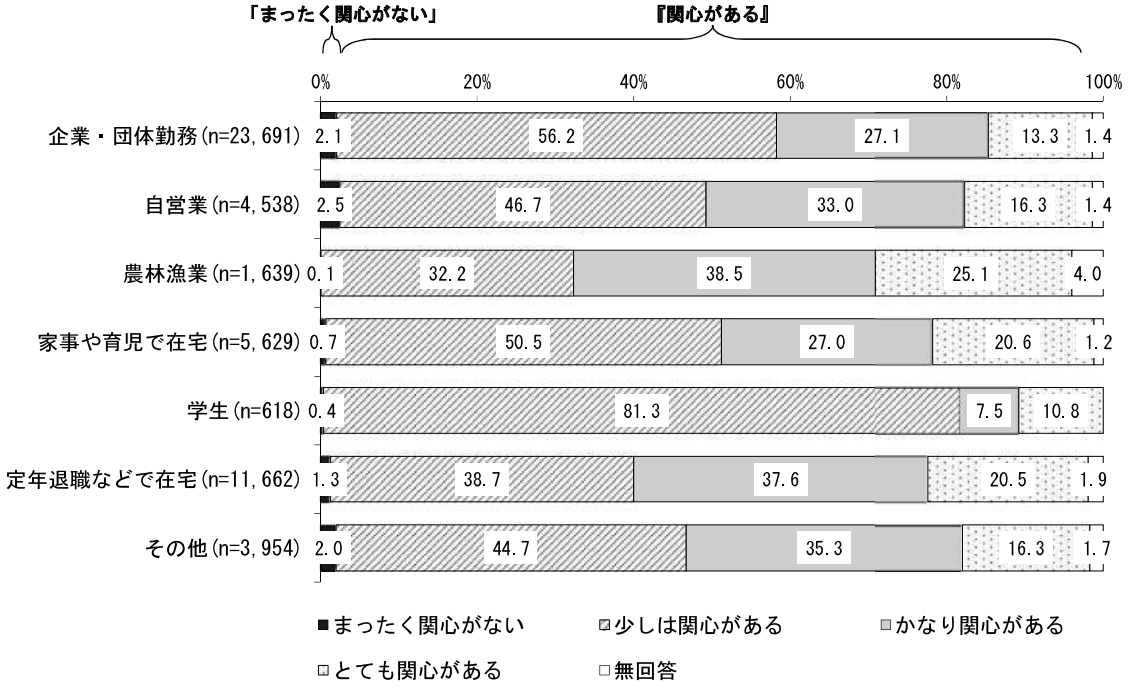
自然災害や防災・減災への関心の有無について，「まったく関心がない」との回答が 1.7%，『関心がある』(「とても関心がある」と「かなり関心がある」と「少しは関心がある」を合わせた割合)との回答が 96.7%となっている。

【図表　自然災害や防災・減災への関心の有無（年代別）】



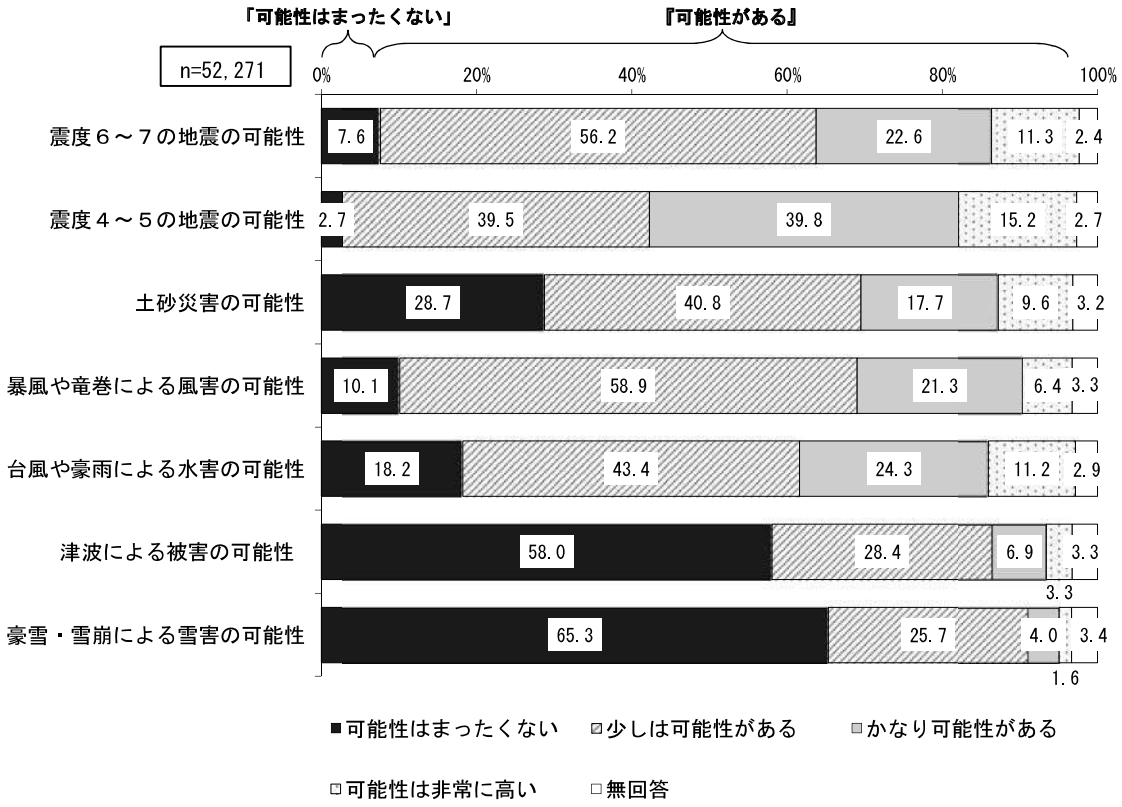
自然災害や防災・減災への関心の有無について，年代別にみると，『関心がある』との回答はすべての年代において９割台と高くなっている。

【図表　自然災害や防災・減災への関心の有無（生活形態別）】



自然災害や防災・減災への関心の有無について，生活形態別にみると，『関心がある』との回答はすべての生活形態において９割台と高くなっている。

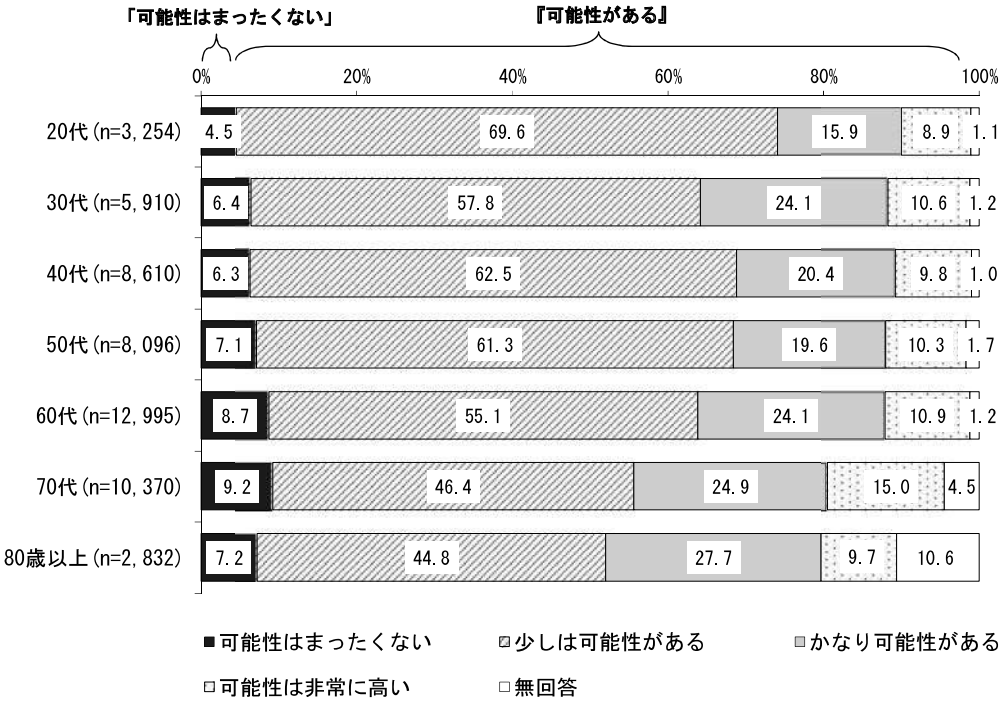
問２　今後 10 年の間に，あなたがお住いの地域が以下の災害で被災する可能性はどれくらいあると思いますか。各項目について該当する番号１つを○で囲んでください。



居住地域で被災する可能性について，「可能性はまったくない」との回答は「津波による被害の可能性」で約６割，「豪雪・雪崩による雪害の可能性」で６割台半ばと高くなっている。一方，『可能性がある』（「可能性は非常に高い」と「かなり可能性がある」と「少しは可能性がある」を合わせた割合）との回答は「震度６～７の地震の可能性」，「震度４～５の地震の可能性」で９割台と高くなっている。

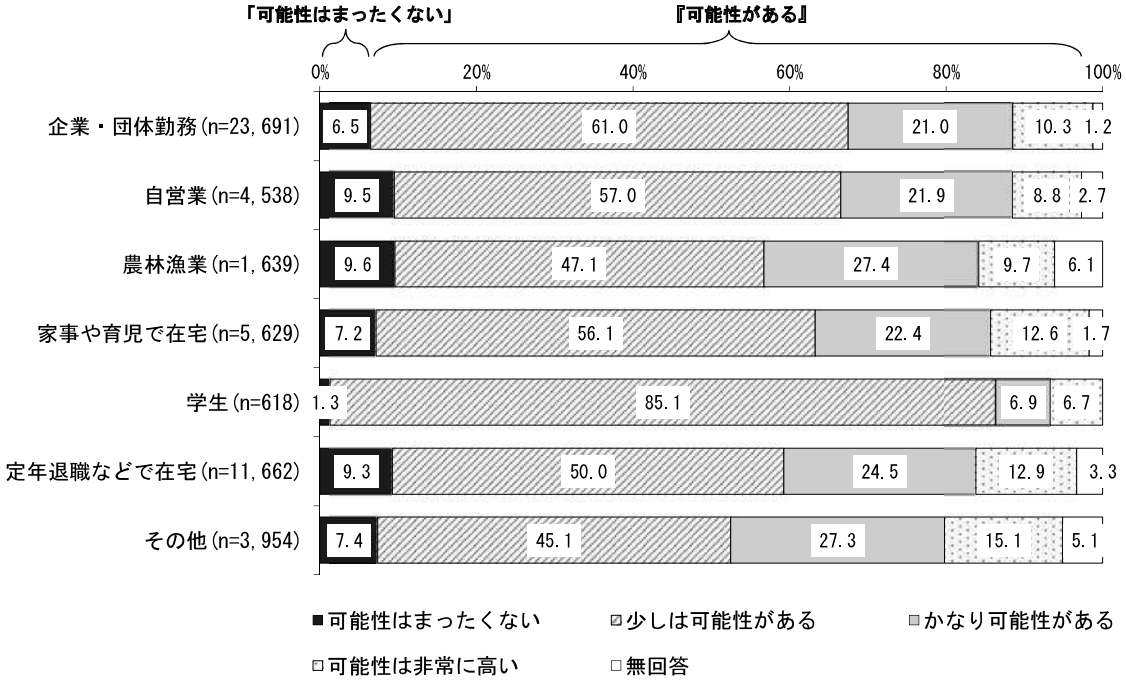
（１） 震度６～７の地震

【図表　震度６～７の地震の可能性（年代別）】



震度６～７の地震の可能性について，年代別にみると，『可能性がある』との回答は 20 代～40 代で９割台半ばと最も高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

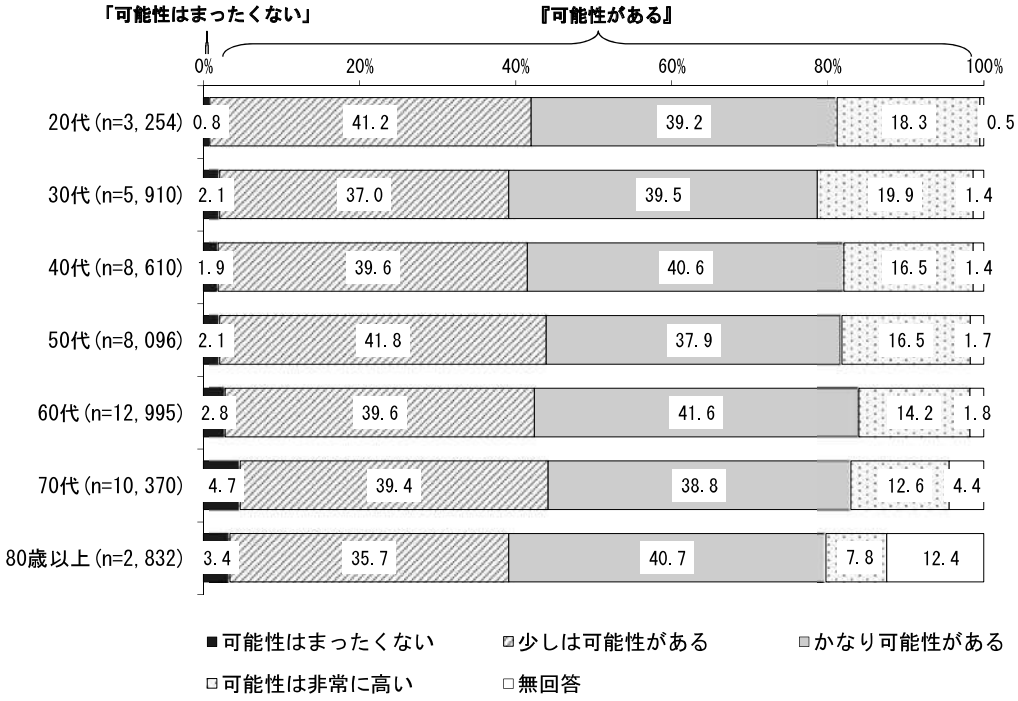
【図表　震度６～７の地震の可能性（生活形態別）】



震度６～７の地震の可能性について，生活形態別にみると，『可能性がある』との回答は学生で約 10 割と最も高くなっている。

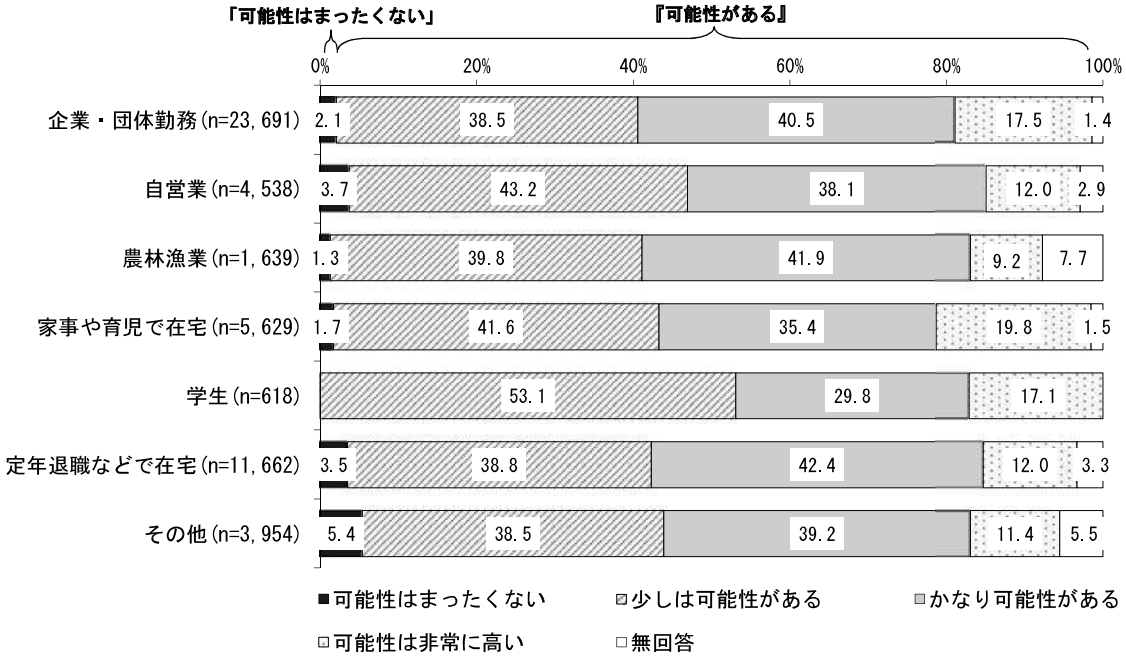
（２）震度４～５の地震

【図表　震度４～５の地震の可能性（年代別）】



震度４～５の地震の可能性について，年代別にみると，『可能性がある』との回答は 80 歳以上を除くすべての年代で９割台と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

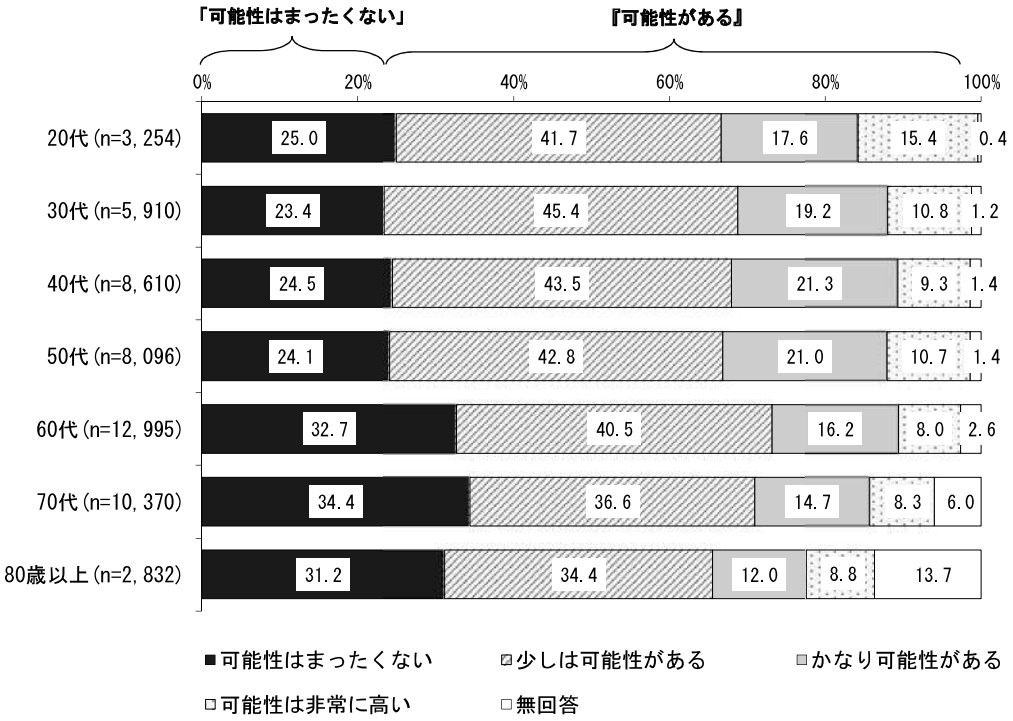
【図表　震度４～５の地震の可能性（生活形態別）】



震度４～５の地震の可能性について，生活形態別にみると，『可能性がある』との回答はすべての生活形態において９割以上と高くなっている。

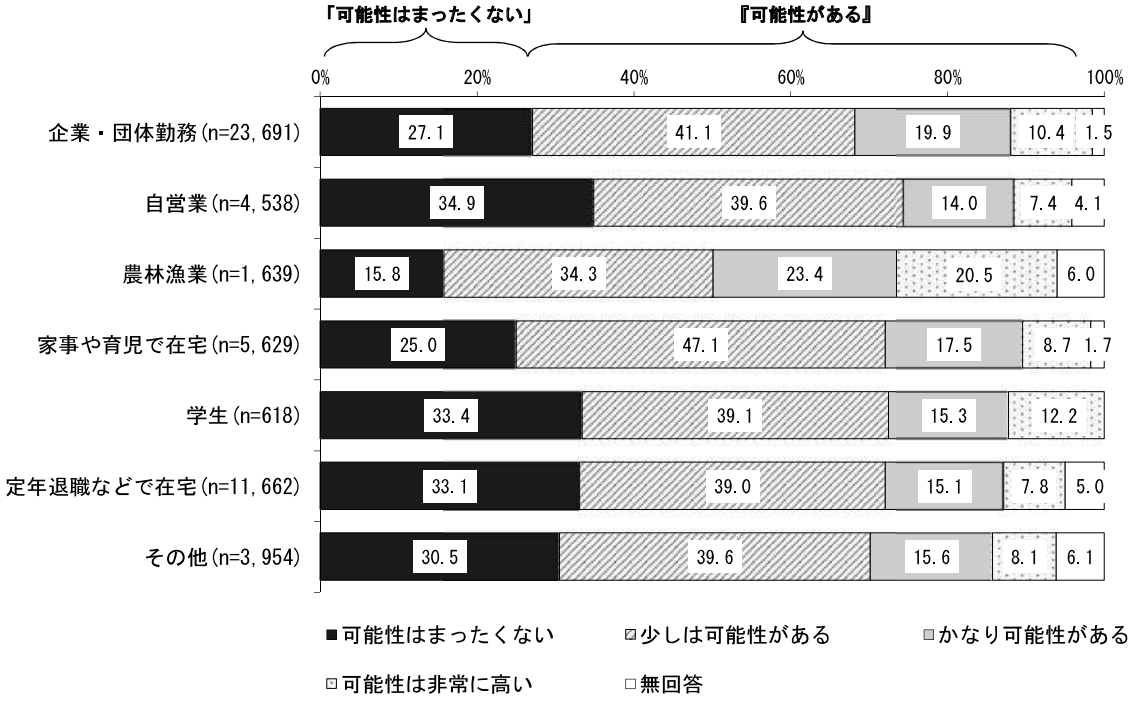
（３） 土砂災害

【図表　土砂災害の可能性（年代別）】



土砂災害の可能性について，年代別にみると，『可能性がある』との回答は 20 代～50 代で７割台半ばと高くなっている。

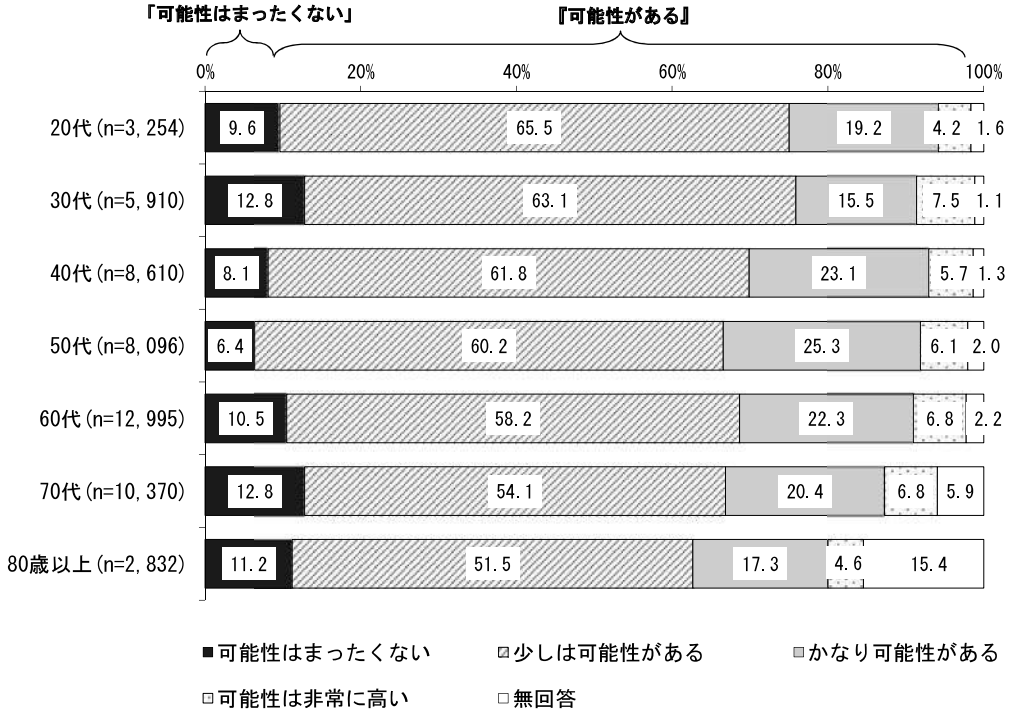
【図表　土砂災害の可能性（生活形態別）】



土砂災害の可能性について，生活形態別にみると，『可能性がある』との回答は農林漁業で約８割と他の生活形態に比べ高くなっている。

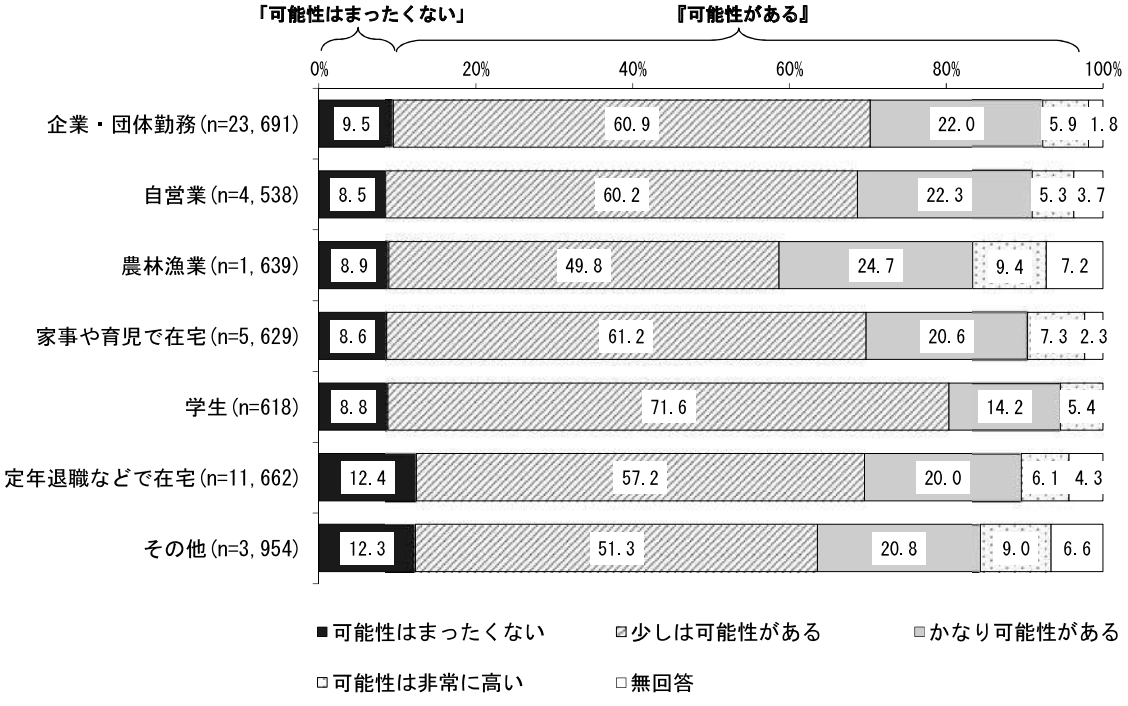
（４）暴風や竜巻による風害

【図表　暴風や竜巻による風害の可能性（年代別）】



暴風や竜巻による風害の可能性について，年代別にみると，『可能性がある』との回答は 20 代，40 代，50 代，60 代で９割前後と高くなっている。

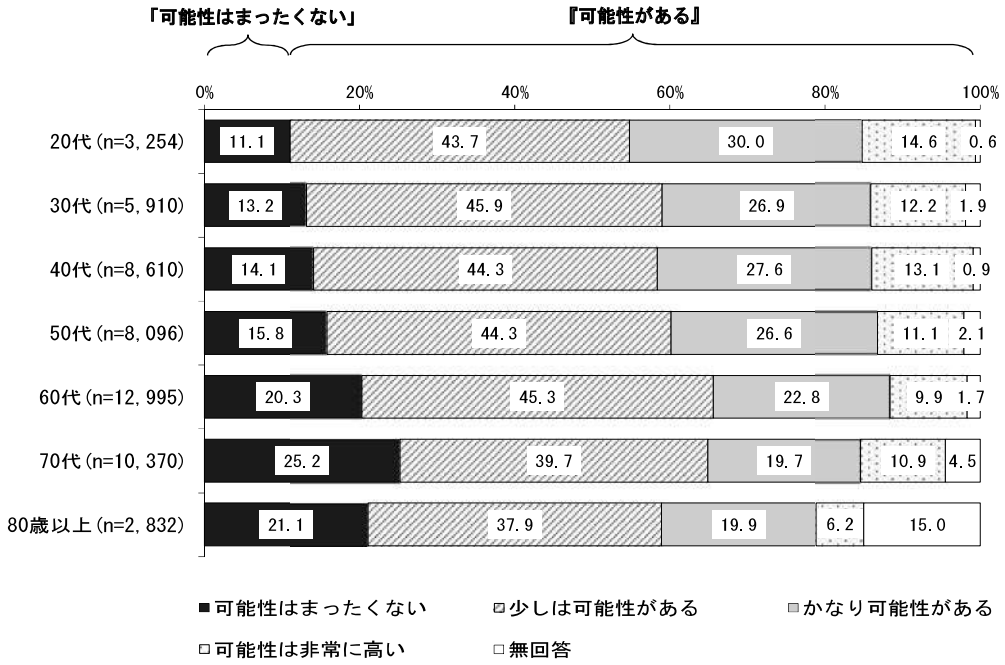
【図表　暴風や竜巻による風害の可能性（生活形態別）】



暴風や竜巻による風害の可能性について，生活形態別にみると，『可能性がある』との回答は学生で９割超と最も高くなっている。

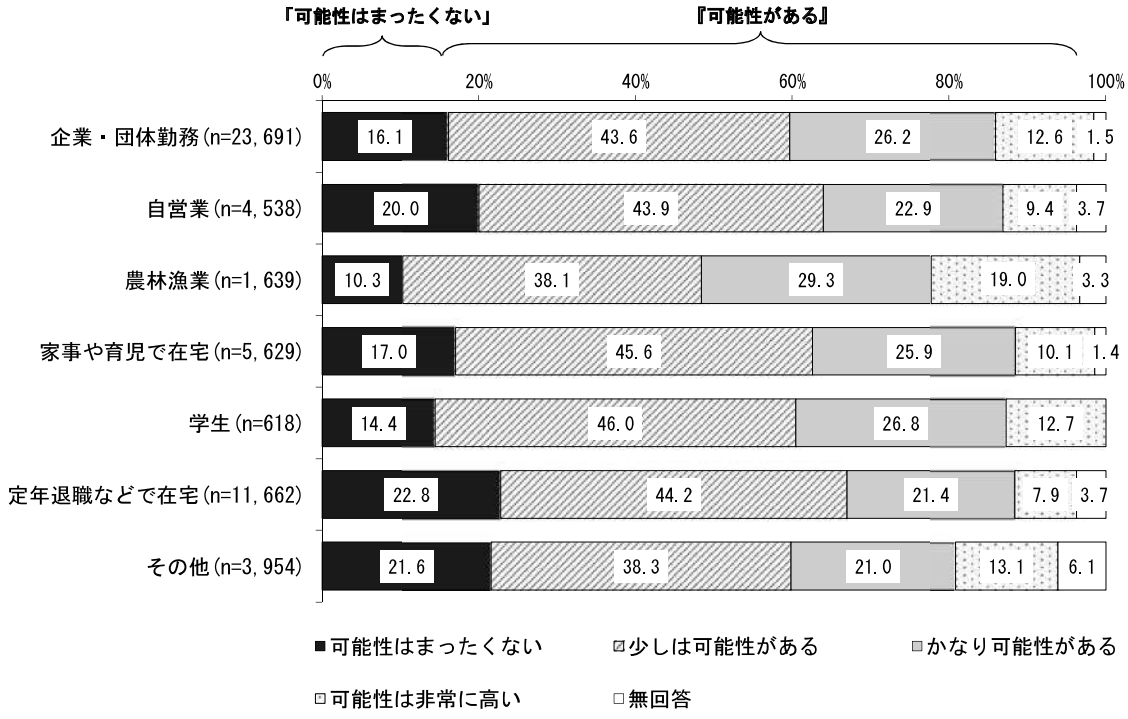
（５）台風や豪雨による水害

【図表　台風や豪雨による水害の可能性（年代別）】



台風や豪雨による水害の可能性について，年代別にみると，『可能性がある』との回答は 20 代で約９割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

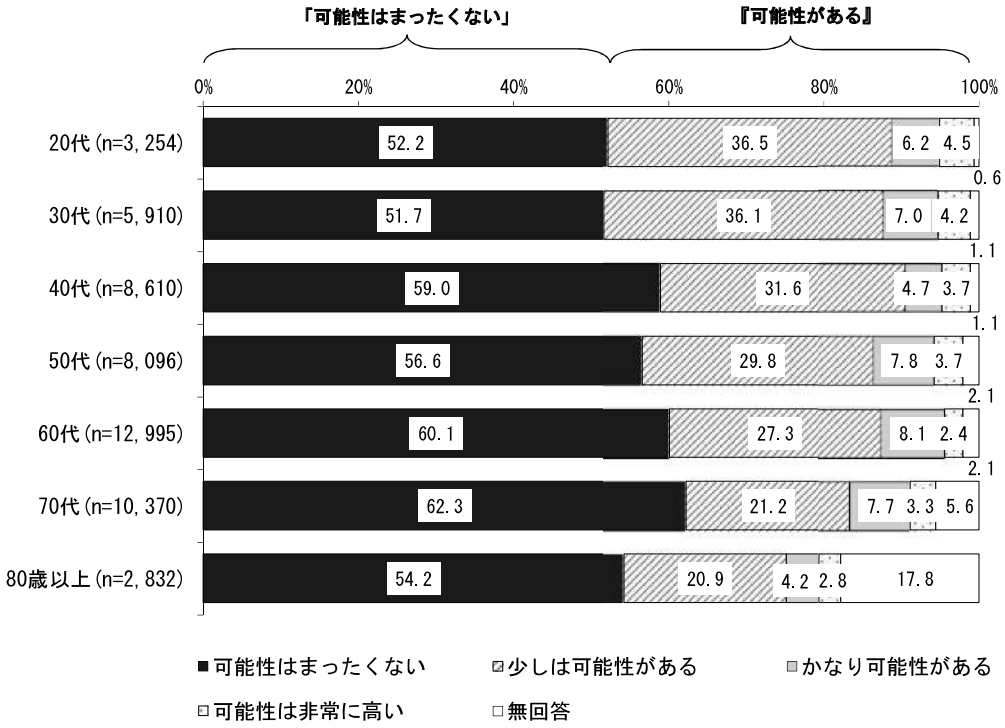
【図表　台風や豪雨による水害の可能性（生活形態別）】



台風や豪雨による水害の可能性について，生活形態別にみると，『可能性がある』との回答は農林漁業，学生で８割台半ばと高くなっている。

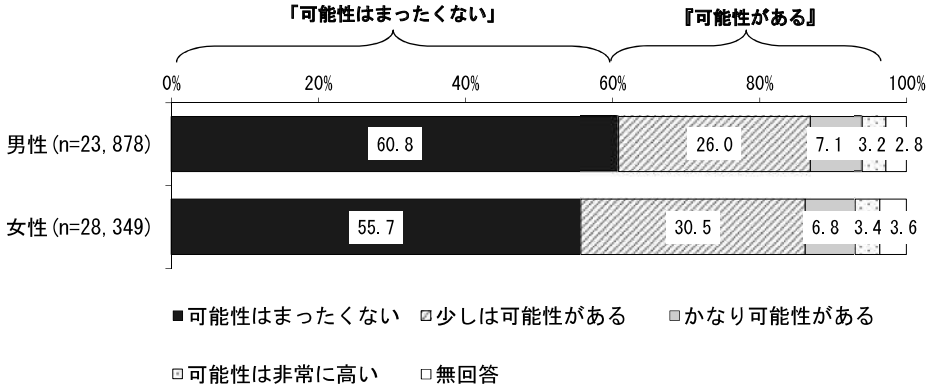
（６）津波による被害

【図表　津波による被害の可能性（年代別）】



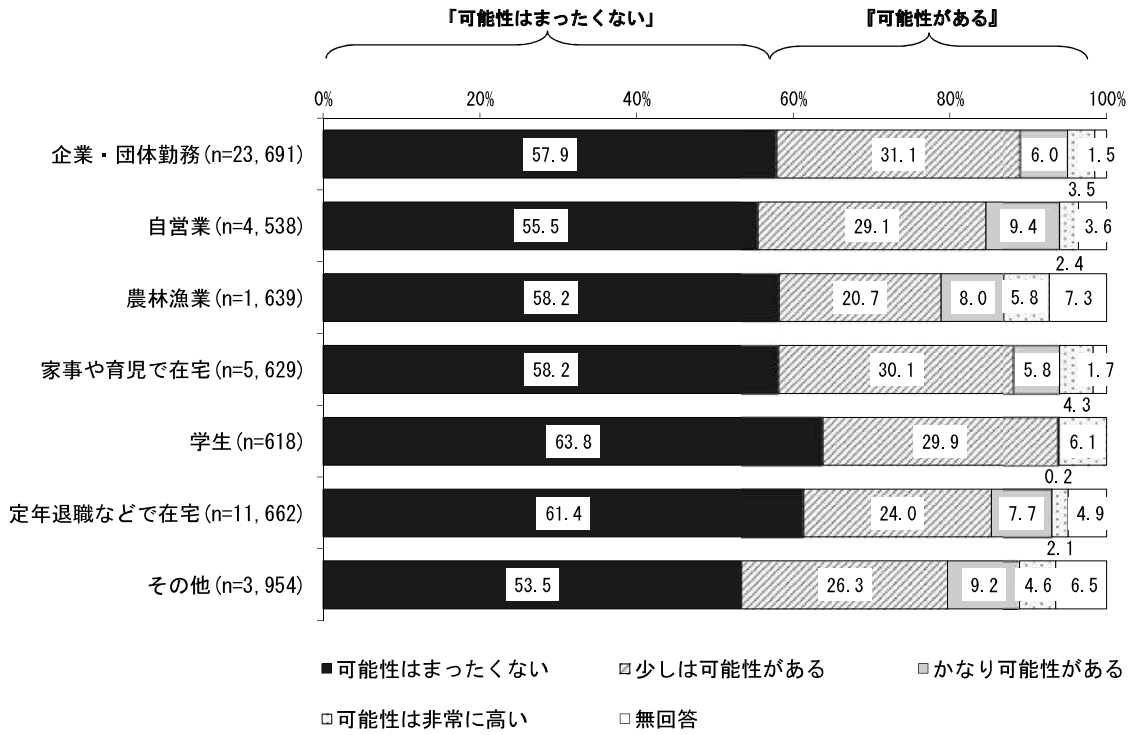
津波による被害の可能性について，年代別にみると，『可能性がある』との回答は 20 代，30 代で約５割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　津波による被害の可能性（性別）】



津波による被害の可能性について，性別にみると，「可能性はまったくない」との回答は男性（60.8％）が女性（55.7％）を 5.1 ポイント上回っている。

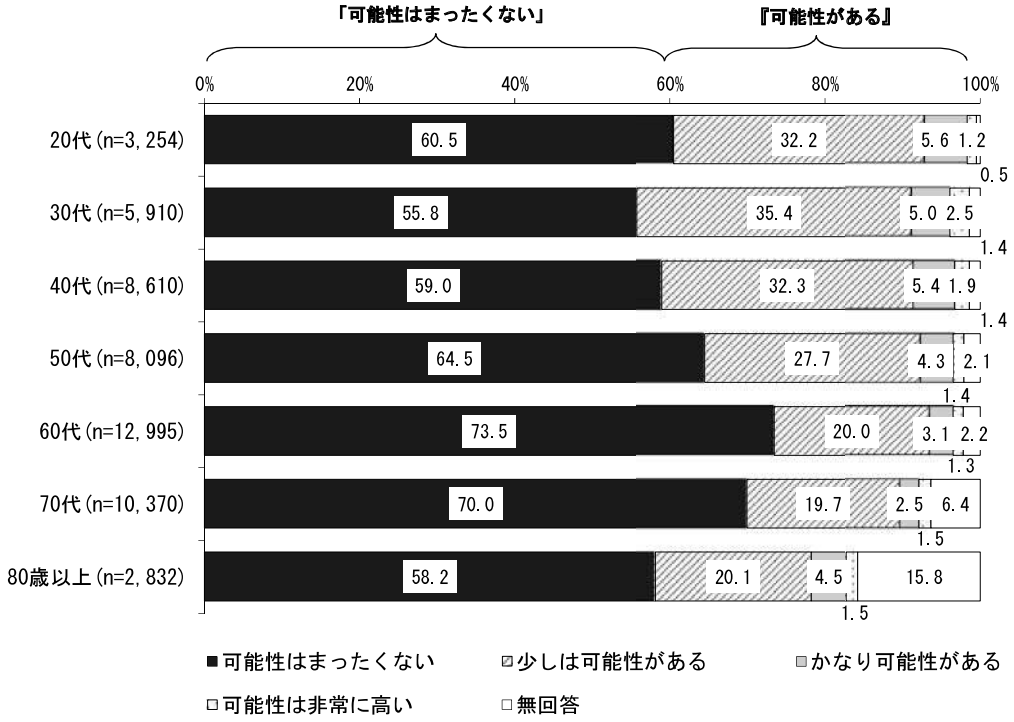
【図表　津波による被害の可能性（生活形態別）】



津波による被害の可能性について，生活形態別にみると，『可能性がある』との回答は企業・団体勤務，自営業，家事や育児で在宅で約４割と高くなっている。

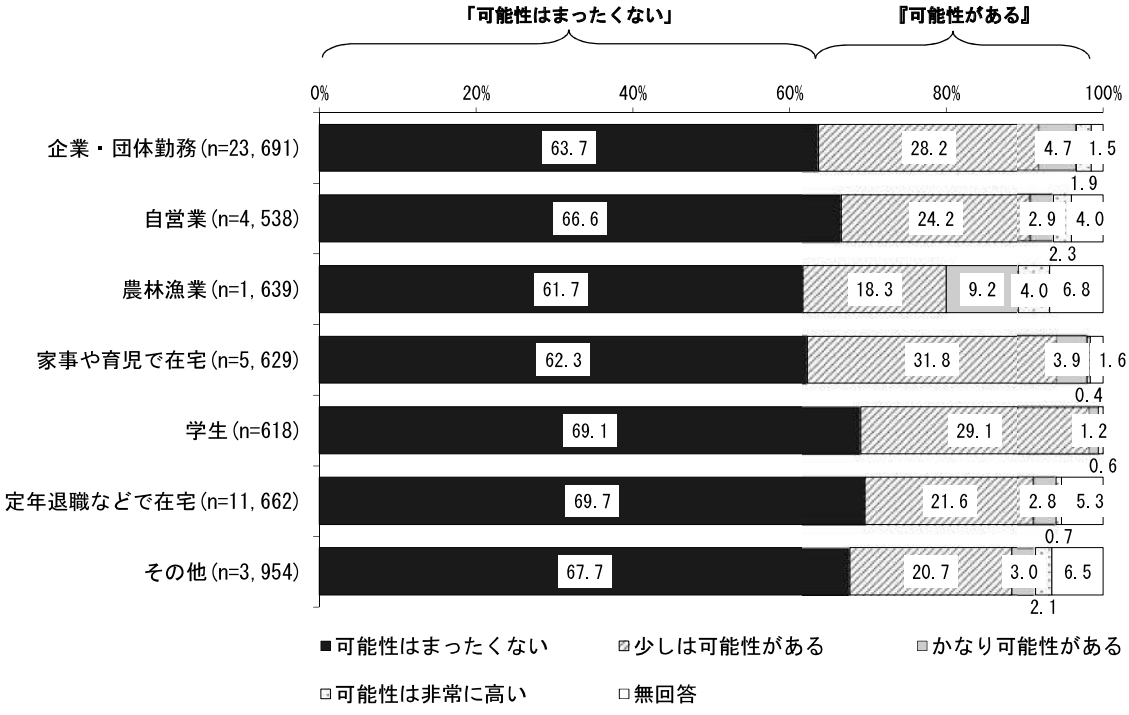
（７）豪雪・雪崩による雪害

【図表　豪雪・雪崩による雪害の可能性（年代別）】



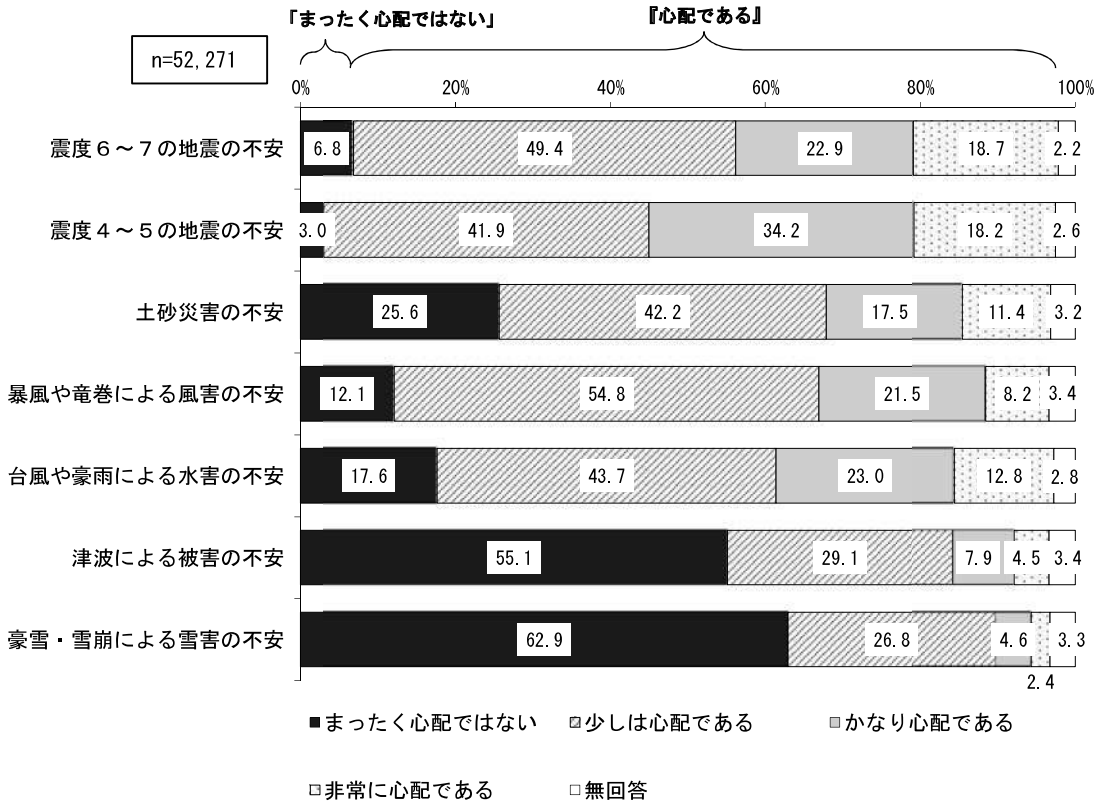
豪雪・雪崩による雪害の可能性について，年代別にみると，『可能性がある』との回答は 20 代～40 代で４割前後と高くなっている。

【図表　豪雪・雪崩による雪害の可能性（生活形態別）】



豪雪・雪崩による雪害の可能性について，生活形態別にみると，『可能性がある』との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅で３割台半ばと高くなっている。

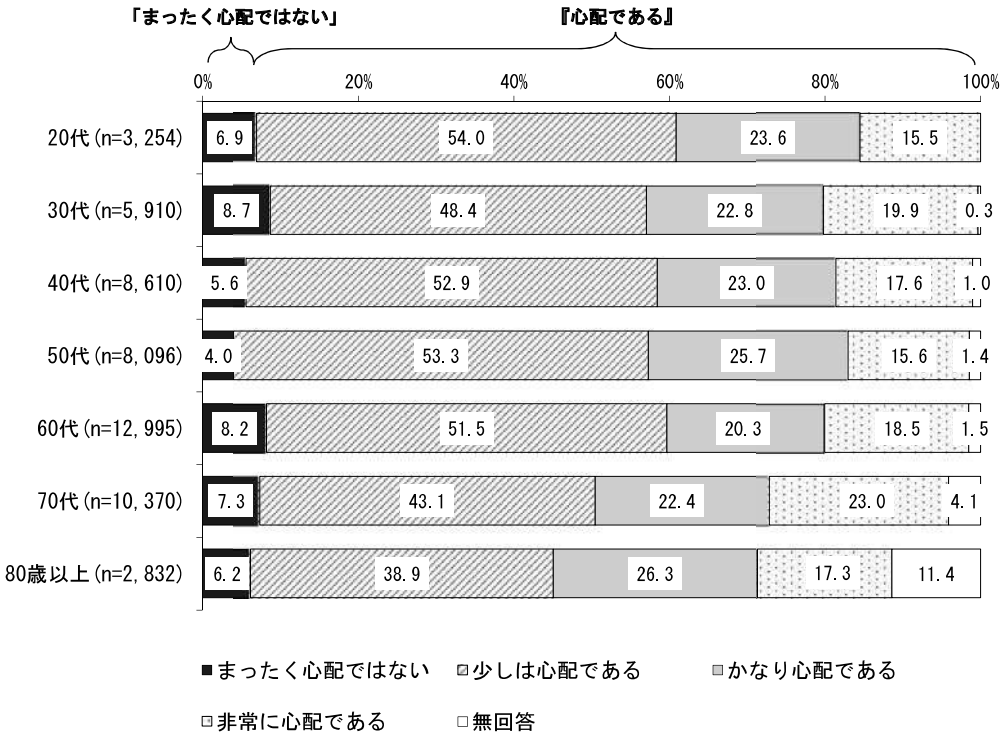
問３　あなたはふだん，次の災害が来ることについてどれくらい心配していますか。
各項目について該当する番号１つを〇で囲んでください。



災害へ対する不安について，「まったく心配ではない」との回答は「津波による被害の不安」で５割台半ば，「豪雪・雪崩による雪害の不安」で６割超と高くなっている。一方，『心配である』（「非常に心配である」と「かなり心配である」と「少しは心配である」を合わせた割合）との回答は「震度６～７の地震の不安」，「震度４～５の地震の不安」で９割台と高くなっている。

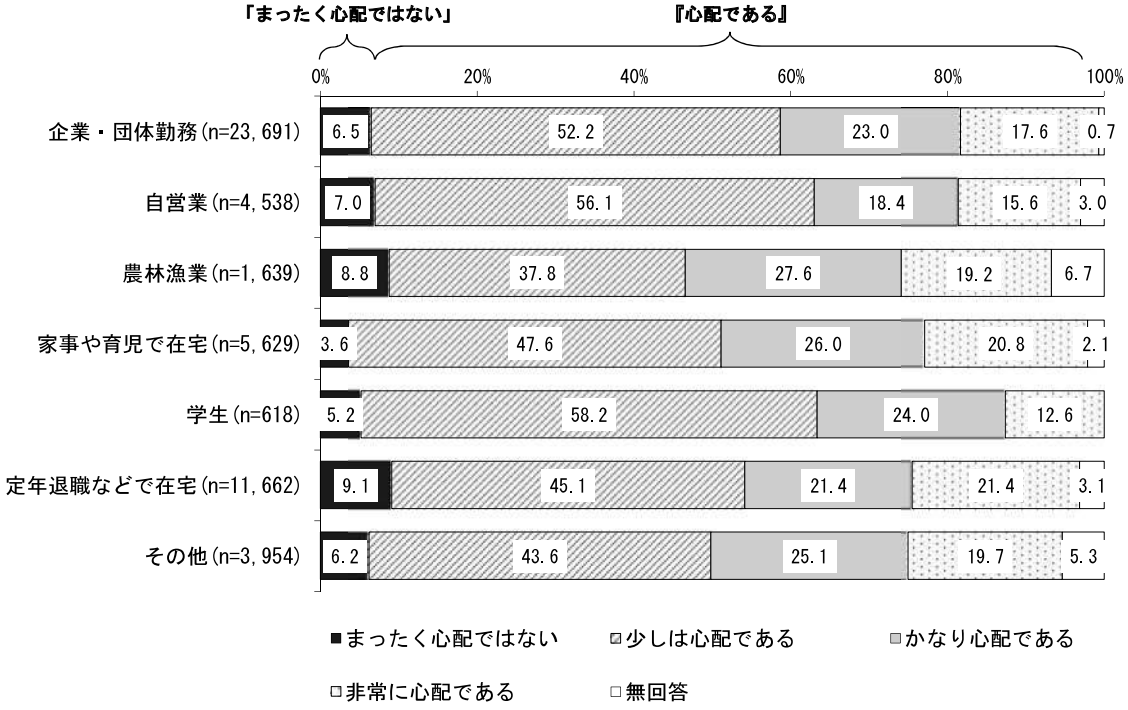
（１）震度６～７の地震

【図表　震度６～７の地震の不安（年代別）】



震度６～７の地震の不安について，年代別にみると，『心配である』との回答は 80 歳以上を除くすべての年代で９割前後と高くなっている。

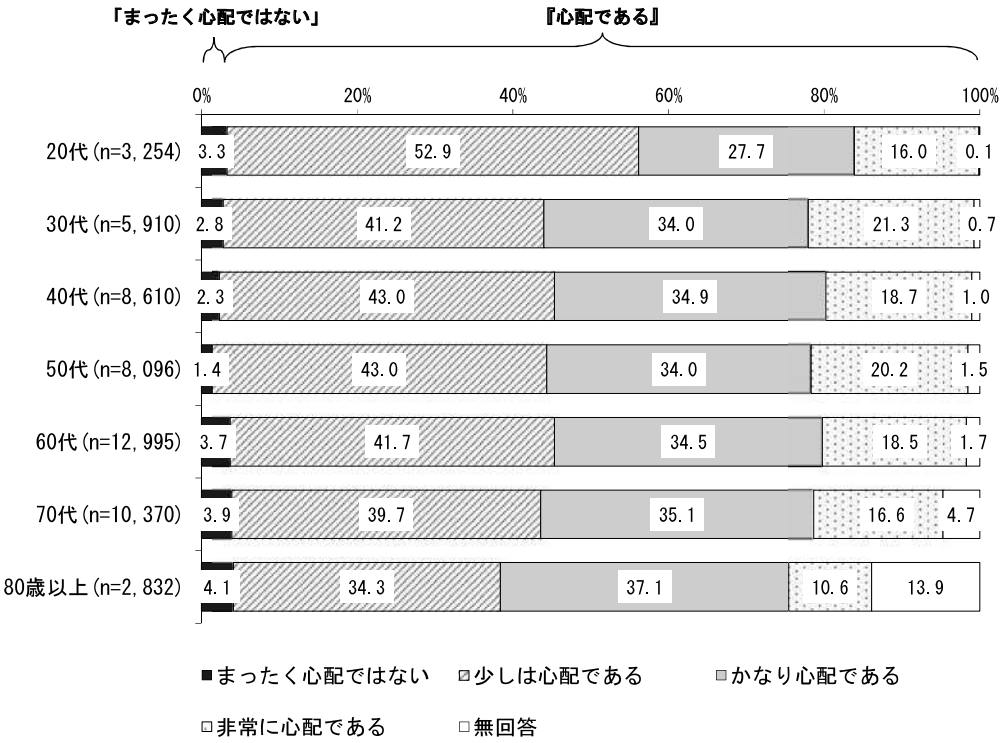
【図表　震度６～７の地震の不安（生活形態別）】



震度６～７の地震の不安について，生活形態別にみると，『心配である』との回答は家事や育児で在宅，学生で９割台半ばと高くなっている。

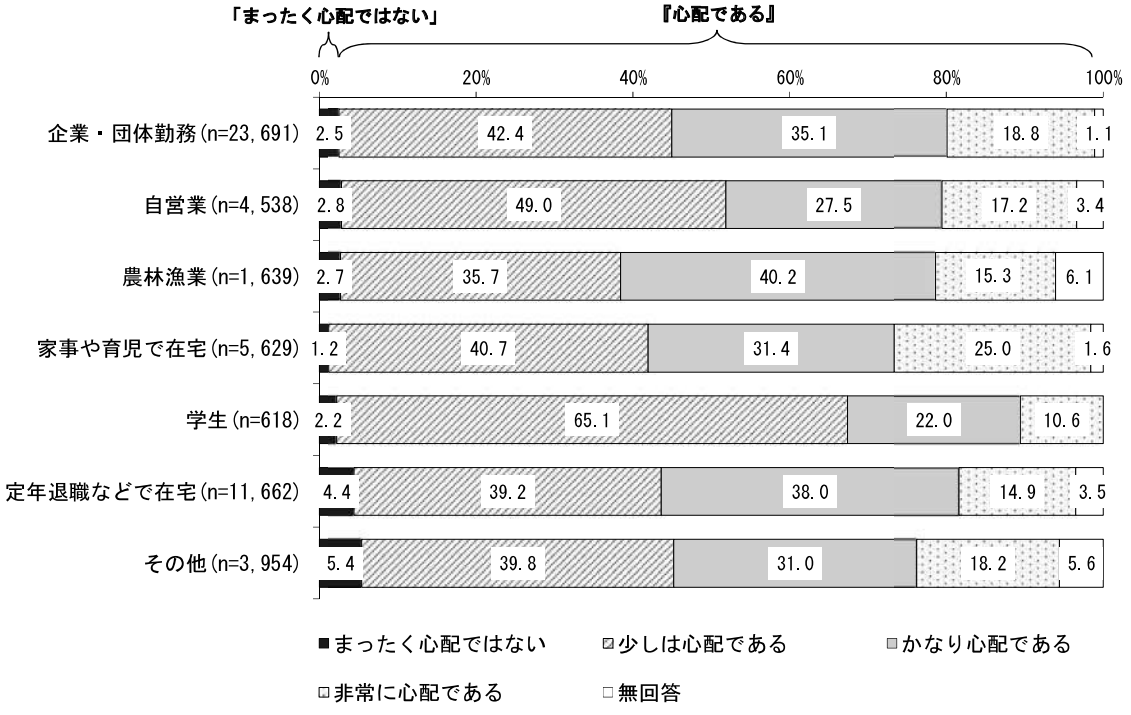
（２）震度４～５の地震

【図表　震度４～５の地震の不安（年代別）】



震度４～５の地震の不安について，年代別にみると，『心配である』との回答は 80 歳以上を除くすべての年代で９割台と高くなっている。

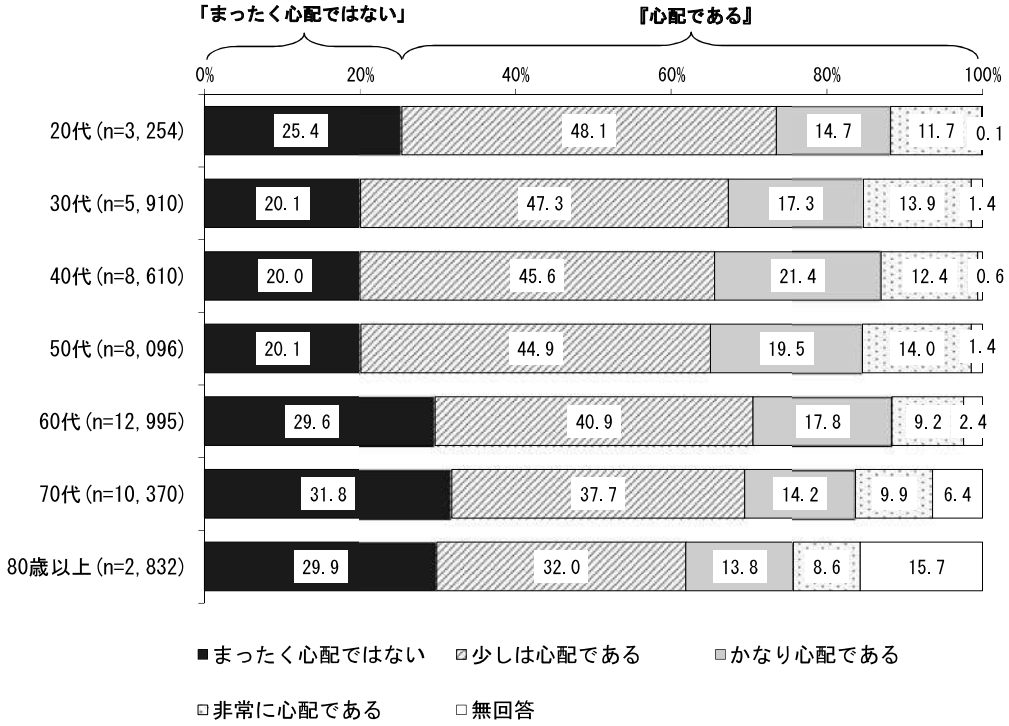
【図表　震度４～５の地震の不安（生活形態別）】



震度４～５の地震の不安について，生活形態別にみると，『心配である』との回答はすべての生活形態で９割台と高くなっている。

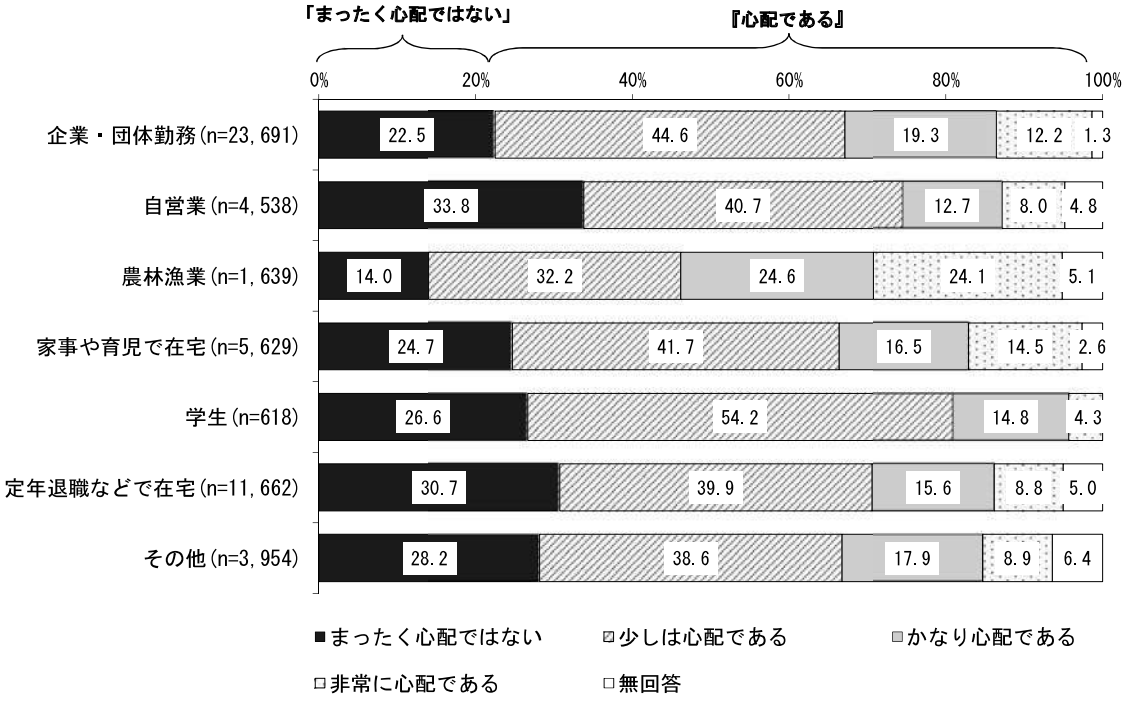
（３）土砂災害

【図表　土砂災害の不安（年代別）】



土砂災害の不安について，年代別にみると，『心配である』との回答は 30 代～50 代で約８割と高くなっている。

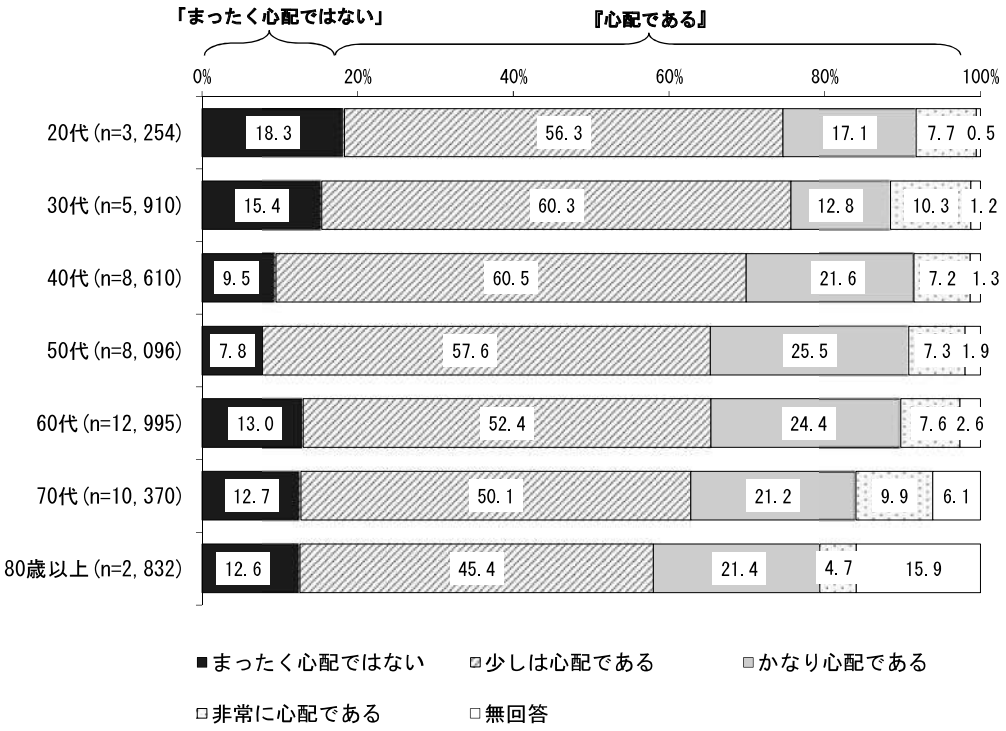
【図表　土砂災害の不安（生活形態別）】



土砂災害の不安について，生活形態別にみると，『心配である』との回答は農林漁業で約８割と高くなっている。

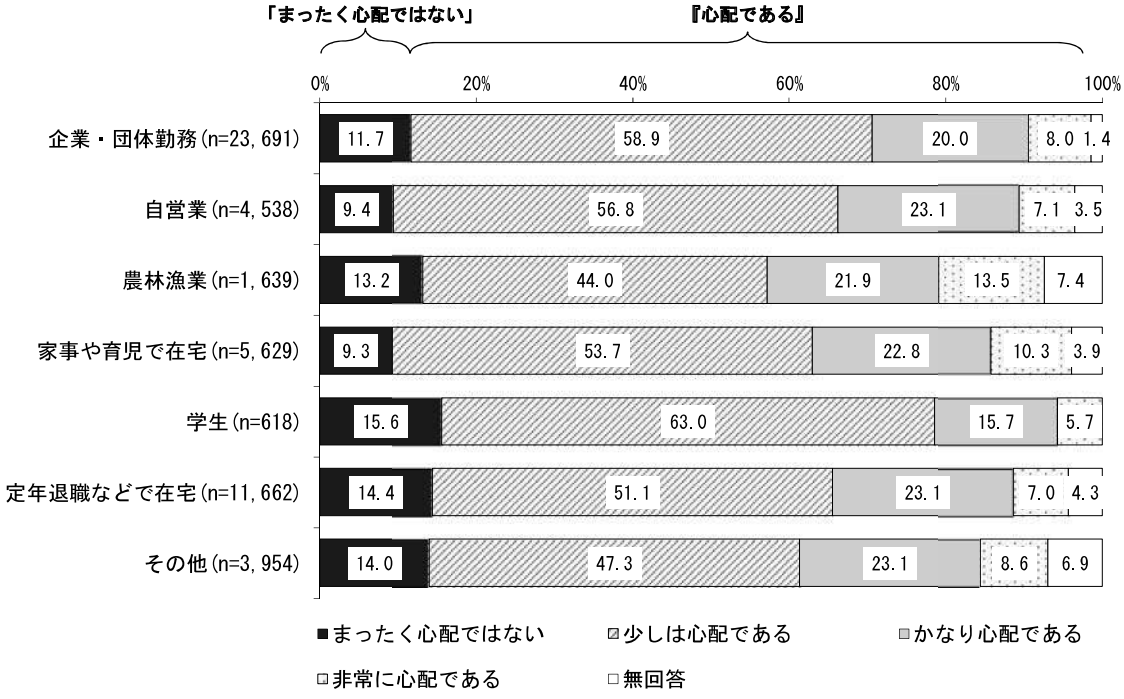
（４）暴風や竜巻による風害

【図表　暴風や竜巻による風害の不安（年代別）】



暴風や竜巻による風害の不安について，年代別にみると，『心配である』との回答は 40 代，50 代で約９割と高くなっている。

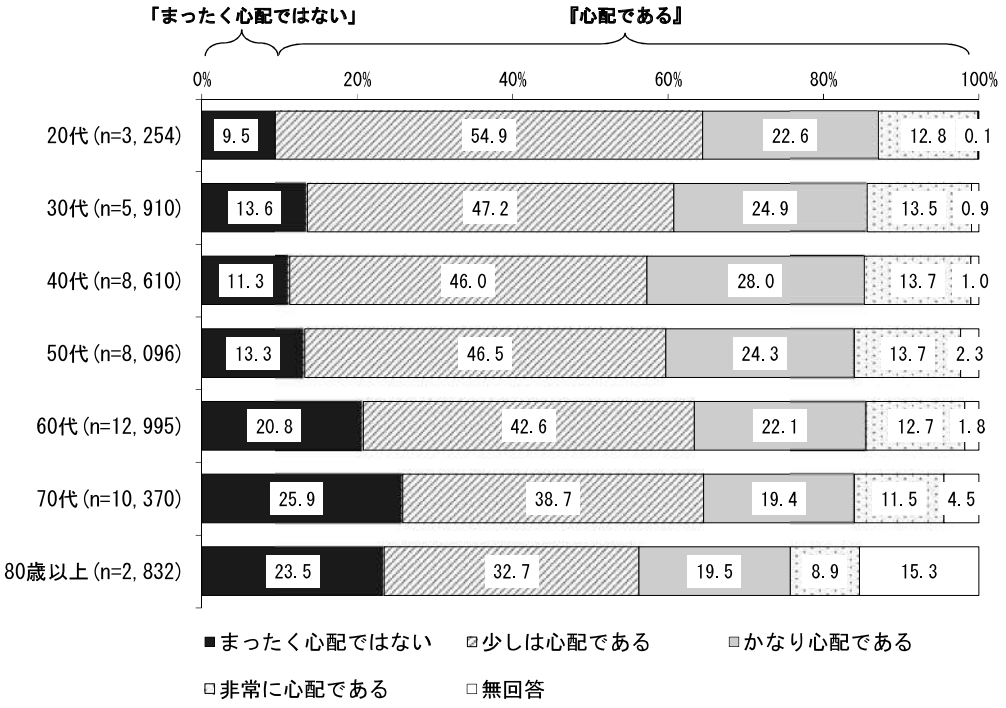
【図表　暴風や竜巻による風害の不安（生活形態別）】



暴風や竜巻による風害の不安について，生活形態別にみると，『心配である』との回答は農林漁業，定年退職などで在宅で８割前後と他の生活形態に比べ低くなっている。

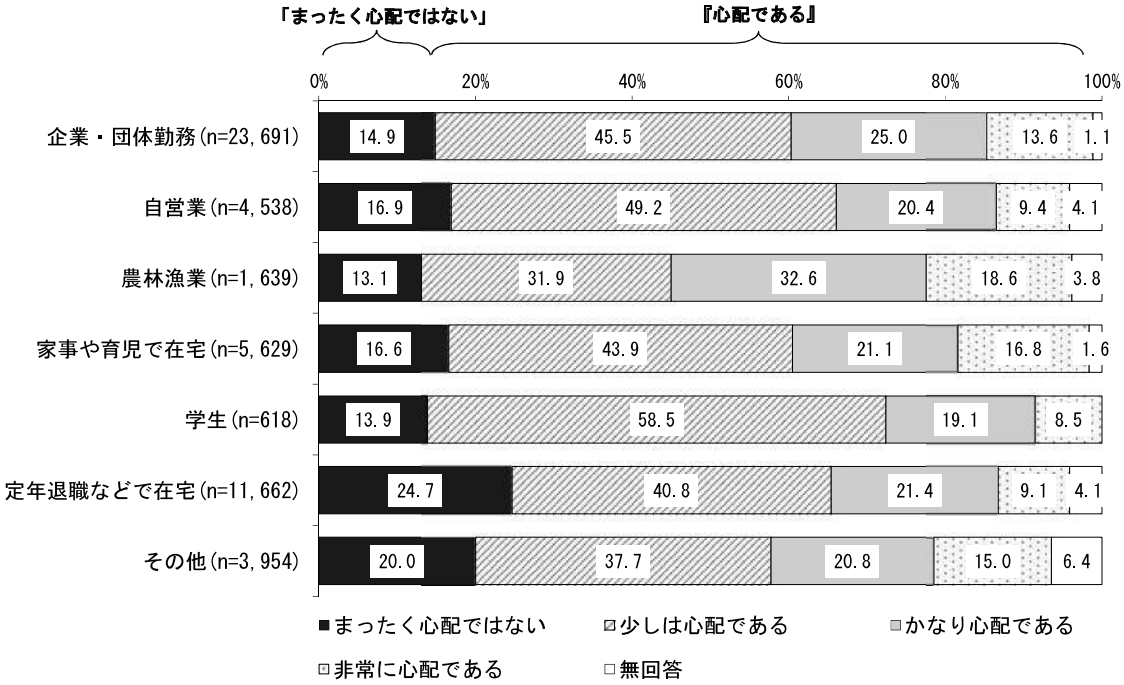
（５）台風や豪雨による水害

【図表　台風や豪雨による水害の不安（年代別）】



台風や豪雨による水害の不安について，年代別にみると，『心配である』との回答は 20 代，40 代で９割前後と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

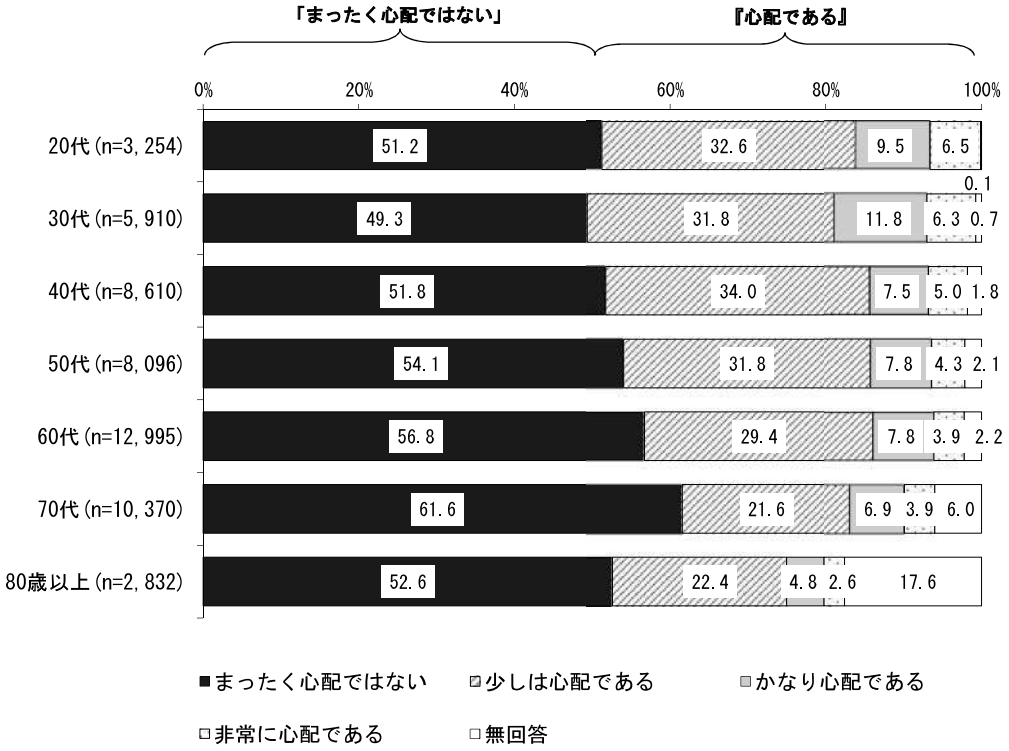
【図表　台風や豪雨による水害の不安（生活形態別）】



台風や豪雨による水害の不安について，生活形態別にみると，『心配である』との回答は企業・団体勤務，農林漁業，学生で８割台半ばと高くなっている。

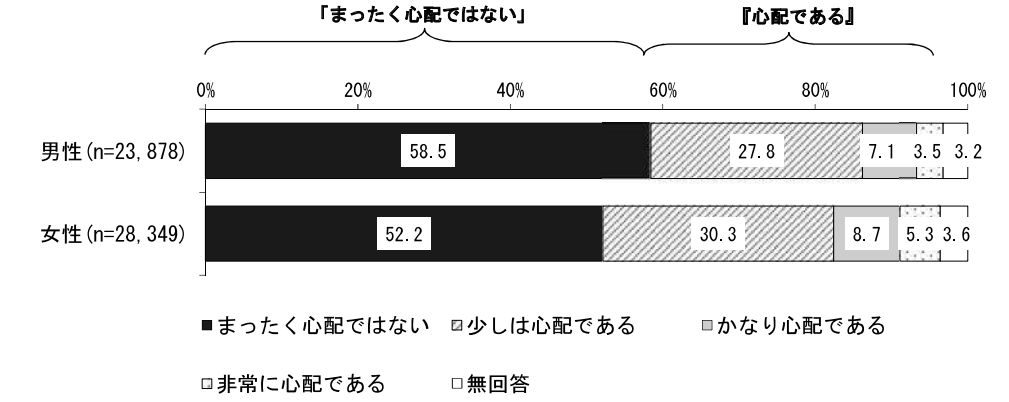
（６）津波による被害

【図表　津波による被害の不安（年代別）】



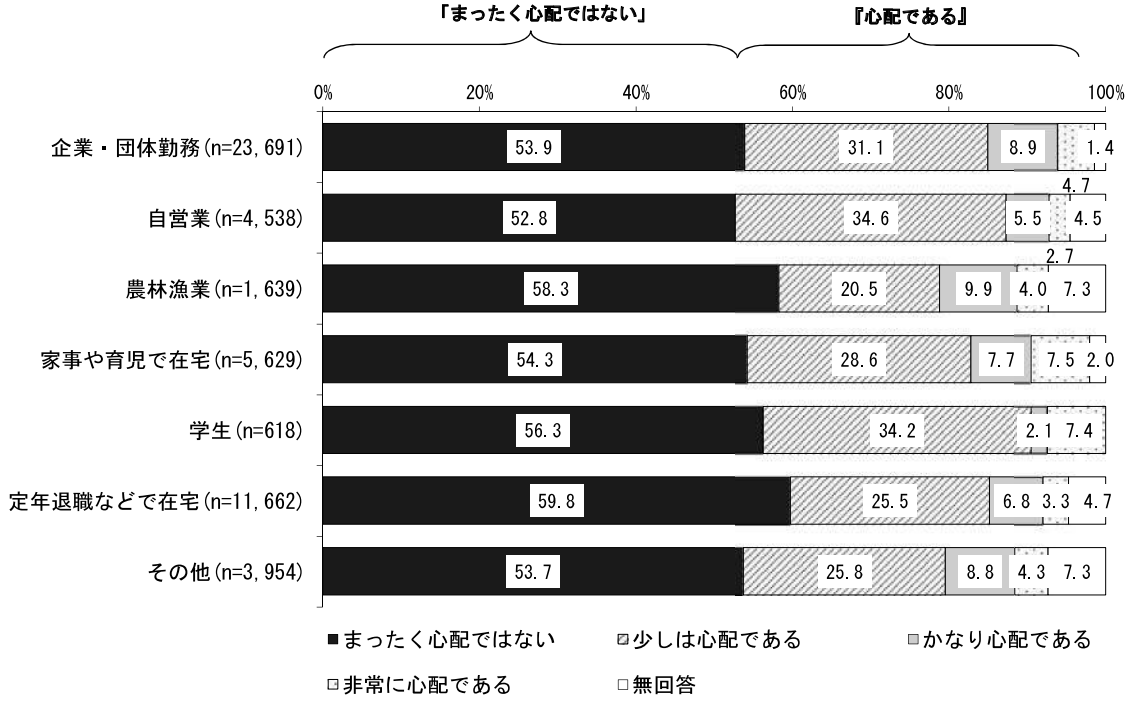
津波による被害の不安について，年代別にみると，『心配である』との回答は 20 代，30 代で約５割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　津波による被害の不安（性別）】



津波による被害の不安について，性別にみると，『心配である』との回答は女性（44.3%）が男性（38.4%）を 5.9 ポイント上回っている。

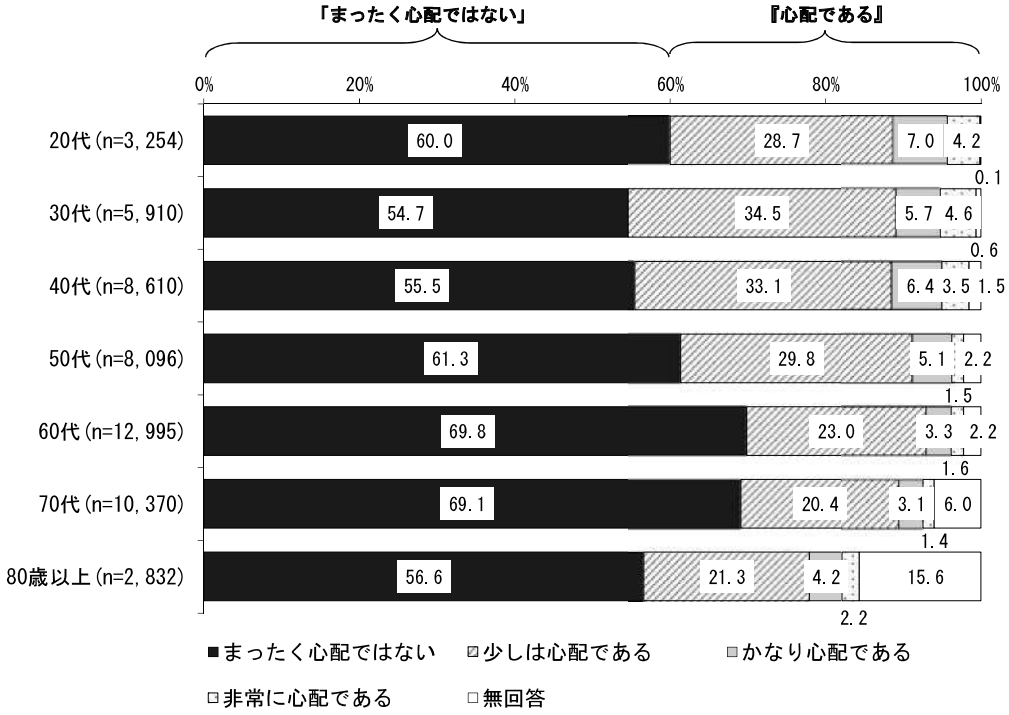
【図表　津波による被害の不安（生活形態別）】



津波による被害の不安について，生活形態別にみると，『心配である』との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅，学生で４割台半ばと高くなっている。

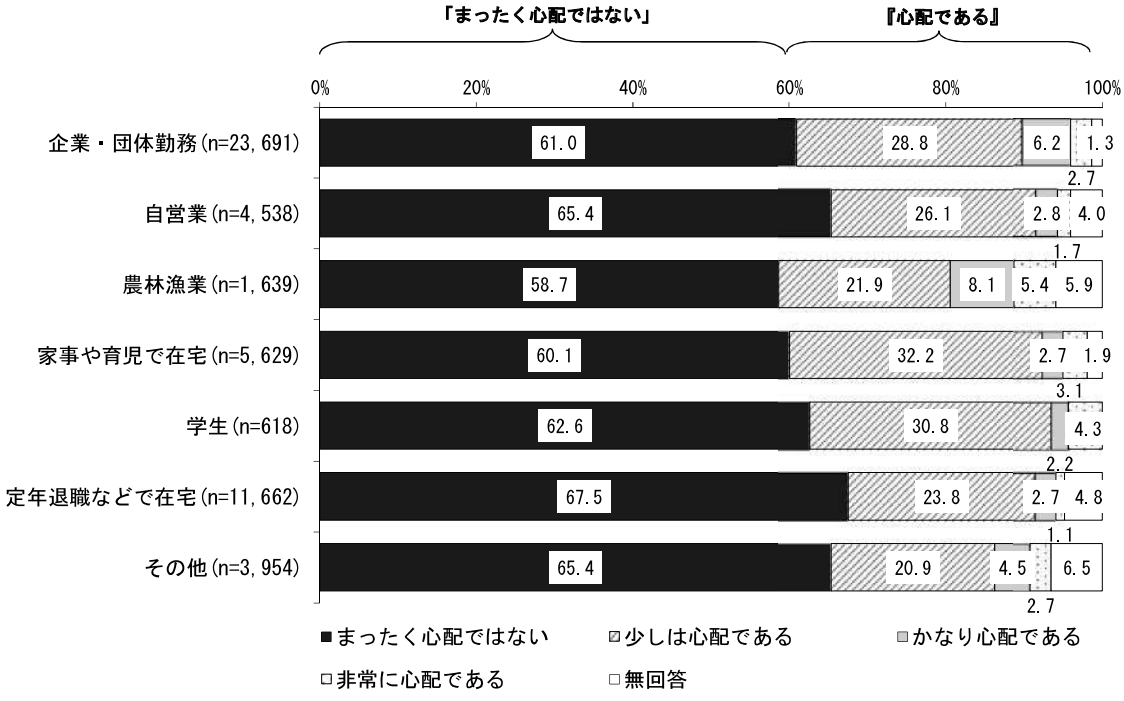
（７）豪雪・雪崩による雪害

【図表　豪雪・雪崩による雪害の不安（年代別）】



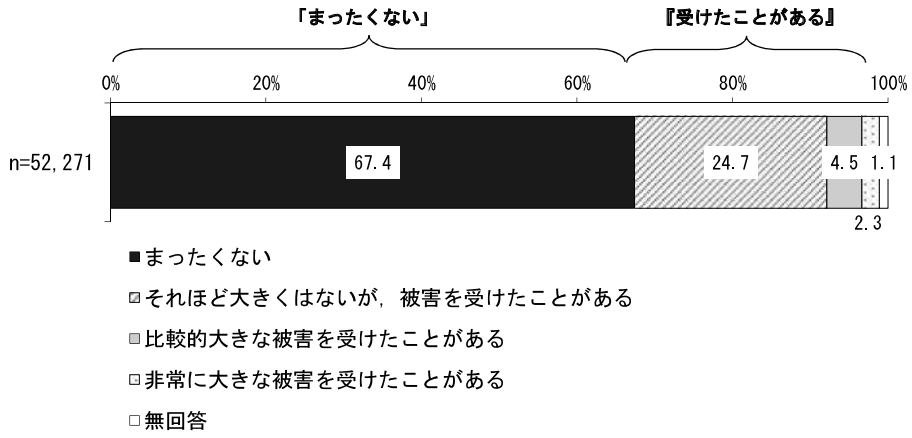
豪雪・雪崩による雪害の不安について，年代別にみると，『心配である』との回答は 30 代，40 代で４割台半ばと高く，70 代で２割台半ばと低くなっている。

【図表　豪雪・雪崩による雪害の不安（生活形態別）】



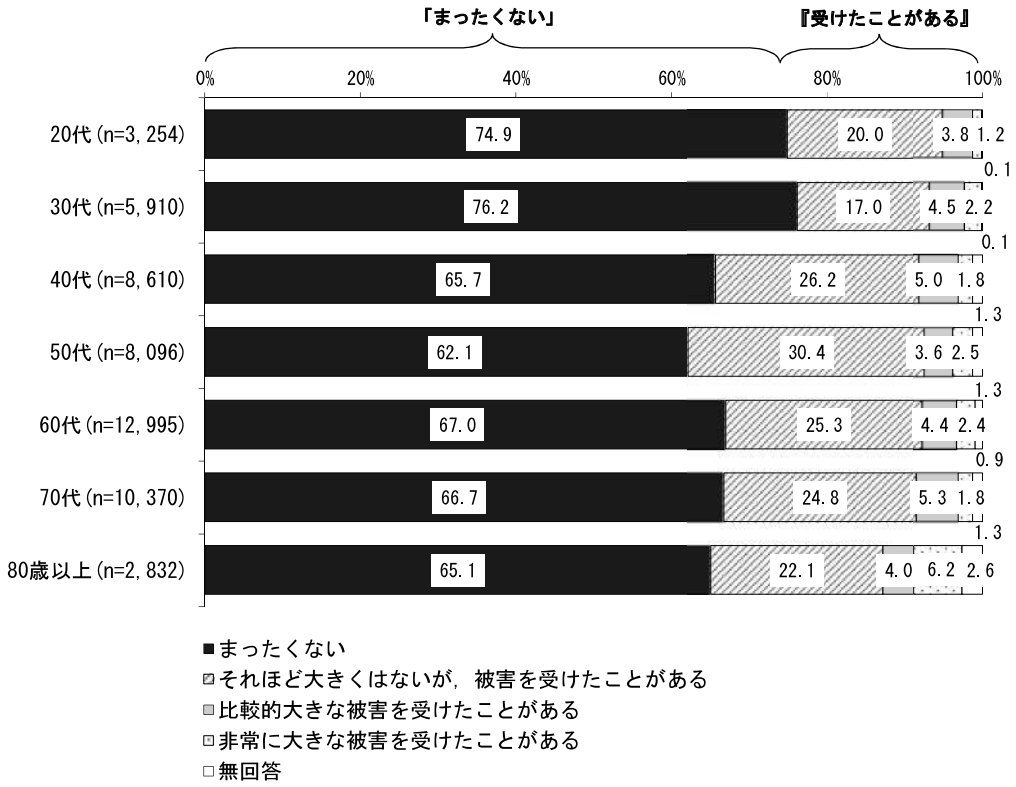
豪雪・雪崩による雪害の不安について，生活形態別にみると，『心配である』との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅，学生で約４割と高くなっている。

問４　あなたやあなたのご家族は，これまで，災害によって何らかの被害（怪我，物損，２日以上の避難生活など）を受けたことがありますか。（○は１つ）



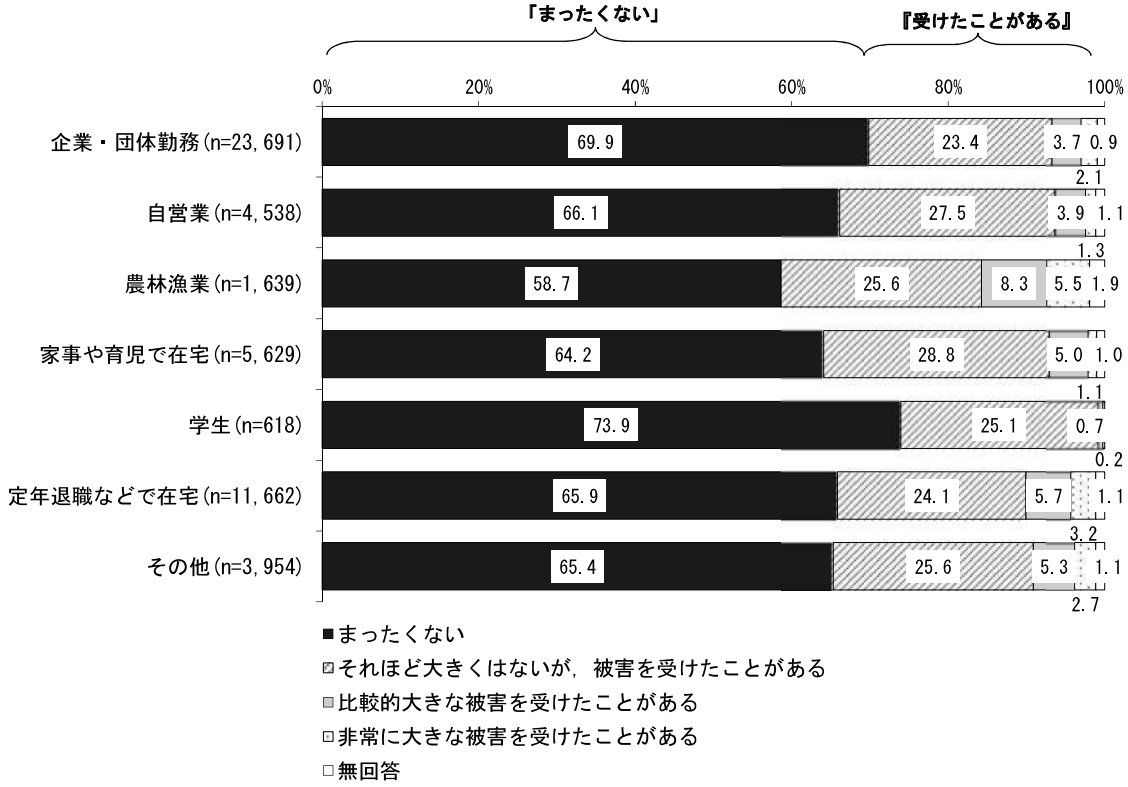
災害による被害経験の有無について，「まったくない」との回答が 67.4%，『受けたことがある』（「非常に大きな被害を受けたことがある」と「比較的大きな被害を受けたことがある」と「それほど大きくはないが，被害を受けたことがある」を合わせた割合）との回答が 31.5%となっている。

【図表　災害による被害経験の有無（年代別）】



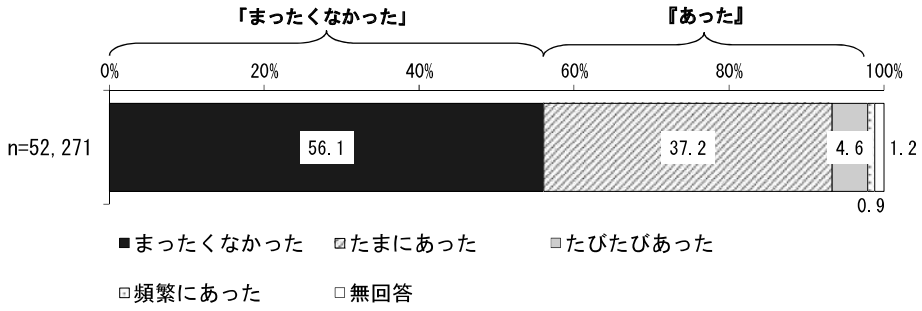
災害による被害経験の有無について，年代別にみると，『受けたことがある』との回答は 40 代，50 代で３割台半ばと高くなっている。

【図表　災害による被害経験の有無（生活形態別）】



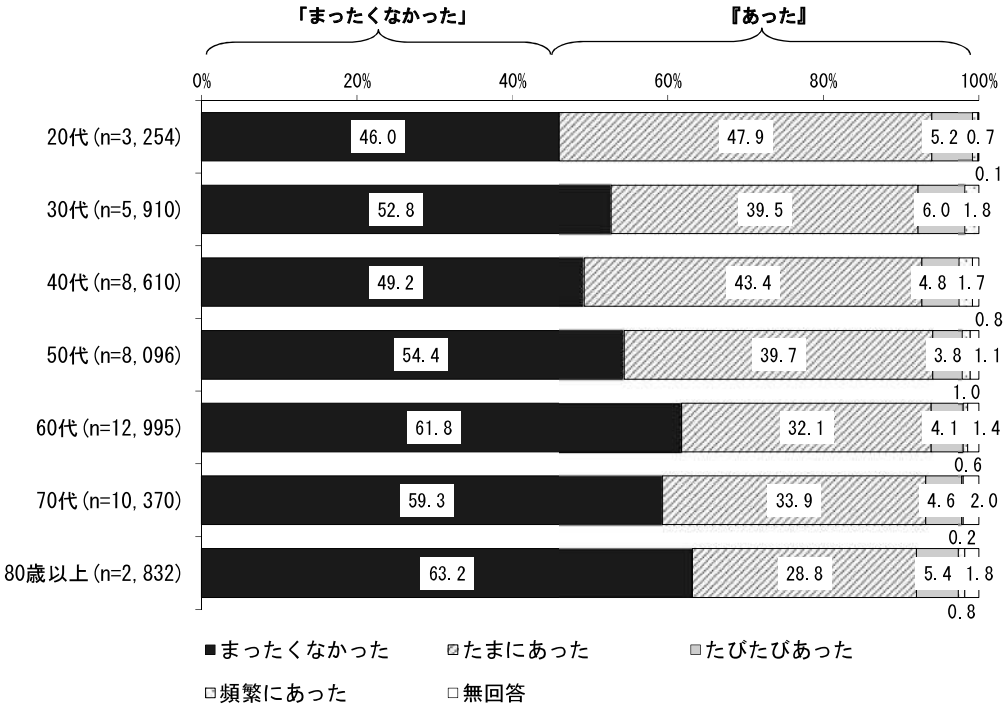
災害による被害経験の有無について，生活形態別にみると，『受けたことがある』との回答は農林漁業で約４割と高くなっている。

問５　「気象警報が役立った（警報が出ていたおかげで危険を避けることができた)」と思うことが，これまでどれくらいありましたか。（○は１つ）



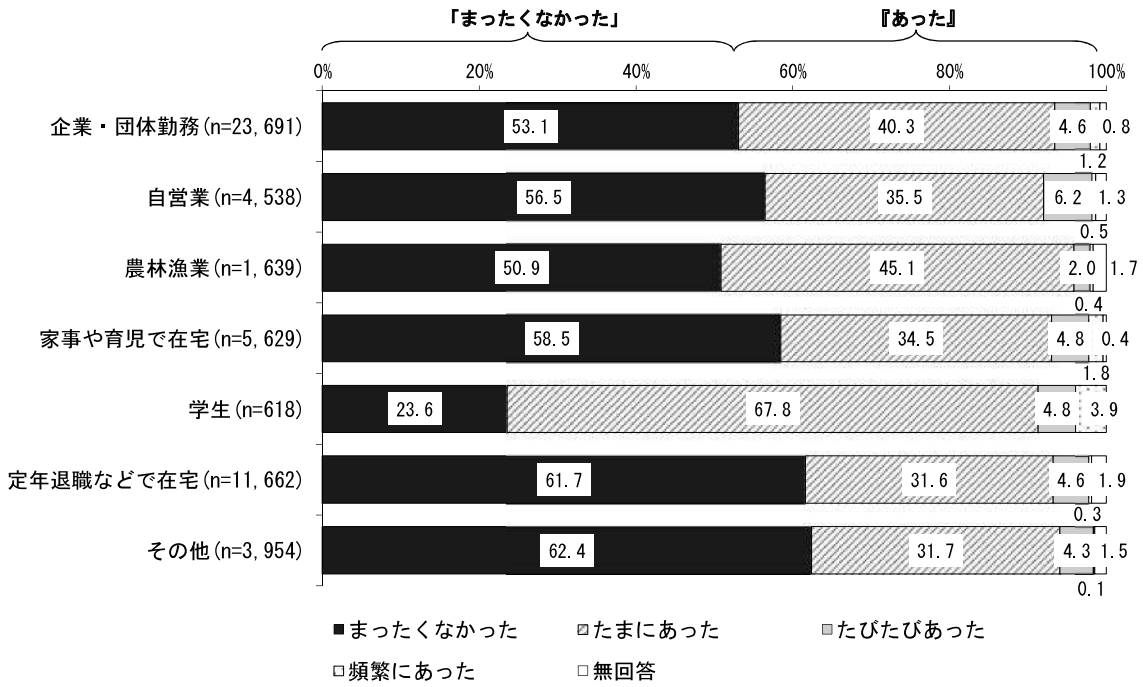
気象警報が役立った経験の有無について,「まったくなかった」との回答が 56.1%,『あった』(「頻繁にあった」と「たびたびあった」と「たまにあった」を合わせた割合）との回答が 42.7%となっている。

【図表　気象警報が役立った経験の有無（年代別）】



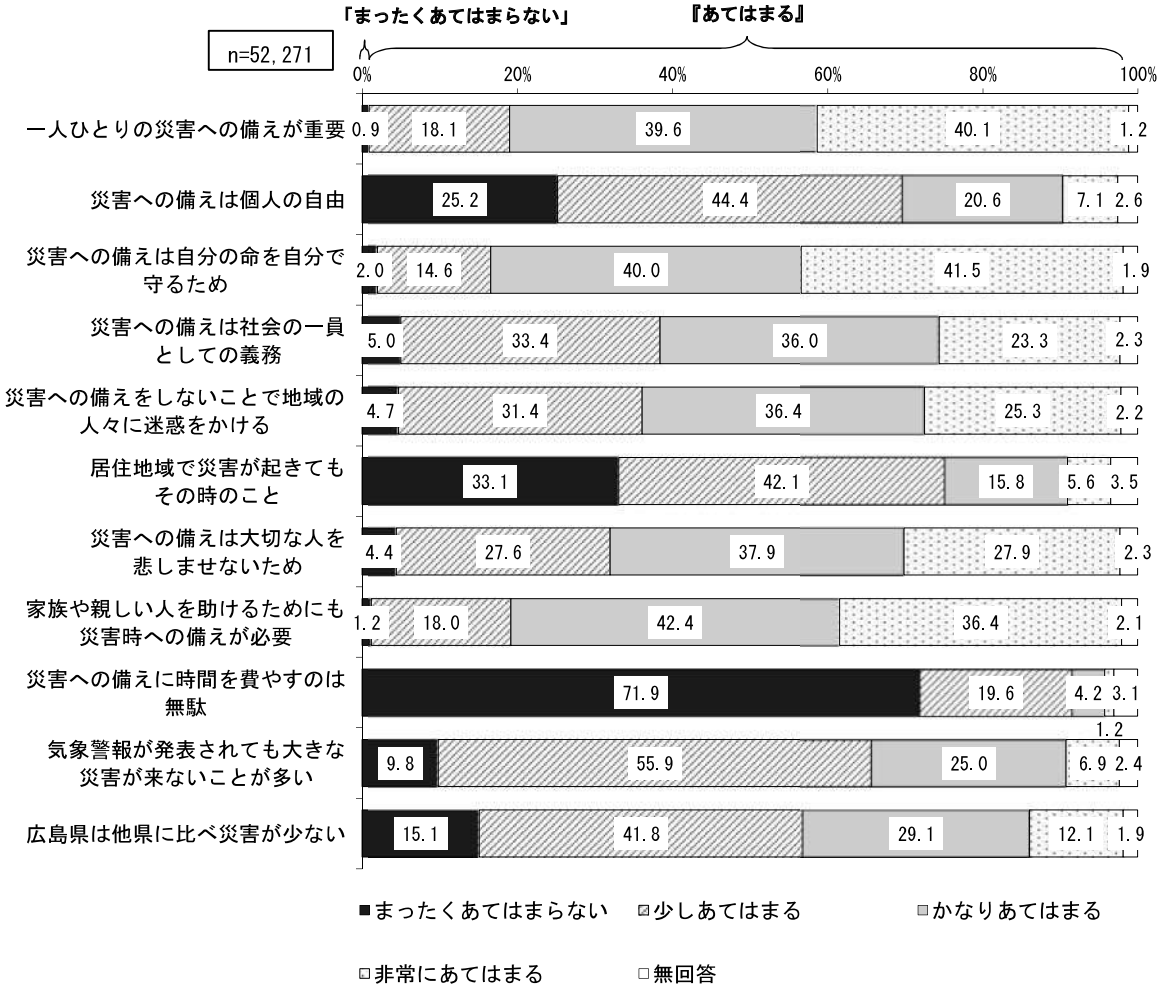
気象警報が役立った経験の有無について，年代別にみると，『あった』との回答は20代で５割台半ばと高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　気象警報が役立った経験の有無（生活形態別）】



気象警報が役立った経験の有無について，生活形態別にみると，『あった』との回答は学生で７割台半ばと他の生活形態に比べ高くなっている。

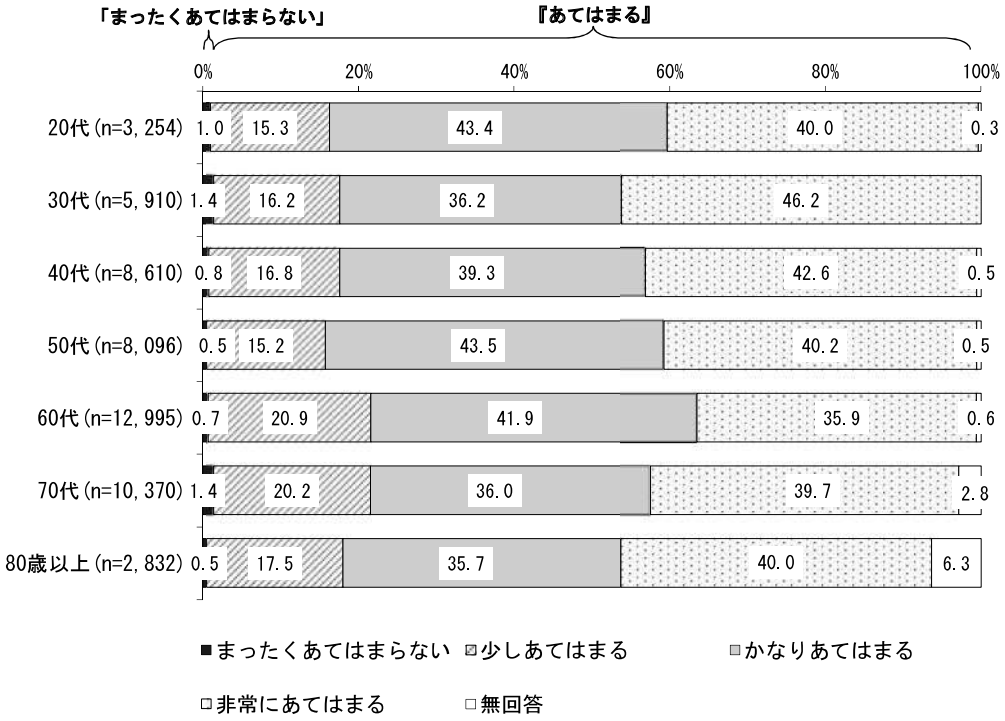
問６　次に，災害や防災・減災に関する様々な考え方を示しています。これらの考えは，あなた自身のお考えにどの程度あてはまりますか。各項目について該当する番号１つを○で囲んでください。



災害や防災・減災に関する考え方について，「まったくあてはまらない」との回答は「災害への備えに時間を費やすのは無駄」で７割超と高くなっている。一方，『あてはまる』（「非常にあてはまる」と「かなりあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合）との回答は「一人ひとりの災害への備えが重要」，「災害への備えは自分の命を自分で守るため」，「災害への備えをしないことで地域の人々に迷惑をかける」，「災害への備えは大切な人を悲しませないため」，「家族や親しい人を助けるためにも災害時への備えが必要」で約 10 割と高くなっている。

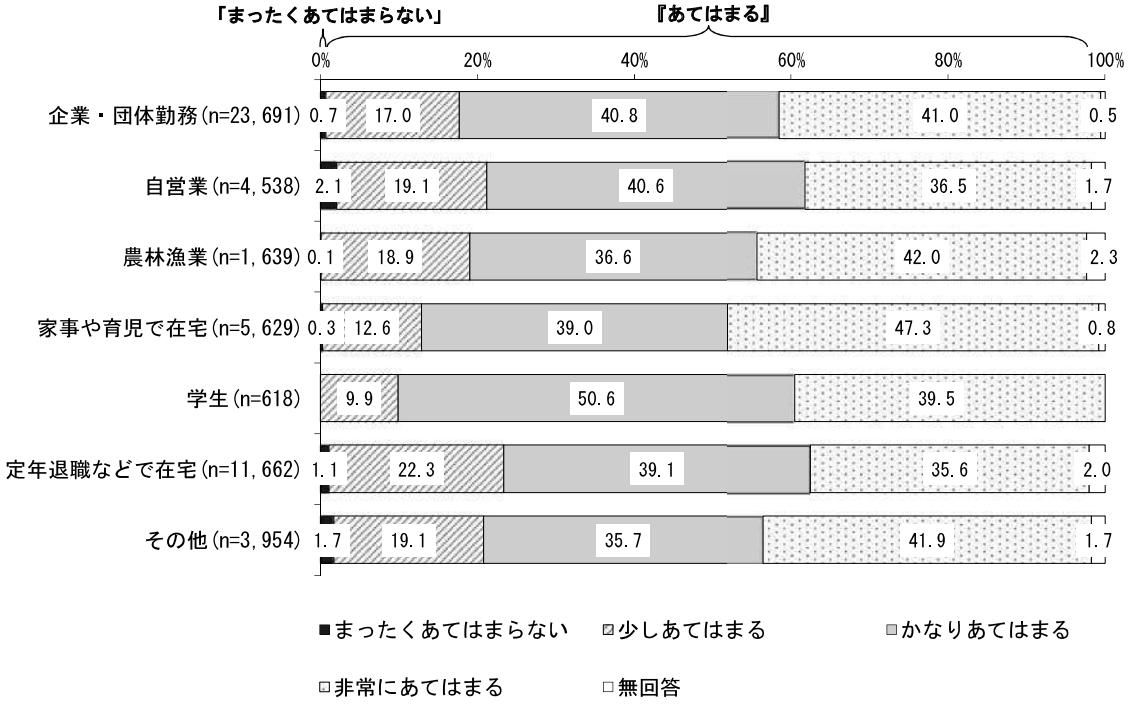
（１）一人ひとりの災害への備えが重要

【図表　一人ひとりの災害への備えが重要（年代別）】



一人ひとりの災害への備えが重要という意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答はすべての年代において９割台と高くなっている。

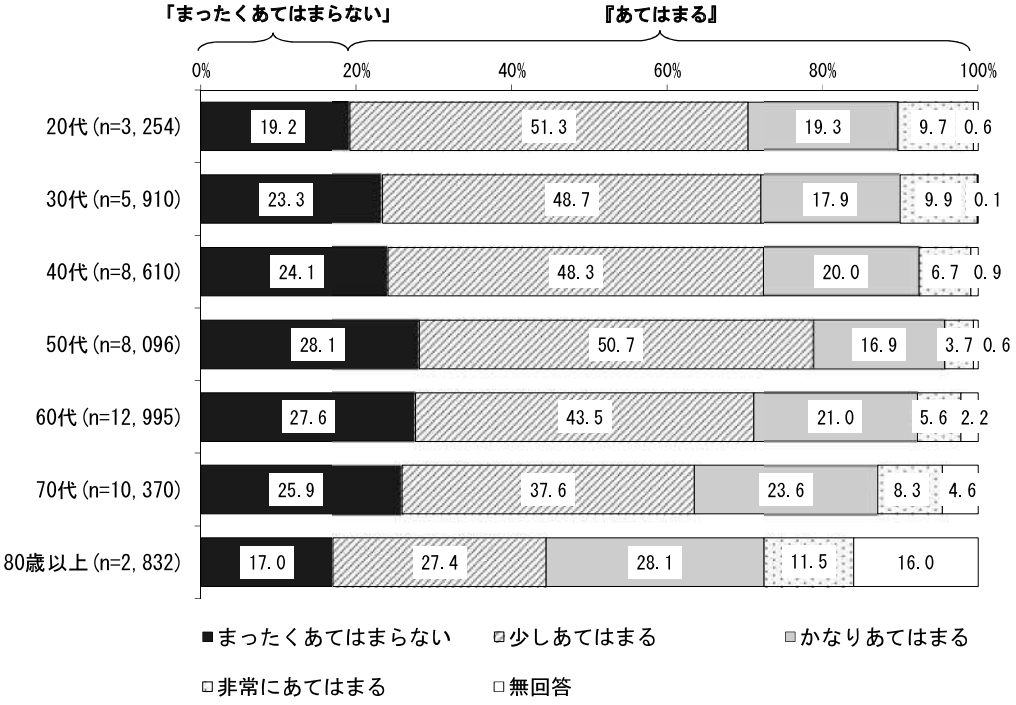
【図表　一人ひとりの災害への備えが重要（生活形態別）】



一人ひとりの災害への備えが重要という意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答はすべての生活形態において９割台と高くなっている。

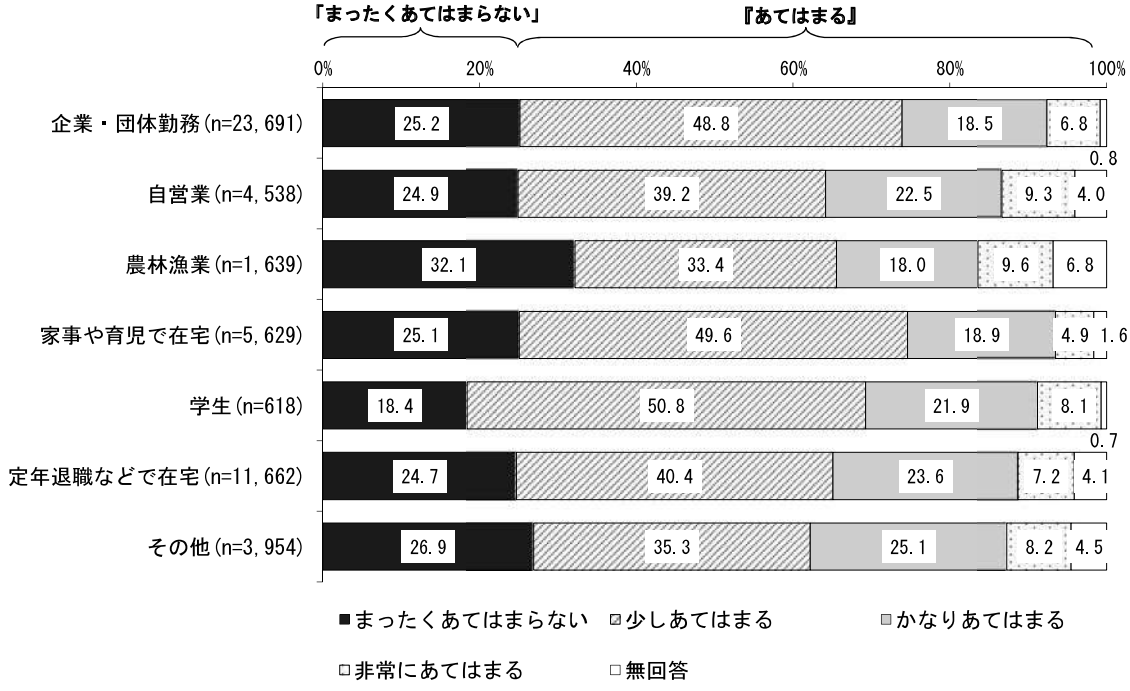
（２）災害への備えは個人の自由

【図表　災害への備えは個人の自由（年代別）】



災害への備えは個人の自由という意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は 20 代で約８割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

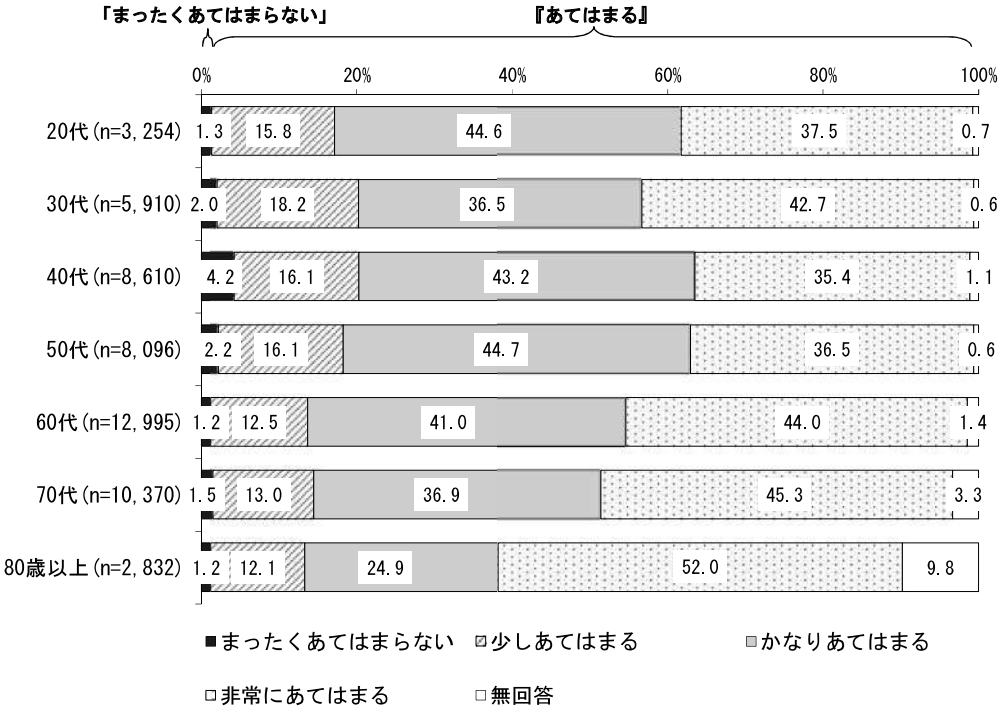
【図表　災害への備えは個人の自由（生活形態別）】



災害への備えは個人の自由という意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答は学生で約８割と高くなっている。

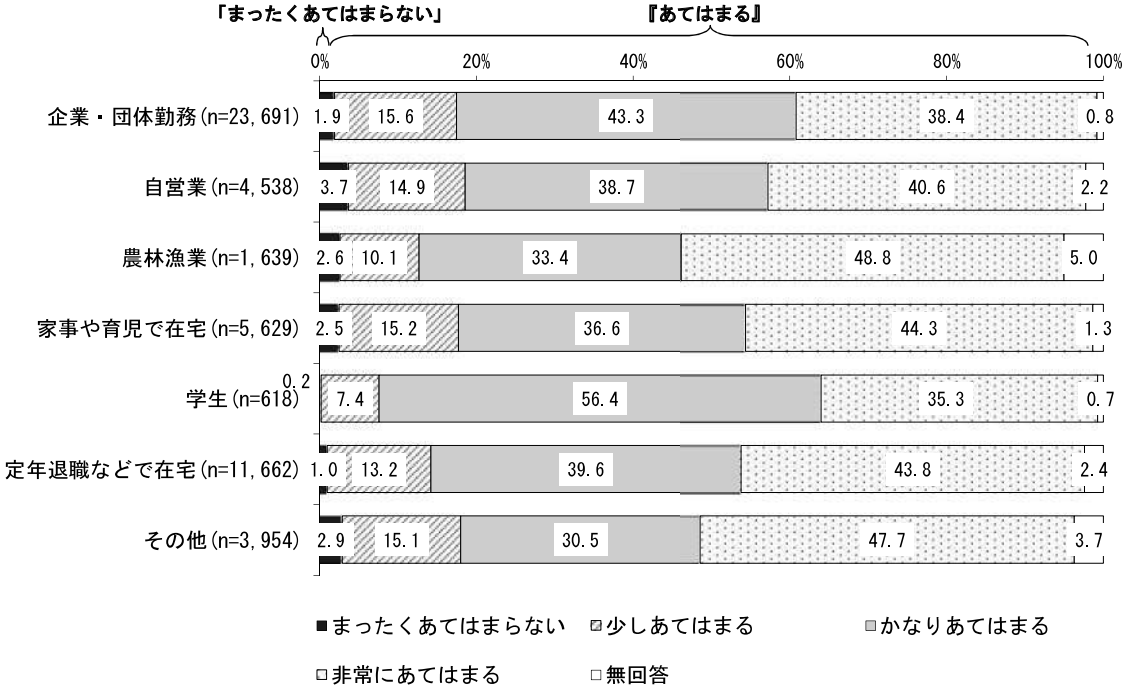
（３）災害への備えは自分の命を自分で守るため

【図表　災害への備えは自分の命を自分で守るため（年代別）】



災害への備えは自分の命を自分で守るためという意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答はすべての年代において９割前後と高くなっている。

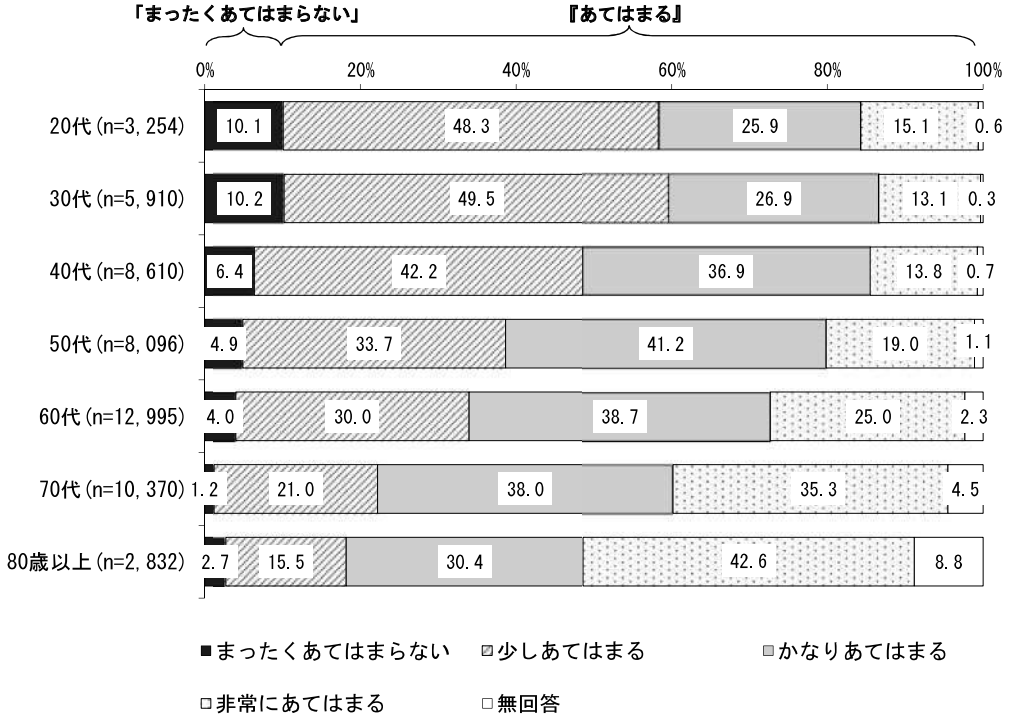
【図表　災害への備えは自分の命を自分で守るため（生活形態別）】



災害への備えは自分の命を自分で守るためという意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答はすべての生活形態において９割台と高くなっている。

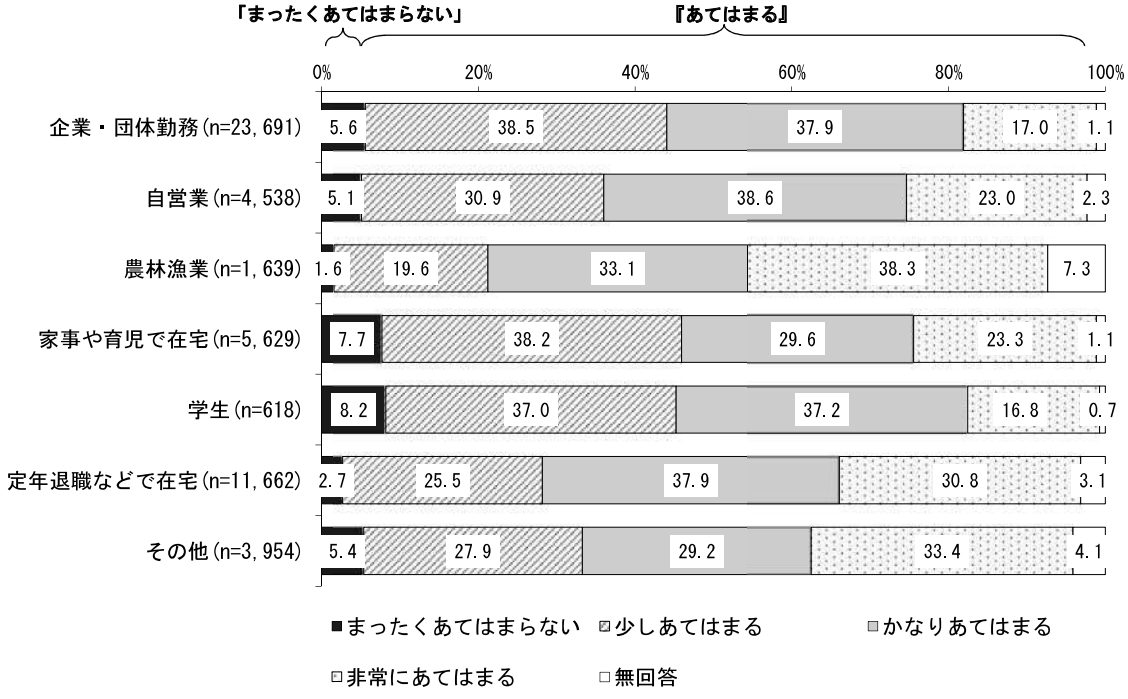
（４）災害への備えは社会の一員としての義務

【図表　災害への備えは社会の一員としての義務（年代別）】



災害への備えは社会の一員としての義務という意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は 50 代～70 代で９割台半ばと高くなっており，年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

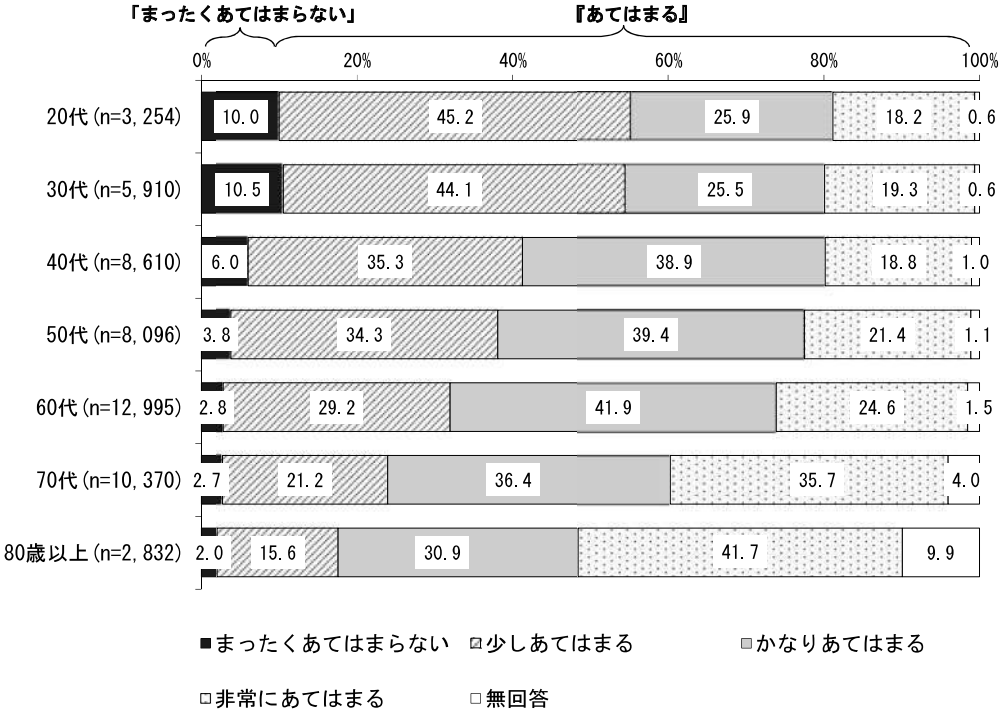
【図表　災害への備えは社会の一員としての義務（生活形態別）】



災害への備えは社会の一員としての義務という意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答はすべての生活形態において９割台と高くなっている。

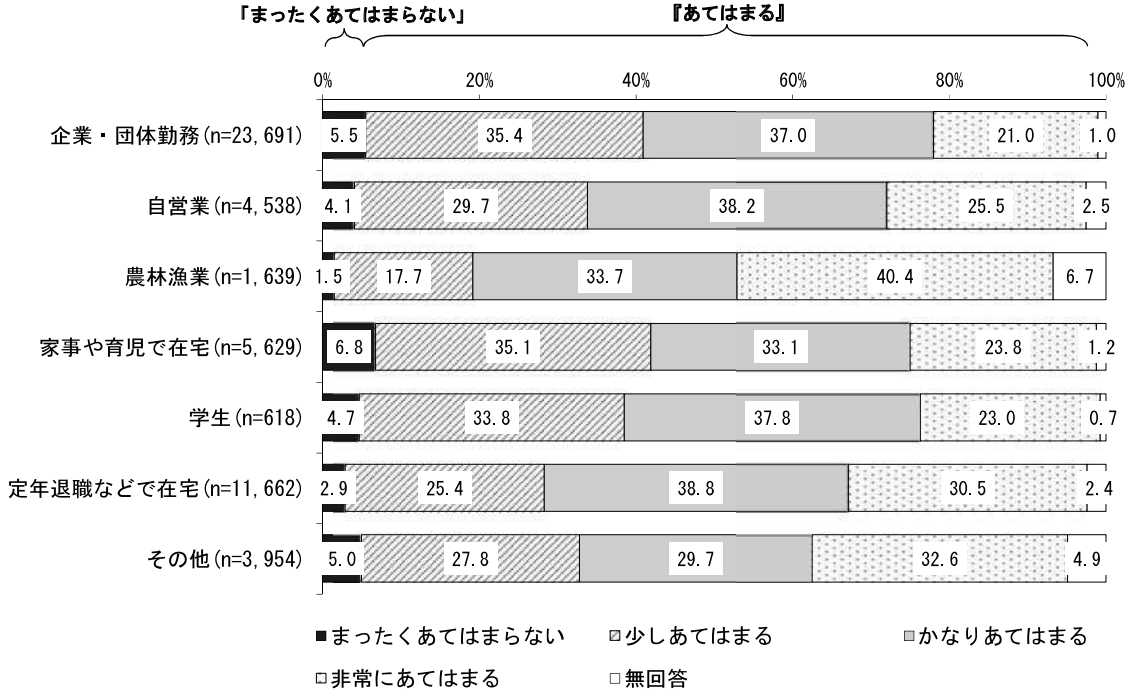
（５）災害への備えをしないことで地域の人々に迷惑をかける

【図表　災害への備えをしないことで地域の人々に迷惑をかける（年代別）】



災害への備えをしないことで地域の人々に迷惑をかけるという意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は 40 代～70 代で９割台半ばと高くなっている。

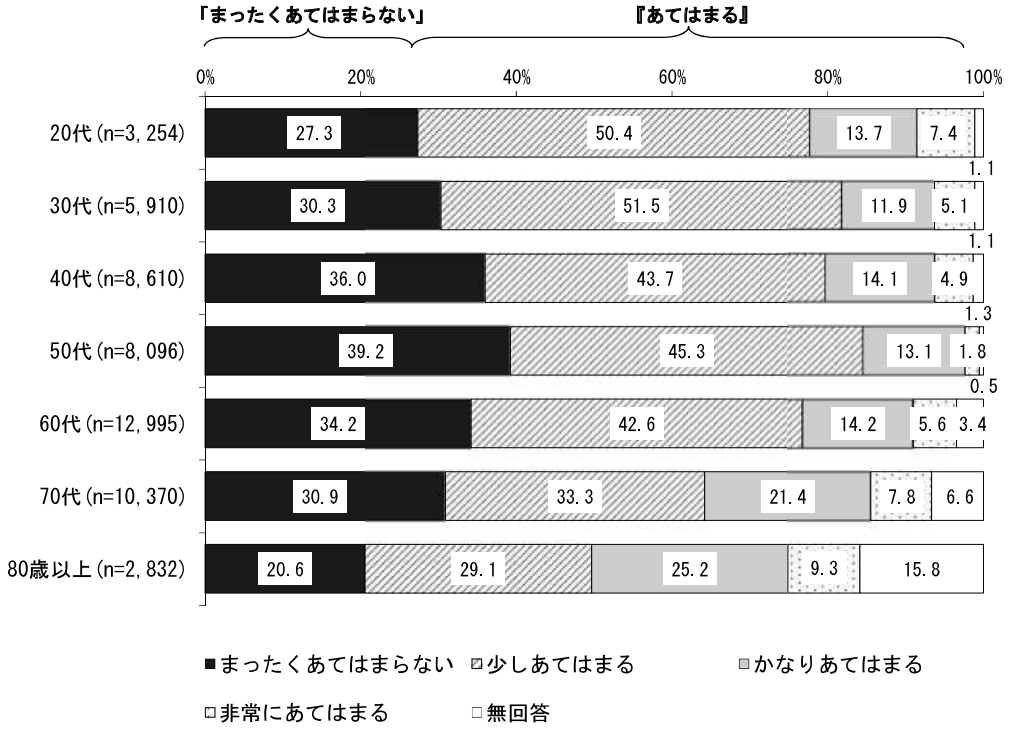
【図表　災害への備えをしないことで地域の人々に迷惑をかける（生活形態別）】



災害への備えをしないことで地域の人々に迷惑をかけるという意見について，生活形態別にみると，すべての生活形態において９割台と高くなっている。

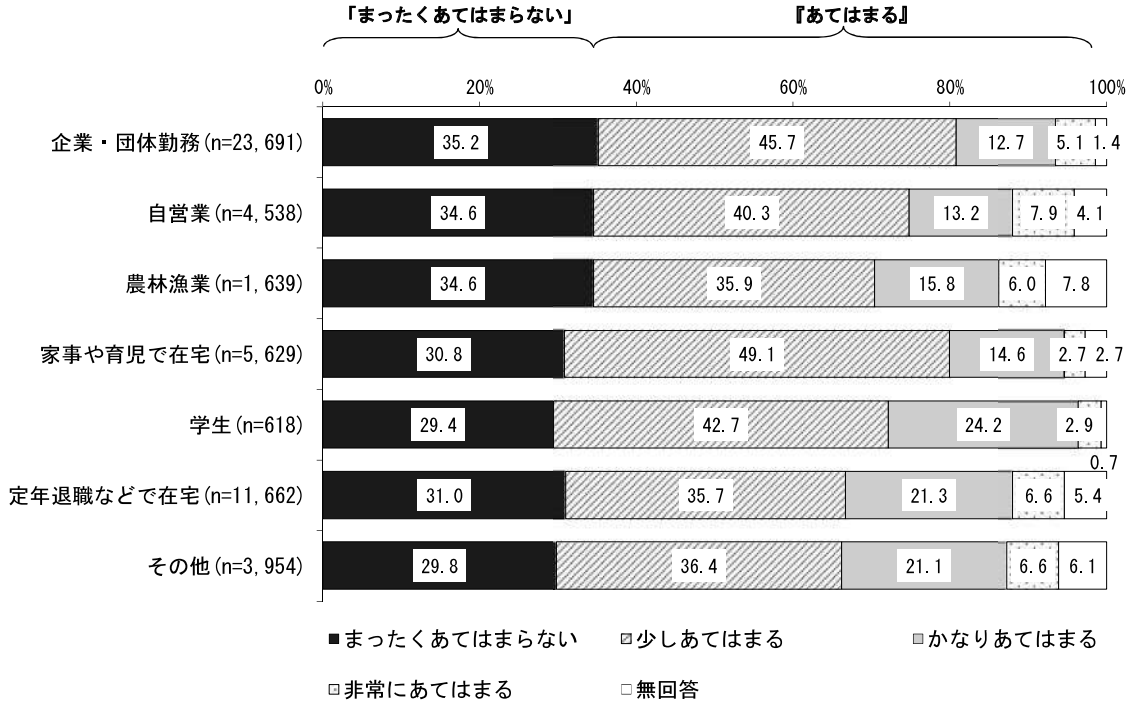
（６）居住地域で災害が起きてもその時のこと

【図表　居住地域で災害が起きてもその時のこと（年代別）】



居住地域で災害が起きてもその時のことという意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は 20 代，30 代で７割前後と高くなっている。

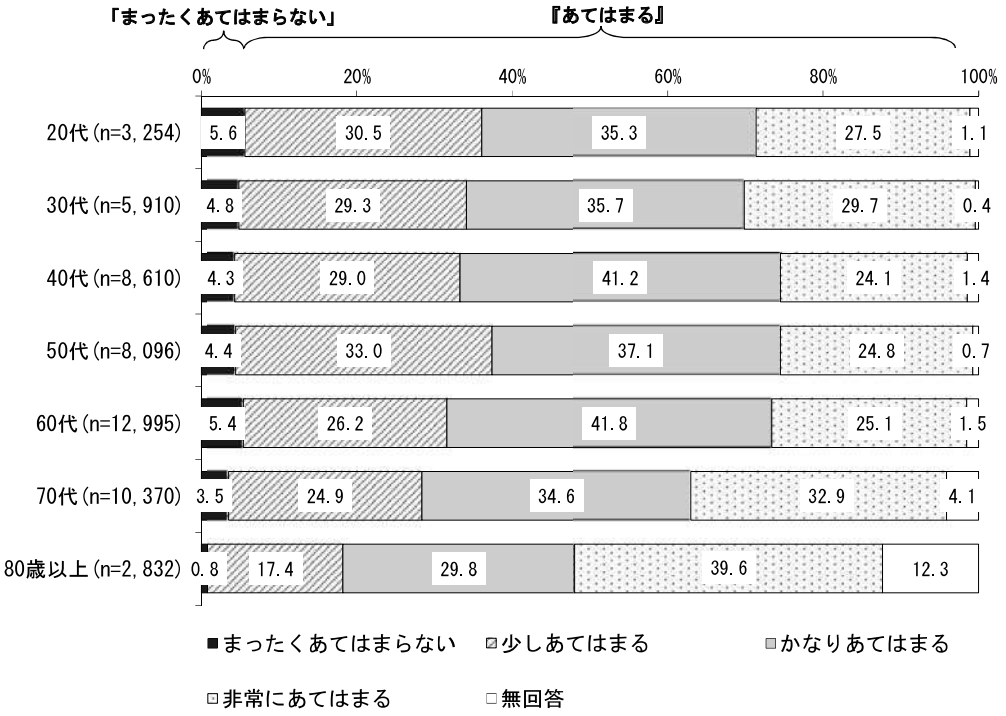
【図表　居住地域で災害が起きてもその時のこと（生活形態別）】



居住地域で災害が起きてもその時のことという意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答は学生で約７割と高くなっている。

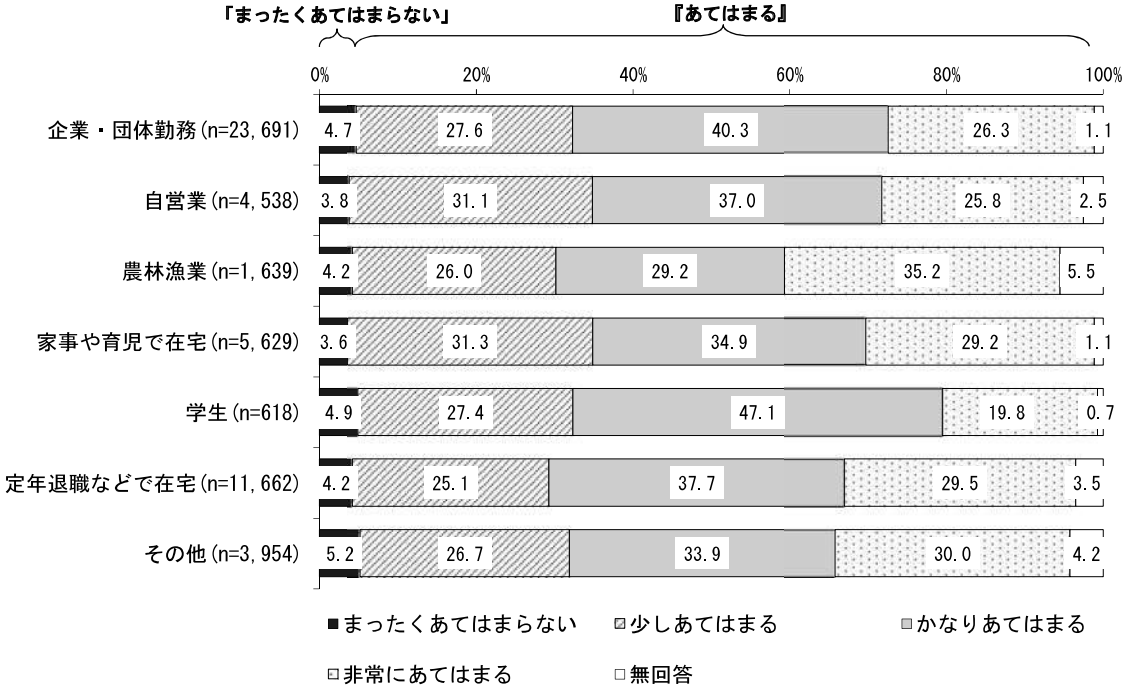
（７）災害への備えは大切な人を悲しませないため

【図表　災害への備えは大切な人を悲しませないため（年代別）】



災害への備えは大切な人を悲しませないためという意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は80歳以上を除くすべての年代において９割台と高くなっている。

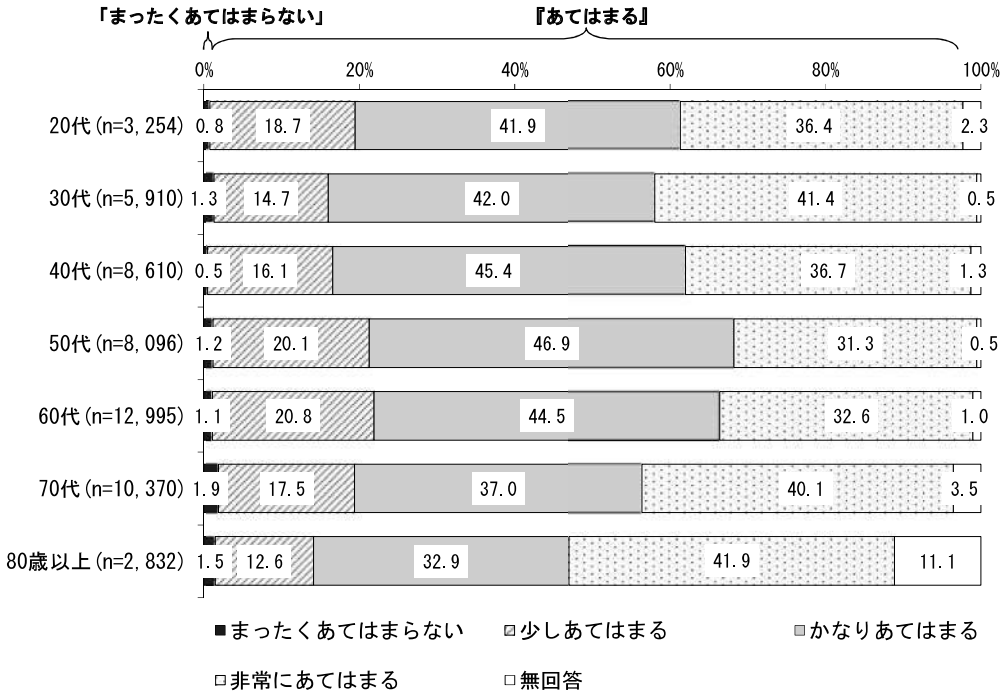
【図表　災害への備えは大切な人を悲しませないため（生活形態別）】



災害への備えは大切な人を悲しませないためという意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答はすべての生活形態において９割台と高くなっている。

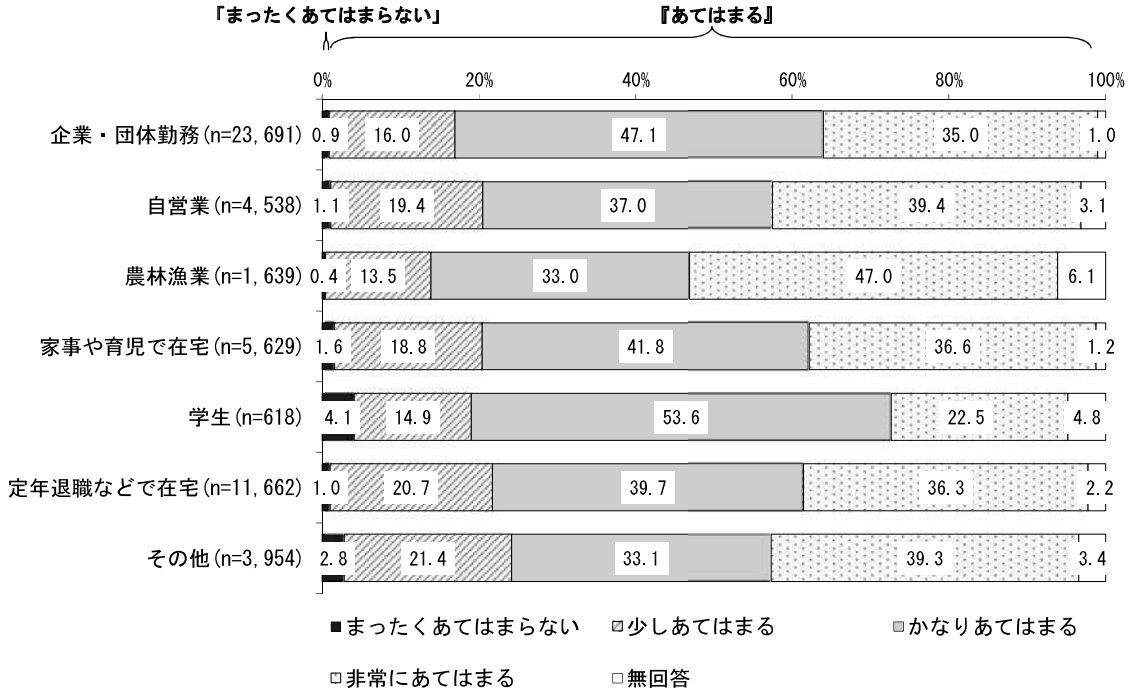
（８）家族や親しい人を助けるためにも災害時への備えが必要

【図表　家族や親しい人を助けるためにも災害時への備えが必要（年代別）】



家族や親しい人を助けるためにも災害時への備えが必要という意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は 80 歳以上を除くすべての年代において９割台と高くなっている。

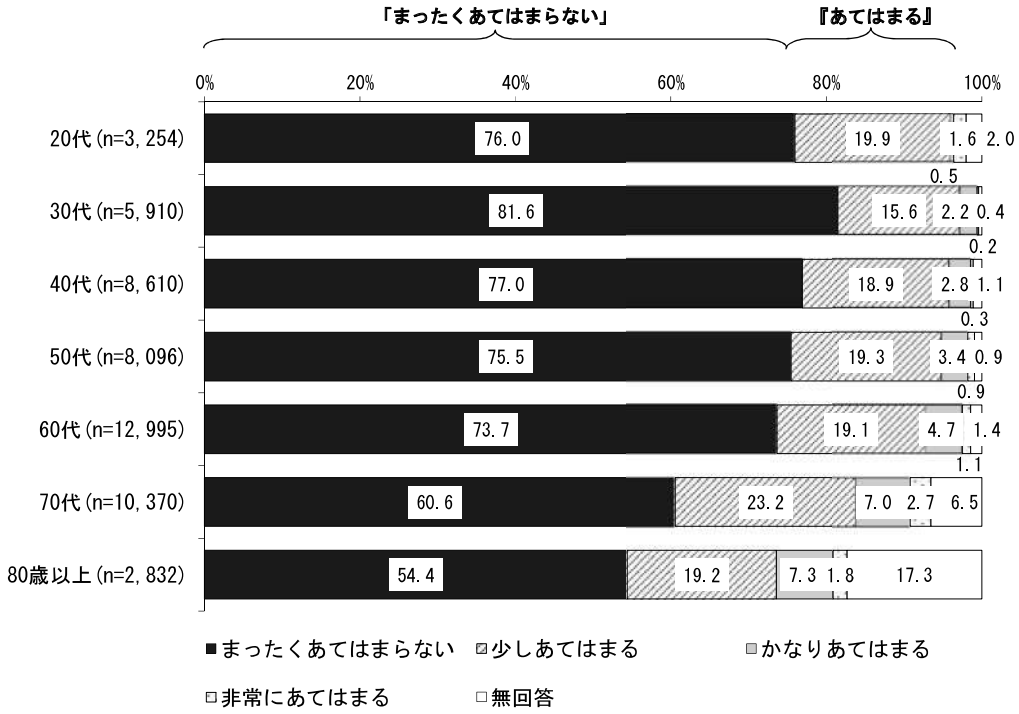
【図表　家族や親しい人を助けるためにも災害時への備えが必要（生活形態別）】



家族や親しい人を助けるためにも災害時への備えが必要という意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答はすべての生活形態において９割台と高くなっている。

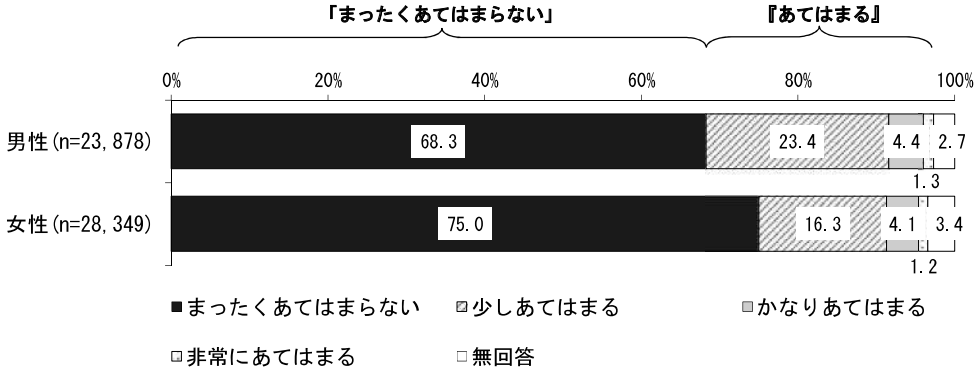
（９）災害への備えに時間を費やすのは無駄

【図表　災害への備えに時間を費やすのは無駄（年代別）】



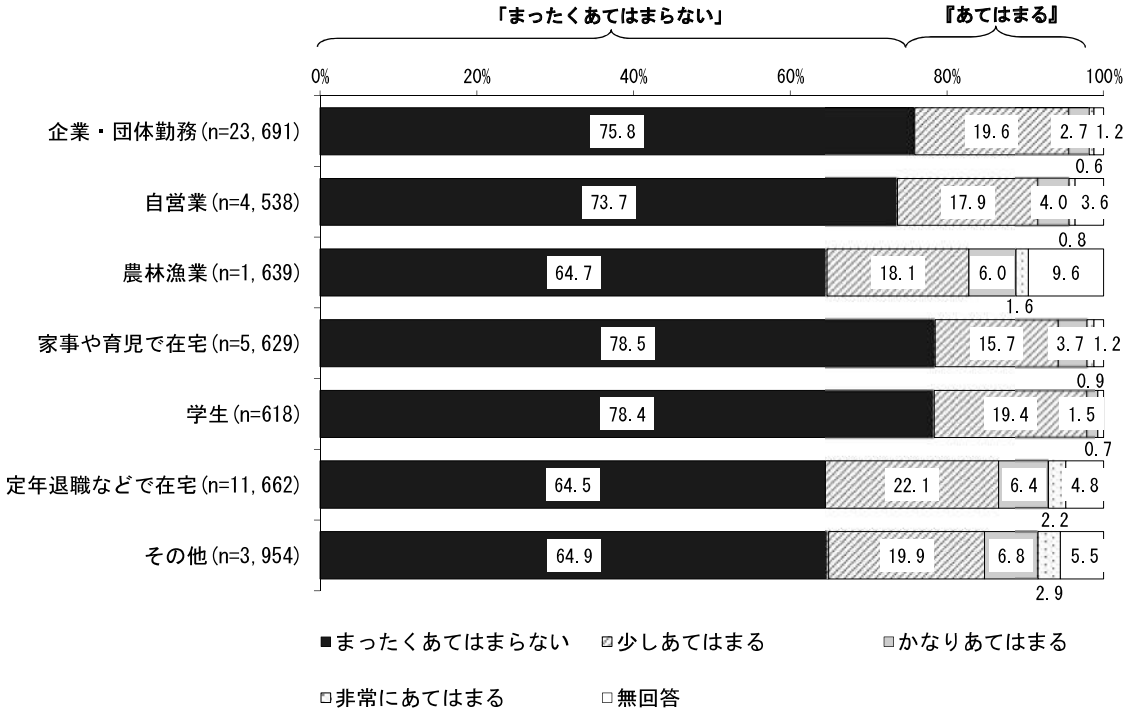
災害への備えに時間を費やすのは無駄という意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は 70 代で３割超と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　災害への備えに時間を費やすのは無駄（性別）】



災害への備えに時間を費やすのは無駄という意見について，性別にみると，『あてはまる』との回答は男性（29.1％）が女性（21.6％）を 7.5 ポイント上回っている。

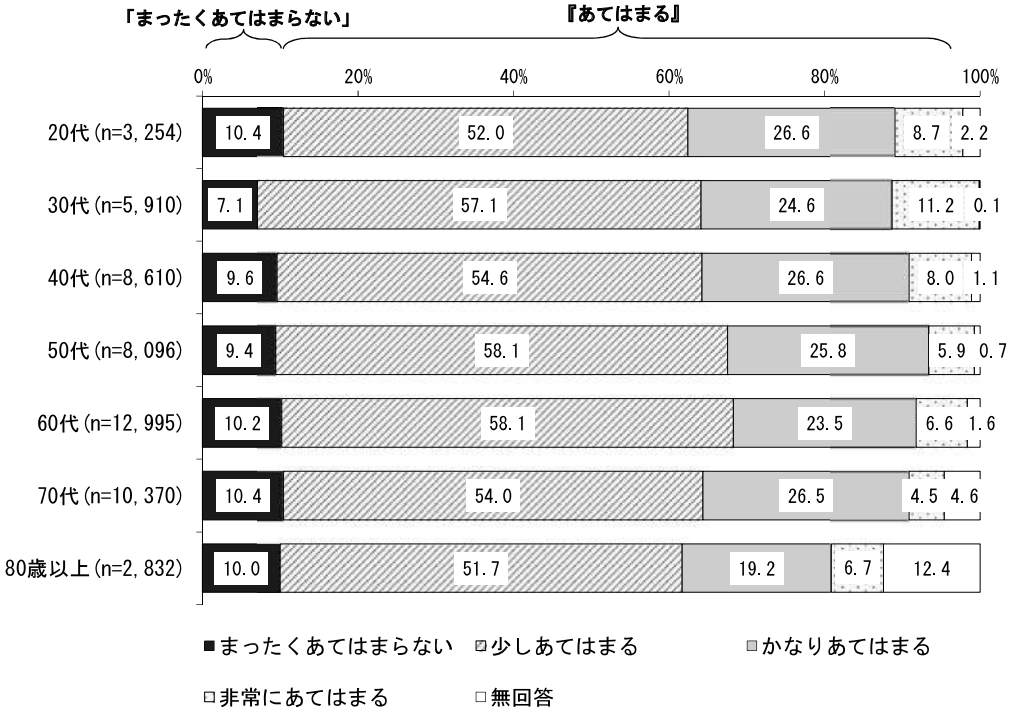
【図表　災害への備えに時間を費やすのは無駄（生活形態別）】



災害への備えに時間を費やすのは無駄という意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答は定年退職などで在宅で約３割と他の生活形態に比べ高くなっている。

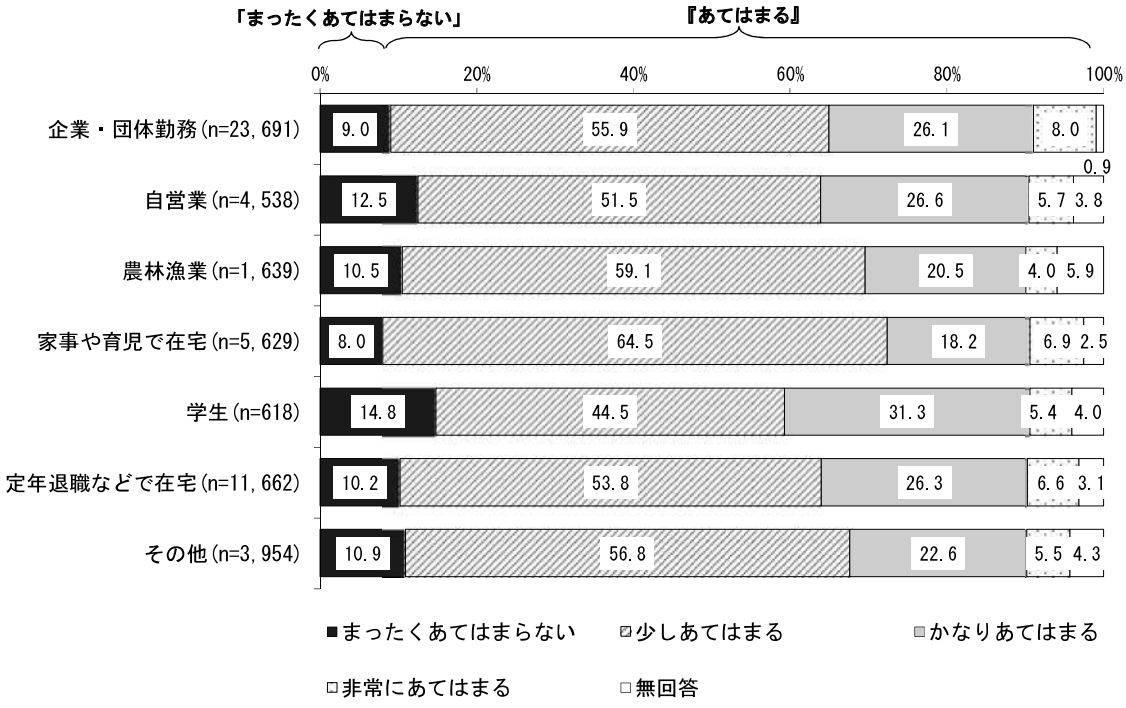
（10）気象警報が発表されても大きな災害が来ないことが多い

【図表　気象警報が発表されても大きな災害が来ないことが多い（年代別）】



気象警報が発表されても大きな災害が来ないことが多いという意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答は 70 代，80 歳以上を除くすべての年代で 9 割前後と高くなっている。

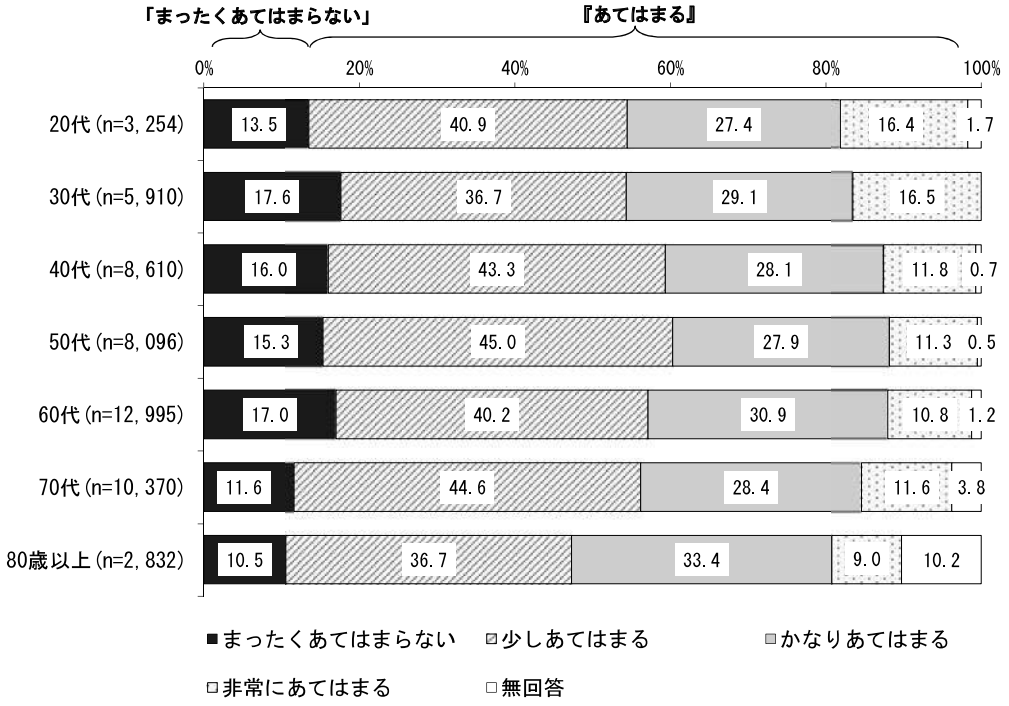
【図表　気象警報が発表されても大きな災害が来ないことが多い（生活形態別）】



気象警報が発表されても大きな災害が来ないことが多いという意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅で約 9 割と高くなっている。

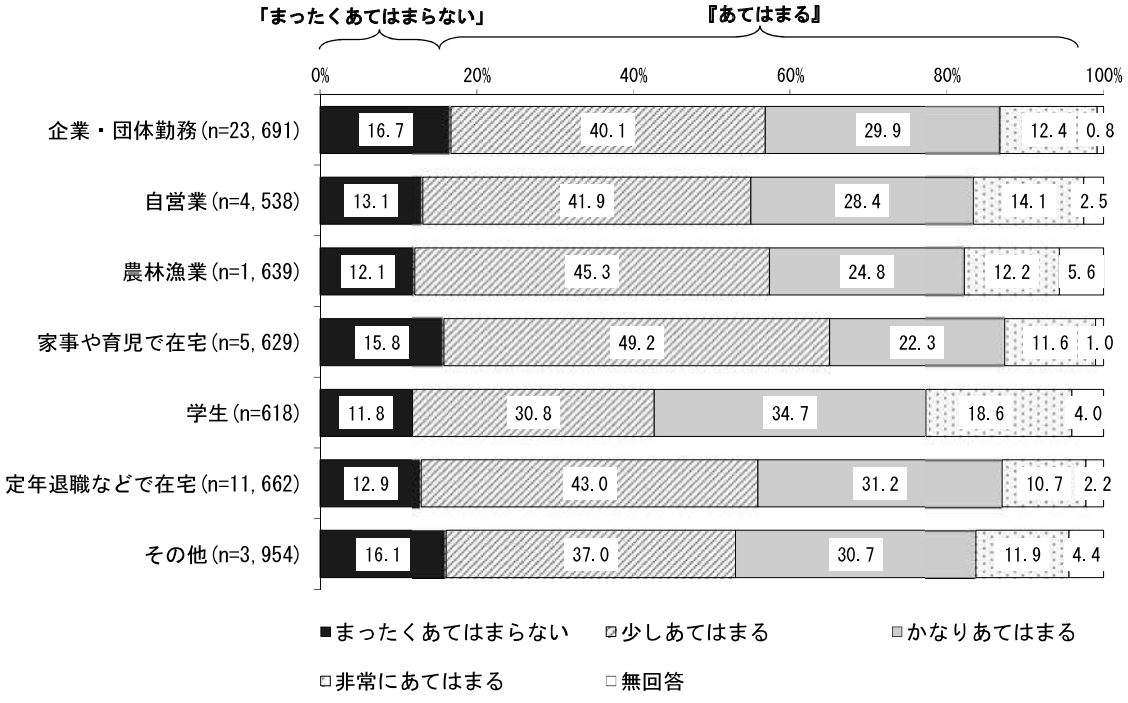
（11）広島県は他県に比べ災害が少ない

【図表　広島県は他県に比べ災害が少ない（年代別）】



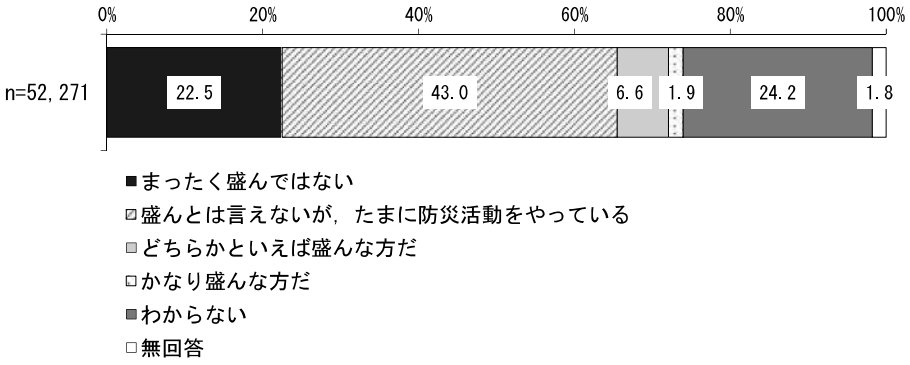
広島県は他県に比べ災害が少ないという意見について，年代別にみると，『あてはまる』との回答はすべての年代において８割前後と高くなっている。

【図表　広島県は他県に比べ災害が少ない（生活形態別）】



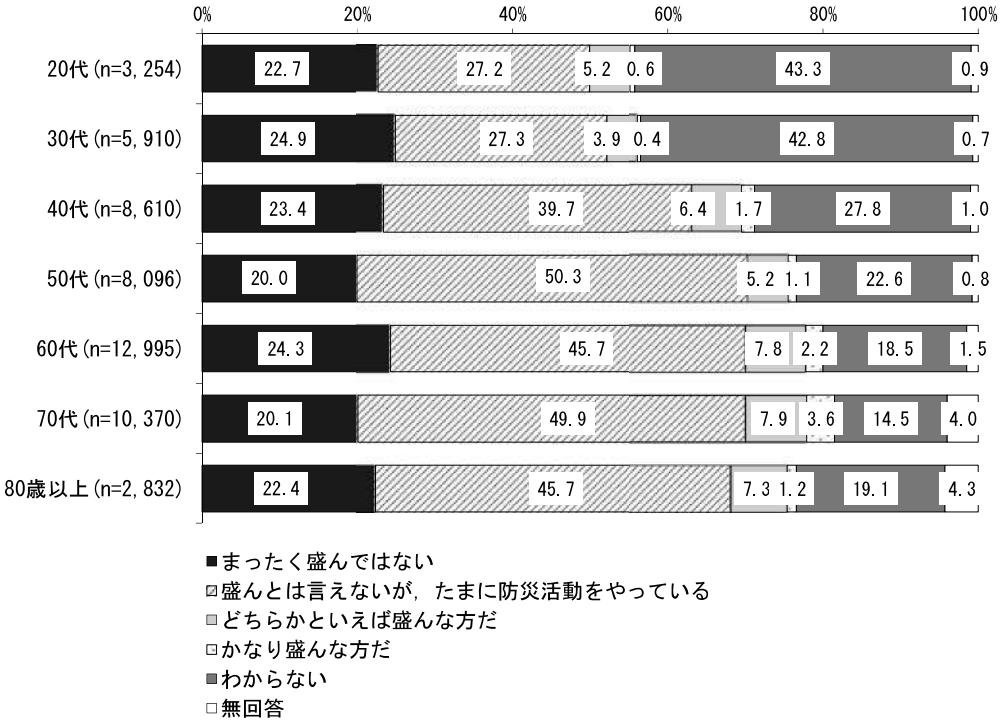
広島県は他県に比べ災害が少ないという意見について，生活形態別にみると，『あてはまる』との回答はすべての生活形態において８割台と高くなっている。

問７　あなたがお住まいの町内では，町ぐるみの防災活動がどれくらい盛んですか。（○は１つ）



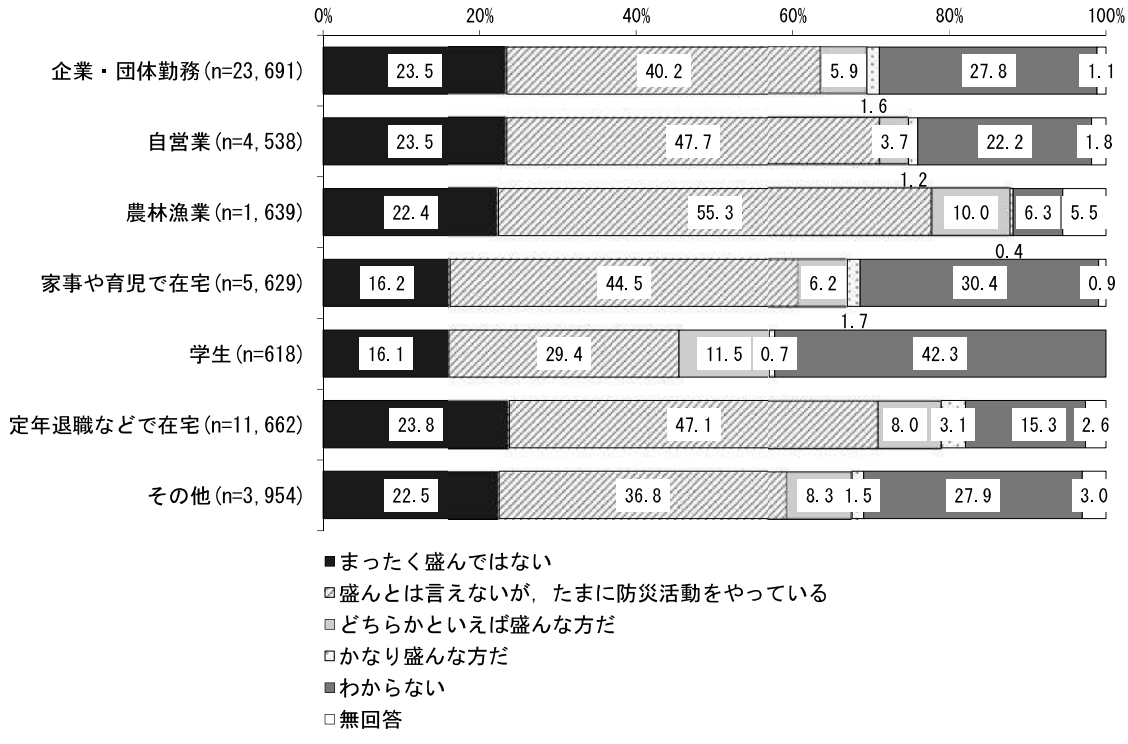
防災活動の盛況度について，「盛んとは言えないが，たまに防災活動をやっている」との回答が43.0％と最も高く，次いで「まったく盛んではない」(22.5％)，「どちらかといえば盛んな方だ」(6.6％) などの順となっている。また，「わからない」との回答が24.2％と高くなっている。

【図表　防災活動の盛況度（年代別）】



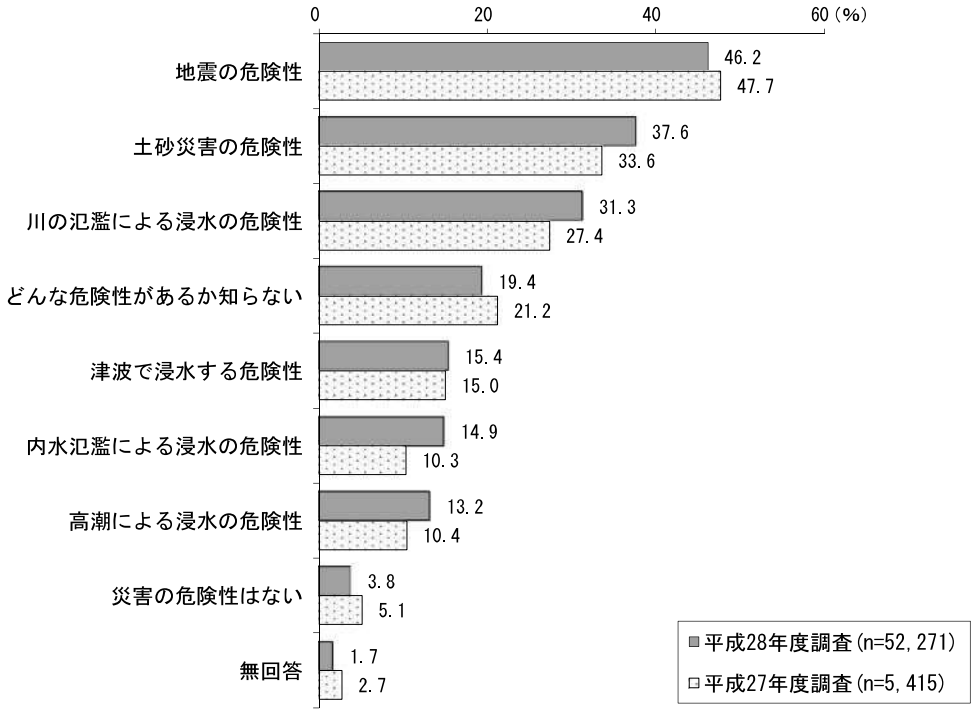
防災活動の盛況度について，年代別にみると，「盛んとは言えないが，たまに防災活動をやっている」との回答は 50 代，70 代で約５割と高くなっている。また，「わからない」との回答は 20 代，30 代で４割台半ばと高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　防災活動の盛況度（生活形態別）】



防災活動の盛況度について，生活形態別にみると，「盛んとは言えないが，たまに防災活動をやっている」との回答は農林漁業で５割台半ばと高くなっている。また，「わからない」との回答は学生で４割超と他の生活形態に比べ高くなっている。

問８　あなたの住んでいる場所で，どのような災害の危険性が想定されているかご存知ですか。
（７「災害の危険性はない」８「どんな危険性があるか知らない」以外は，○はいくつでも）



居住場所で想定される災害の危険性の認知度について，「地震の危険性」との回答が 46.2%と最も高く，次いで「土砂災害の危険性」（37.6%），「川の氾濫による浸水の危険性」（31.3%）などの順となっている。

経年比較すると，すべての項目において大きな差はみられない。

【図表　居住場所での災害の危険性の認知度（年代別）】

（%）

		地震の危険性	津波で浸水する危険性	川の氾濫による浸水の危険性	内水氾濫による浸水の危険性	高潮による浸水の危険性	土砂災害の危険性	災害の危険性はない	どんな危険性があるか知らない	無回答
全　体	(n=52,271)	46.2	15.4	31.3	14.9	13.2	37.6	3.8	19.4	1.7
年代別	20代 (n=3,254)	42.6	10.9	30.6	12.1	6.7	27.5	1.0	37.6	0.5
	30代 (n=5,910)	38.5	16.2	35.3	17.6	11.0	33.9	3.0	28.4	0.7
	40代 (n=8,610)	39.7	13.7	29.5	16.4	12.2	35.5	2.7	26.9	1.9
	50代 (n=8,096)	43.0	18.3	33.3	13.5	13.8	42.6	3.5	18.7	0.9
	60代 (n=12,995)	52.1	15.4	32.0	15.0	15.3	42.6	4.3	13.6	1.3
	70代 (n=10,370)	52.0	15.8	29.4	14.9	14.0	34.7	4.7	12.3	2.4
	80歳以上 (n=2,832)	46.2	14.0	25.9	9.5	14.6	35.5	7.5	12.2	5.3

居住場所での災害の危険性の認知度について，年代別にみると，「地震の危険性」との回答がすべての年代で第１位となっており，60 代，70 代では５割超と高くなっている。「川の氾濫による浸水の危険性」との回答は 30 代，50 代で３割台半ば，「土砂災害の危険性」との回答は 50 代，60 代で４割超，「どんな危険性があるかわからない」との回答は 20 代で約４割と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　居住場所での災害の危険性の認知度（性別）】

（%）

		地震の危険性	津波で浸水する危険性	川の氾濫による浸水の危険性	内水氾濫による浸水の危険性	高潮による浸水の危険性	土砂災害の危険性	災害の危険性はない	どんな危険性があるか知らない	無回答
全　体(n=52,271)		46.2	15.4	31.3	14.9	13.2	37.6	3.8	19.4	1.7
性別	男性(n=23,878)	50.2	17.0	32.1	15.5	14.6	38.7	3.2	17.3	1.2
	女性(n=28,349)	42.8	14.0	30.6	14.4	12.0	36.6	4.3	21.2	2.0

居住場所での災害の危険性の認知度について，性別にみると，男女とも上位３項目は同様となっており，「地震の危険性」との回答では男性（50.2%）が女性（42.8%）を 7.4 ポイント上回っている。

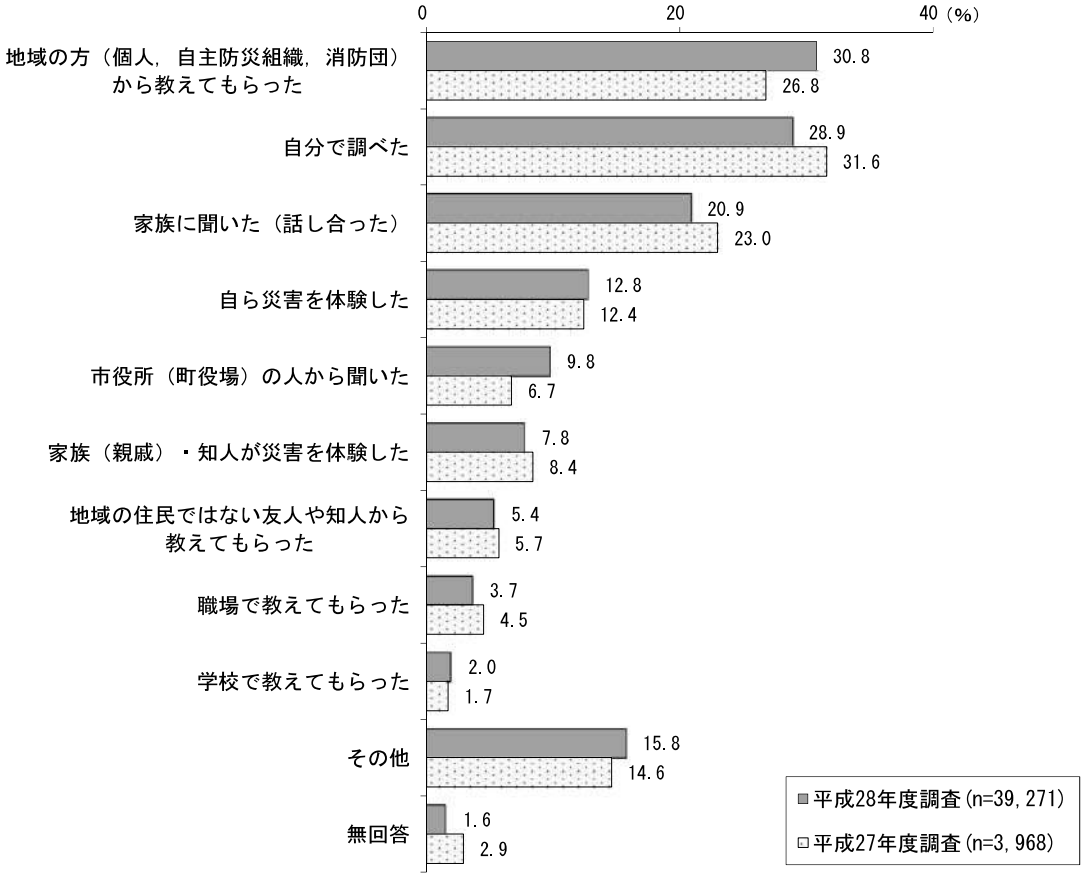
【図表　居住場所での災害の危険性の認知度（生活形態別）】

（%）

		地震の危険性	津波で浸水する危険性	川の氾濫による浸水の危険性	内水氾濫による浸水の危険性	高潮による浸水の危険性	土砂災害の危険性	災害の危険性はない	どんな危険性があるか知らない	無回答
全　体(n=52,271)		46.2	15.4	31.3	14.9	13.2	37.6	3.8	19.4	1.7
生活形態別	企業・団体勤務(n=23,691)	42.8	14.8	32.4	14.5	12.3	36.7	3.1	23.7	1.0
	自営業(n=4,538)	52.6	19.9	30.7	15.7	17.1	36.1	2.8	16.7	2.4
	農林漁業(n=1,639)	45.7	9.3	22.6	11.2	18.7	57.6	5.7	6.1	5.2
	家事や育児で在宅(n=5,629)	43.0	15.7	31.7	18.7	11.2	39.4	4.3	21.0	1.7
	学生(n=618)	52.0	8.4	34.9	16.4	9.2	26.6	0.7	22.3	1.6
	定年退職などで在宅(n=11,662)	53.3	17.2	30.0	13.4	15.3	38.4	4.3	13.5	1.9
	その他(n=3,954)	42.7	11.7	32.6	18.1	9.8	33.4	6.8	16.5	1.6

居住場所での災害の危険性の認知度について，生活形態別にみると，「地震の危険性」，「川の氾濫による浸水の危険性」，「土砂災害の危険性」との回答がすべての生活形態で上位３項目となっている。「土砂災害の危険性」との回答は農林漁業で約６割と他の生活形態に比べ高くなっている。

問９－１　問８で「１～６」と回答した人にお尋ねします。
災害の危険性は，どのようなきっかけで知りましたか。（○はいくつでも）



災害の危険性を知ったきっかけについて，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった」との回答が 30.8%と最も高く，次いで「自分で調べた」(28.9%)，「家族に聞いた（話し合った)」(20.9%）などの順となっている。

経年比較すると，すべての項目において大きな差はみられない。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・ハザードマップ（142 件）
・メディア・インターネット（118 件）
・居住環境・海抜表示・急傾斜地看板（78 件）
・市町の広報・町内放送（63 件）等

【図表　災害の危険性を知ったきっかけ（年代別）】

（%）

		自分で調べた	家族に聞いた（話し合った）	地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった	地域の住民ではない友人や知人から教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	職場で教えてもらった	学校で教えてもらった	自ら災害を体験した	家族（親戚）・知人が災害を体験した	その他	無回答
全　体	(n=39,271)	28.9	20.9	30.8	5.4	9.8	3.7	2.0	12.8	7.8	15.8	1.6
年代別	20代 (n=1,983)	22.2	44.5	12.3	5.8	3.6	3.2	10.7	5.9	8.2	15.5	0.1
	30代 (n=4,012)	39.2	29.2	18.5	3.7	4.8	6.4	2.5	5.8	4.6	17.7	0.1
	40代 (n=5,900)	35.8	22.8	28.1	4.7	6.1	5.4	4.2	9.5	5.2	18.8	0.4
	50代 (n=6,217)	29.8	20.9	33.9	3.6	10.6	4.9	2.3	13.8	9.3	15.0	0.7
	60代 (n=10,495)	25.1	15.7	35.3	5.6	11.0	3.7	0.1	15.2	8.5	15.5	2.2
	70代 (n=8,362)	28.0	16.9	35.3	7.3	13.0	1.1	0.6	15.4	8.2	13.6	2.5
	80歳以上 (n=2,124)	17.3	20.7	31.2	6.6	14.5	0.2	0.1	17.6	10.7	14.3	4.6

災害の危険性を知ったきっかけについて，年代別にみると，80歳以上を除くすべての年代で「自分で調べた」，「家族に聞いた（話し合った）」，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった」との回答が上位３項目となっている。「家族に聞いた（話し合った）」との回答は20代で４割台半ばと他の年代に比べ高くなっている。

【図表　災害の危険性を知ったきっかけ（性別）】

（%）

		自分で調べた	家族に聞いた（話し合った）	地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった	地域の住民ではない友人や知人から教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	職場で教えてもらった	学校で教えてもらった	自ら災害を体験した	家族（親戚）・知人が災害を体験した	その他	無回答
全　体	(n=39,271)	28.9	20.9	30.8	5.4	9.8	3.7	2.0	12.8	7.8	15.8	1.6
性別	男性 (n=18,690)	33.7	15.8	30.0	5.2	10.4	5.1	1.6	13.9	7.4	13.7	1.8
	女性 (n=20,546)	24.6	25.5	31.6	5.6	9.1	2.3	2.3	11.9	8.1	17.7	1.3

災害の危険性を知ったきっかけについて，性別にみると，「自分で調べた」との回答は男性（33.7%）が女性（24.6%）を9.1ポイント上回っている。一方，「家族に聞いた（話し合った）」との回答は女性（25.5%）が男性（15.8%）を9.7ポイント上回っている。

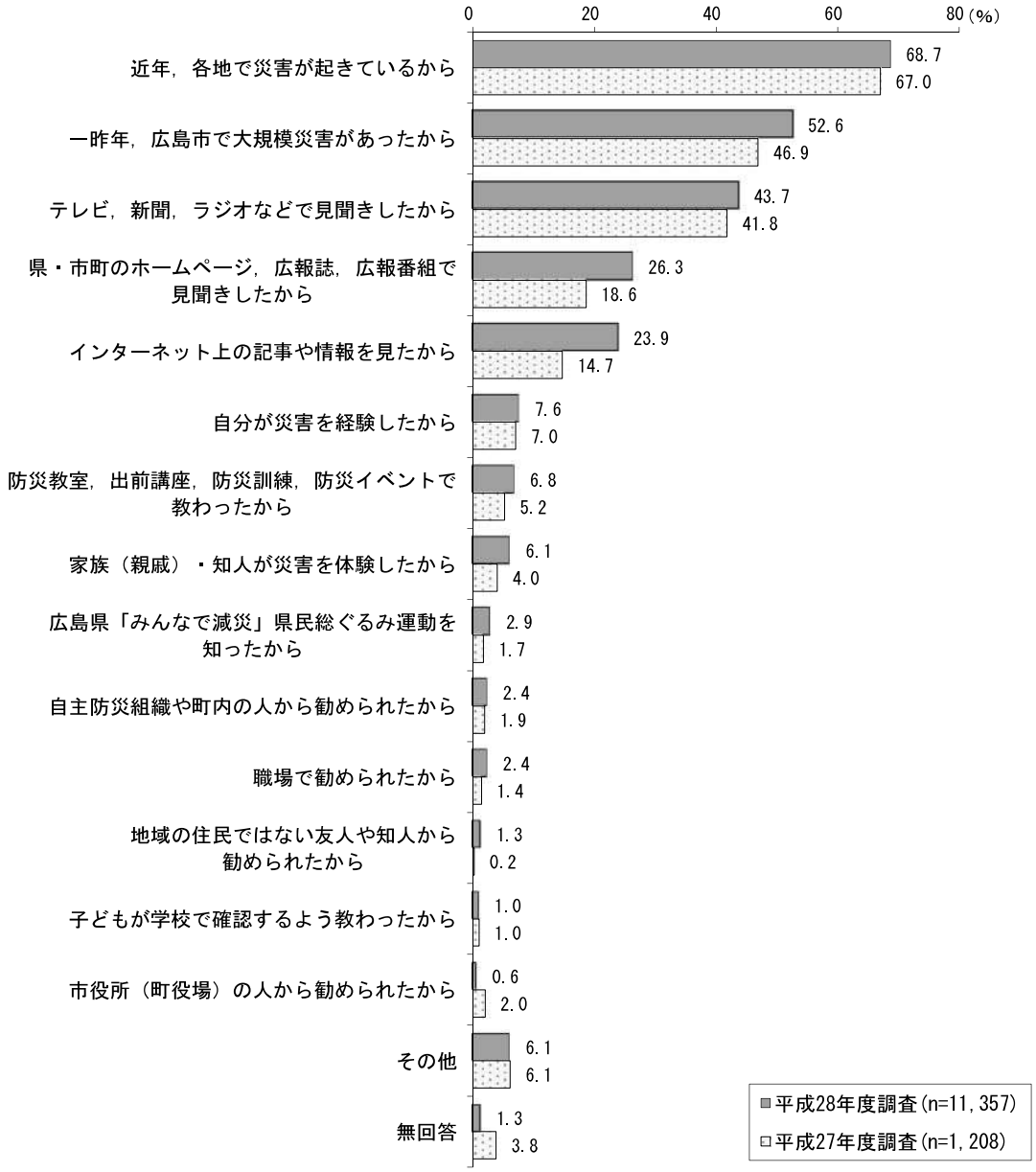
【図表　災害の危険性を知ったきっかけ（生活形態別）】

（%）

		自分で調べた	家族に聞いた（話し合った）	地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった	地域の住民ではない友人や知人から教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	職場で教えてもらった	学校で教えてもらった	自ら災害を体験した	家族（親戚）・知人が災害を体験した	その他	無回答
全　体(n=39,271)		28.9	20.9	30.8	5.4	9.8	3.7	2.0	12.8	7.8	15.8	1.6
生活形態別	企業・団体勤務(n=17,102)	31.8	21.4	28.1	4.3	7.7	7.0	1.6	9.9	6.7	16.5	1.0
	自営業(n=3,542)	32.0	20.0	35.3	5.4	7.9	1.4	3.4	13.7	9.6	16.2	2.0
	農林漁業(n=1,360)	18.1	18.3	39.3	1.6	19.9	0.1	0.6	25.0	13.4	11.4	2.8
	家事や育児で在宅(n=4,110)	29.8	29.7	32.6	4.0	9.7	0.1	5.3	7.4	8.3	14.5	0.5
	学生(n=466)	24.9	52.8	0.8	4.3	3.7	0.3	21.7	6.4	0.9	15.4	0.0
	定年退職などで在宅(n=9,359)	25.9	17.3	33.4	8.0	13.0	1.7	0.3	16.0	7.7	15.1	2.1
	その他(n=2,971)	24.3	16.3	30.1	7.4	8.9	0.4	1.0	21.4	10.5	18.5	1.4

災害の危険性を知ったきっかけについて，生活形態別にみると，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった」との回答は農林漁業で約４割と高く，学生で１割未満と低くなっている。「家族に聞いた（話し合った）」との回答は学生で５割超，「自ら災害を体験した」との回答は農林漁業で２割台半ばと高くなっている。

問９－２　問９－１で「１　自分で調べた」と回答した人にお尋ねします。
災害の危険性を知ろうと思った大きなきっかけは何ですか。数字を選んで回答欄にお書きください。（３つまで）



災害の危険性を知ろうと思ったきっかけについて，「近年，各地で災害が起きているから」との回答が 68.7%と最も高く，次いで「一昨年，広島市で大規模災害があったから」(52.6%)，「テレビ，新聞，ラジオなどで見聞きしたから」(43.7%) などの順となっている。

経年比較すると，「一昨年，広島市で大規模災害があったから」との回答は平成 28 年度調査(52.6%)が平成 27 年度調査（46.9%）を 5.7 ポイント，「県・市町のホームページ，広報誌，広報番組で見聞きしたから」との回答は平成 28 年度調査（26.3%）が平成 27 年度調査（18.6%）を 7.7 ポイント，「インターネット上の記事や情報を見たから」との回答は平成 28 年度調査（23.9%）が平成 27 年度調査（14.7%）を 9.2 ポイント上回っている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- 居住環境から（25 件）
- 仕事柄（19 件）
- 前から思っていた・興味があった（10 件）
- 過去の経験から（9 件）等

【図表　災害の危険性を知ろうと思ったきっかけ（年代別）】

（%）

		一昨年，広島市で大規模災害があったから	近年，各地で災害が起きているから	防災教室，出前講座，防災訓練から，防災イベントで教わった	子どもが学校で確認するよう教わったから	テレビ，新聞，ラジオなどで見聞きしたから	インターネット上の記事や情報を見たから	県・市町のホームページ，広報誌，広報番組で見聞きしたから	広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を知ったから	自主防災組織や町内の人から勧められたから	市役所（町役場）の人から勧められたから	自分が災害を経験したから	家族（親戚）・知人が災害を体験したから	職場で勧められたから	地域の住民ではない友人や知人から勧められたから	その他	無回答
全　体	(n=11,357)	52.6	68.7	6.8	1.0	43.7	23.9	26.3	2.9	2.4	0.6	7.6	6.1	2.4	1.3	6.1	1.3
年代別	20代 (n=441)	67.0	72.9	0.5	0.0	24.7	71.3	8.1	0.0	0.3	0.0	3.8	4.9	0.3	1.2	9.8	5.8
	30代 (n=1,573)	59.4	65.3	2.2	3.7	14.4	32.6	10.9	2.4	0.0	0.3	6.5	5.3	8.2	1.1	17.6	1.5
	40代 (n=2,110)	60.1	72.5	3.9	0.1	37.6	28.0	30.5	3.0	2.0	0.0	12.5	7.1	2.5	1.6	5.2	1.4
	50代 (n=1,851)	53.5	73.8	5.2	2.3	42.3	25.0	30.9	0.4	1.0	0.3	5.8	8.3	2.6	2.6	2.7	0.8
	60代 (n=2,636)	45.3	69.5	12.0	0.5	52.2	22.6	35.4	4.7	3.0	0.1	5.9	4.1	1.6	0.5	4.4	1.3
	70代 (n=2,342)	45.7	64.6	9.6	0.0	61.4	8.4	23.5	2.8	5.4	1.6	8.3	5.4	0.1	1.3	3.9	0.9
	80歳以上 (n=368)	49.9	49.7	3.7	0.0	55.3	10.4	20.8	9.1	2.2	3.6	6.8	12.8	0.0	0.0	0.3	0.4

災害の危険性を知ろうと思ったきっかけについて，年代別にみると，「近年，各地で災害が起きているから」との回答が 80 歳以上を除くすべての年代で第１位となっている。「インターネット上の記事や情報を見たから」との回答は 20 代で７割超と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　災害の危険性を知ろうと思ったきっかけ（性別）】

（%）

		一昨年，広島市で大規模災害があったから	近年，各地で災害が起きているから	防災教室，出前講座，防災訓練から，防災イベントで教わった	子どもが学校で確認するよう教わったから	テレビ，新聞，ラジオなどで見聞きしたから	インターネット上の記事や情報を見たから	県・市町のホームページ，広報誌，広報番組で見聞きしたから	広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を知ったから	自主防災組織や町内の人から勧められたから	市役所（町役場）の人から勧められたから	自分が災害を経験したから	家族（親戚）・知人が災害を体験したから	職場で勧められたから	地域の住民ではない友人や知人から勧められたから	その他	無回答
全　体	(n=11,357)	52.6	68.7	6.8	1.0	43.7	23.9	26.3	2.9	2.4	0.6	7.6	6.1	2.4	1.3	6.1	1.3
性別	男性 (n=6,307)	46.9	68.7	7.3	0.1	41.4	27.2	25.9	3.2	4.0	0.8	8.5	5.1	2.7	1.2	8.1	1.3
	女性 (n=5,046)	59.6	68.7	6.2	2.2	46.6	19.7	26.7	2.6	0.5	0.3	6.6	7.3	2.1	1.5	3.6	1.3

災害の危険性を知ろうと思ったきっかけについて，性別にみると，男女とも上位３項目は同様となっている。「一昨年，広島市で大規模災害があったから」との回答は女性（59.6%）が男性（46.9%）を 12.7 ポイント，「テレビ，新聞，ラジオなどで見聞きしたから」との回答は女性（46.6%）が男性（41.4%）を 5.2 ポイント上回っている。一方，「インターネット上の記事や情報を見たから」との回答は男性（27.2%）が女性（19.7%）を 7.5 ポイント上回っている。

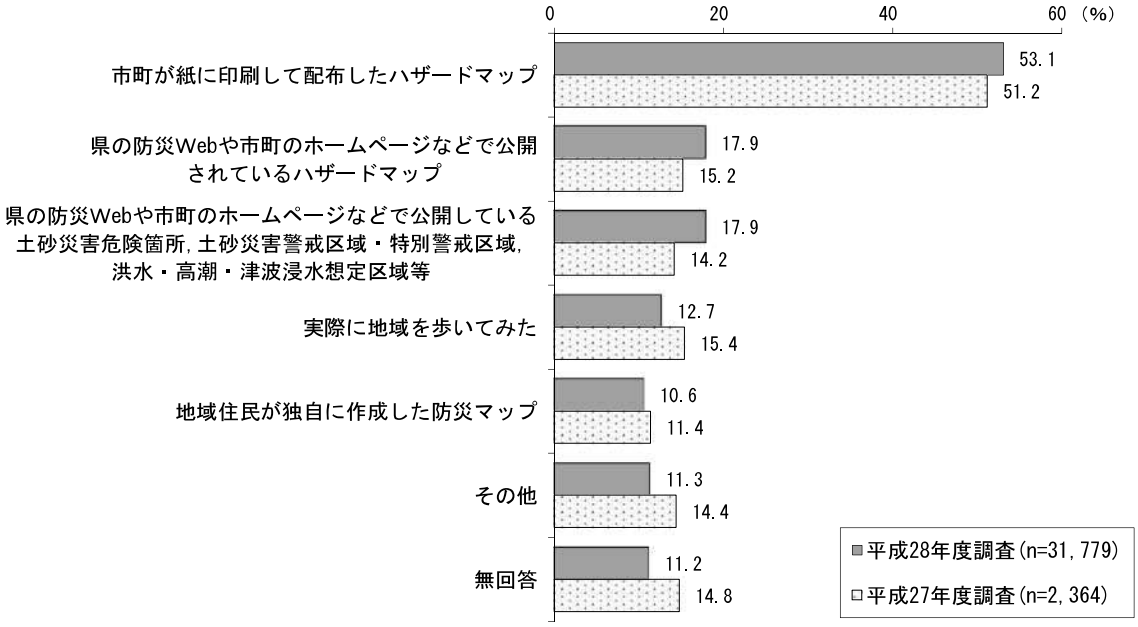
【図表　災害の危険性を知ろうと思ったきっかけ（生活形態別）】

（%）

		一昨年，広島市で大規模災害があったから	近年，各地で災害が起きているから	防災教室，出前講座，防災訓練，防災イベントで教わったから	子どもが学校で確認するよう教わったから	テレビ，新聞，ラジオなどで見聞きしたから	インターネット上の記事や情報を見たから	県・市町のホームページ，広報誌，広報番組で見聞きしたから	広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を知ったから	自主防災組織や町内の人から勧められたから	市役所（町役場）の人から勧められたから	自分が災害を経験したから	家族（親戚），知人が災害を体験したから	職場で勧められたから	地域の住民ではない友人や知人から勧められたから	その他	無回答
全体(n=11,357)		52.6	68.7	6.8	1.0	43.7	23.9	26.3	2.9	2.4	0.6	7.6	6.1	2.4	1.3	6.1	1.3
生活形態別	企業・団体勤務(n=5,436)	51.5	71.1	4.6	0.5	33.1	31.6	28.7	4.0	1.9	0.2	6.9	5.5	3.2	1.8	7.3	1.6
	自営業(n=1,134)	45.9	62.9	8.6	2.6	51.2	21.1	17.8	4.9	7.0	0.0	7.2	5.3	3.9	0.4	8.1	2.1
	農林漁業(n=246)	69.7	63.9	12.0	0.6	61.9	16.4	25.1	1.2	4.4	1.1	9.8	1.6	0.0	0.6	5.8	0.5
	家事や育児で在宅(n=1,224)	63.8	67.6	4.3	3.8	49.0	18.5	28.6	0.4	0.0	0.0	6.5	8.5	4.6	1.5	2.5	0.0
	学生(n=116)	100.0	62.3	0.0	0.0	11.1	59.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.0	0.0
	定年退職などで在宅(n=2,420)	47.0	64.8	8.3	0.5	60.5	12.7	26.7	1.9	3.5	1.4	8.1	8.0	0.1	0.9	4.4	1.5
	その他(n=721)	57.9	76.1	15.9	0.0	45.5	15.4	22.5	0.7	0.0	1.9	15.1	4.3	0.0	0.3	2.8	0.2

災害の危険性を知ろうと思ったきっかけについて，生活形態別にみると，「近年，各地で災害が起きているから」との回答が農林漁業，学生を除く生活形態で第１位と高く，企業・団体勤務では７割を超え高くなっている。「一昨年，広島市で大規模災害があったから」との回答は学生で 10 割，「インターネット上の記事や情報を見たから」との回答は学生で約６割と他の生活形態に比べ高くなっている。

問９－３　問９－１で「２～10」と回答した人にお尋ねします。
災害の危険性を確認した方法をお答えください。（○はいくつでも）



災害の危険性の確認方法について，「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」との回答が53.1%と最も高く，次いで「県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ」（17.9%），「県の防災Web や市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等」（17.9%）などの順となっている。

経年比較すると，すべての項目において大きな差はみられない。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- 過去の経験から（114 件）
- メディア・インターネット・本（58 件）
- 周囲から聞いた（51 件）
- 居住環境・急傾斜地看板（47 件）等

【図表　災害の危険性の確認方法（年代別）】

（%）

		県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ	市町が紙に印刷して配布したハザードマップ	県の防災Webや市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等	地域住民が独自に作成した防災マップ	実際に地域を歩いてみた	その他	無回答
全　体(n=31,779)		17.9	53.1	17.9	10.6	12.7	11.3	11.2
年代別	20代(n=1,767)	23.0	32.2	21.0	7.8	18.2	17.1	6.5
	30代(n=2,948)	24.7	44.0	18.8	5.9	9.3	17.0	6.7
	40代(n=4,546)	19.5	55.9	19.5	12.6	15.5	11.2	8.6
	50代(n=5,044)	20.4	58.5	17.9	10.0	12.2	11.4	7.1
	60代(n=8,712)	18.0	58.8	18.5	11.3	12.0	9.4	11.7
	70代(n=6,850)	12.4	51.4	15.8	12.9	12.7	9.0	14.1
	80歳以上(n=1,779)	12.3	46.9	15.5	5.3	10.3	14.3	26.5

災害の危険性の確認方法について，年代別にみると，「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」との回答がすべての年代で第１位となっており，50 代，60 代で約６割と高くなっている。「県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ」との回答は 20 代，30 代で２割台半ばと他の年代に比べ高くなっている。

【図表　災害の危険性の確認方法（性別）】

（%）

		県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ	市町が紙に印刷して配布したハザードマップ	県の防災Webや市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等	地域住民が独自に作成した防災マップ	実際に地域を歩いてみた	その他	無回答
全　体(n=31,779)		17.9	53.1	17.9	10.6	12.7	11.3	11.2
性別	男性(n=14,173)	21.2	50.8	21.0	11.1	16.4	10.8	10.4
	女性(n=17,574)	15.3	55.1	15.5	10.1	9.7	11.7	11.8

災害の危険性の確認方法について，性別にみると，男女ともに「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」との回答が第１位となっている。「県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ」との回答は男性（21.2%）が女性（15.3%）を 5.9 ポイント，「県の防災Web や市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等」との回答は男性（21.0%）が女性（15.5%）を 5.5 ポイント，「実際に地域を歩いてみた」との回答は男性（16.4%）が女性（9.7%）を 6.7 ポイント上回っている。

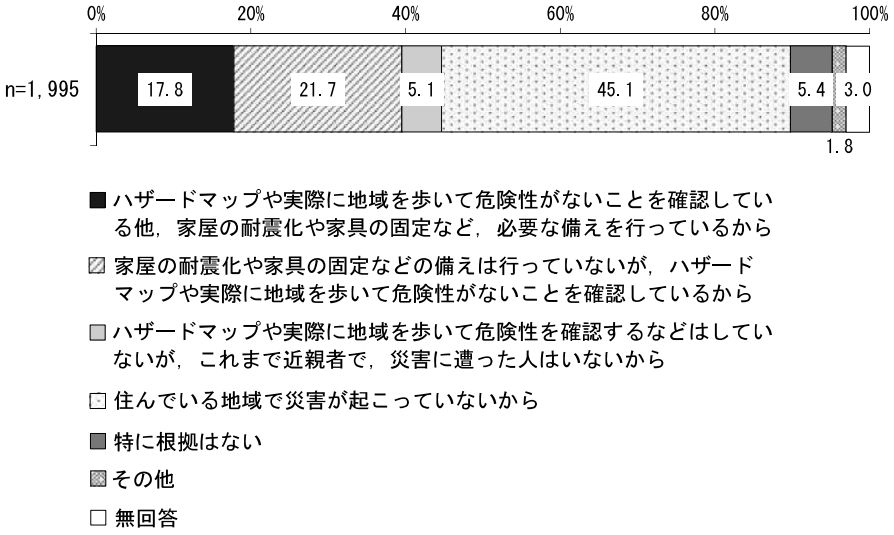
【図表　災害の危険性の確認方法（生活形態別）】

（%）

		県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ	市町が紙に印刷して配布したハザードマップ	県の防災Webや市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等	地域住民が独自に作成した防災マップ	実際に地域を歩いてみた	その他	無回答
全　体(n=31,779)		17.9	53.1	17.9	10.6	12.7	11.3	11.2
生活形態別	企業・団体勤務(n=13,399)	22.9	53.6	18.3	10.6	12.3	12.0	7.8
	自営業(n=2,738)	13.1	55.9	20.7	7.1	14.3	9.9	14.6
	農林漁業(n=1,156)	12.3	56.1	16.2	10.8	20.5	10.6	8.5
	家事や育児で在宅(n=3,412)	16.7	63.5	19.5	9.8	8.1	7.1	8.7
	学生(n=428)	30.5	38.1	42.1	6.8	11.3	6.8	0.0
	定年退職などで在宅(n=7,833)	13.6	48.3	16.0	12.6	13.2	10.9	16.7
	その他(n=2,548)	11.6	50.8	13.0	10.0	14.2	18.0	13.5

災害の危険性の確認方法について，生活形態別にみると，「市町が紙に印刷したハザードマップ」との回答が学生を除くすべての生活形態で第１位となっており，家事や育児で在宅で６割台半ばと高くなっている。「県の防災Web や市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等」との回答は学生で４割超と他の生活形態に比べ高くなっている。

問 10　問８で「７　災害の危険性はない」と回答した人にお尋ねします。
災害の危険性はないとされた理由は何ですか。（○は１つ）

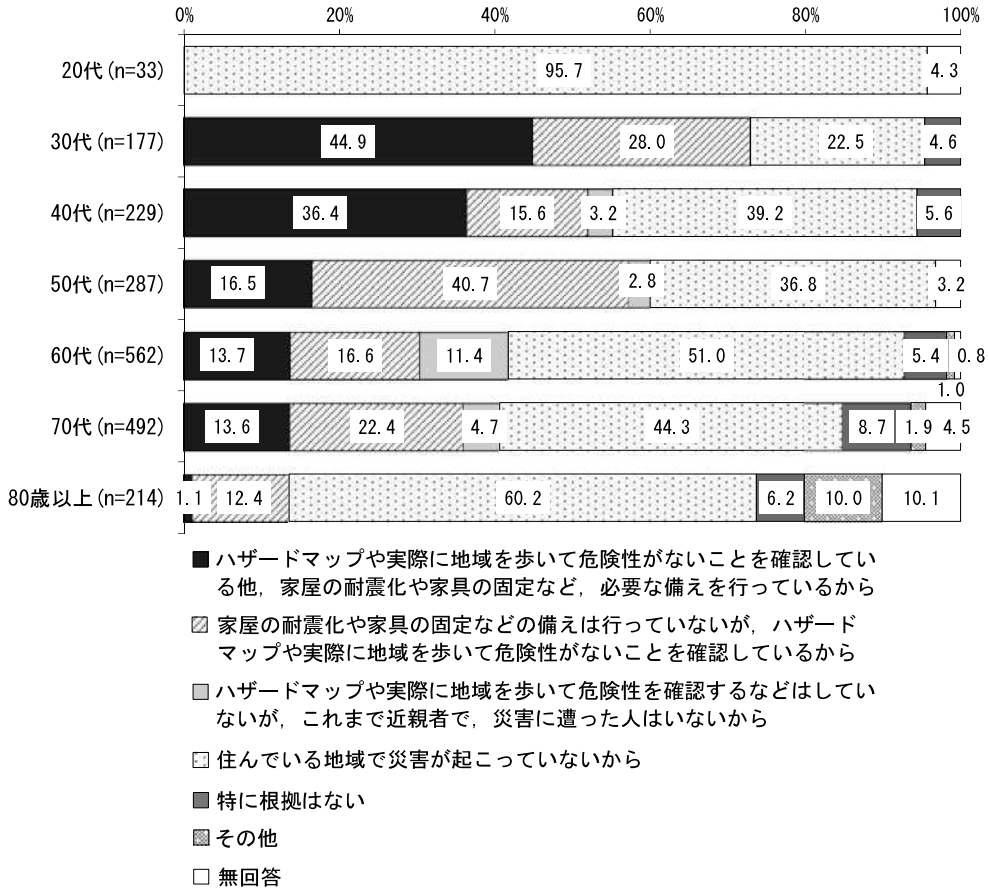


災害の危険性はないとした理由について，「住んでいる地域で災害が起こっていないから」との回答が 45.1%と最も高く，次いで「家屋の耐震化や家具の固定などの備えは行っていないが，ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認しているから」(21.7%)，「ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認している他，家屋の耐震化や家具の固定など，必要な備えを行っているから」(17.8%) などの順となっている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

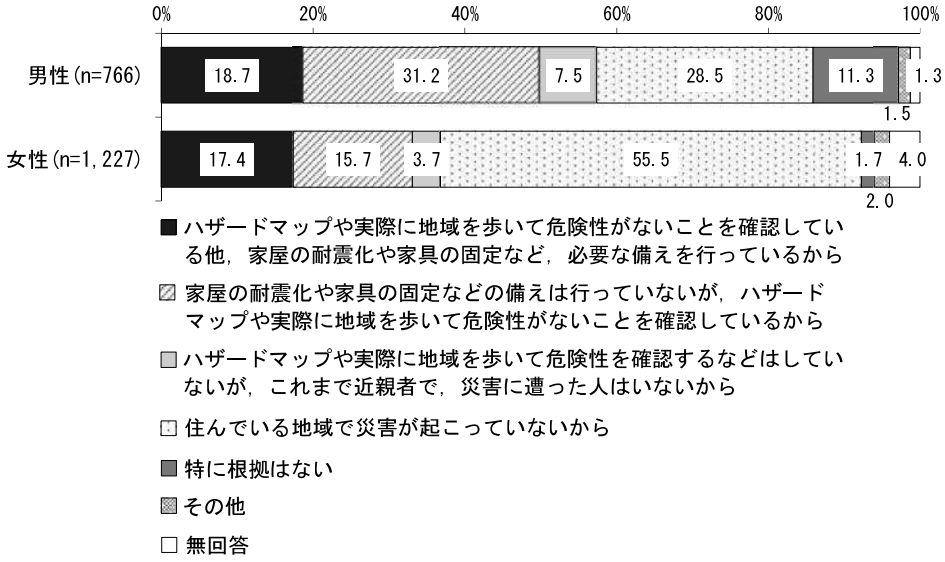
・居住環境から（4 件）
・過去の経験から（4 件）等

【図表　災害の危険性はないとした理由（年代別）】



災害の危険性はないとした理由について，年代別にみると，「ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認している他，家屋の耐震化や家具の固定など，必要な備えを行っているから」との回答は30代で４割台半ば，「家屋の耐震化や家具の固定などの備えは行っていないが，ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認しているから」との回答は50代で約４割，「住んでいる地域で災害が起こっていないから」との回答は20代で９割台半ばと高くなっている。

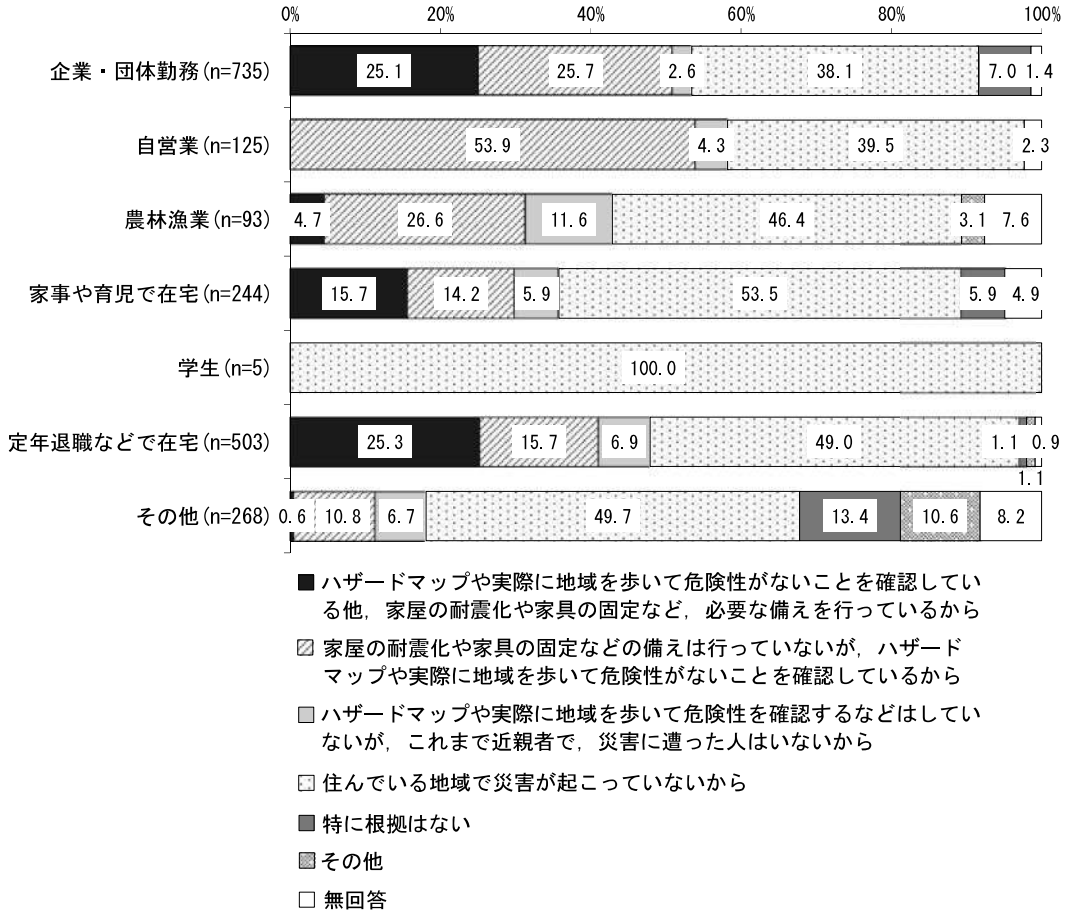
【図表　災害の危険性はないとした理由（性別）】



災害の危険性はないとした理由について，性別にみると，「家屋の耐震化や家具の固定などの備

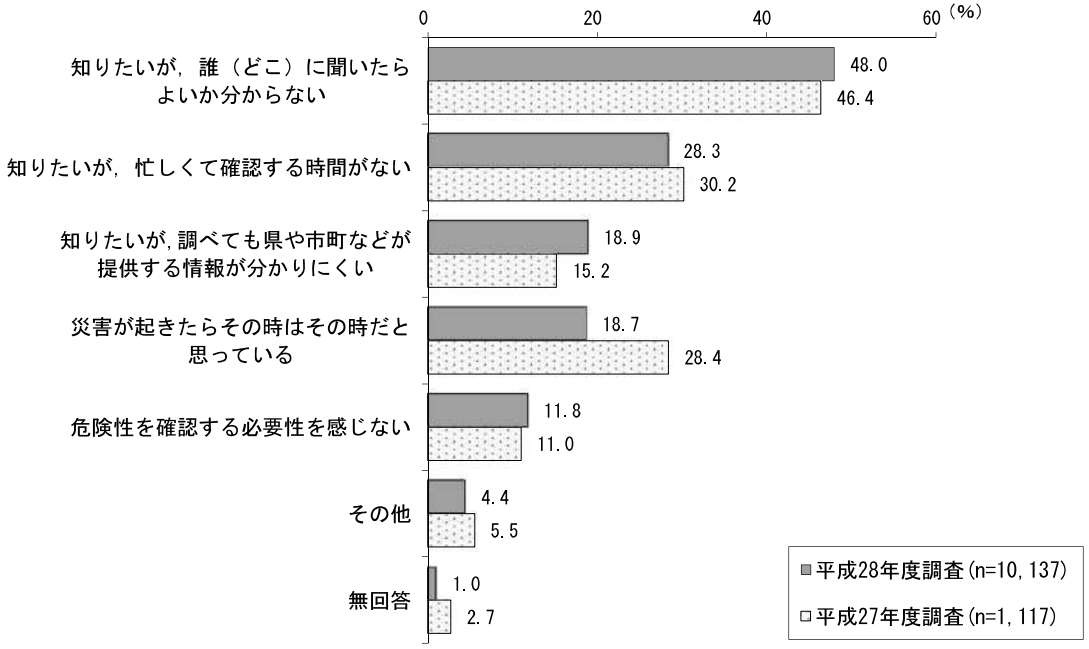
えは行っていないが，ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認しているから」との回答は男性（31.2%）が女性（15.7%）を 15.5 ポイント，「特に根拠はない」との回答は男性（11.3%）が女性（1.7%）を 9.6 ポイント上回っている。一方，「住んでいる地域で災害が起こっていないから」との回答は女性（55.5%）が男性（28.5%）を 27.0 ポイント上回っている。

【図表　災害の危険性はないとした理由（生活形態別）】



災害の危険性はないとした理由について，生活形態別にみると，「家屋の耐震化や家具の固定などの備えはおこなっていないが，ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がない事を確認しているから」との回答は自営業で５割台半ば，「住んでいる地域で災害が起こっていないから」との回答は家事や育児で在宅で５割台半ばと高くなっている。

問11　問８で「８　どんな危険性があるか知らない」と回答した人にお尋ねします。
危険性を知らない理由をお答えください。（〇はいくつでも）



災害の危険性を知らない理由について，「知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない」との回答が 48.0%と最も高く，次いで「知りたいが，忙しくて確認する時間がない」(28.3%)，「知りたいが，調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」(18.9%)，「災害が起きたらその時はその時だと思っている」(18.7%) などの順となっている。

経年比較すると，「災害が起きたらその時はその時だと思っている」との回答は平成 28 年度調査（18.7%）が平成 27 年度調査（28.4%）を 9.7 ポイント下回っている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・関心がない・意識が低い（11 件）
・自己判断（9 件）
・知っても対策・対応出来ないから（8 件）
・情報はあるが，よくわからない（5 件）等

【図表　災害の危険性を知らない理由（年代別）】

（%）

		知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない	知りたいが，忙しくて確認する時間がない	知りたいが，調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい	危険性を確認する必要性を感じない	災害が起きたらその時はその時だと思っている	その他	無回答
全　体(n=10,137)		48.0	28.3	18.9	11.8	18.7	4.4	1.0
年代別	20代(n=1,222)	48.0	33.5	13.1	7.9	25.4	4.6	0.0
	30代(n=1,679)	48.0	35.5	20.9	10.6	17.2	7.7	0.0
	40代(n=2,316)	43.2	39.3	16.5	14.8	17.4	3.8	0.0
	50代(n=1,516)	46.0	37.0	14.0	10.7	15.6	4.8	0.0
	60代(n=1,765)	55.0	17.6	25.9	10.4	14.1	4.3	1.0
	70代(n=1,272)	52.9	4.2	22.8	13.2	27.3	1.1	4.1
	80歳以上(n=344)	36.4	4.4	17.5	19.2	17.3	3.0	9.1

災害の危険性を知らない理由について，年代別にみると，「知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない」との回答はすべての年代において第１位となっており，60 代，70 代では５割を超え高くなっている。「知りたいが，忙しくて確認する時間がない」との回答で 20 代～50 代で３割台，「知りたいが，調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」との回答は 60 代で２割台半ば，「災害が起きたらその時はその時だと思っている」との回答は 70 代で約３割と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　災害の危険性を知らない理由（性別）】

（%）

		知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない	知りたいが，忙しくて確認する時間がない	知りたいが，調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい	危険性を確認する必要性を感じない	災害が起きたらその時はその時だと思っている	その他	無回答
全　体(n=10,137)		48.0	28.3	18.9	11.8	18.7	4.4	1.0
性別	男性(n=4,131)	44.5	23.3	19.8	16.3	22.4	3.6	0.8
	女性(n=5,999)	50.4	31.8	18.2	8.7	16.2	5.0	1.1

災害の危険性を知らない理由について，性別にみると，男女ともに上位２項目は同様となっており，「知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない」との回答は女性（50.4%）が男性（44.5%）を 5.9 ポイント，「知りたいが，忙しくて確認する時間がない」との回答は女性（31.8%）が男性（23.3%）を 8.5 ポイント上回っている。一方，「危険性を確認する必要性を感じない」との回答は男性（16.3%）が女性（8.7%）を 7.6 ポイント，「災害が起きたらその時はその時だと思っている」との回答は男性（22.4%）が女性（16.2%）を 6.2 ポイント上回っている。

【図表　災害の危険性を知らない理由（生活形態別）】

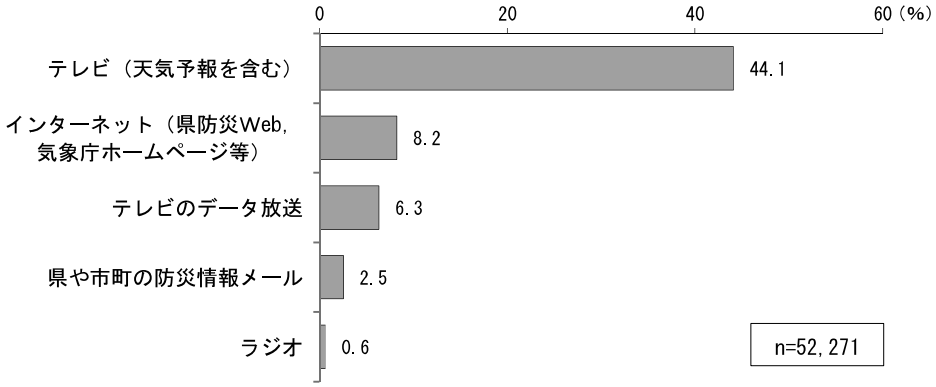
（%）

		知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない	知りたいが，忙しくて確認する時間がない	知りたいが，調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい	危険性を確認する必要性を感じない	災害が起きたらその時はその時だと思っている	その他	無回答
全　体(n=10,137)		48.0	28.3	18.9	11.8	18.7	4.4	1.0
生活形態別	企業・団体勤務(n=5,622)	45.0	39.6	17.8	12.1	18.8	2.7	0.2
	自営業(n=760)	45.3	27.8	25.8	10.5	18.1	3.1	0.9
	農林漁業(n=100)	67.0	11.0	8.1	17.2	19.4	2.9	2.3
	家事や育児で在宅(n=1,181)	53.6	17.5	16.3	11.8	17.4	9.1	0.1
	学生(n=138)	41.7	53.8	1.1	3.3	22.4	1.0	0.0
	定年退職などで在宅(n=1,577)	57.6	2.1	24.5	13.8	21.7	1.6	2.2
	その他(n=653)	40.4	16.7	13.5	8.4	15.6	20.3	2.7

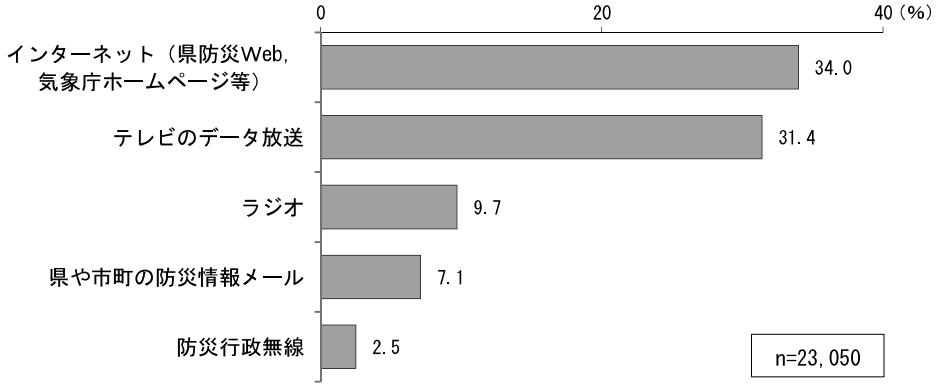
災害の危険性を知らない理由について，生活形態別にみると，「知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない」との回答は学生を除くすべての生活形態で第１位となっており，農林漁業では約７割と高くなっている。「知りたいが，忙しくて確認する時間がない」との回答は学生で５割台半ば，「知りたいが，調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」との回答は自営業，定年退職などで在宅で２割台半ばと他の生活形態に比べ高くなっている。

問 12　台風の接近により，甚大な被害をもたらす可能性や，大雨により，河川の氾濫や土砂災害の危険性のある場合，次の情報を，どこから入手しますか。下記１～13 の中から，当てはまる数字をお選びください。（それぞれ３つまで）

（１）雨量や水位，風速に関する情報



「テレビ（天気予報を含む）」を選んだ人が次に選ぶ項目



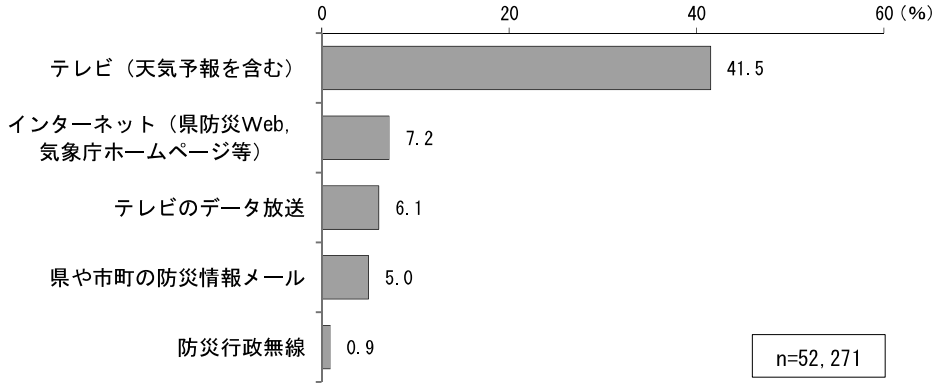
雨量や水位，風速に関する情報で第１位に選んだ入手方法は，「テレビ（天気予報を含む）」との回答が 44.1%と最も高く，次いで「インターネット（県防災Ｗｅｂ，気象庁ホームページ等）」(8.2%)，「テレビのデータ放送」(6.3%) などの順となっている。

そのうち，「テレビ（天気予報を含む）」を選んだ人が次に選ぶ項目は「インターネット（県防災Ｗｅｂ，気象庁ホームページ等）」との回答が 34.0%と最も高く，次いで「テレビのデータ放送」(31.4%)，「ラジオ」(9.7%) などの順となっている。

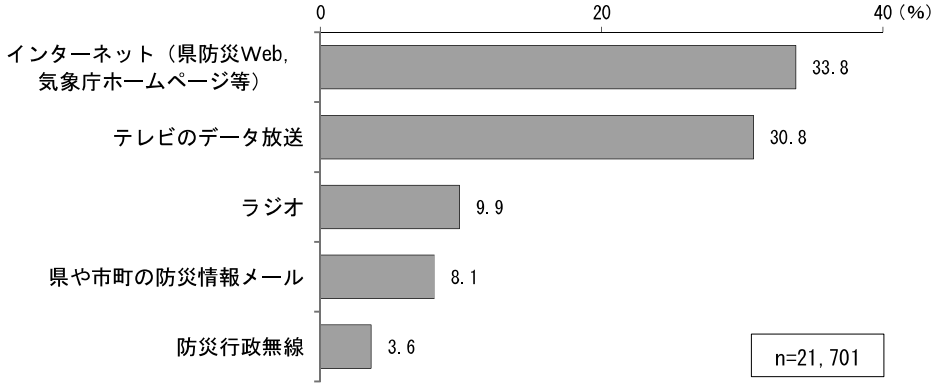
その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・携帯電話・メール・スマートフォンのアプリ（36 件）
・市内放送・警察消防の拡声器放送・有線放送（28 件）
・メディア（13 件）
・わからない（11 件）等

（２）注意報，警報，土砂災害警戒情報



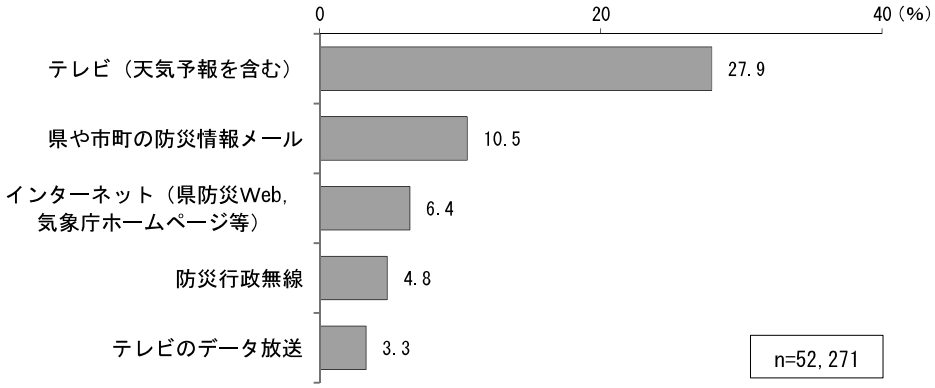
「テレビ（天気予報を含む）」を選んだ人が次に選ぶ項目



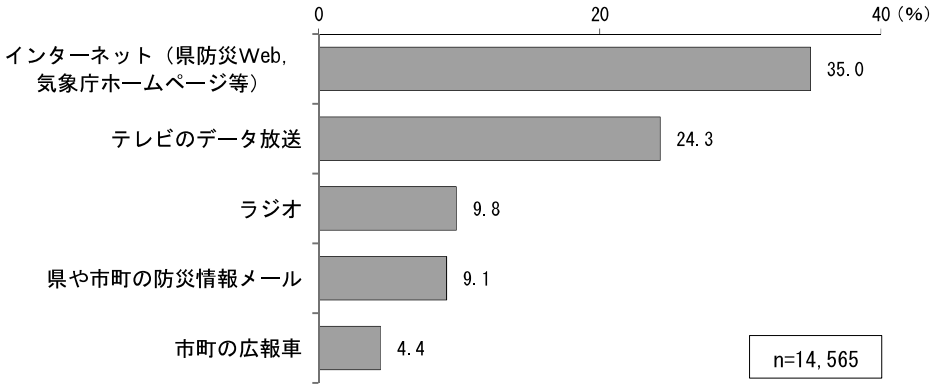
注意報，警報，土砂災害警戒情報で第１位に選んだ入手方法は，「テレビ（天気予報を含む）」との回答が 41.5％と最も高く，次いで「インターネット（県防災Ｗｅｂ，気象庁ホームページ等）」（7.2％），「テレビのデータ放送」（6.1％）などの順となっている。

そのうち，「テレビ（天気予報を含む）」を選んだ人が次に選ぶ項目は「インターネット（県防災Ｗｅｂ，気象庁ホームページ等）」との回答が 33.8％と最も高く，次いで「テレビのデータ放送」（30.8％），「ラジオ」（9.9％）などの順となっている。

（３）避難に関する情報



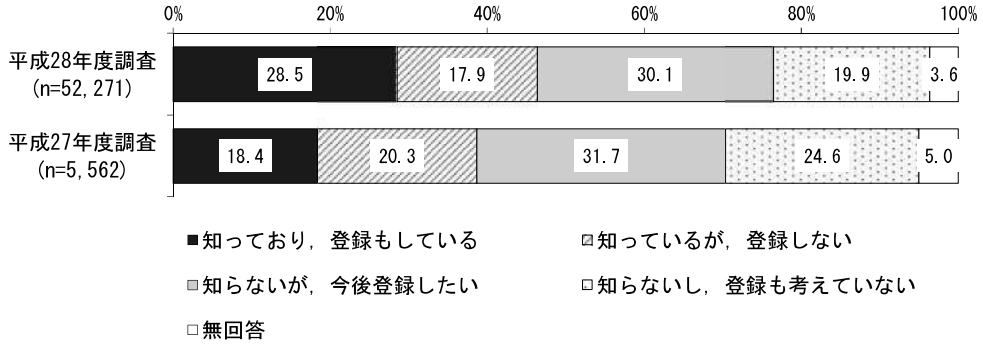
「テレビ（天気予報を含む）」を選んだ人が次に選ぶ項目



避難に関する情報で第１位に選んだ入手方法は，「テレビ（天気予報を含む）」との回答が 27.9％と最も高く，次いで「県や市町の防災情報メール」（10.5％），「インターネット（県防災Ｗｅｂ，気象庁ホームページ等）」（6.4％）などの順となっている。

そのうち，「テレビ（天気予報を含む）」を選んだ人が次に選ぶ項目は「インターネット（県防災Ｗｅｂ，気象庁ホームページ等）」との回答が 35.0％と最も高く，次いで「テレビのデータ放送」（24.3％），「ラジオ」（9.8％）などの順となっている。

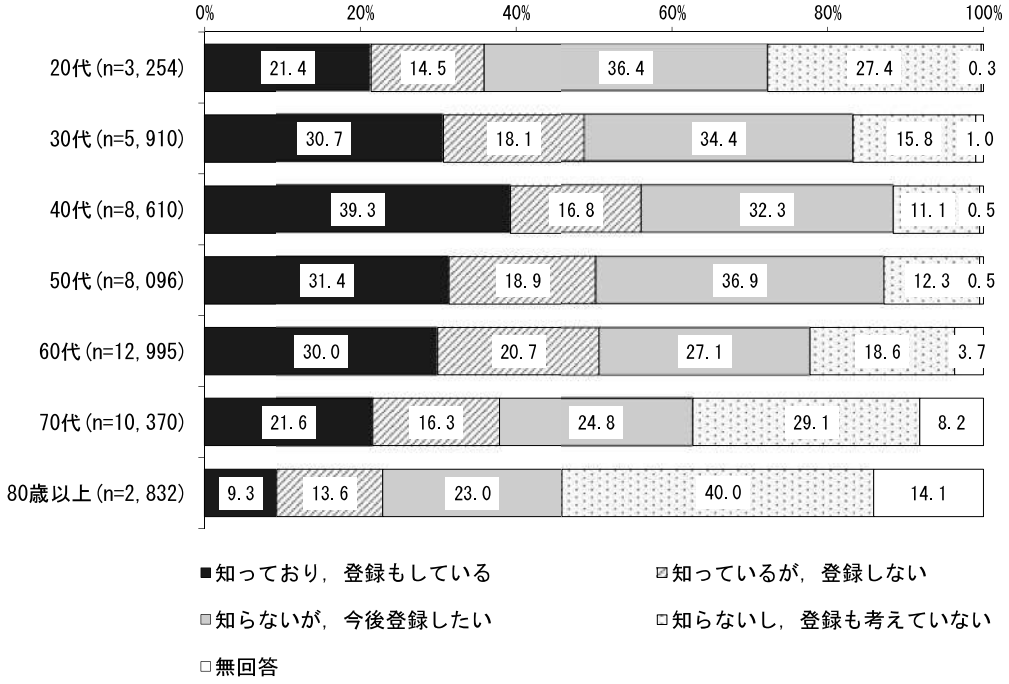
問 13　県及び市町では，登録者に防災情報メールをお送りしています。このことを，ご存じですか。（○は１つ）



防災情報メールの認知度について，「知らないが，今後登録したい」との回答が 30.1％と最も高く，次いで「知っており，登録もしている」(28.5％)，「知らないし，登録も考えていない」(19.9％)などの順となっている。

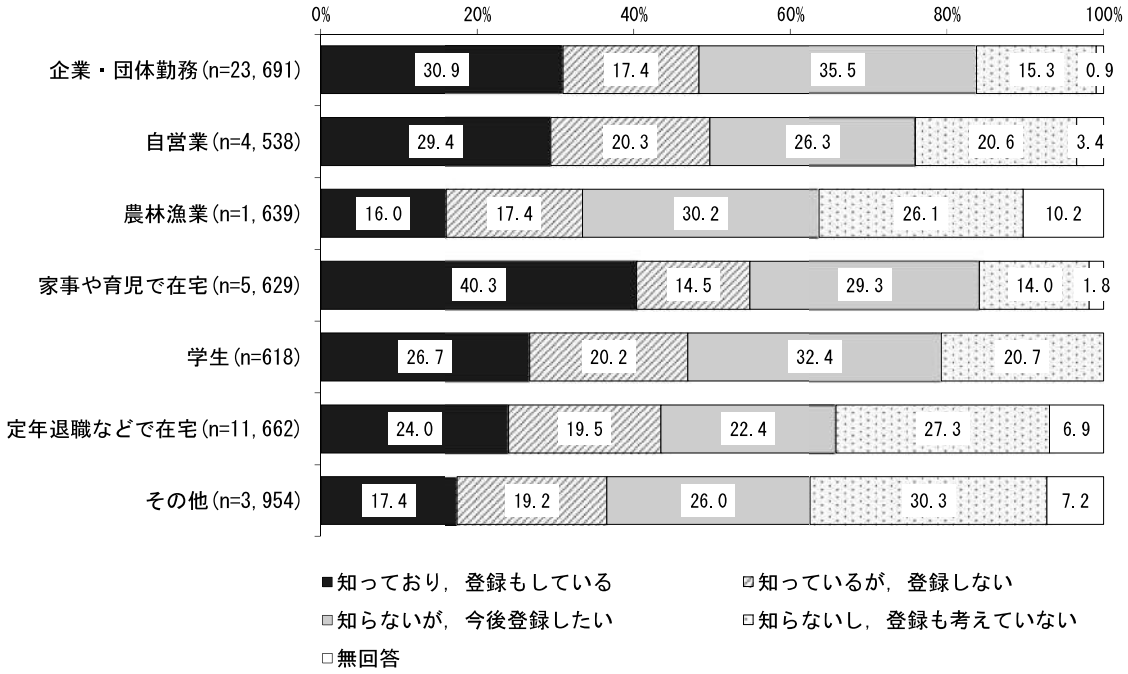
経年比較すると，「知っており，登録もしている」との回答は平成 28 年度調査（28.5％）が平成 27 年度調査（18.4％）を 10.1 ポイント上回っている。

【図表　防災情報メールの認知度（年代別）】



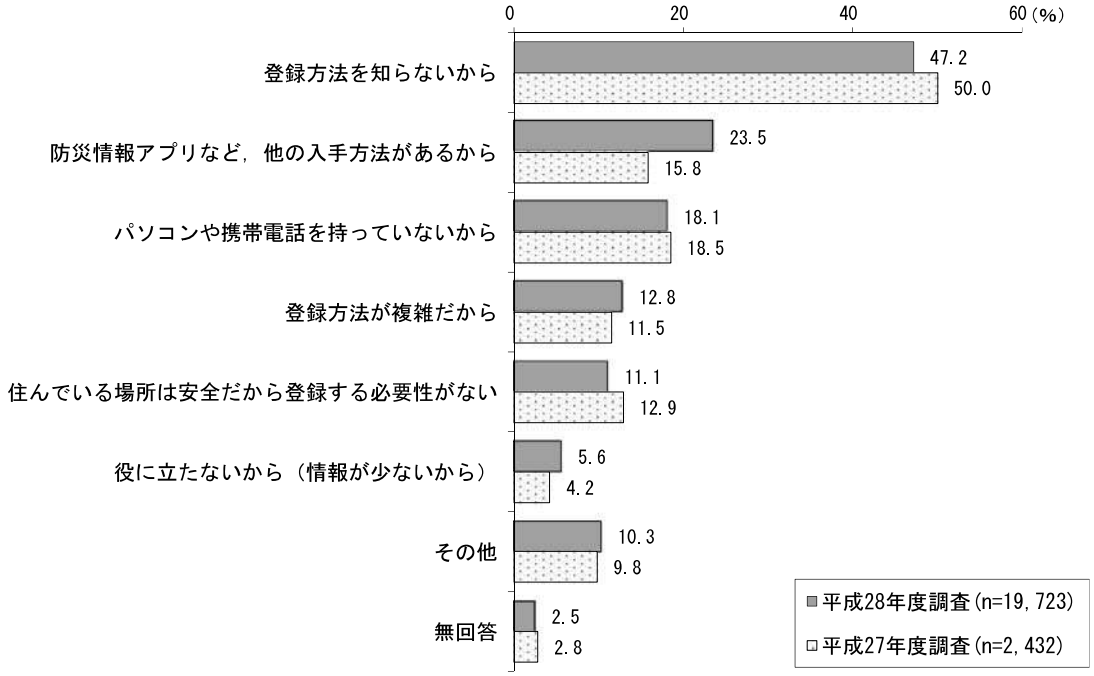
防災情報メールの認知度について，年代別にみると，「知っており，登録もしている」との回答は 40 代で約４割，「知らないが，今後登録したい」との回答は 20 代，30 代，50 代で３割台半ば，「知らないし，今後も考えていない」との回答は 80 歳以上で４割と高くなっている。

【図表　防災情報メールの認知度（生活形態別）】



防災情報メールの認知度について，生活形態別にみると，「知っており，登録もしている」との回答は家事や育児で在宅で約４割，「知らないが，今後登録したい」との回答は企業・団体勤務で３割台半ば，「知らないし，登録も考えていない」との回答は定年退職などで在宅で約３割と高くなっている。

問 14　問 13 で「２　知っているが，登録しない」，「４　知らないし，登録も考えていない」と回答した人にお尋ねします。その理由は何ですか。（○は３つまで）



防災情報メールを登録しない理由について，「登録方法を知らないから」との回答が 47.2%と最も高く，次いで「防災情報アプリなど，他の入手方法があるから」(23.5%)，「パソコンや携帯電話を持っていないから」(18.1%) などの順となっている。

経年比較すると，「防災情報アプリなど，他の入手方法があるから」との回答は平成 28 年度調査（23.5%）が平成 27 年度調査（15.8%）を 7.7 ポイント上回っている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・他の情報源がある（43 件）
・病気・高齢・インターネット接続がない為できない（40 件）
・家族が登録している（36 件）
・自己判断（20 件）等

【図表　防災情報メールを登録しない理由（年代別）】

（%）

		登録方法を知らないから	登録方法が複雑だから	防災情報アプリなど，他の入手方法があるから	住んでいる場所は安全だから登録する必要性がない	パソコンや携帯電話を持っていないから	役に立たないから（情報が少ないから）	その他	無回答
全　体	(n=19,723)	47.2	12.8	23.5	11.1	18.1	5.6	10.3	2.5
年代別	20代 (n=1,363)	40.7	9.8	44.6	9.5	0.3	10.7	10.5	2.2
	30代 (n=2,003)	35.7	14.0	45.6	8.8	4.6	5.3	11.3	1.2
	40代 (n=2,405)	33.8	11.6	33.7	6.8	9.3	6.8	17.4	0.5
	50代 (n=2,529)	46.5	16.7	27.0	5.2	11.3	3.1	11.5	2.2
	60代 (n=5,105)	51.9	14.8	18.5	11.8	21.3	5.1	7.9	2.4
	70代 (n=4,706)	54.2	10.0	11.9	14.8	28.7	5.8	7.9	3.4
	80歳以上 (n=1,517)	52.2	12.2	7.5	18.1	32.8	4.4	10.3	6.2

防災情報メールを登録しない理由について，年代別にみると，「登録方法を知らないから」との回答が 20 代，30 代を除く年代で第１位となっており，60 代～80 歳以上では５割台と高くなっている。「防災情報アプリなどほかの入手方法があるから」との回答は 20 代，30 代で４割台半ば，「パソコンや携帯電話を持っていないから」との回答は 70 代，80 歳以上で３割前後と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　防災情報メールを登録しない理由（性別）】

（%）

		登録方法を知らないから	登録方法が複雑だから	防災情報アプリなど，他の入手方法があるから	住んでいる場所は安全だから登録する必要性がない	パソコンや携帯電話を持っていないから	役に立たないから（情報が少ないから）	その他	無回答
全　体	(n=19,723)	47.2	12.8	23.5	11.1	18.1	5.6	10.3	2.5
性別	男性 (n=9,461)	48.0	13.2	23.2	12.1	17.1	7.9	8.0	2.5
	女性 (n=10,241)	46.5	12.4	23.8	10.1	19.0	3.4	12.4	2.6

防災情報メールを登録しない理由について，性別にみると，男女とも上位３項目は同様となっており，すべての項目において大きな差はみられない。

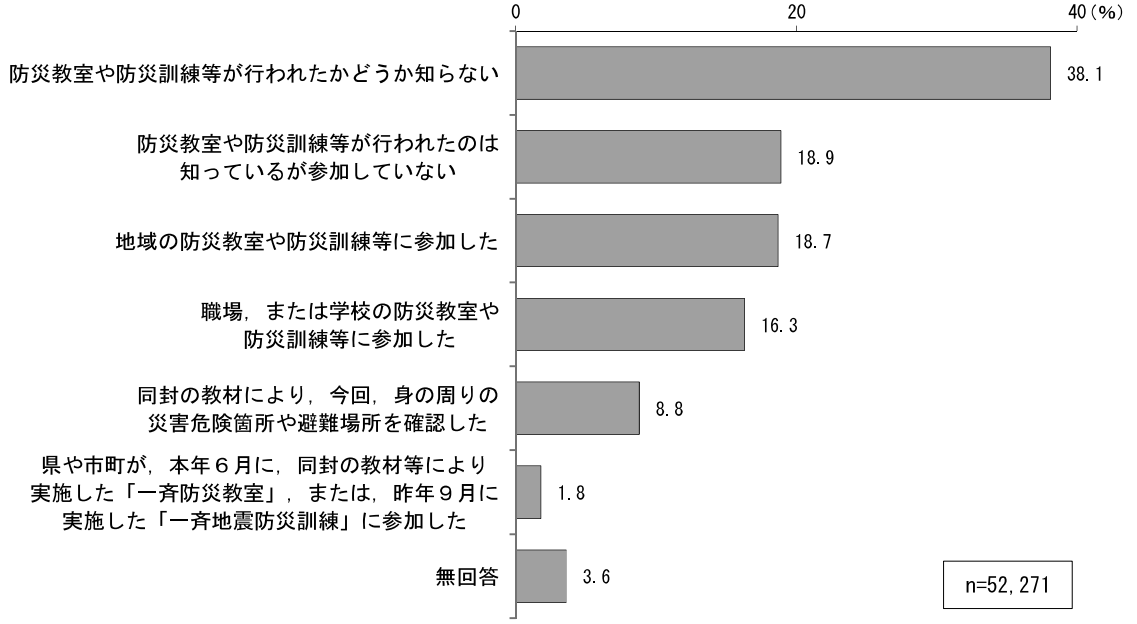
【図表　防災情報メールを登録しない理由（生活形態別）】

（%）

		登録方法を知らないから	登録方法が複雑だから	防災情報アプリなど，他の入手方法があるから	住んでいる場所は安全だから登録する必要性がない	パソコンや携帯電話を持っていないから	役に立たないから（情報が少ないから）	その他	無回答
全　体(n=19,723)		47.2	12.8	23.5	11.1	18.1	5.6	10.3	2.5
生活形態別	企業・団体勤務(n=7,734)	42.0	11.9	34.9	8.2	8.5	4.0	12.7	2.2
	自営業(n=1,858)	45.4	20.9	22.0	9.7	16.0	5.9	5.3	2.2
	農林漁業(n=713)	45.9	9.9	12.8	12.3	21.0	9.6	10.3	4.6
	家事や育児で在宅(n=1,606)	45.8	15.4	27.1	7.8	17.1	6.7	10.8	0.5
	学生(n=253)	35.2	17.2	63.5	9.7	0.0	1.6	0.0	0.0
	定年退職などで在宅(n=5,448)	56.0	12.0	12.1	15.6	29.6	7.4	8.0	2.7
	その他(n=1,957)	48.6	10.0	6.9	14.2	28.5	3.4	12.6	3.8

防災情報メールを登録しない理由について，生活形態別にみると，「登録方法を知らないから」との回答は学生を除くすべての生活形態で第１位となっており，定年退職などで在宅では５割台半ばと高くなっている。「防災情報アプリなど，他の入手方法があるから」との回答は学生で６割台半ば，「パソコンや携帯電話を持っていないから」との回答は定年退職などで在宅で約３割と他の生活形態に比べ高くなっている。

問 15　あなたは，過去１年間に，ご自宅，地域，職場，あるいは学校で，防災教室や防災訓練等に参加したことがありますか。（○はいくつでも）



過去１年間における防災教室等の参加経験について，「防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない」との回答が 38.1%と最も高く，次いで「防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない」（18.9%），「地域の防災教室や防災訓練等に参加した」（18.7%）などの順となっている。

【図表　過去１年間における防災教室等の参加の有無（年代別）】

（%）

		地域の防災教室や防災訓練等に参加した	職場，または学校の防災教室や防災訓練等に参加した	県や市町が，本年６月に，同封の教材等により実施した「一斉防災教室」，または昨年９月に実施した「一斉地震防災訓練」に参加した	同封の教材により，今回，身の周りの災害危険箇所や避難場所を確認した	防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない	防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない	無回答
全　体（n=52,271）		18.7	16.3	1.8	8.8	18.9	38.1	3.6
年代別	20代（n=3,254）	3.4	37.5	0.2	3.8	11.5	44.2	1.5
	30代（n=5,910）	8.1	20.7	0.7	6.6	15.9	51.6	1.8
	40代（n=8,610）	13.3	24.7	1.2	9.0	16.3	39.5	0.7
	50代（n=8,096）	16.5	22.9	2.3	10.8	20.1	34.6	1.0
	60代（n=12,995）	22.7	13.4	2.4	9.0	20.0	37.0	3.4
	70代（n=10,370）	30.9	3.0	2.4	9.6	21.8	31.9	6.9
	80歳以上（n=2,832）	18.8	1.9	2.5	8.4	21.8	36.3	14.4

過去１年間における防災教室等の参加の有無について，年代別にみると，「防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない」との回答がすべての年代で第１位となっており，30 代では５割を超え高くなっている。「地域の防災教室や防災訓練等に参加した」との回答は 70 代で約３割，「職場，または学校の防災教室や防災訓練等に参加した」との回答は 20 代で約４割と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　過去１年間における防災教室等の参加の有無（性別）】

（%）

		地域の防災教室や防災訓練等に参加した	職場，または学校の防災教室や防災訓練等に参加した	県や市町が，本年６月に，同封の教材等により実施した「一斉防災教室」，または昨年９月に実施した「一斉地震防災訓練」に参加した	同封の教材により今回，身の周りの災害危険箇所や避難場所を確認した	防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない	防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない	無回答
全体(n=52,271)		18.7	16.3	1.8	8.8	18.9	38.1	3.6
性別	男性(n=23,878)	22.0	18.5	2.1	7.8	15.6	38.4	3.3
	女性(n=28,349)	15.9	14.5	1.6	9.7	21.6	37.8	3.7

過去１年間における防災教室等の参加の有無について，性別にみると，男女ともに「防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない」との回答が第１位となっている。「地域の防災教室や防災訓練等に参加した」との回答は男性（22.0%）が女性（15.9%）を 6.1 ポイント上回っている。一方，「防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない」との回答は女性（21.6%）が男性（15.6%）を 6.0 ポイント上回っている。

【図表　過去１年間における防災教室等の参加の有無（生活形態別）】

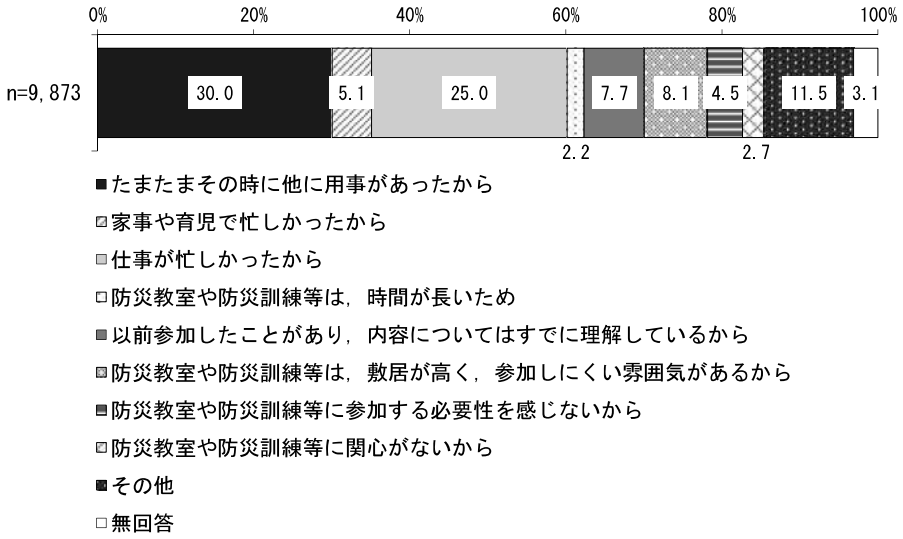
（%）

		地域の防災教室や防災訓練等に参加した	職場，または学校の防災教室や防災訓練等に参加した	県や市町が，本年６月に，同封の教材等により実施した「一斉防災教室」，または，昨年９月に実施した「一斉地震防災訓練」に参加した	同封の教材により，今回，身の周りの災害危険箇所や，避難場所を確認した	防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない	防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない	無回答
全体(n=52,271)		18.7	16.3	1.8	8.8	18.9	38.1	3.6
生活形態別	企業・団体勤務(n=23,691)	14.1	28.5	1.5	7.9	15.9	37.6	1.6
	自営業(n=4,538)	19.6	4.6	2.4	10.0	22.9	41.0	4.7
	農林漁業(n=1,639)	33.3	11.9	2.6	10.2	16.4	26.5	7.3
	家事や育児で在宅(n=5,629)	15.7	6.7	1.2	7.4	22.2	48.1	1.8
	学生(n=618)	0.0	42.7	0.0	4.8	11.7	40.8	0.0
	定年退職などで在宅(n=11,662)	27.2	4.1	2.5	10.5	21.6	34.4	6.2
	その他(n=3,954)	20.8	5.7	2.8	9.2	22.1	41.2	4.7

過去１年間における防災教室等の参加の有無について，生活形態別にみると，「防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない」との回答は農林漁業，学生を除く生活形態で第１位となっており，家事や育児で在宅では約５割と高くなっている。「地域の防災教室や防災訓練等に参加した」との回答は農林漁業で３割台半ば，「職場，または学校の防災教室や防災訓練等に参加した」との回答は学生で４割超，「防災教室や防災訓練等が行われているのは知っているが参加していない」との回答は自営業，家事や育児で在宅で２割超と他の生活形態に比べ高くなっている。

問 16　問 15 で「５　防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない」と回答した人にお尋ねします。

防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは，なぜですか。（○は１つ）

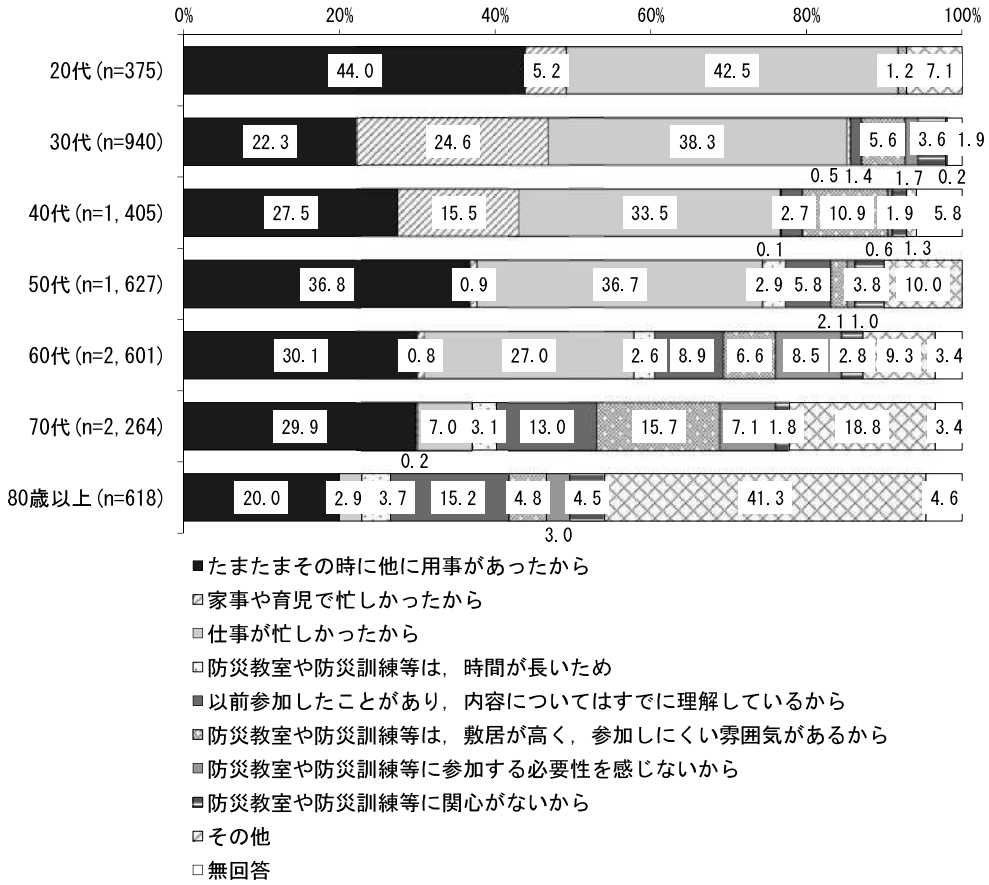


防災教室等に参加しなかった理由について，「たまたまその時に他の用事があったから」との回答が 30.0%と最も高く，次いで「仕事が忙しかったから」(25.0%)，「防災教室や防災訓練等は，敷居が高く，参加しにくい雰囲気があるから」(8.1%) などの順となっている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

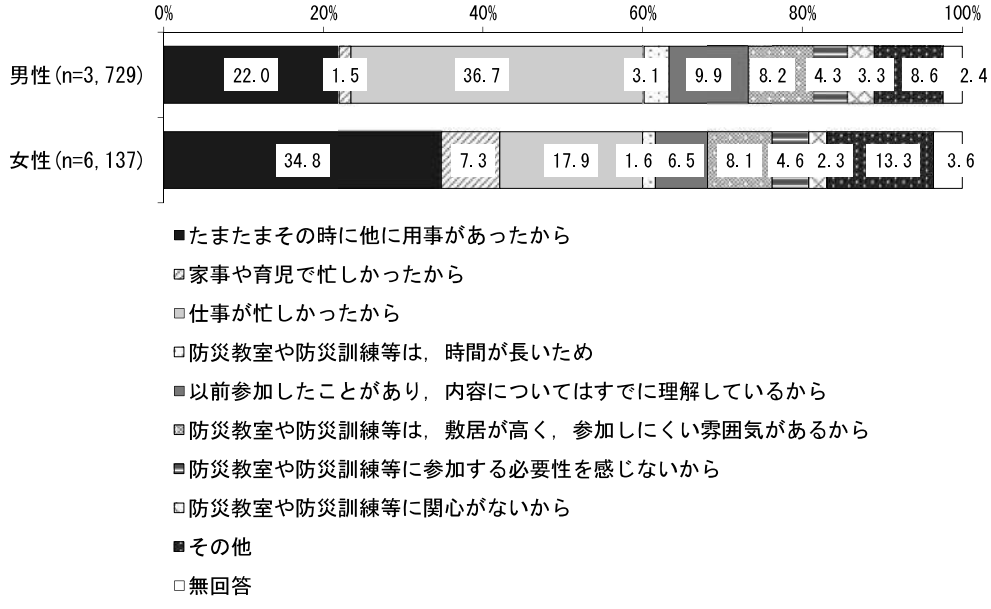
・高齢・体が不自由・体調不良（97 件）
・家族が参加した（18 件）
・あることを知らなかった（16 件）
・学校・仕事・介護等で参加できない（15 件）等

【図表　防災教室等に参加しなかった理由（年代別）】



防災教室等に参加しなかった理由について，年代別にみると，「たまたまその時に他の用事があったから」との回答は 20 代で４割台半ばと高くなっている。「仕事が忙しかったから」との回答は 20 代，30 代で４割前後と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

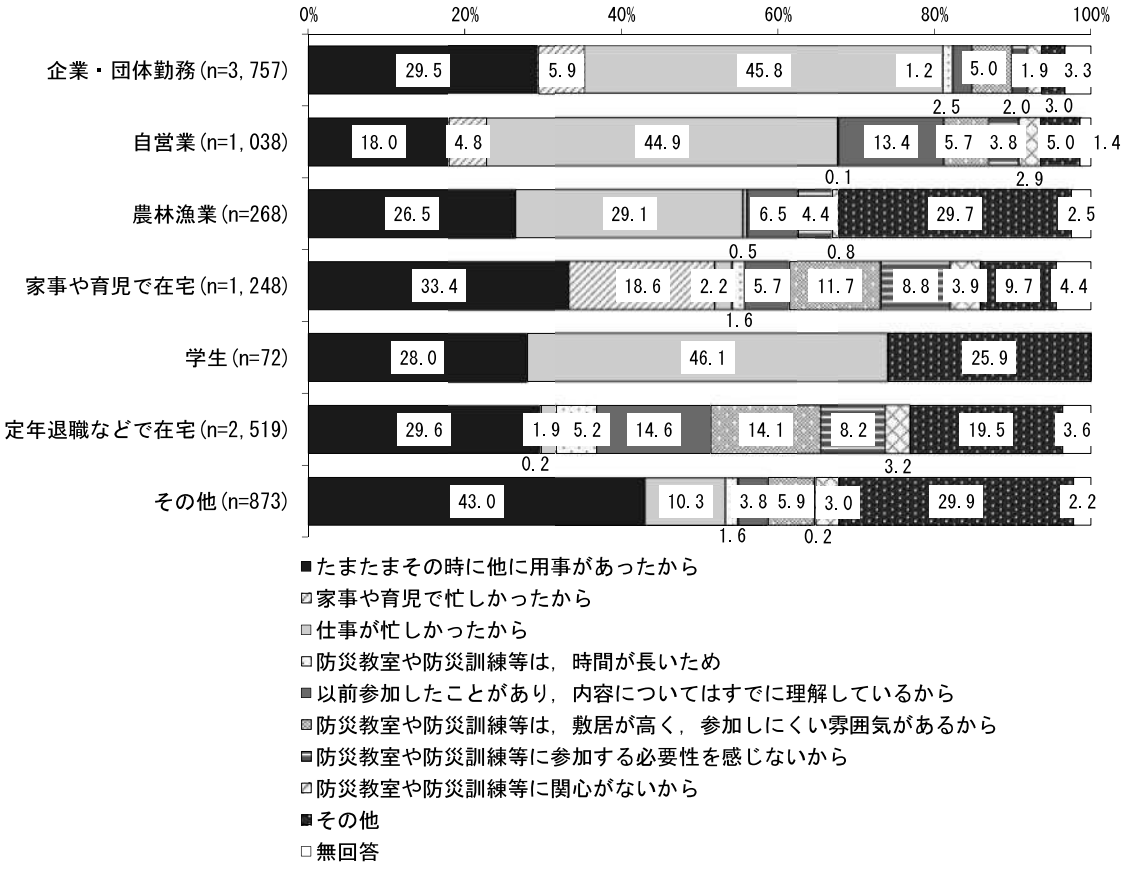
【図表　防災教室等に参加しなかった理由（性別）】



防災教室等に参加しなかった理由について，性別にみると，「たまたまその時に他の用事があっ

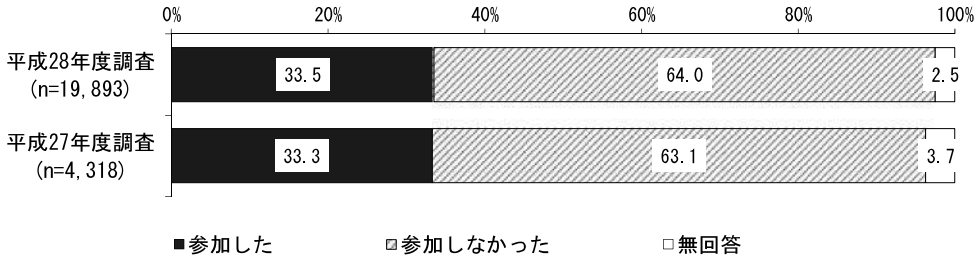
たから」との回答は女性（34.8%）が男性（22.0%）を12.8ポイント，「家事や育児で忙しかったから」との回答は女性（7.3%）が男性（1.5%）を5.8ポイント上回っている。一方，「仕事が忙しかったから」との回答は男性（36.7%）が女性（17.9%）を18.8ポイント上回っている。

【図表　防災教室等に参加しなかった理由（生活形態別）】



防災教室等に参加しなかった理由について，生活形態別にみると，「たまたまその時に他の用事があったから」との回答は家事や育児で在宅で３割台半ば，「仕事が忙しかったから」との回答は企業・団体勤務，自営業，学生で４割台半ばと高くなっている。

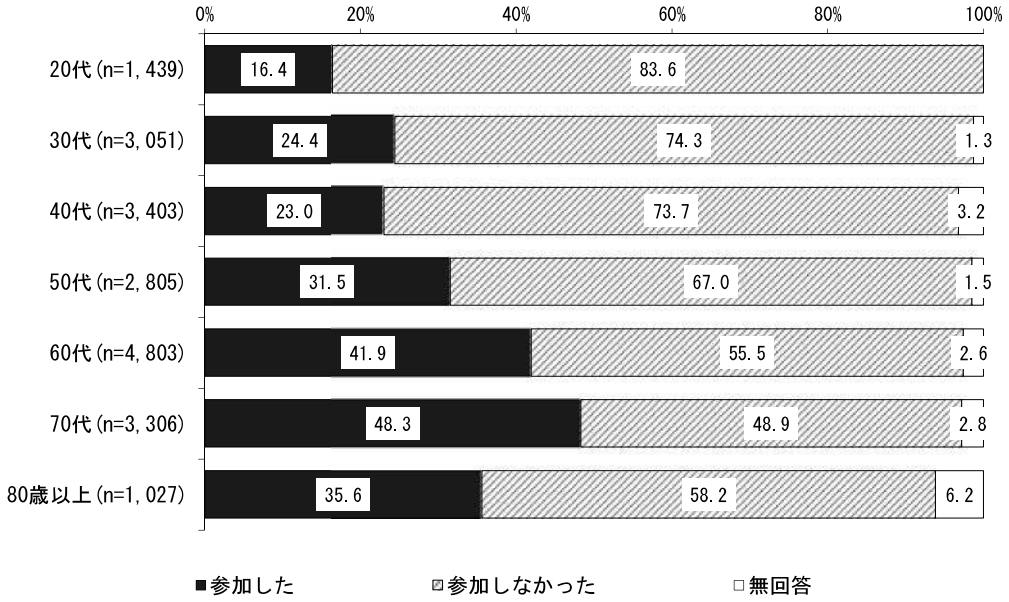
問 17　問 15 で「６　防災教室や防災訓練が行われたかどうか知らない」と回答した人にお尋ねします。開催されることを知っていれば，参加されましたか。（○は１つ）



防災教室等が開催されることを知っていた場合の参加意向について，「参加した」との回答が 33.5%，「参加しなかった」との回答が 64.0%となっている。

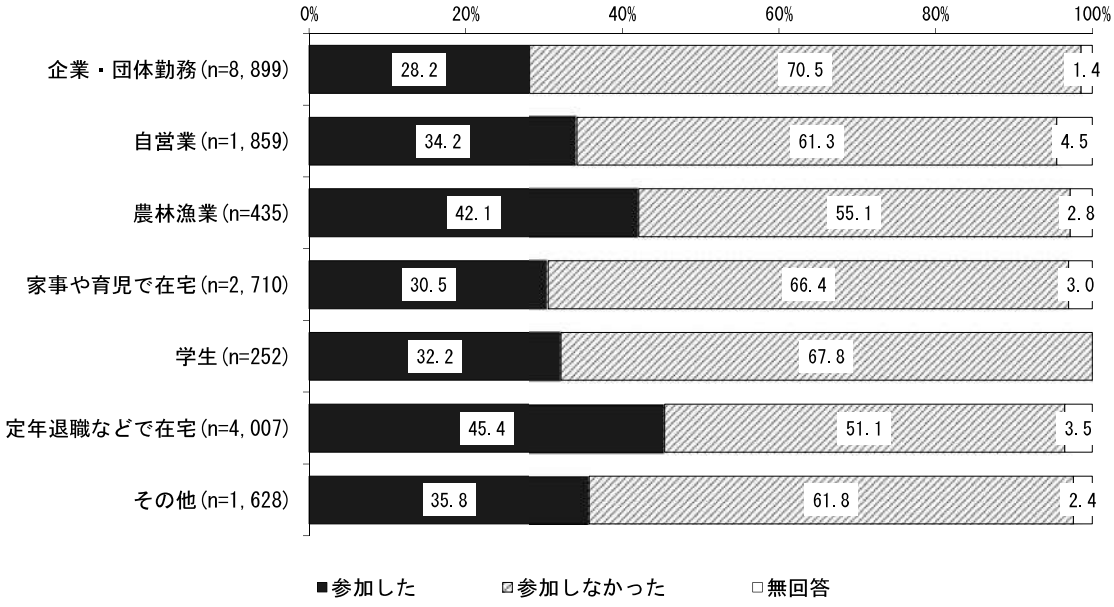
経年比較すると，「参加した」との回答はいずれの調査でも３割台半ばと大きな差はみられない。

【図表　防災教室等が開催されることを知っていた場合の参加意向（年代別）】



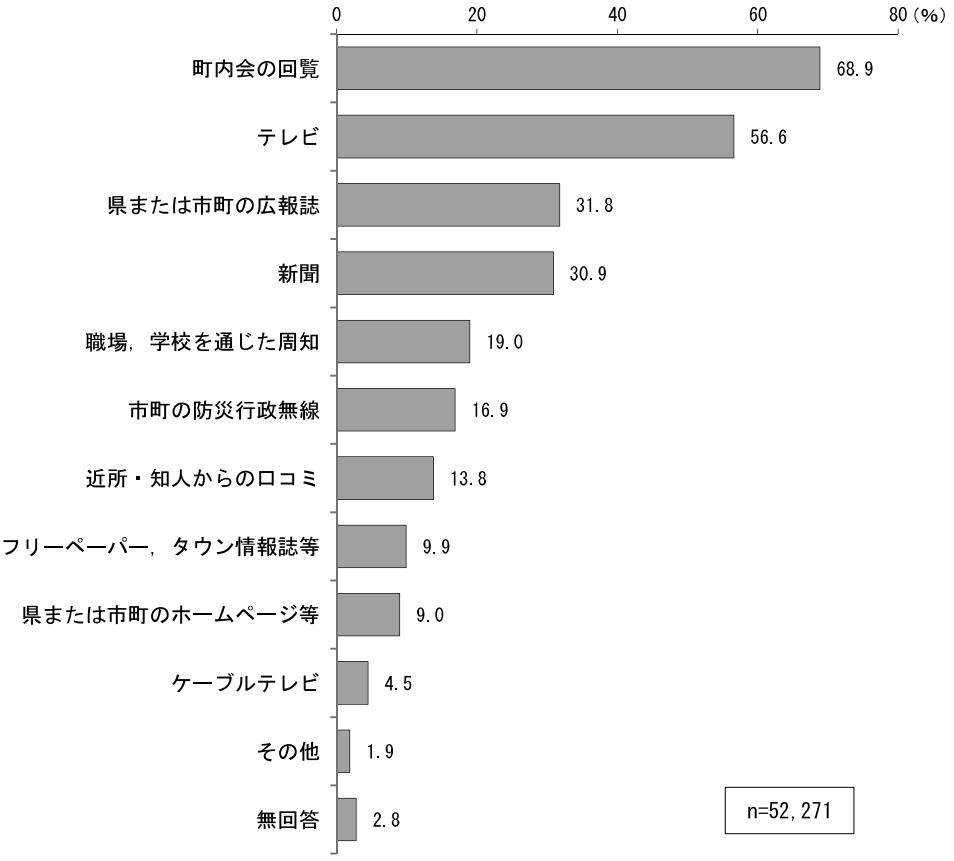
防災教室等が開催されることを知っていた場合の参加意向について，年代別にみると，「参加した」との回答は 70 代で約５割と高く，20 代で１割台半ばと低くなっている。

【図表　防災教室等が開催されることを知っていた場合の参加意向（生活形態別）】



防災教室等が開催されることを知っていた場合の参加意向について，生活形態別にみると，「参加した」との回答は農林漁業，定年退職などで在宅で４割台と高くなっている。

問 18　今後実施される防災教室や防災訓練等を知る上で，有効な告知方法は何だと思いますか。数字を選んで回答欄にお書きください。（３つまで）



防災教室等の有効な告知方法について，「町内会の回覧」との回答が 68.9%と最も高く，次いで「テレビ」(56.6%)，「県または市町の広報誌」(31.8%) などの順となっている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・携帯電話・メール・インターネット・SNS（22 件）
・町内会・掲示板・駅・スーパー・デパート（16 件）
・メディア・防災無線・町内放送・有線（14 件）
・全家庭へのポスティング（8 件）等

【図表　防災教室等の有効な告知方法（年代別）】

（%）

		テレビ	新聞	フリーペーパー，タウン情報誌等	町内会の回覧	近所・知人からの口コミ	県または市町のホームページ等	県または市町の広報誌	ケーブルテレビ	市町の防災行政無線	職場，学校を通じた周知	その他	無回答
全　体(n=52,271)		56.6	30.9	9.9	68.9	13.8	9.0	31.8	4.5	16.9	19.0	1.9	2.8
年代別	20代(n=3,254)	66.9	29.5	14.7	54.1	15.0	20.8	21.4	1.7	9.4	42.7	4.7	0.0
	30代(n=5,910)	62.4	29.7	24.0	54.5	9.2	13.7	22.9	2.9	11.8	42.6	2.5	1.9
	40代(n=8,610)	56.7	31.0	15.5	64.4	9.1	10.3	29.7	3.5	11.0	36.8	1.2	1.4
	50代(n=8,096)	55.2	30.2	8.9	73.5	12.1	12.0	30.6	5.0	19.6	21.5	2.8	0.9
	60代(n=12,995)	51.8	33.8	6.5	76.0	15.8	5.9	38.3	5.0	21.1	7.7	1.2	3.0
	70代(n=10,370)	56.8	29.0	3.2	73.3	17.9	4.9	36.8	6.0	19.4	0.7	0.9	4.1
	80歳以上(n=2,832)	58.6	31.0	0.5	68.7	17.3	1.6	24.2	4.7	16.0	0.8	2.3	10.9

防災教室等の有効な告知方法について，年代別にみると，「テレビ」，「町内会の回覧」との回答が上位２項目となっている。「県または市町の広報誌」との回答は 50 代～70 代で３割台，「職場，学校を通じた周知」との回答は 20 代，30 代で４割超と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　防災教室等の有効な告知方法（性別）】

（%）

		テレビ	新聞	フリーペーパー，タウン情報誌等	町内会の回覧	近所・知人からの口コミ	県または市町のホームページ等	県または市町の広報誌	ケーブルテレビ	市町の防災行政無線	職場，学校を通じた周知	その他	無回答
全　体(n=52,271)		56.6	30.9	9.9	68.9	13.8	9.0	31.8	4.5	16.9	19.0	1.9	2.8
性別	男性(n=23,878)	59.3	33.9	8.3	68.6	13.3	9.9	31.4	5.3	17.1	17.3	1.9	2.4
	女性(n=28,349)	54.4	28.4	11.2	69.2	14.2	8.3	32.2	3.8	16.6	20.4	1.8	3.0

防災教室等の有効な告知方法について，性別にみると，男女とも上位２項目は同様となっている。「新聞」との回答では男性（33.9%）が女性（28.4%）を 5.5 ポイント上回っている。

【図表　防災教室等の有効な告知方法（生活形態別）】

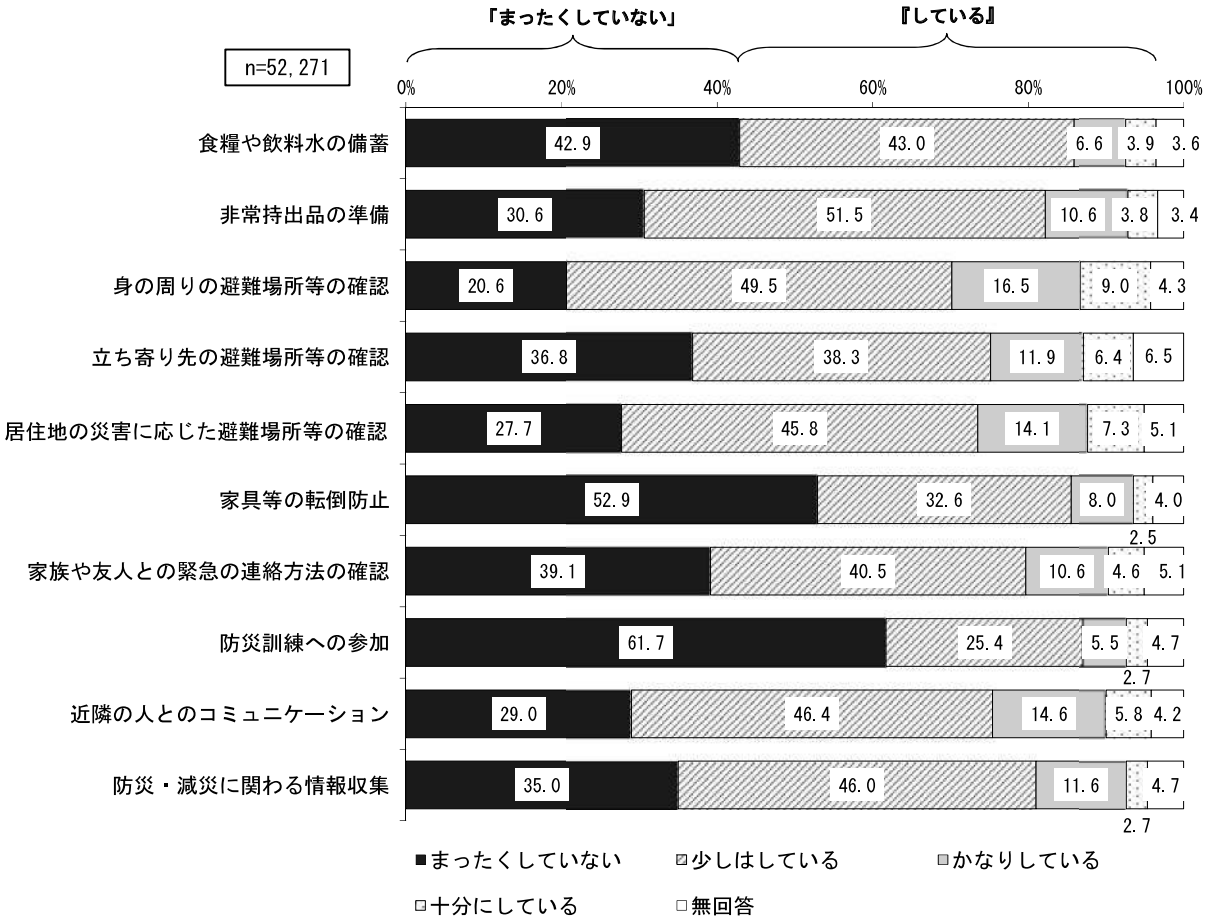
（%）

		テレビ	新聞	フリーペーパー，タウン情報誌等	町内会の回覧	近所・知人からのロコミ	県または市町のホームページ等	県または市町の広報誌	ケーブルテレビ	市町の防災行政無線	職場，学校を通じた周知	その他	無回答
全　体(n=52,271)		56.6	30.9	9.9	68.9	13.8	9.0	31.8	4.5	16.9	19.0	1.9	2.8
生活形態別	企業・団体勤務(n=23,691)	59.3	32.6	13.1	67.5	10.4	11.2	27.8	3.6	14.3	32.1	1.7	1.3
	自営業(n=4,538)	57.2	30.7	6.2	67.0	17.7	8.9	30.5	5.4	17.6	10.5	2.6	4.7
	農林漁業(n=1,639)	45.4	18.7	0.4	74.3	19.0	1.8	33.0	23.0	40.3	1.0	0.6	4.6
	家事や育児で在宅(n=5,629)	50.9	25.8	17.8	70.1	14.2	11.8	36.6	2.1	13.1	20.6	2.1	1.3
	学生(n=618)	68.7	25.2	3.4	49.2	19.5	22.0	27.5	2.3	4.2	52.9	0.0	0.0
	定年退職などで在宅(n=11,662)	54.8	32.4	3.9	73.0	17.5	5.7	37.8	4.0	19.4	1.2	1.6	4.7
	その他(n=3,954)	56.0	30.2	7.3	68.2	15.6	4.0	34.4	5.2	20.6	4.8	3.1	2.8

防災教室等の有効な告知方法について，生活形態別にみると，学生を除くすべての生活形態で「テレビ」，「町内会の回覧」との回答が上位２項目となっている。「市町の防災行政無線」との回答は農林漁業で約４割，「職場，学校を通じた周知」との回答は学生で５割超と他の生活形態に比べ高くなっている。

Ⅲ　災害に対する備えや災害時の行動について

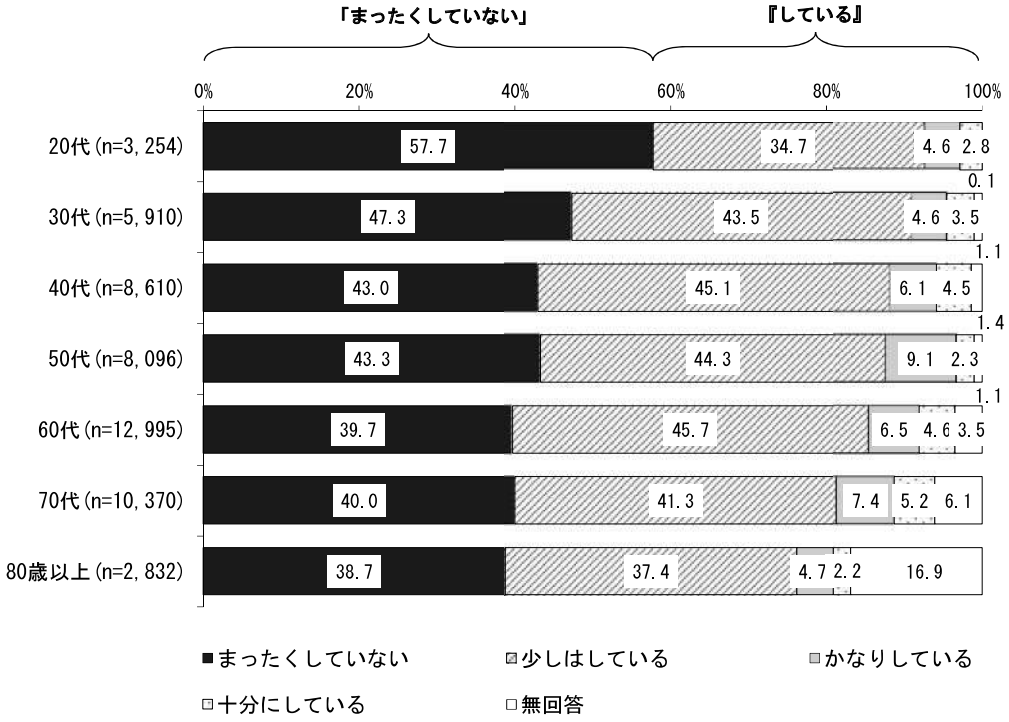
問 19－１　あなたは，今現在，下記のような「災害への備え」をどれくらいしていますか。
各項目について，該当する番号１つを○で囲んでください。



災害への備えについて，「まったくしていない」との回答は「家具等の転倒防止」で５割超，「防災訓練への参加」で６割超と高くなっている。一方，『している』（「十分にしている」と「かなりしている」と「少しはしている」を合わせた割合）との回答は「身の周りの避難場所等の確認」で７割台半ば，「居住地の災害に応じた避難場所等の確認」で約７割と高くなっている。

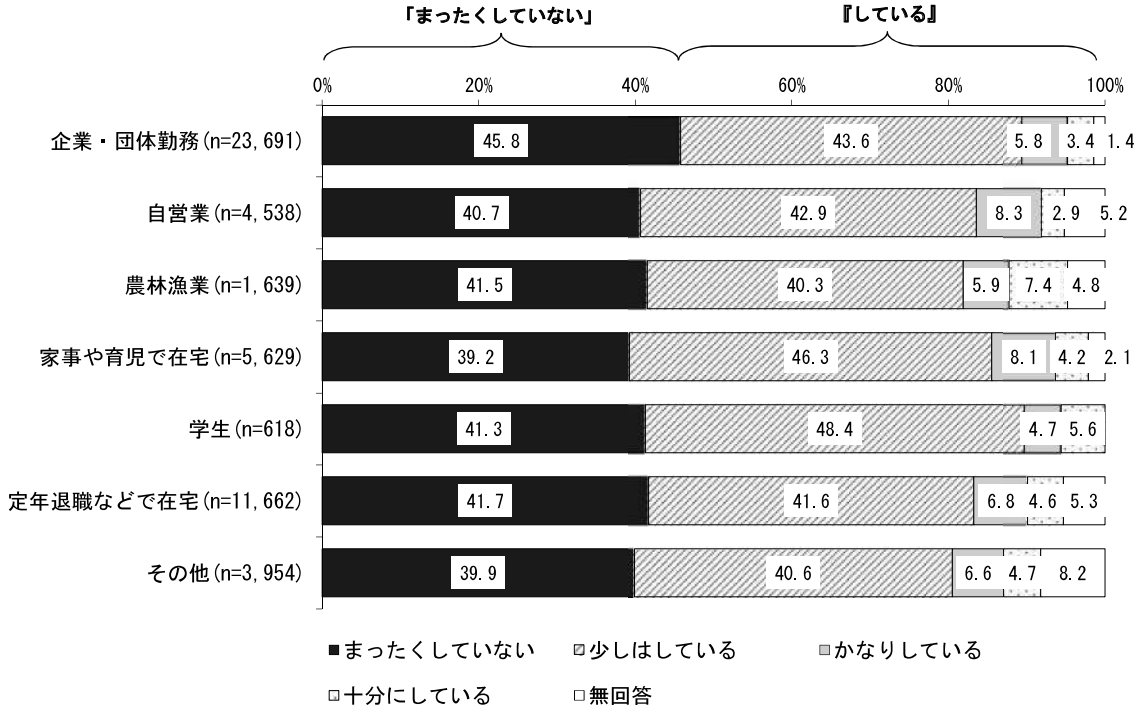
（１）食糧や飲料水の備蓄

【図表　食糧や飲料水の備蓄（年代別）】



食糧や飲料水の備蓄について，年代別にみると，『している』との回答は30代～70代で５割台ばと高くなっている。

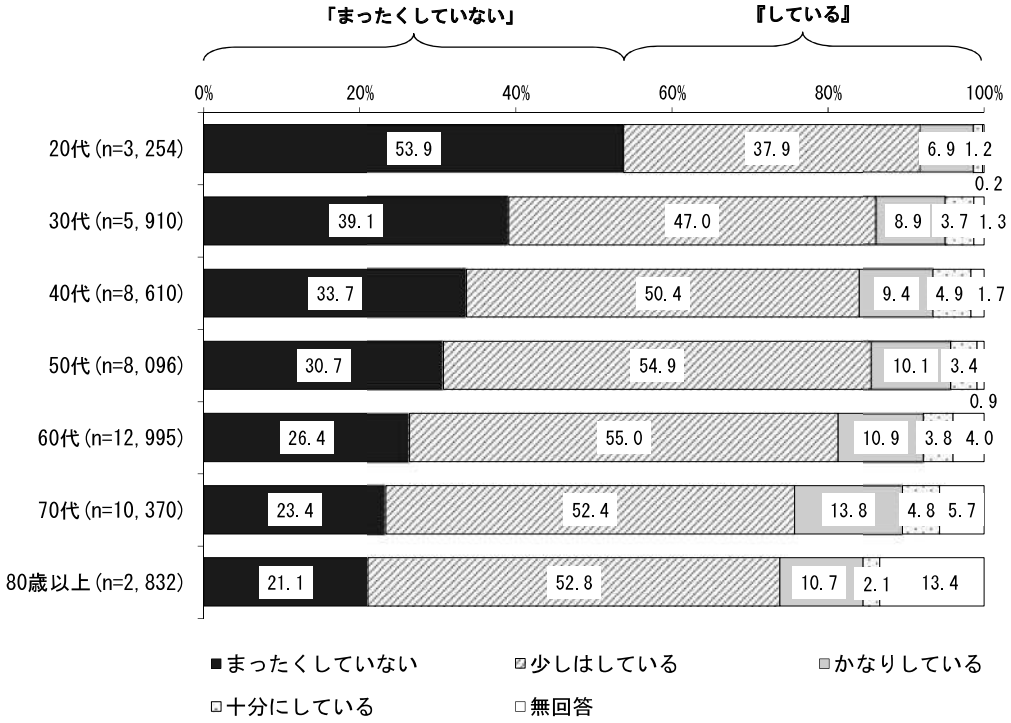
【図表　食糧や飲料水の備蓄（生活形態別）】



食糧や飲料水の備蓄について，生活形態別にみると，『している』との回答はすべての生活形態において５割台と高くなっている。

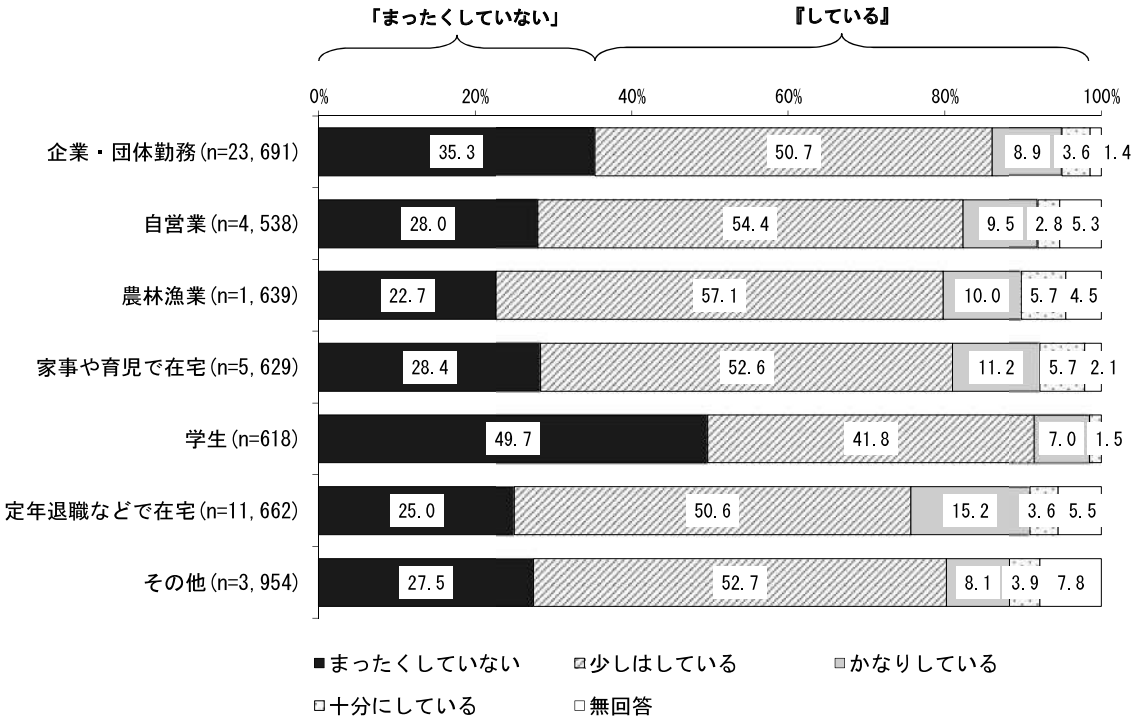
（２）非常持出品の準備

【図表　非常持出品の準備（年代別）】



非常持出品の準備について，年代別にみると，『している』との回答は 50 代～70 代で７割前後と高くなっており，年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

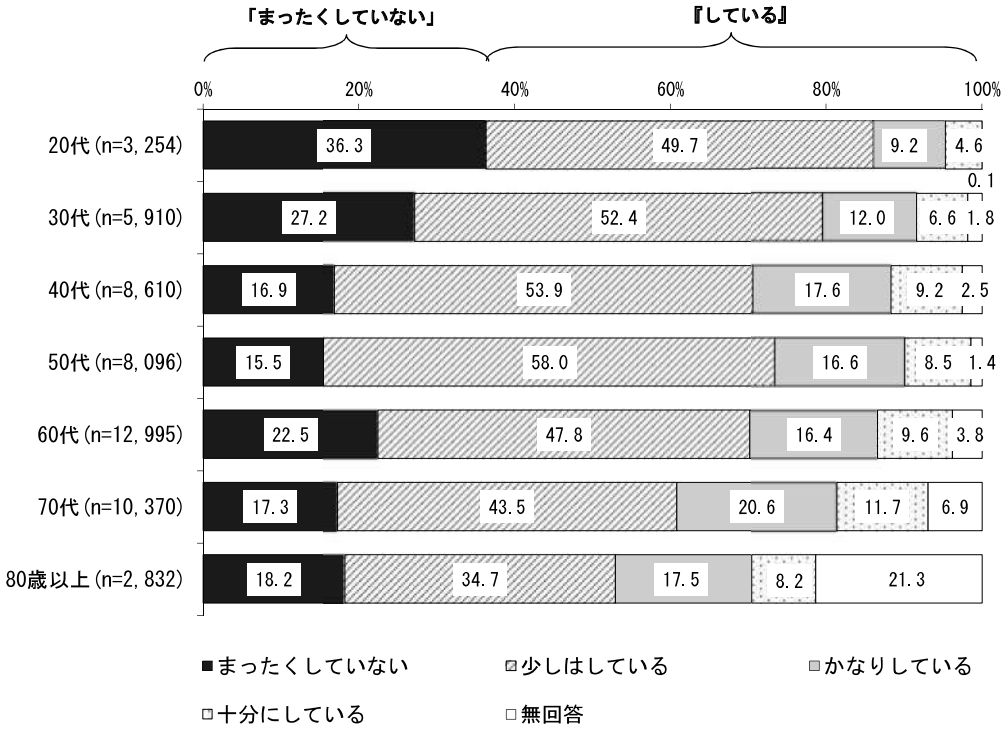
【図表　非常持出品の準備（生活形態別）】



非常持出品の準備について，生活形態別にみると，『している』との回答は農林漁業，家事や育児で在宅，定年退職などで在宅で７割前後と高くなっている。

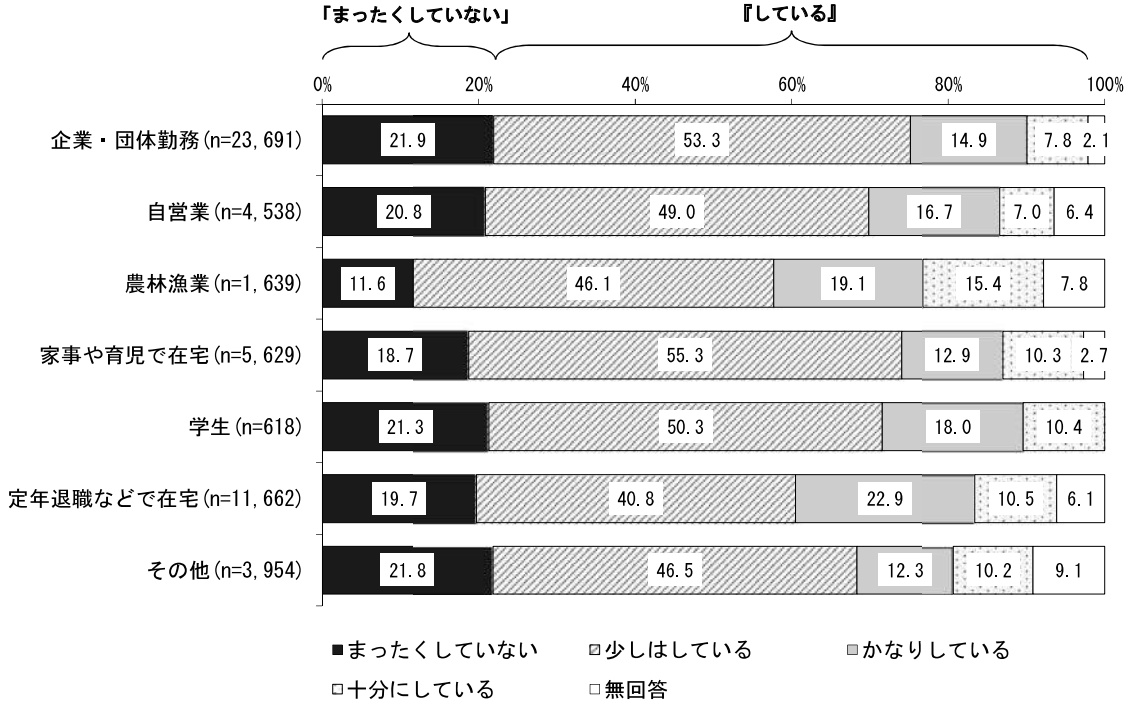
（３）身の周りの避難場所等の確認

【図表　身の周りの避難場所等の確認（年代別）】



身の周りの避難場所等の確認について，年代別にみると，『している』との回答は 40 代で約８割，50 代で８割台半ばと高くなっている。

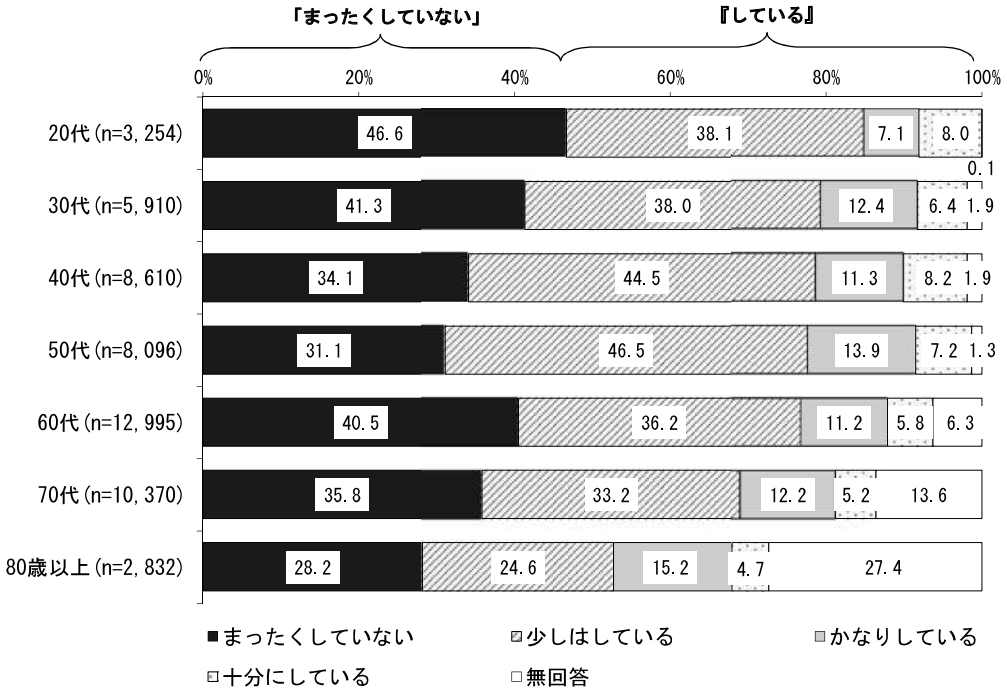
【図表　身の周りの避難場所等の確認（生活形態別）】



身の周りの避難場所等の確認について，生活形態別にみると，『している』との回答は農林漁業，家事や育児で在宅，学生で８割前後と高くなっている。

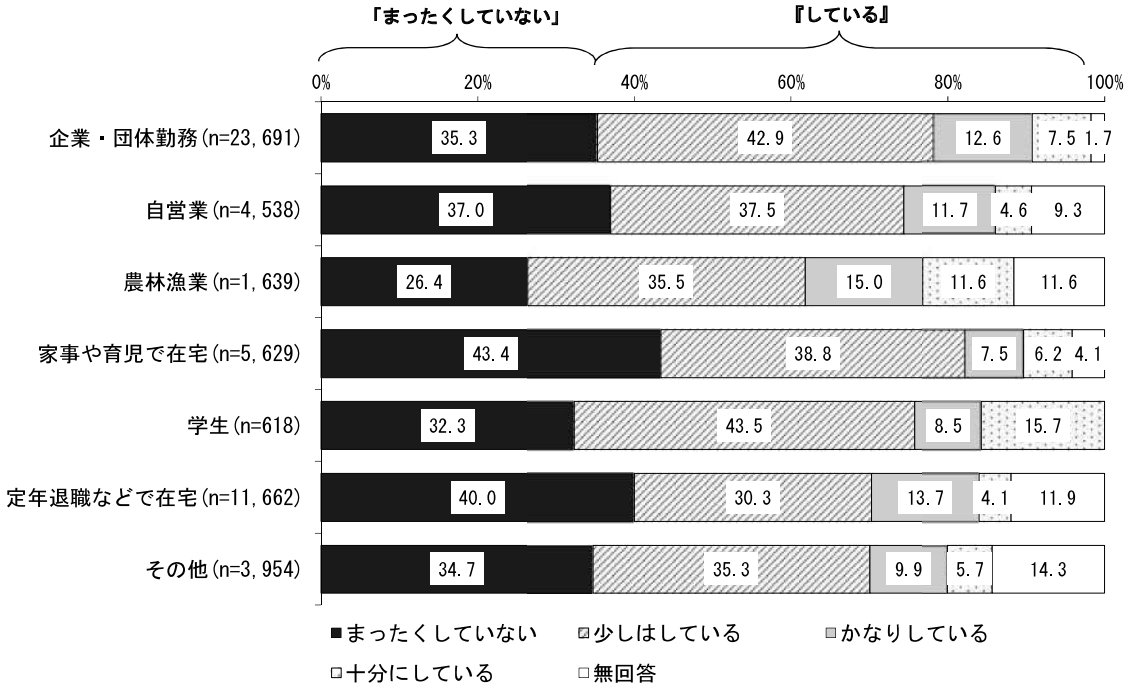
（４）立ち寄り先の避難場所等の確認

【図表　立ち寄り先の避難場所等の確認（年代別）】



立ち寄り先の避難場所等の確認について，年代別にみると，『している』との回答は 40 代で６割台半ば，50 代で約７割と高くなっている。

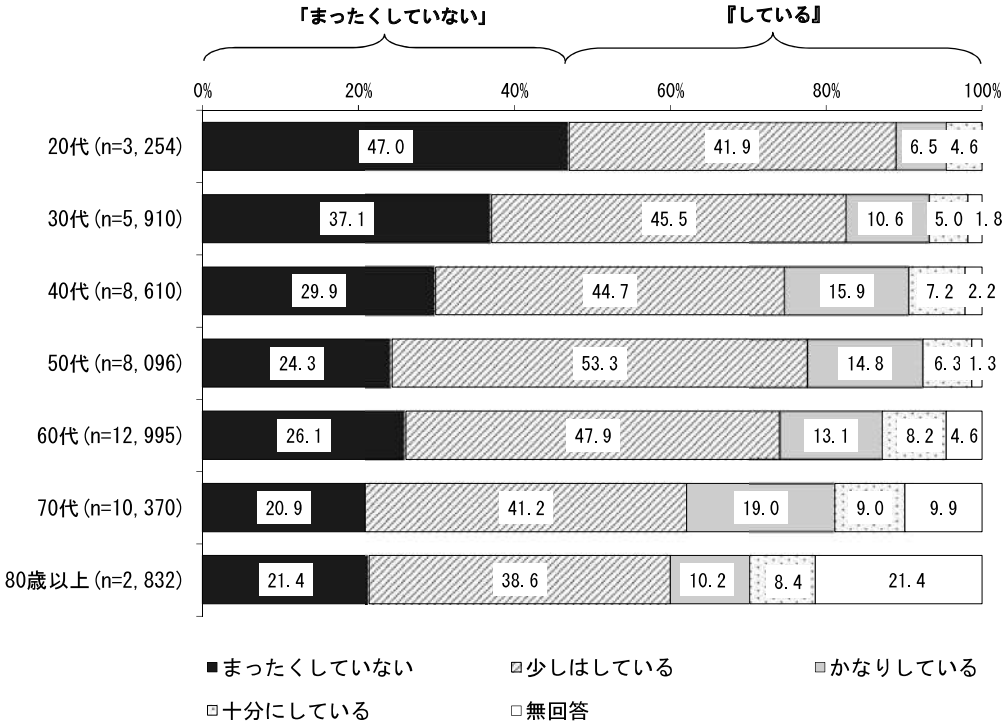
【図表　立ち寄り先の避難場所等の確認（生活形態別）】



立ち寄り先の避難場所等の確認について，生活形態別にみると，『している』との回答は学生で約７割と高くなっている。

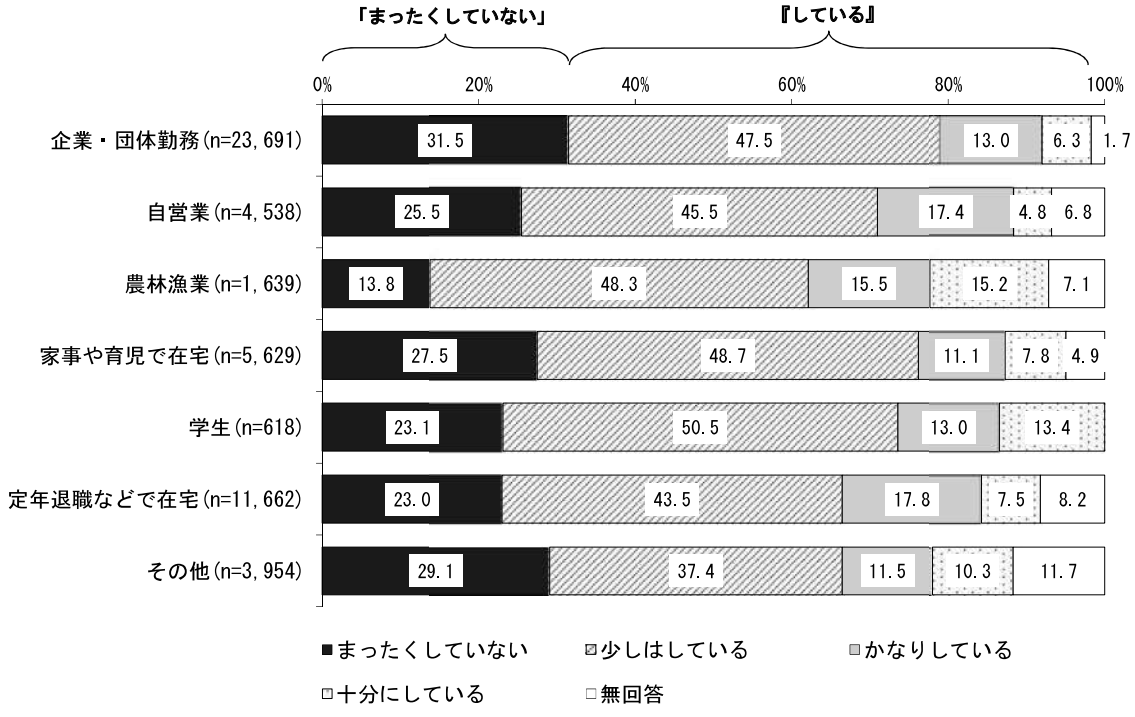
（５）居住地の災害に応じた避難場所等の確認

【図表　居住地の災害に応じた避難場所等の確認（年代別）】



居住地の災害に応じた避難場所等の確認について，年代別にみると，『している』との回答は 50 代で７割台半ばと高くなっている。

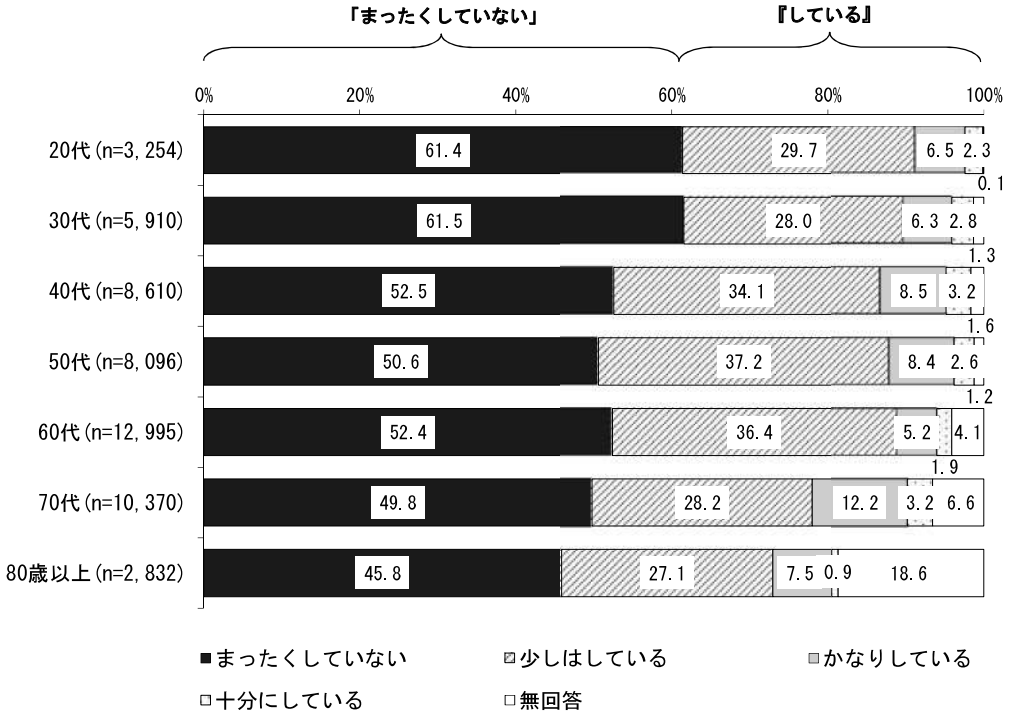
【図表　居住地の災害に応じた避難場所等の確認（生活形態別）】



居住地の災害に応じた避難場所等の確認について，生活形態別にみると，『している』との回答は農林漁業で約８割と高くなっている。

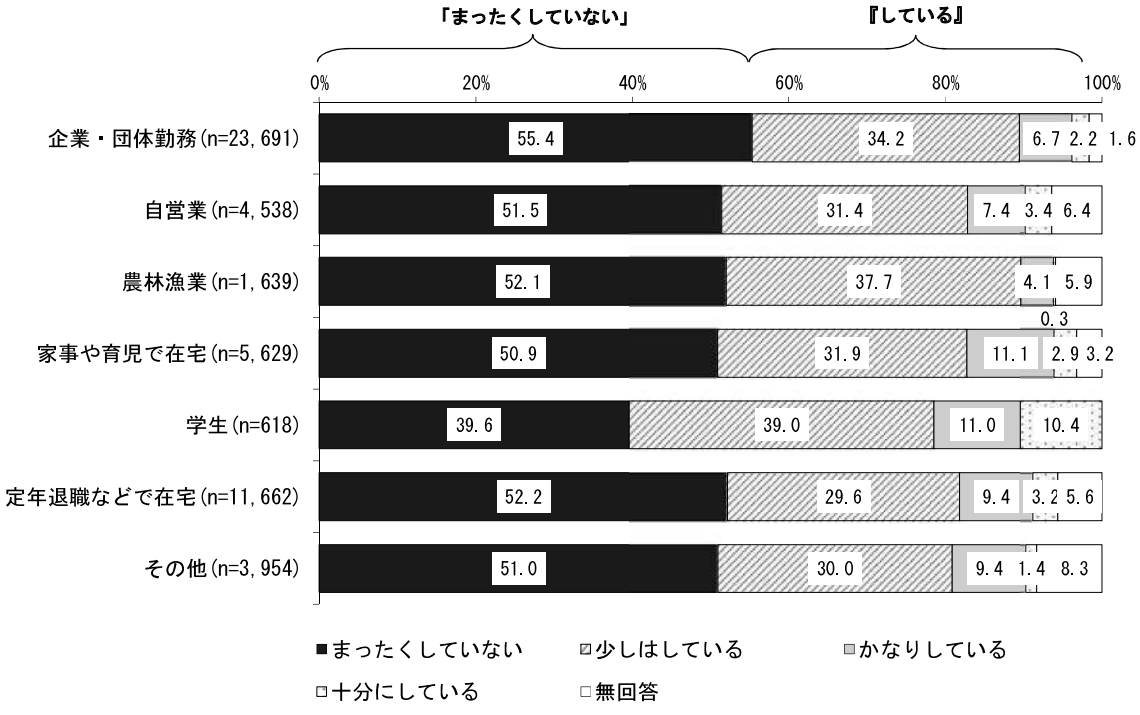
（６）家具等の転倒防止

【図表　家具等の転倒防止（年代別）】



家具等の転倒防止ついて，年代別にみると，『している』との回答は 50 代で約５割と高くなっている。

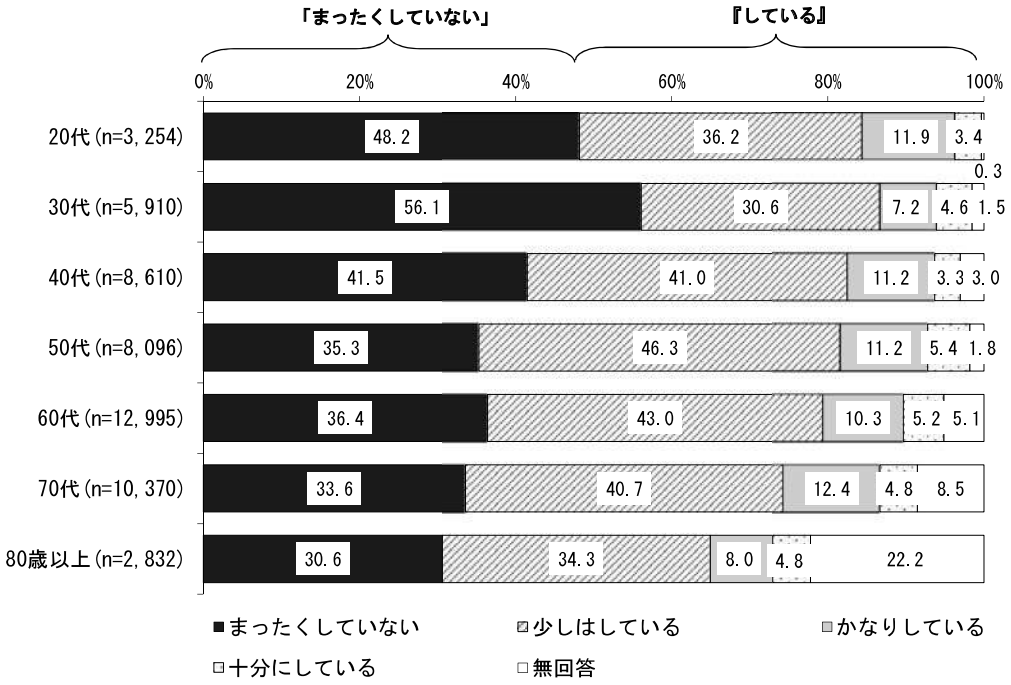
【図表　家具等の転倒防止（生活形態別）】



家具等の転倒防止ついて，生活形態別にみると，『している』との回答は学生で約６割と他の生活形態に比べ高くなっている。

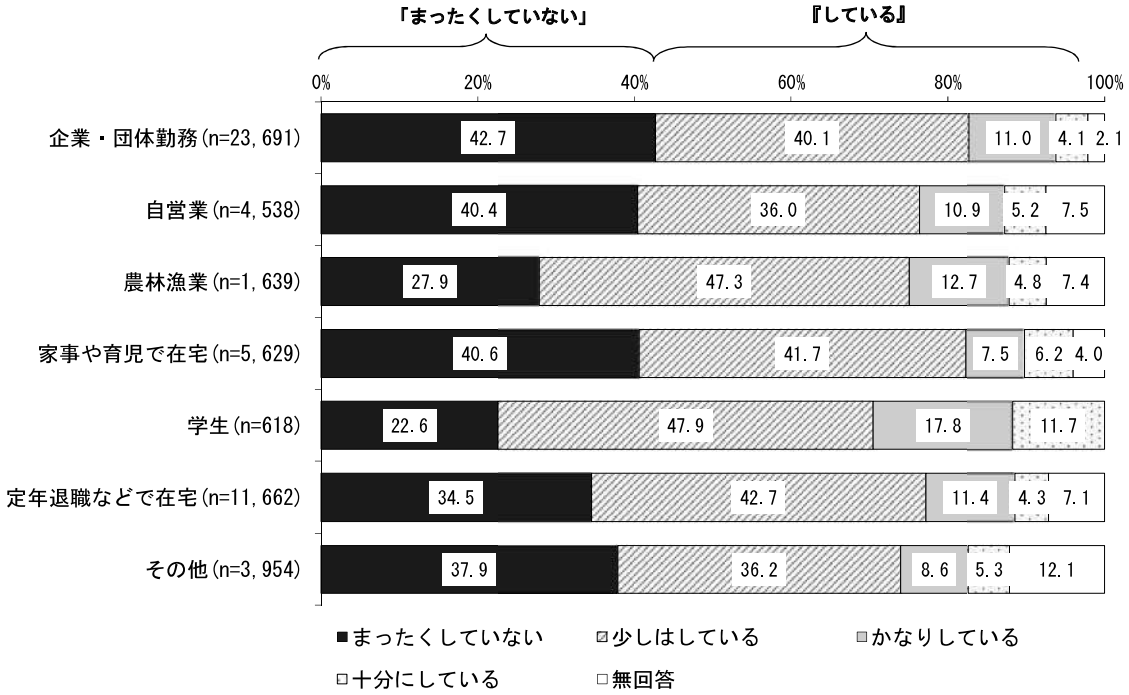
（７）家族や友人との緊急の連絡方法の確認

【図表　家族や友人との緊急の連絡方法の確認（年代別）】



家族や友人との緊急の連絡方法の確認について，年代別にみると，『している』との回答は 50 代～70 代で６割前後と高くなっている。

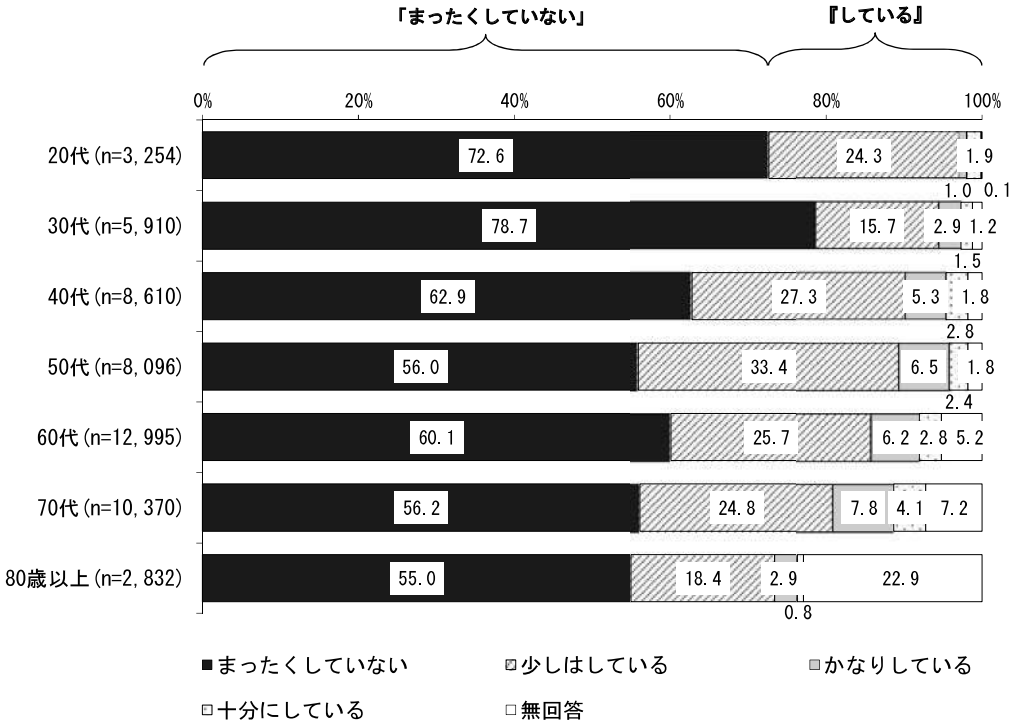
【図表　家族や友人との緊急の連絡方法の確認（生活形態別）】



家族や友人との緊急の連絡方法の確認について，生活形態別にみると，『している』との回答は学生で約８割，農林漁業で６割台半ばと高くなっている。

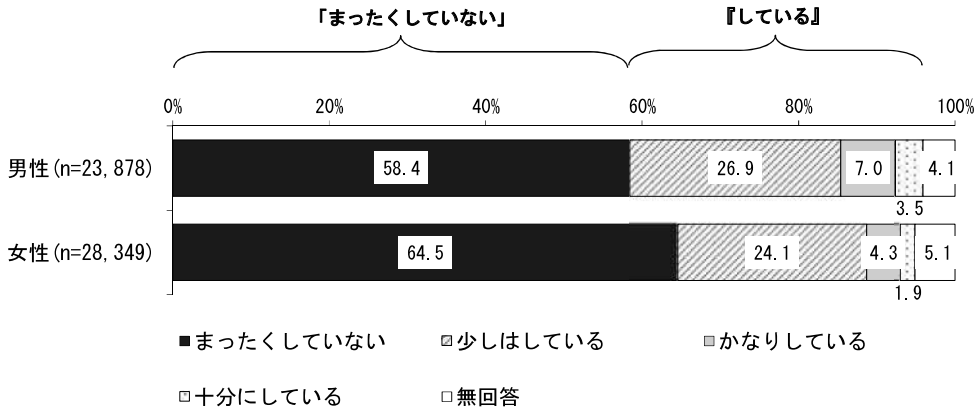
（８）防災訓練への参加

【図表　防災訓練への参加（年代別）】



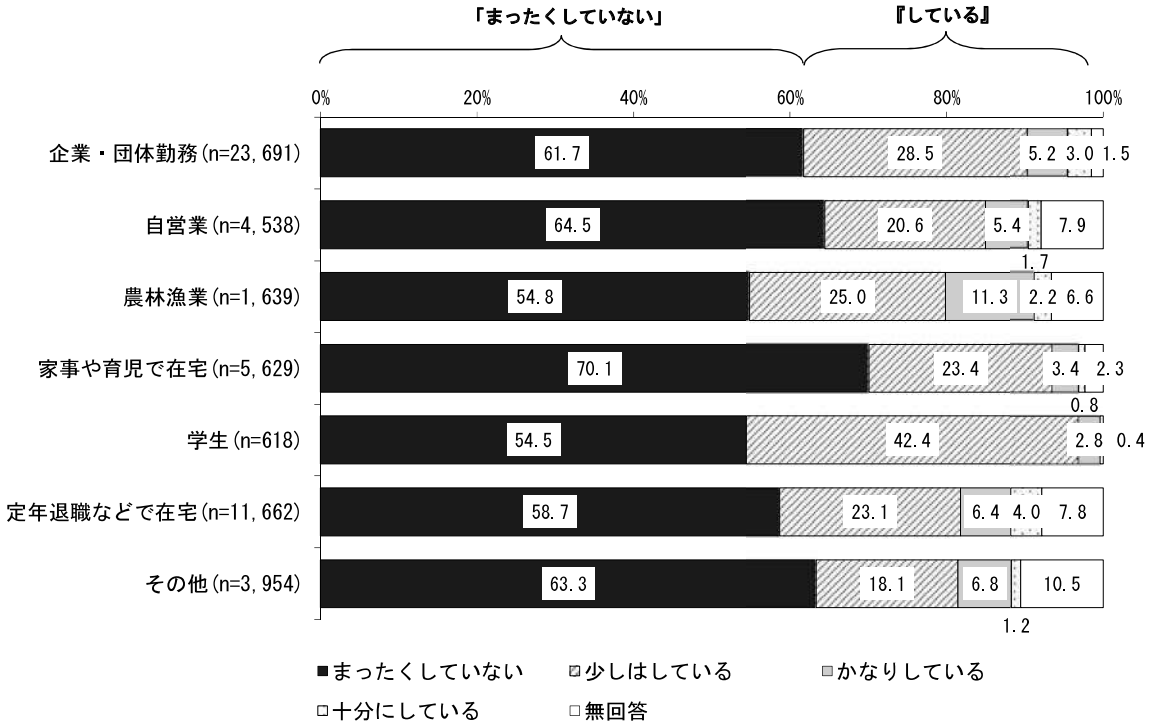
防災訓練への参加について，年代別にみると，『している』との回答は 50 代で４割超と高くなっている。

【図表　防災訓練への参加（性別）】



防災訓練への参加について，性別にみると，『している』との回答は男性（37.4％）が女性（30.3％）を 7.1 ポイント上回っている。

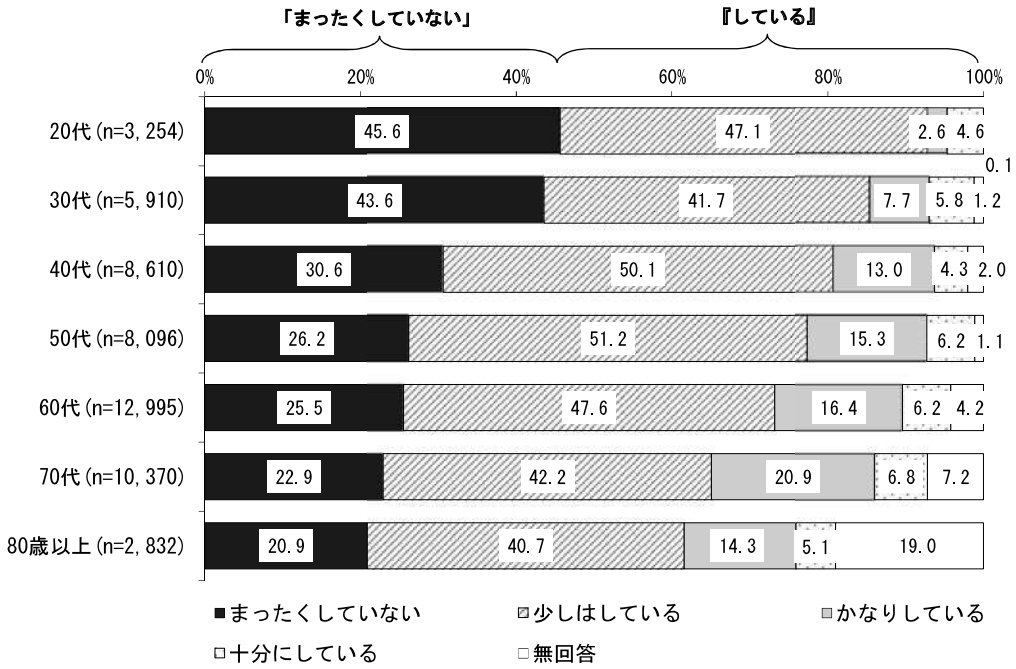
【図表　防災訓練への参加（生活形態別）】



防災訓練への参加について，生活形態別にみると，『している』との回答は学生で４割台半ば，農林漁業で約４割と高くなっている。

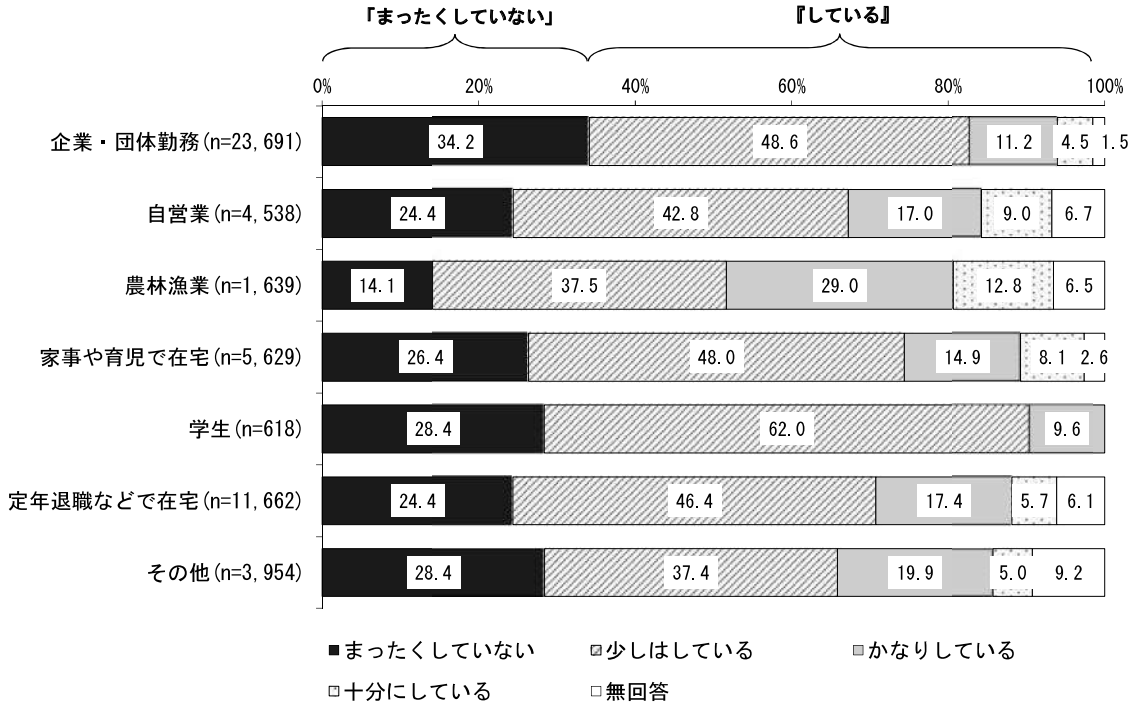
（９）近隣の人とのコミュニケーション

【図表　近隣の人とのコミュニケーション（年代別）】



近隣の人とのコミュニケーションについて，年代別にみると，『している』との回答は 40 代～70 代で７割前後と高くなっている。

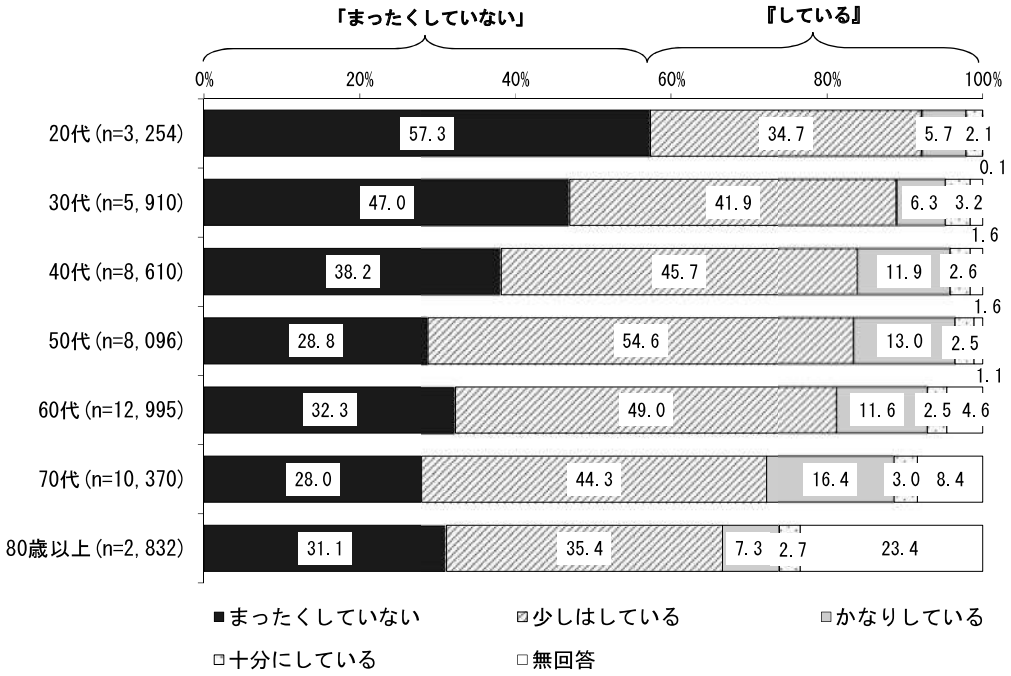
【図表　近隣の人とのコミュニケーション（生活形態別）】



近隣の人とのコミュニケーションについて，生活形態別にみると，『している』との回答は農林漁業で約８割と他の生活形態に比べ高くなっている。

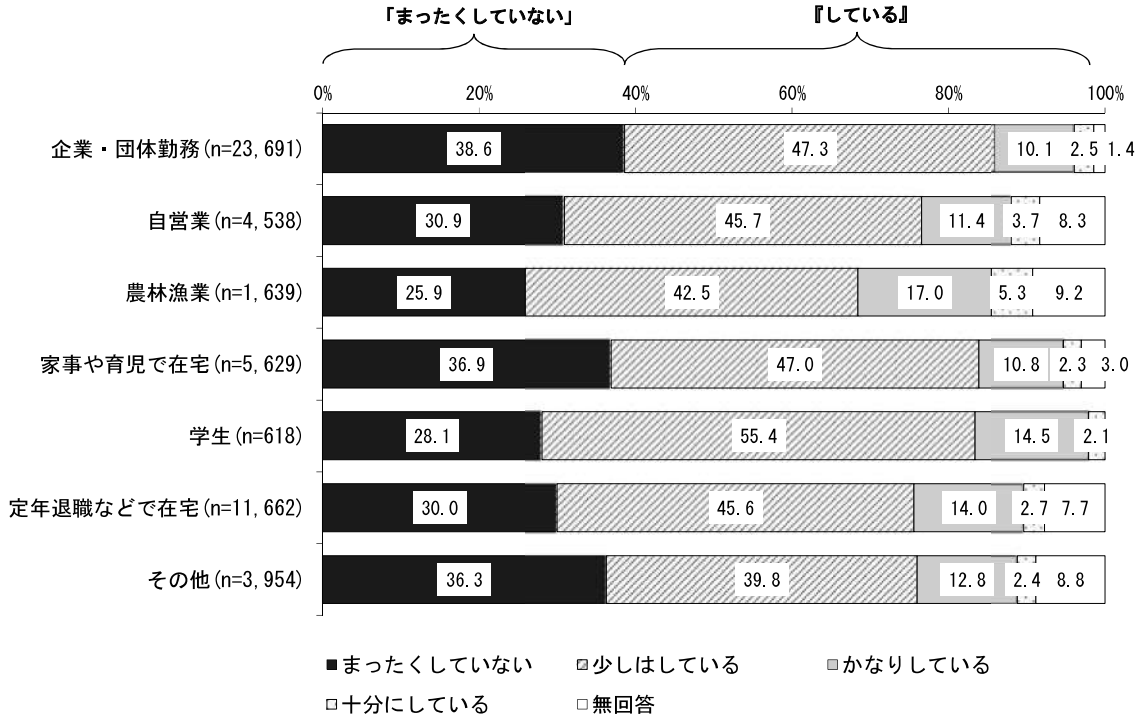
（10）防災・減災に関わる情報収集

【図表　防災・減災に関わる情報収集（年代別）】



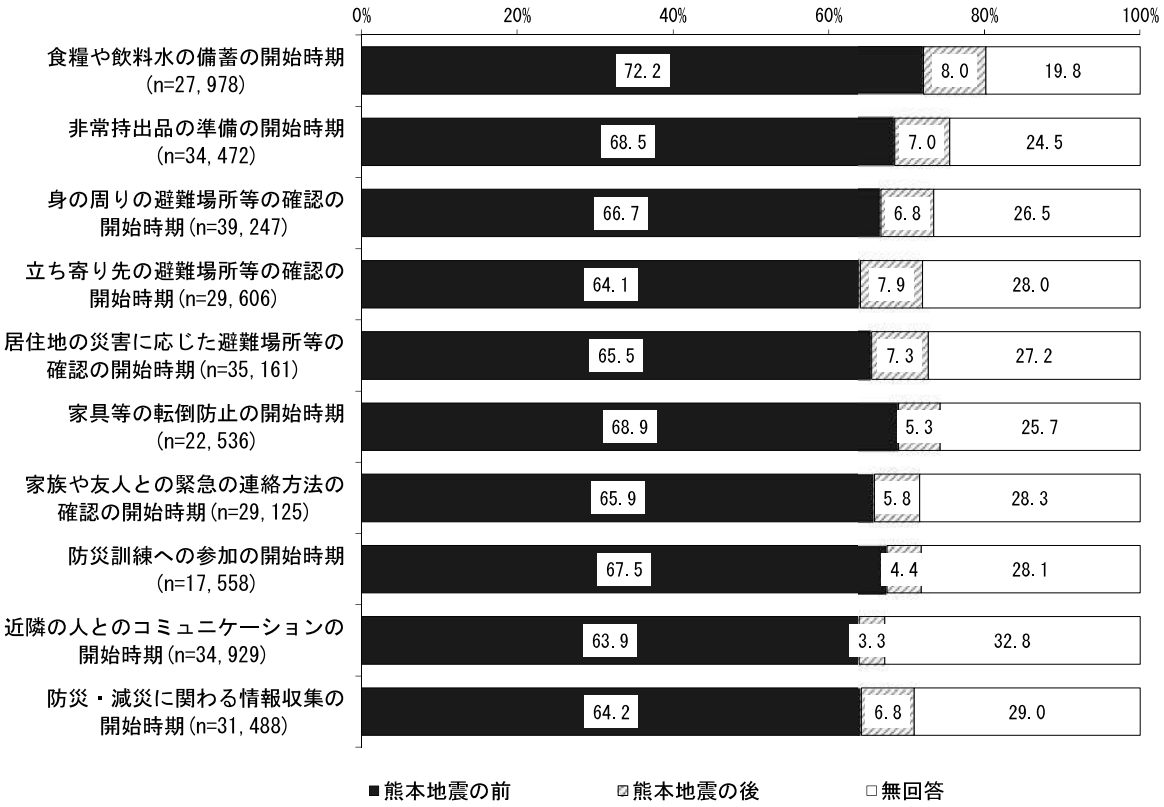
防災・減災に関わる情報収集について，年代別にみると，『している』との回答は 50 代で約７割，60 代，70 代で６割台半ばと高くなっている。

【図表　防災・減災に関わる情報収集（生活形態別）】



防災・減災に関わる情報収集について，生活形態別にみると，『している』との回答は学生で７割超，農林漁業で６割台半ばと高くなっている。

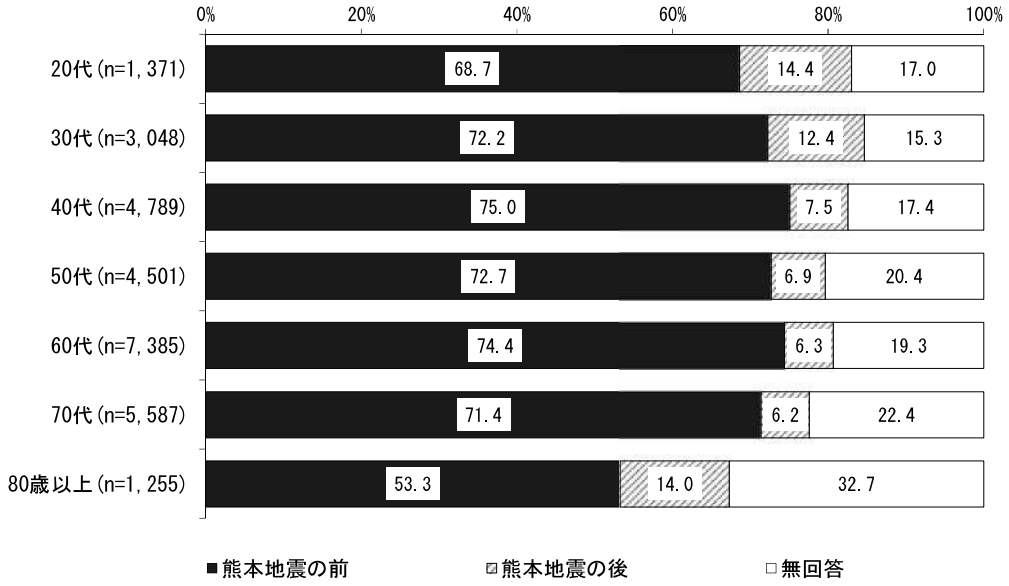
問 19-２　また，その「災害への備え」は，今年４月に起こった熊本地震の前からですか，それとも熊本地震の後からですか。「前」，「後」のいずれかを○で囲んでください。



災害への備えの開始時期について，「熊本地震の前」との回答はすべての項目で６割台半ばから７割超と高くなっている。

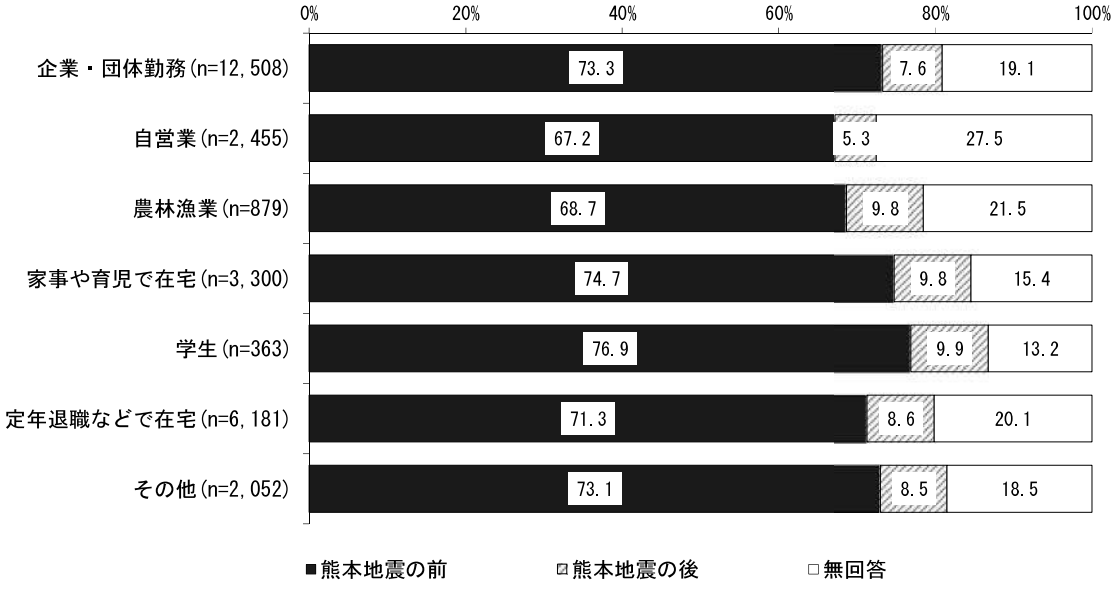
（１）食糧や飲料水の備蓄の開始時期

【図表　食糧や飲料水の備蓄の開始時期（年代別）】



食糧や飲料水の備蓄の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 40 代，60 代で７割台半ばと高く，80 歳以上で５割台半ばと低くなっている。

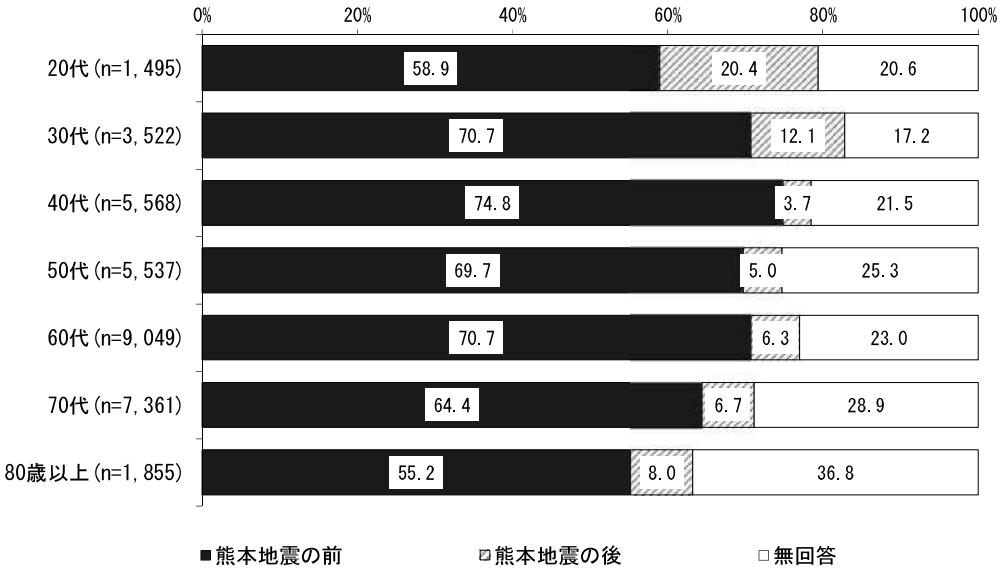
【図表　食糧や飲料水の備蓄の開始時期（生活形態別）】



食糧や飲料水の備蓄の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答はすべての生活形態において７割前後と高くなっている。

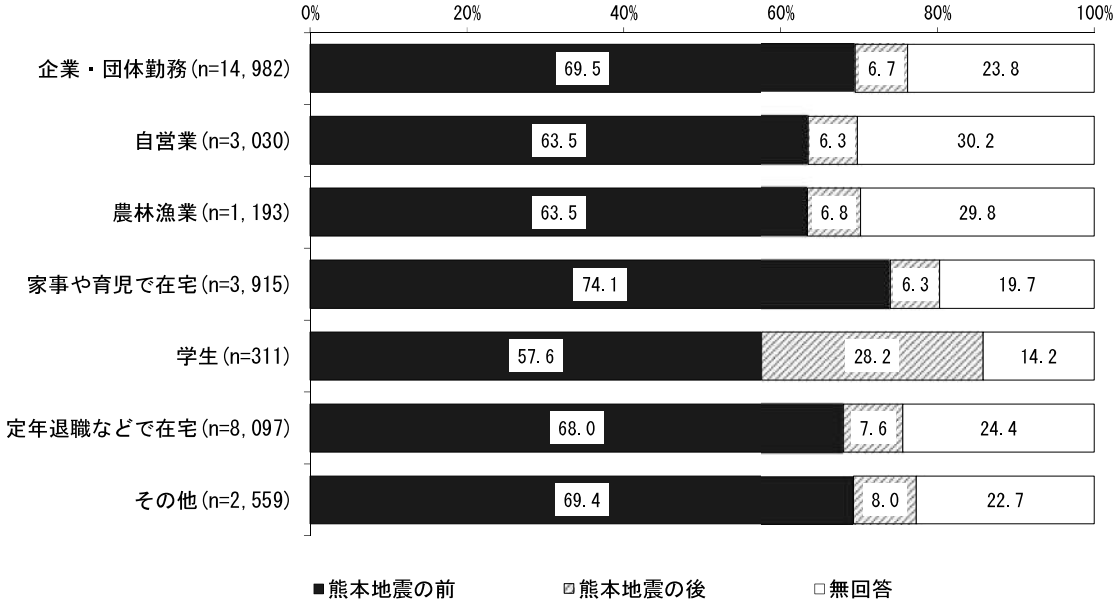
（２）非常持出品の準備の開始時期

【図表　非常持出品の準備の開始時期（年代別）】



非常持出品の準備の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 40 代で７割台半ばと高く，20 代，80 歳以上で５割台と低くなっている。

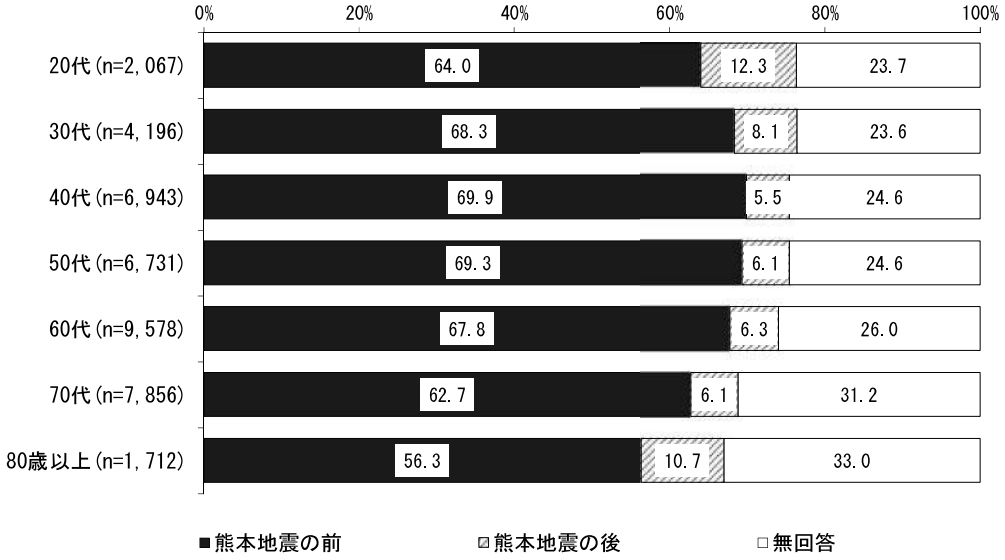
【図表　非常持出品の準備の開始時期（生活形態別）】



非常持出品の準備の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答は家事や育児で在宅で７割台半ばと高くなっている。

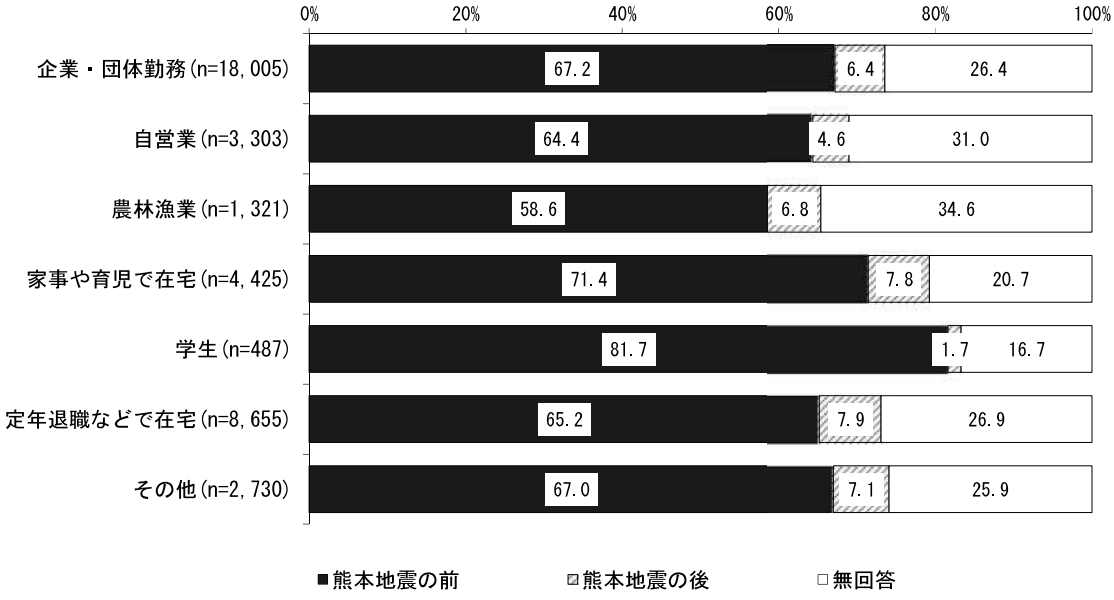
（３）身の周りの避難場所等の確認の開始時期

【図表　身の周りの避難場所等の確認の開始時期（年代別）】



身の周りの避難場所等の確認の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 30 代～60 代で約７割と高くなっている。

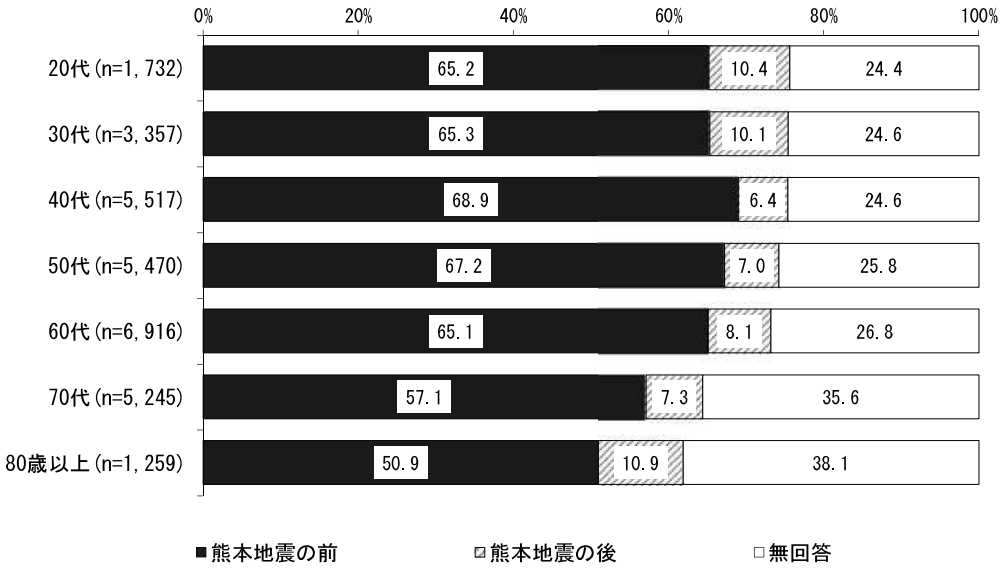
【図表　身の周りの避難場所等の確認の開始時期（生活形態別）】



身の周りの避難場所等の確認の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答は学生で８割超，家事や育児で在宅で７割超と高くなっている。

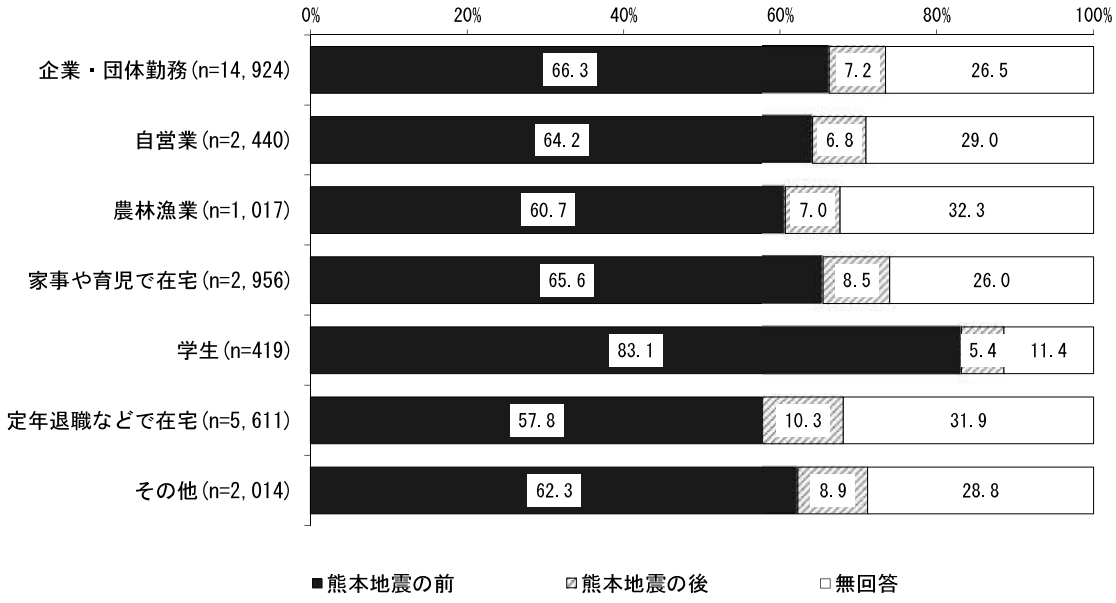
（４）立ち寄り先の避難場所等の確認の開始時期

【図表　立ち寄り先の避難場所等の確認の開始時期（年代別）】



立ち寄り先の避難場所等の確認の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 40 代，50 代で約７割と高く，80 歳以上で約５割と低くなっている。

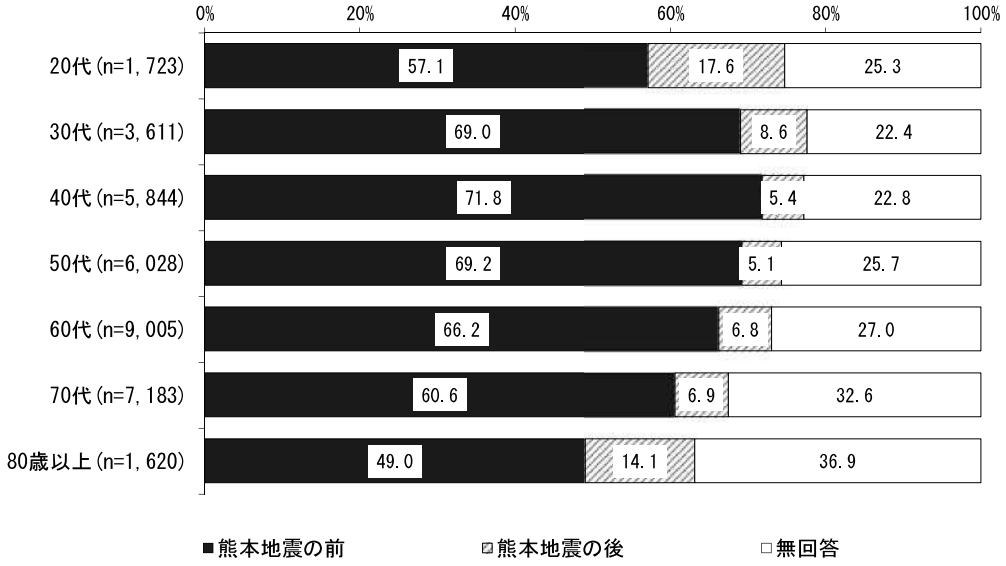
【図表　立ち寄り先の避難場所等の確認の開始時期（生活形態別）】



立ち寄り先の避難場所等の確認の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答は学生で８割台半ばと他の生活形態に比べ高くなっている。

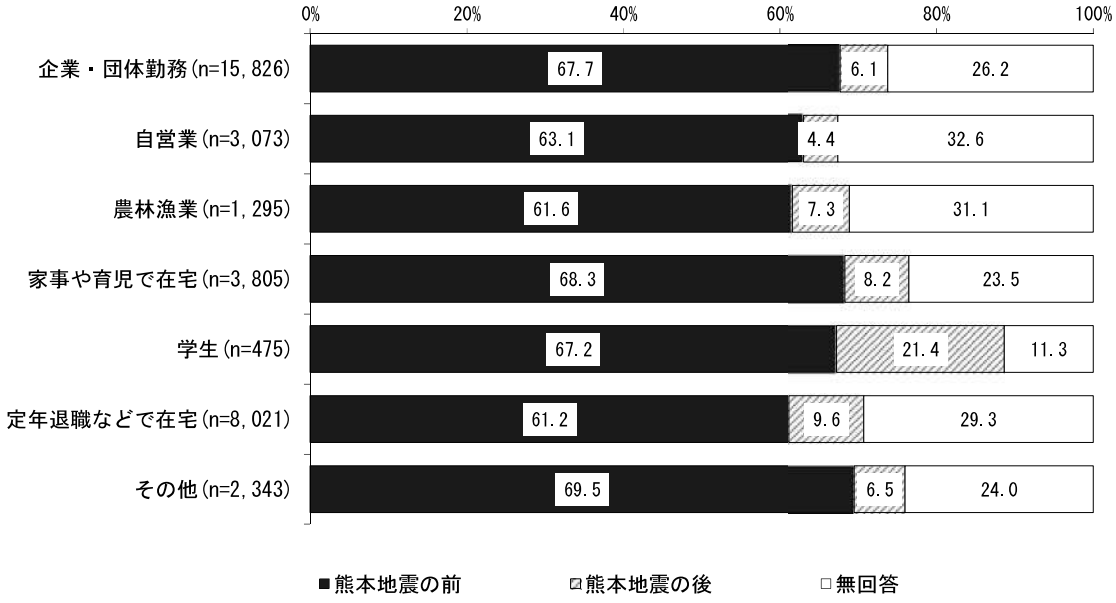
（５）居住地の災害に応じた避難場所等の確認の開始時期

【図表　居住地の災害に応じた避難場所等の確認の開始時期（年代別）】



居住地の災害に応じた避難場所等の確認の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 30 代～50 代で７割前後と高く，80 歳以上で約５割と低くなっている。

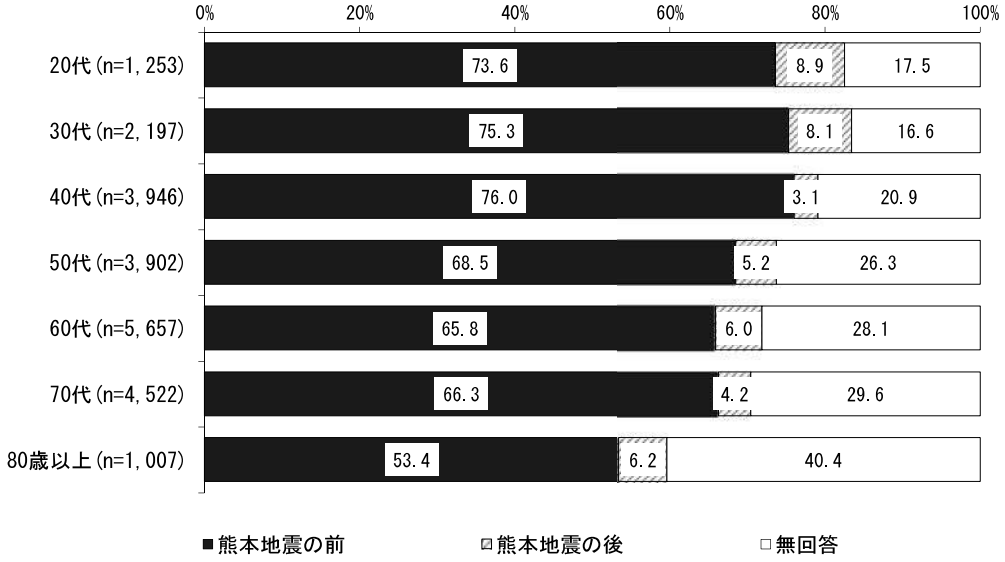
【図表　居住地の災害に応じた避難場所等の確認の開始時期（生活形態別）】



居住地の災害に応じた避難場所等の確認の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅，学生で約７割と高くなっている。

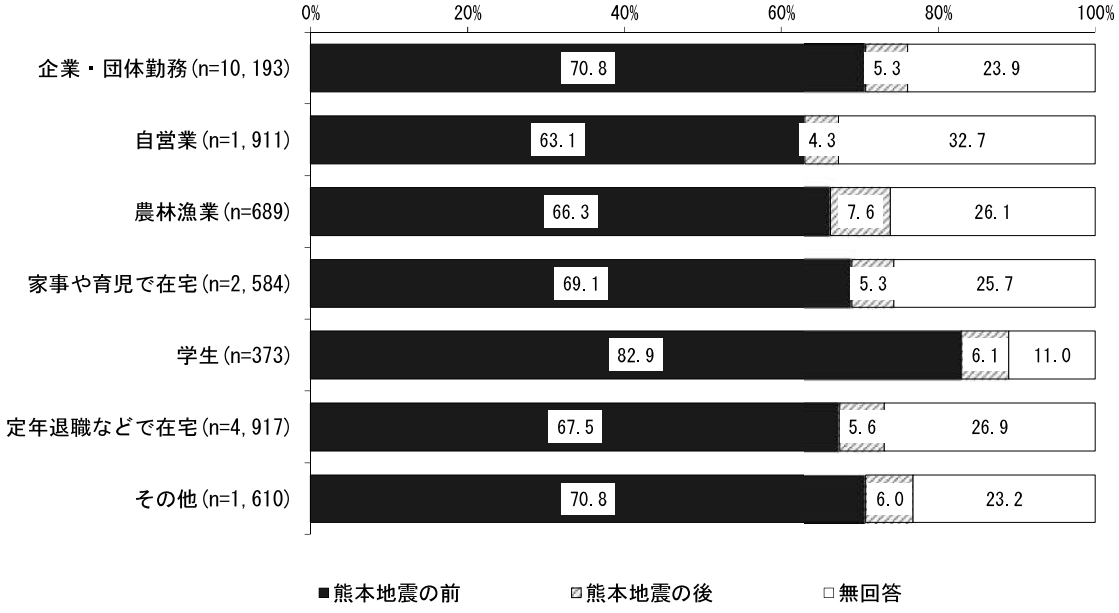
（６）家具等の転倒防止の開始時期

【図表　家具等の転倒防止の開始時期（年代別）】



家具等の転倒防止の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 20 代～40 代で７割台半ばと高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

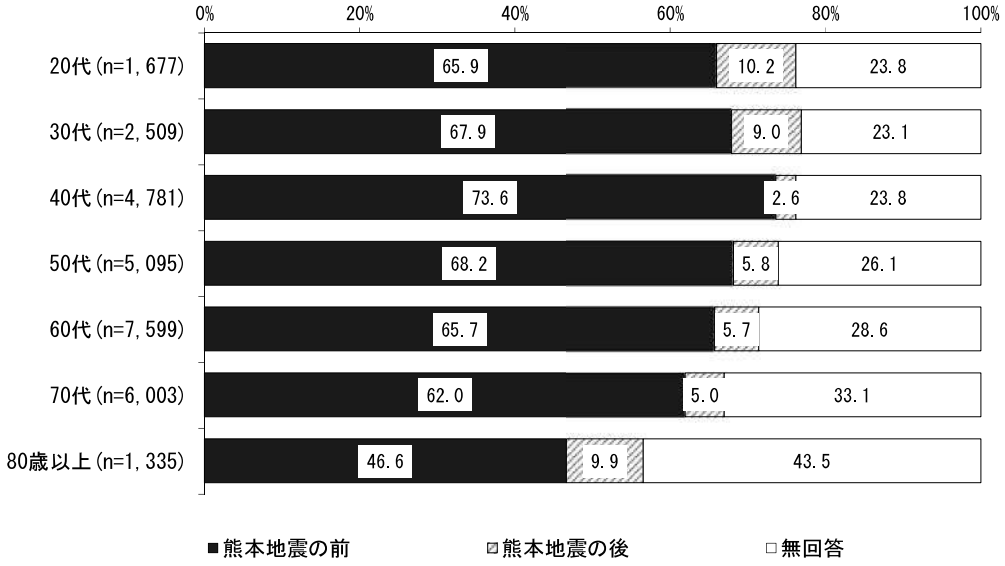
【図表　家具等の転倒防止の開始時期（生活形態別）】



家具等の転倒防止の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答は学生で８割超と高くなっている。

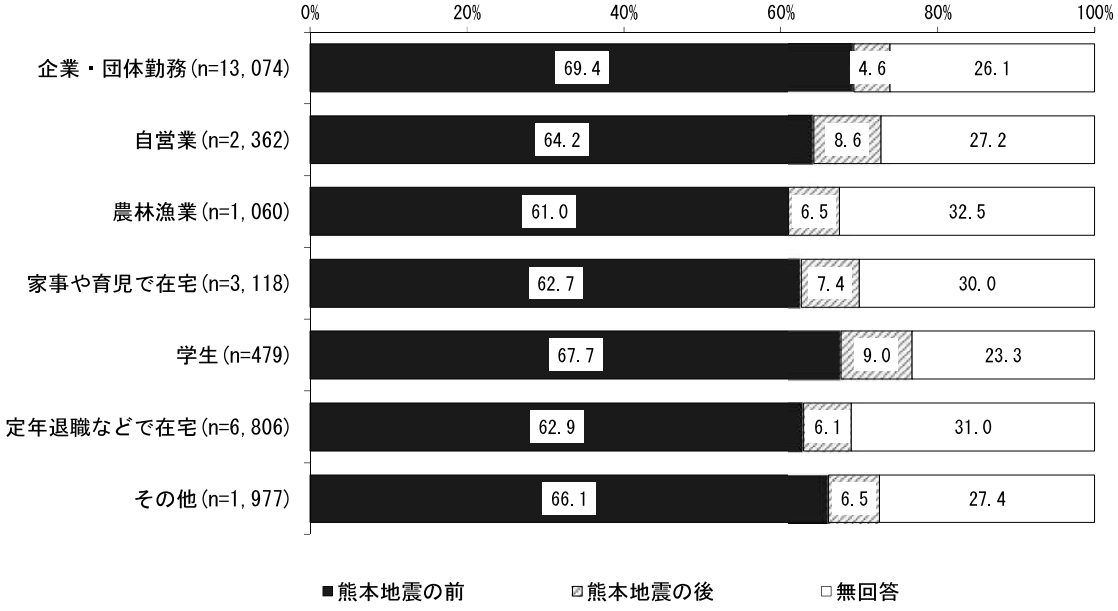
（７）家族や友人との緊急の連絡方法の確認の開始時期

【図表　家族や友人との緊急の連絡方法の確認の開始時期（年代別）】



家族や友人との緊急の連絡方法の確認の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 40 代で７割台半ばと高く，80 歳以上で４割台半ばと低くなっている。

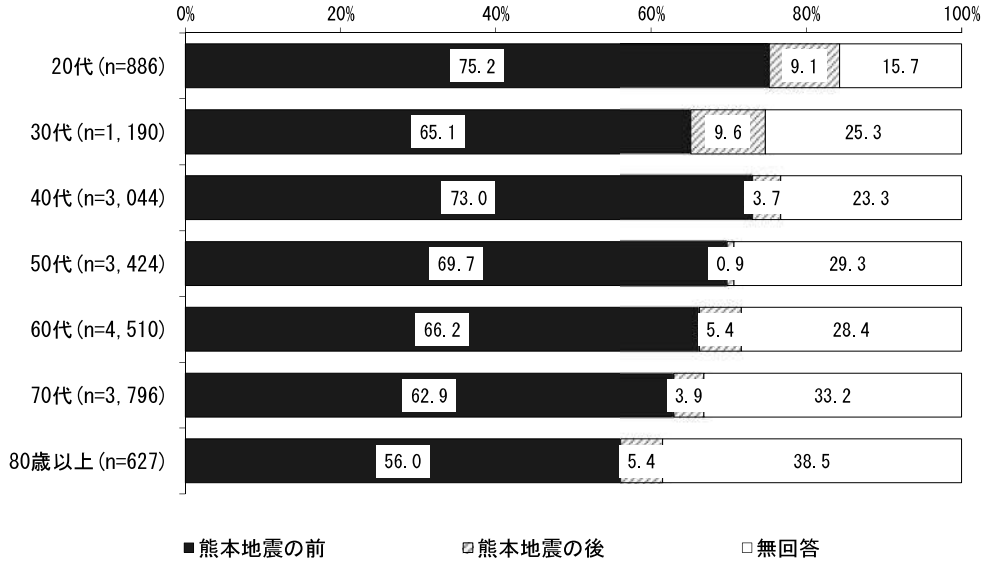
【図表　家族や友人との緊急の連絡方法の確認の開始時期（生活形態別）】



家族や友人との緊急の連絡方法の確認の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答はすべての生活形態において６割台と大きな差はみられない。

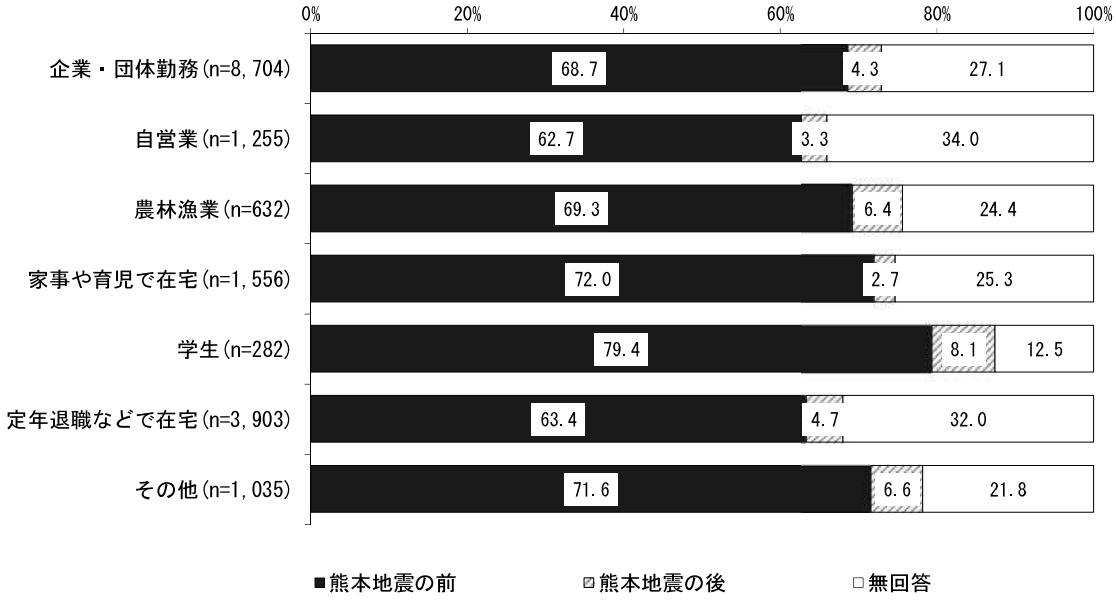
（８）防災訓練への参加の開始時期

【図表　防災訓練への参加の開始時期（年代別）】



防災訓練への参加の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 20 代，40 代で７割台半ばと高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

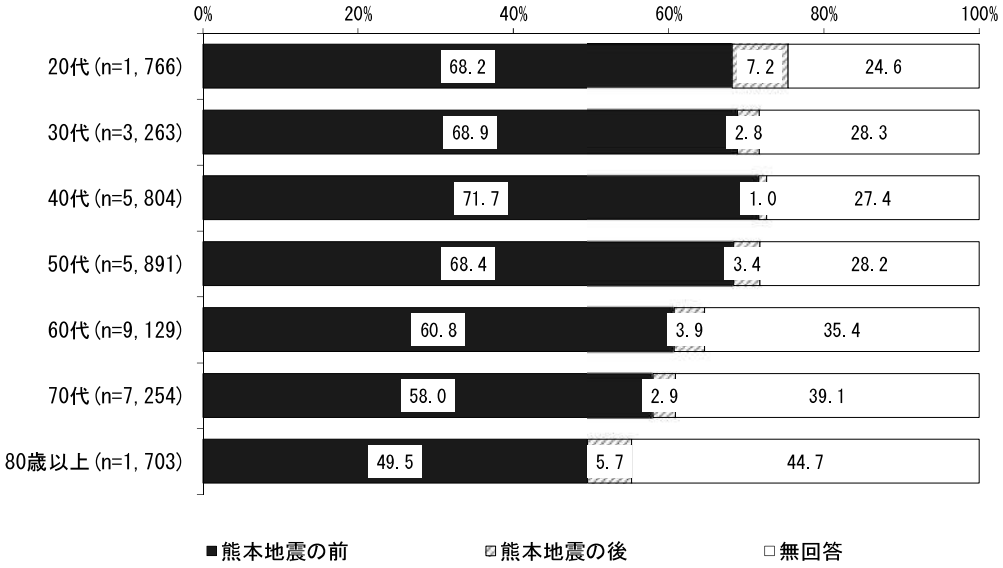
【図表　防災訓練への参加の開始時期（生活形態別）】



防災訓練への参加の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答は学生で約８割と高くなっている。

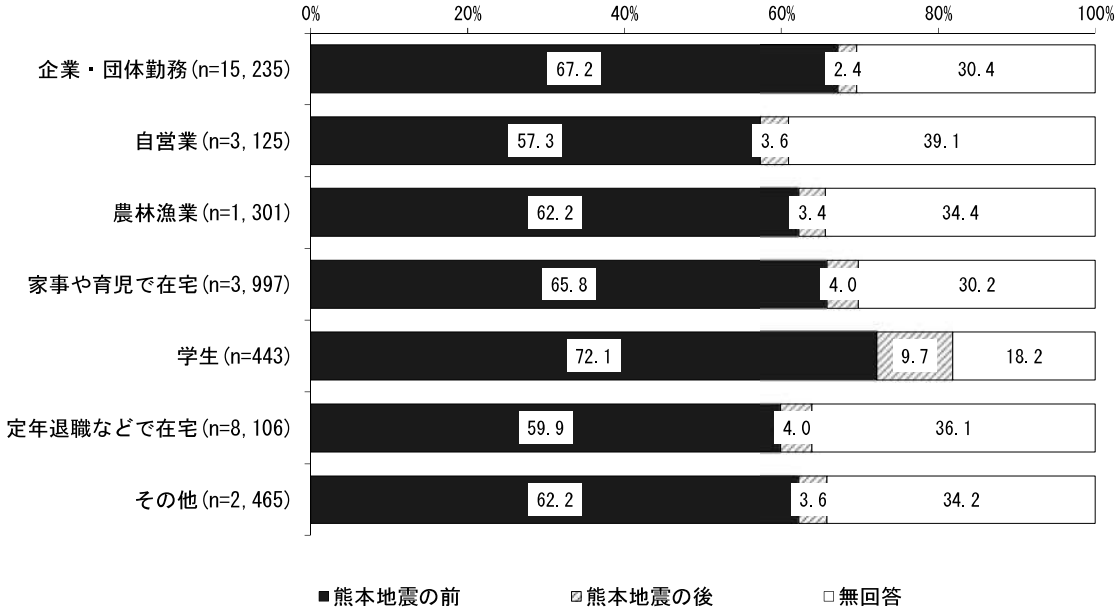
（９）近隣の人とのコミュニケーションの開始時期

【図表　近隣の人とのコミュニケーションの開始時期（年代別）】



近隣の人とのコミュニケーションの開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は 20 代～50 代で７割前後と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

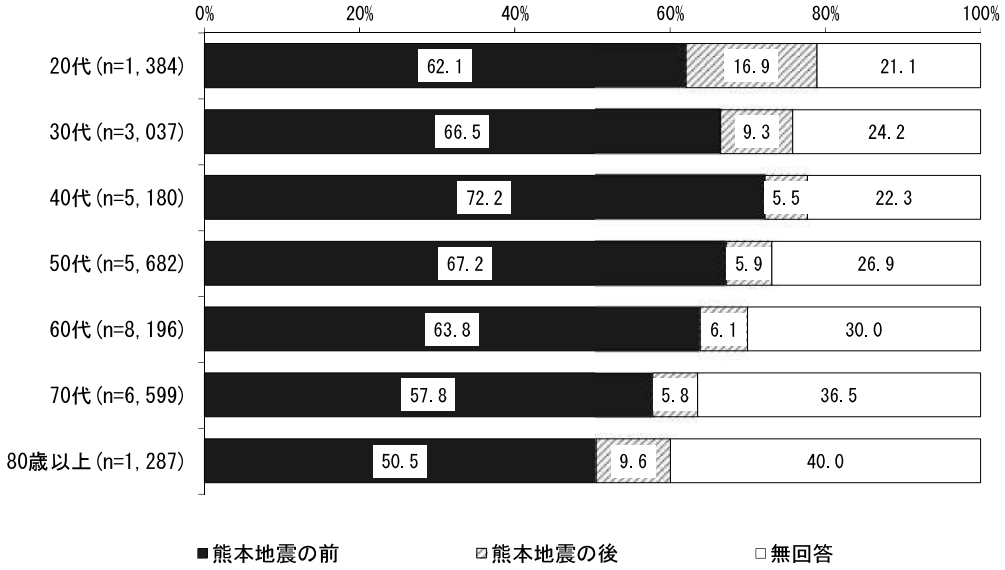
【図表　近隣の人とのコミュニケーションの開始時期（生活形態別）】



近隣の人とのコミュニケーションの開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答は学生で７割超と高くなっている。

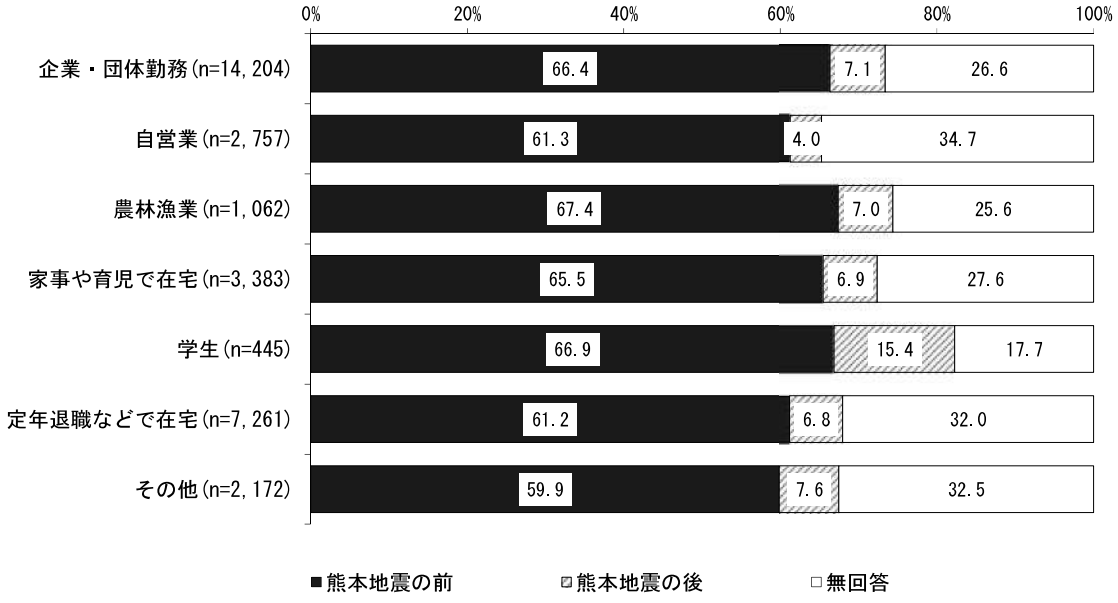
（10）防災・減災に関わる情報収集の開始時期

【図表　防災・減災に関わる情報収集の開始時期（年代別）】



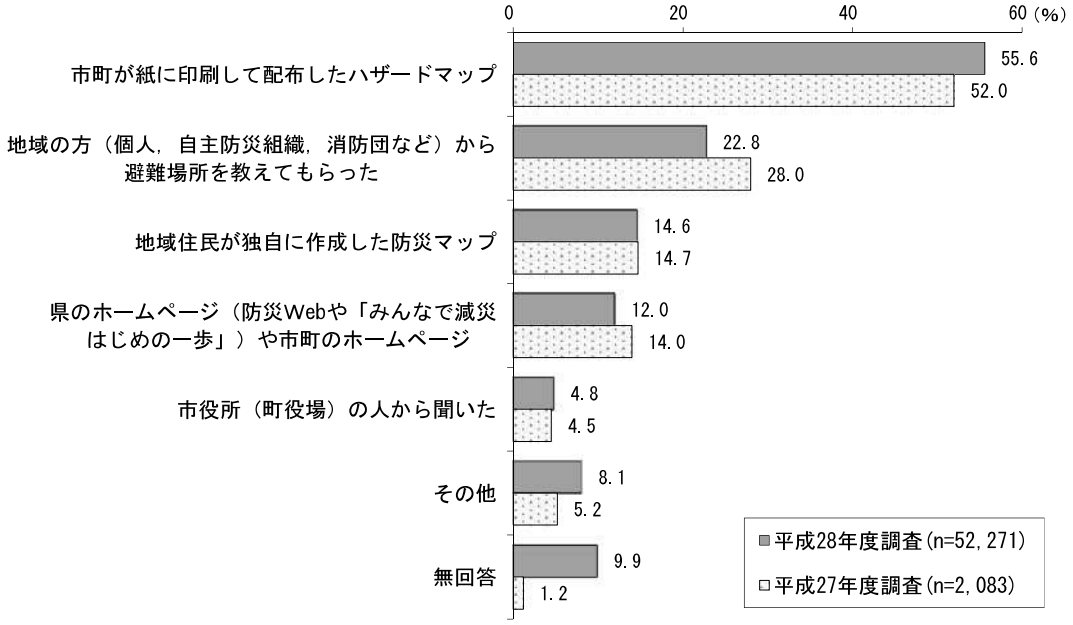
防災・減災に関わる情報収集の開始時期について，年代別にみると，「熊本地震の前」との回答は40代で７割超と高く，80歳以上で約５割と低くなっている。

【図表　防災・減災に関わる情報収集の開始時期（生活形態別）】



防災・減災に関わる情報収集の開始時期について，生活形態別にみると，「熊本地震の前」との回答はすべての生活形態において６割前後と大きな差はみられない。

問 20　避難場所は何で確認しましたか。（○はいくつでも）



避難場所の確認方法について,「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」との回答が 55.6%と最も高く，次いで「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった」(22.8%),「地域住民が独自に作成した防災マップ」(14.6%）などの順となっている。

経年比較すると，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった」との回答は平成 28 年度調査（22.8%）が平成 27 年度調査（28.0%）を 5.2 ポイント下回っている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

- 自己判断（51 件）
- 町内会・自治会・町内放送等（42 件）
- 看板・標識等（41 件）
- 家族（27 件）等

【図表　避難場所の確認方法（年代別）】

（%）

		市町が紙に印刷して配布したハザードマップ	県のホームページ（防災Webや「みんなで減災　はじめの一歩」）や市町のホームページ	地域住民が独自に作成した防災マップ	地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	その他	無回答
全　体(n=52,271)		55.6	12.0	14.6	22.8	4.8	8.1	9.9
年代別	20代(n=3,254)	33.9	18.1	10.3	17.9	2.2	19.4	13.7
	30代(n=5,910)	39.2	22.5	10.0	19.2	3.1	13.7	9.5
	40代(n=8,610)	50.9	16.5	13.2	24.3	3.5	11.6	6.9
	50代(n=8,096)	64.5	14.4	12.1	23.3	5.1	6.0	4.1
	60代(n=12,995)	64.3	9.4	17.4	23.6	3.8	4.2	9.8
	70代(n=10,370)	61.2	3.9	18.2	23.6	8.2	5.2	12.3
	80歳以上(n=2,832)	43.0	4.1	14.8	24.2	6.4	7.1	23.1

避難場所の確認方法について，年代別にみると，「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」との回答がすべての年代で第１位となっており，50 代～70 代では６割を超え高くなっている。「県のホームページ（防災Web や『みんなで減災　はじめの一歩』）や市町のホームページ」との回答は 30 代で２割超，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった」との回答は 40 代～80 歳以上で２割台半ばと高くなっている。

【図表　避難場所の確認方法（性別）】

（%）

		市町が紙に印刷して配布したハザードマップ	県のホームページ（防災Webや「みんなで減災　はじめの一歩」）や市町のホームページ	地域住民が独自に作成した防災マップ	地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	その他	無回答
全　体(n=52,271)		55.6	12.0	14.6	22.8	4.8	8.1	9.9
性別	男性(n=23,878)	54.3	14.1	14.1	23.5	5.1	8.7	10.2
	女性(n=28,349)	56.8	10.2	14.9	22.2	4.5	7.6	9.7

避難場所の確認方法について，性別にみると，男女とも上位３項目は同様となっており，すべての項目において大きな差はみられない。

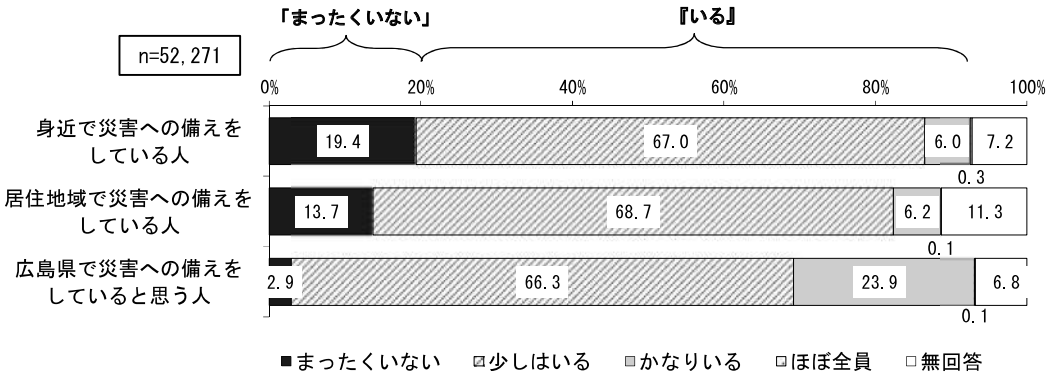
【図表　避難場所の確認方法（生活形態別）】

（%）

		市町が紙に印刷して配布したハザードマップ	県のホームページ（防災Webや「みんなで減災はじめの一歩」）や市町のホームページ	地域住民が独自に作成した防災マップ	地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	その他	無回答
全　体(n=52,271)		55.6	12.0	14.6	22.8	4.8	8.1	9.9
生活形態別	企業・団体勤務(n=23,691)	54.1	16.5	13.5	22.3	3.9	9.0	7.9
	自営業(n=4,538)	57.1	8.9	11.9	24.1	3.6	7.4	13.6
	農林漁業(n=1,639)	59.0	3.2	18.1	29.2	11.1	3.9	8.5
	家事や育児で在宅(n=5,629)	59.4	15.6	12.9	21.4	4.4	6.5	7.7
	学生(n=618)	45.0	14.8	9.1	25.9	0.2	18.8	6.0
	定年退職などで在宅(n=11,662)	59.1	5.8	19.0	22.9	6.7	5.4	12.8
	その他(n=3,954)	51.0	6.2	12.8	23.2	4.6	13.5	10.9

避難場所の確認方法について，生活形態別にみると，すべての生活形態で上位２項目は同様となっており，「市町が紙に印刷して配布したハザードマップ」との回答が最も高く，次いで，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった」が高くなっている。「地域住民が独自に作成した防災マップ」との回答は農林漁業，定年退職などで在宅で約２割と他の生活形態に比べ高くなっている。

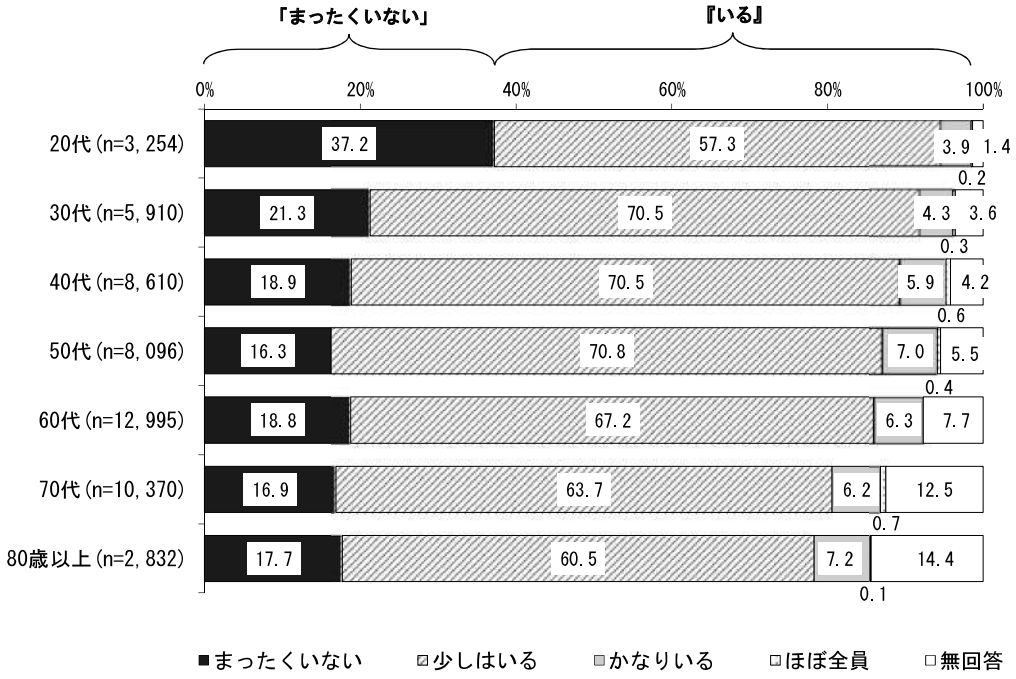
問 21　次の各項目について，該当する番号１つを○で囲んでください。



災害への備えをしている人の割合について，「まったくしていない」との回答は「身近で災害への備えをしている人の数」で約２割と高くなっている。一方，『いる』（「ほぼ全員」と「かなりいる」と「少しはいる」を合わせた割合）との回答は「広島県で災害への備えをしていると思う人の数」で約９割と高くなっている。

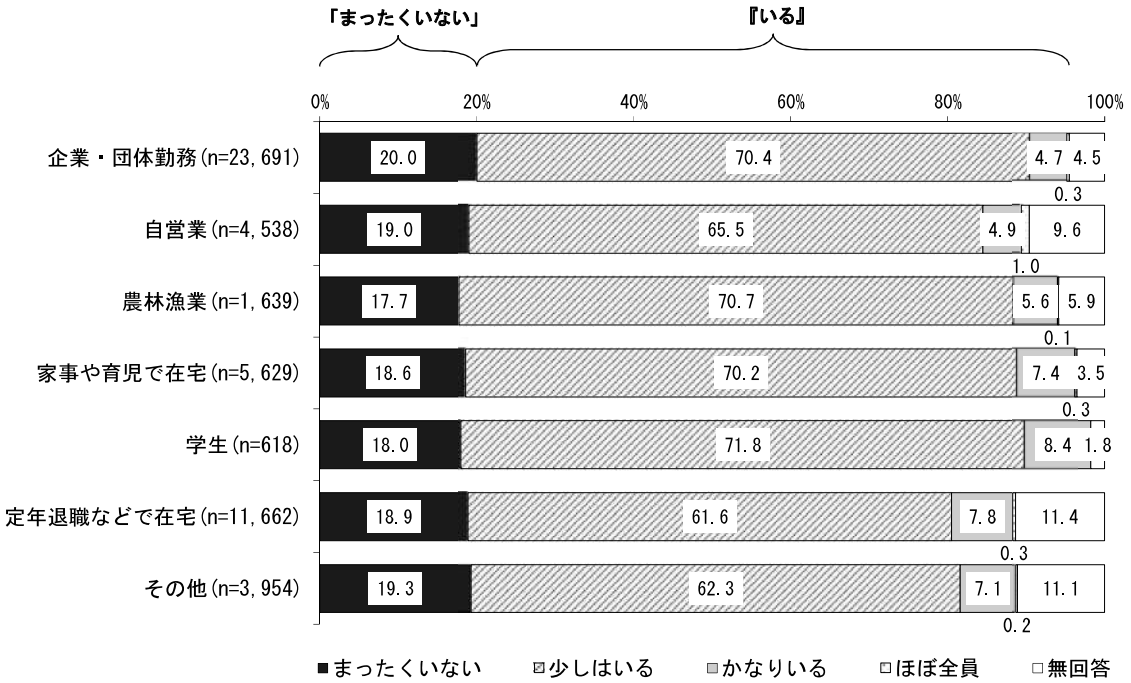
（１）身近で災害への備えをしている人

【図表　身近で災害への備えをしている人（年代別）】



身近で災害への備えをしている人について，年代別にみると，『いる』との回答は 40 代，50 代で約８割と高くなっている。

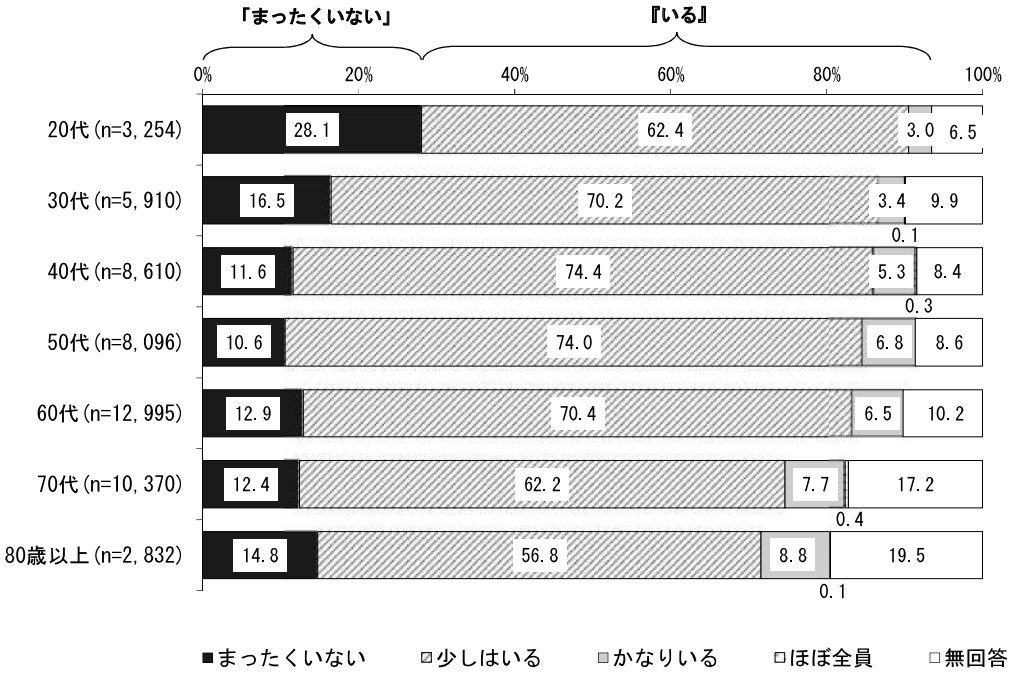
【図表　身近で災害への備えをしている人（生活形態別）】



身近で災害への備えをしている人について，生活形態別にみると，『いる』との回答は家事や育児で在宅，学生で８割前後と高くなっている。

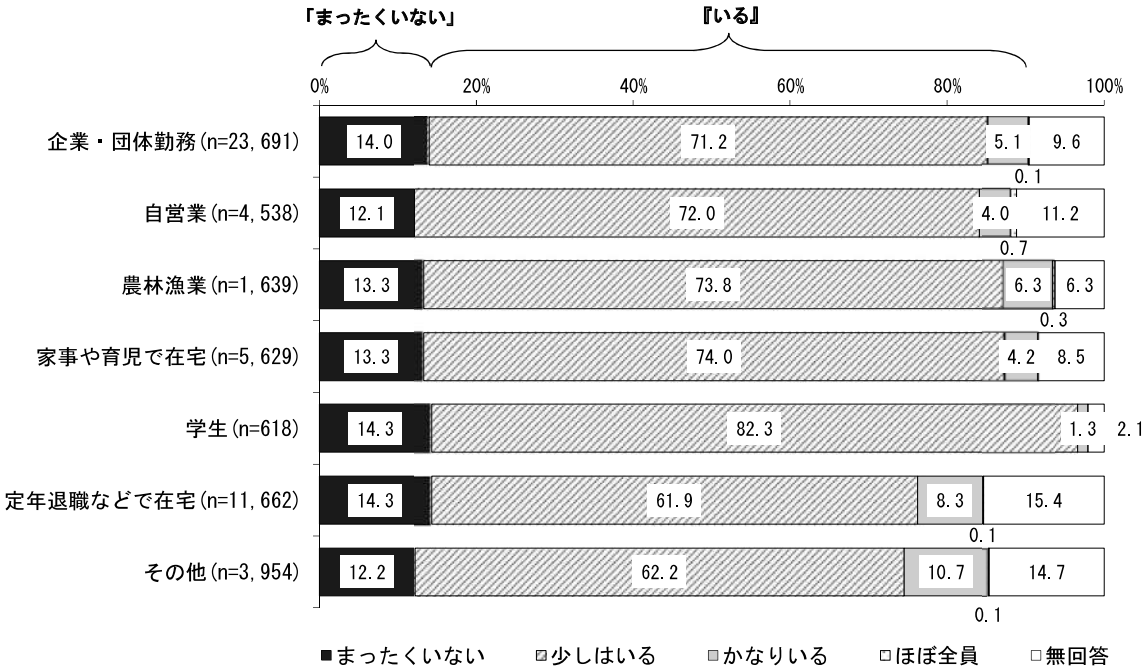
（２）居住地域で災害への備えをしている人

【図表　居住地域で災害への備えをしている人（年代別）】



居住地域で災害への備えをしている人について，年代別にみると，『いる』との回答は 40 代，50 代で約８割と高くなっている。

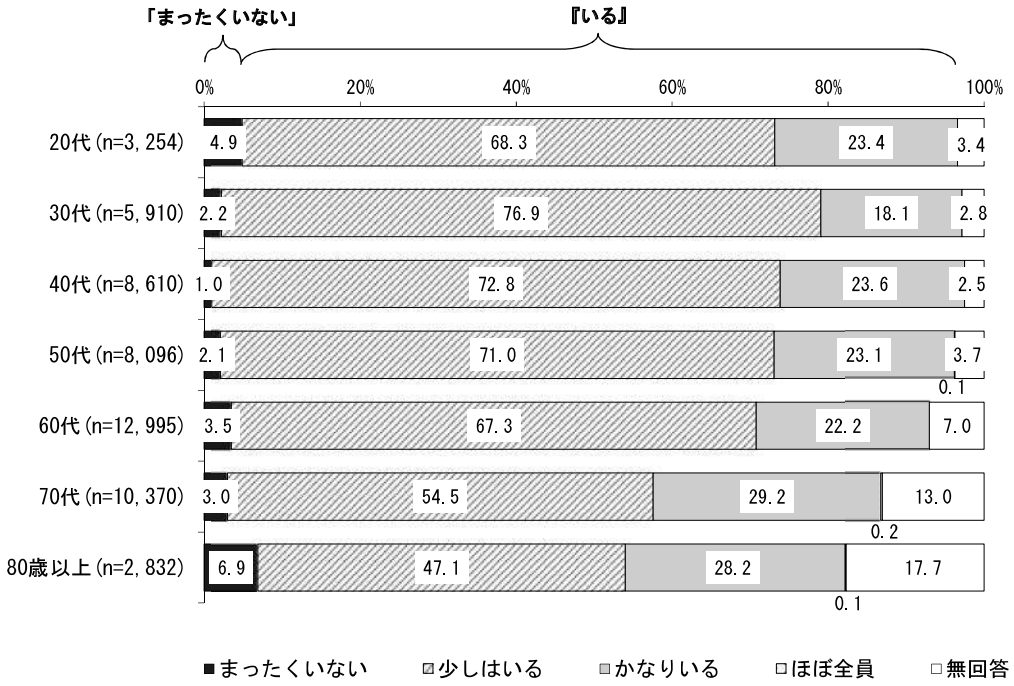
【図表　居住地域で災害への備えをしている人（生活形態別）】



居住地域で災害への備えをしている人について，生活形態別にみると，『いる』との回答は学生で８割台半ばと高く，定年退職などで在宅で約７割と低くなっている。

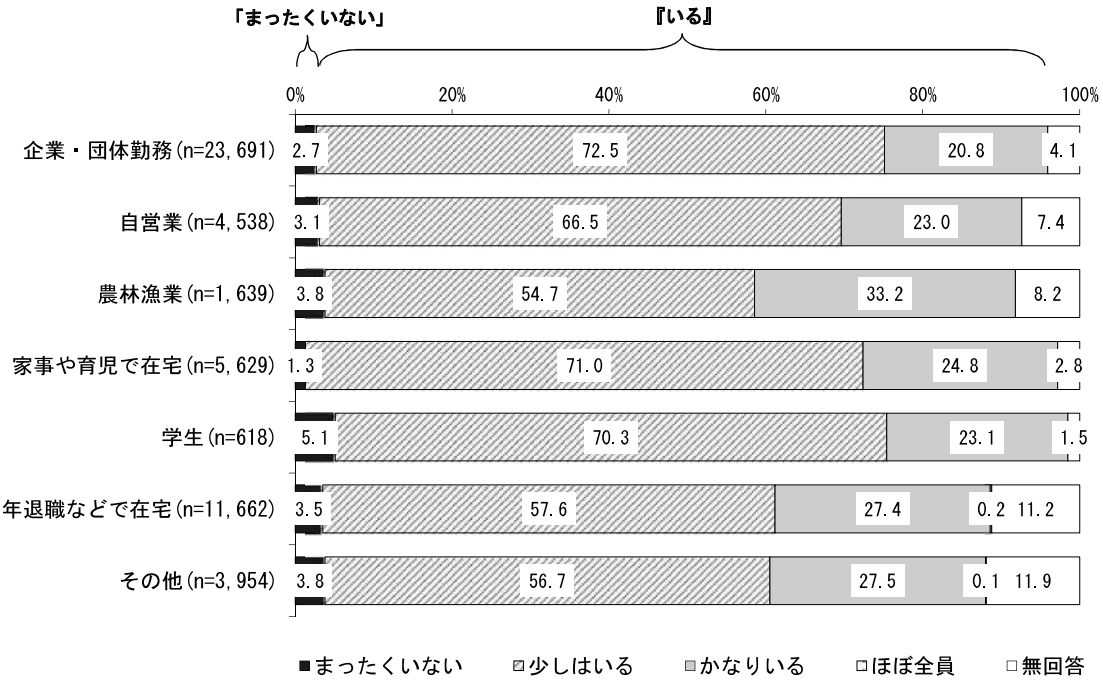
（３）広島県で災害への備えをしていると思う人

【図表　広島県で災害への備えをしていると思う人（年代別）】



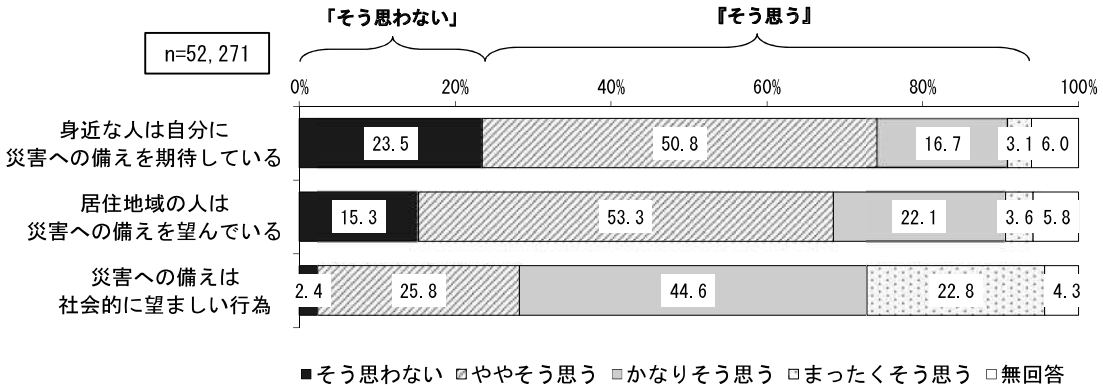
広島県で災害への備えをしていると思う人について，年代別にみると，『いる』との回答は 30 代～50 代で９割台半ばと高く，80 歳以上で７割台半ばと低くなっている。

【図表　広島県で災害への備えをしていると思う人（生活形態別）】



広島県で災害への備えをしていると思う人について，生活形態別にみると，『いる』との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅，学生で９割台半ばと高くなっている。

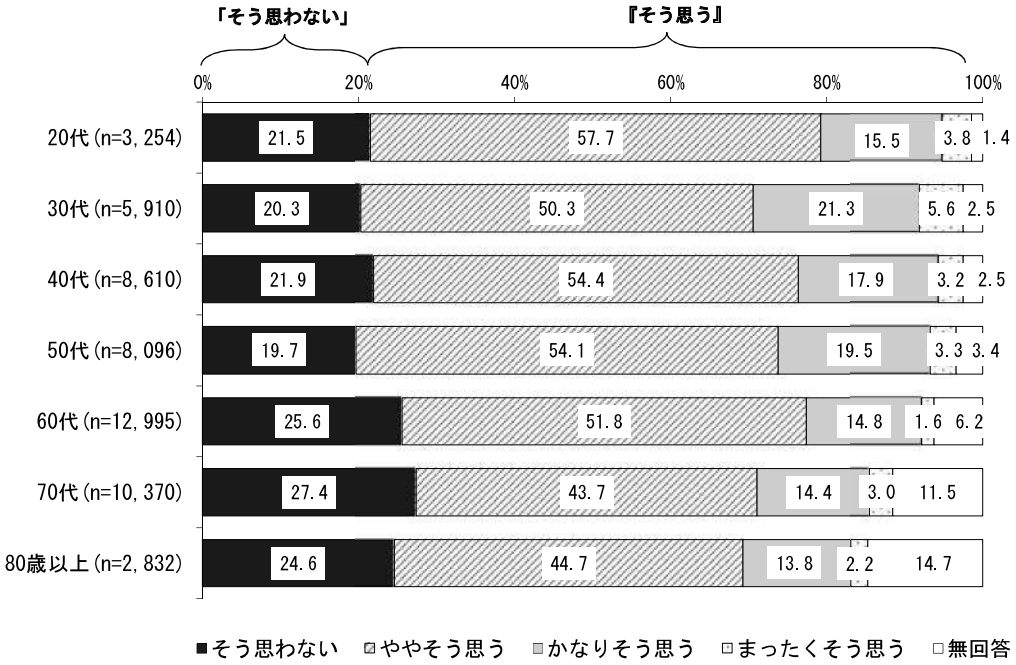
問 22　次の各項目について，該当する番号１つを○で囲んでください。



災害への備えの期待度について，「そう思わない」との回答は「身近な人は自分に災害への備えを期待している」との回答で２割台半ばと高くなっている。一方，『そう思う』（「まったくそう思う」と「かなりそう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合）との回答は「災害への備えは社会的に望ましい行為」で９割台半ばと高くなっている。

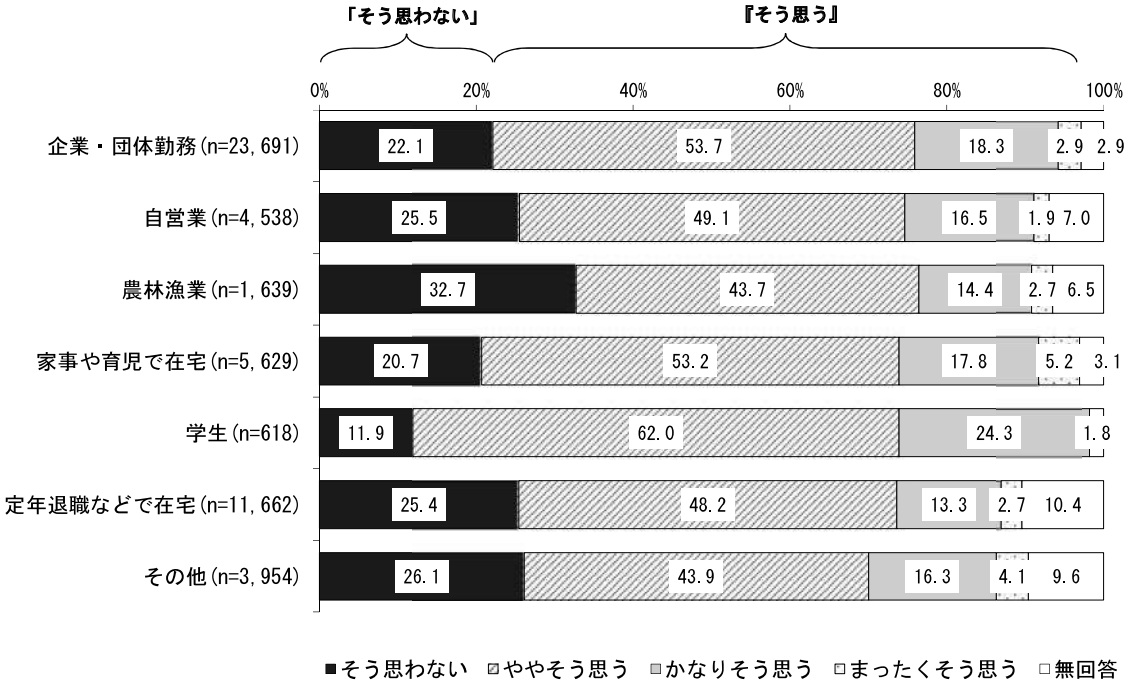
（１）身近な人は自分に災害への備えを期待している

【図表　身近な人は自分に災害への備えを期待している（年代別）】



身近な人は自分に災害への備えを期待しているという意見について，年代別にみると，『そう思う』との回答は 20 代，30 代で約８割と高く，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

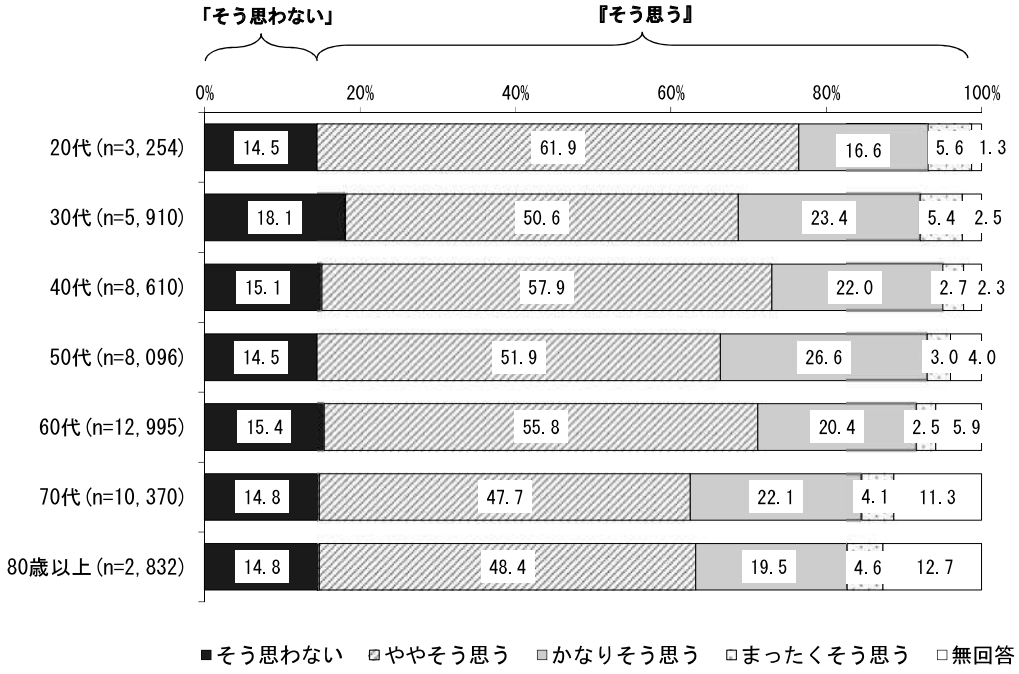
【図表　身近な人は自分に災害への備えを期待している（生活形態別）】



身近な人は自分に災害への備えを期待しているという意見について，生活形態別にみると，『そう思う』との回答は学生で８割台半ば，企業・団体勤務，家事や育児で在宅で７割台半ばと高くなっている。

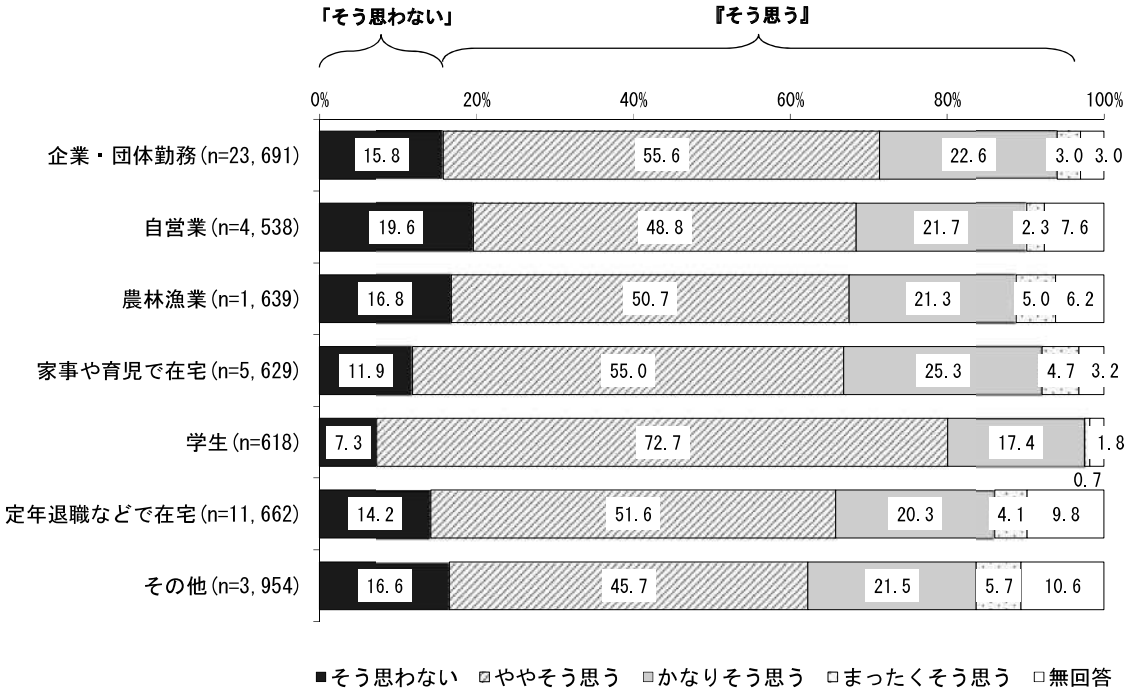
（２）居住地域の人は災害への備えを望んでいる

【図表　居住地域の人は災害への備えを望んでいる（年代別）】



居住地域の人は災害への備えを望んでいるという意見について，年代別にみると，『そう思う』との回答は20代で８割台半ばと高く，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

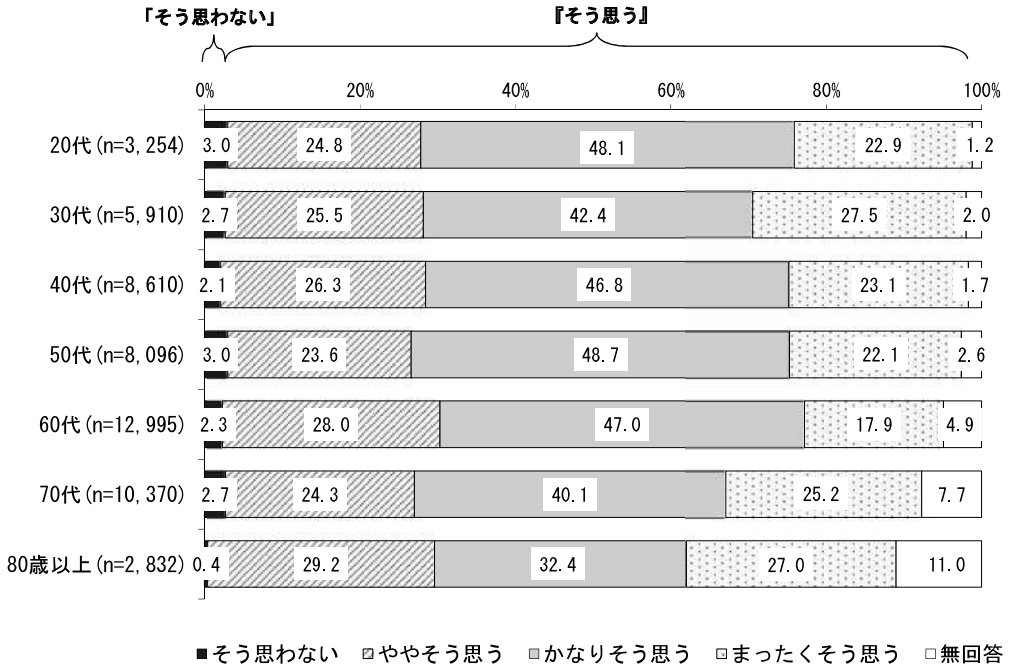
【図表　居住地域の人は災害への備えを望んでいる（生活形態別）】



居住地域の人は災害への備えを望んでいるという意見について，生活形態別にみると，『そう思う』との回答は家事や育児で在宅で８割台半ば，学生で約９割と高くなっている。

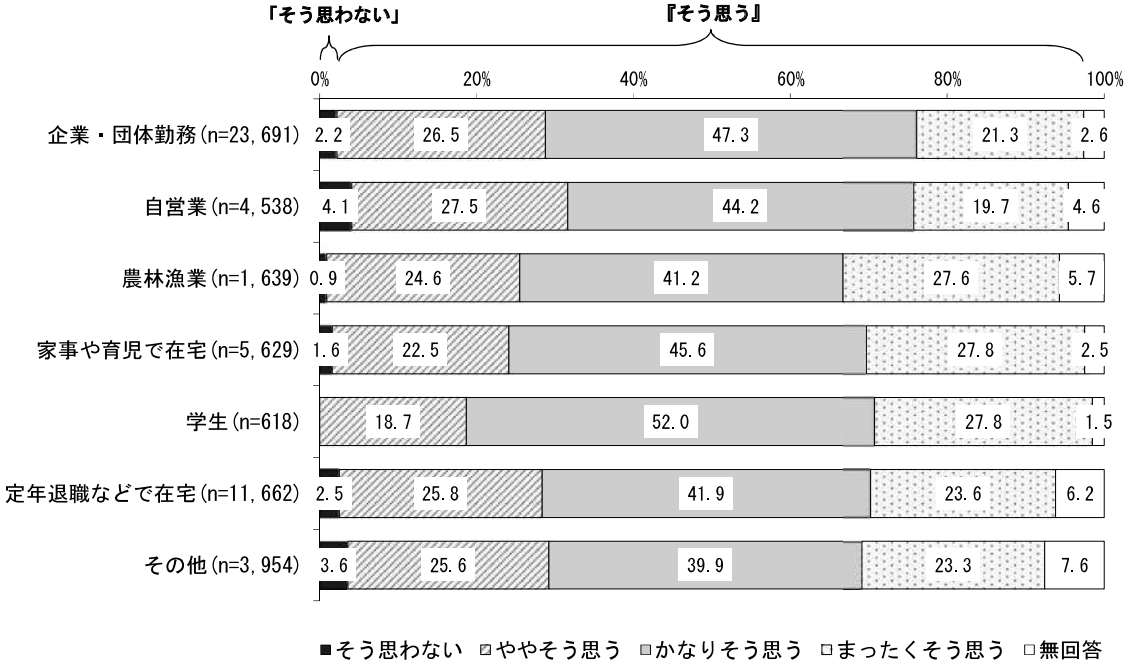
（３）災害への備えは社会的に望ましい行為

【図表　災害への備えは社会的に望ましい行為（年代別）】



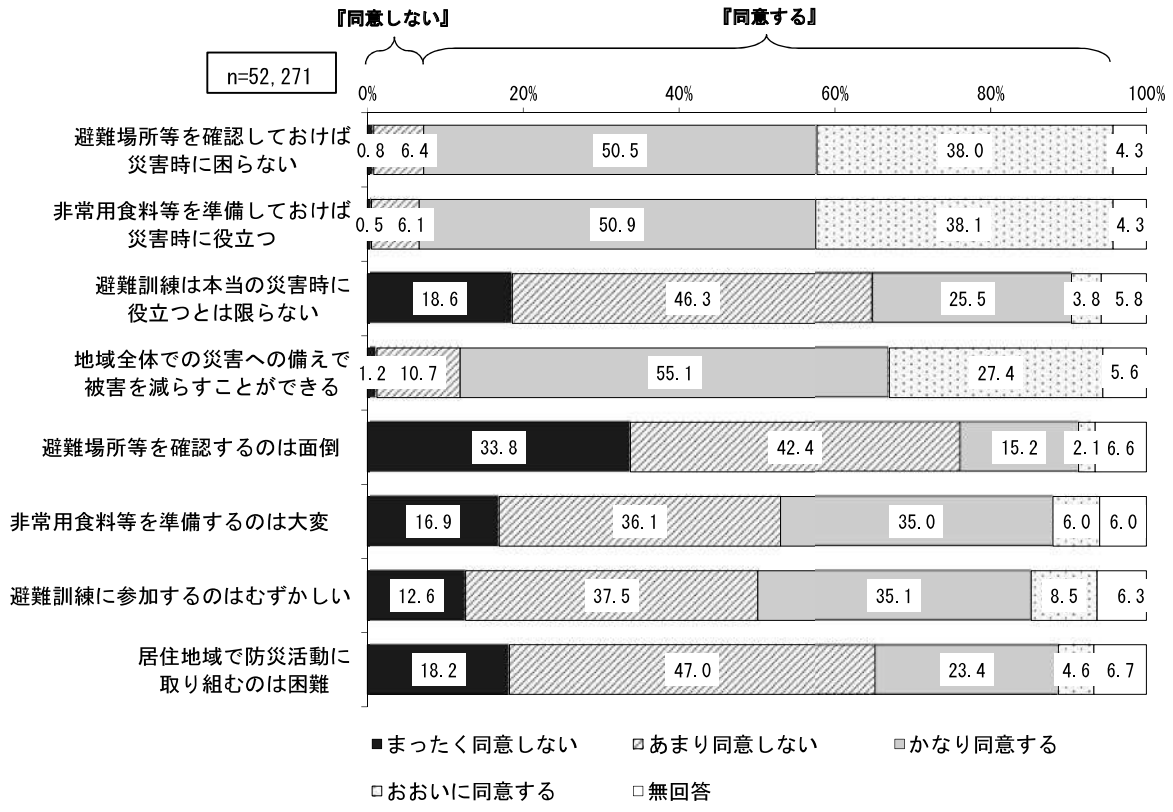
災害への備えは社会的に望ましい行為という意見について，年代別にみると，『そう思う』との回答はすべての年代において９割前後と高くなっている。

【図表　災害への備えは社会的に望ましい行為（生活形態別）】



災害への備えは社会的に望ましい行為という意見について，生活形態別にみると，『そう思う』との回答はすべての生活形態において９割台と高くなっている。

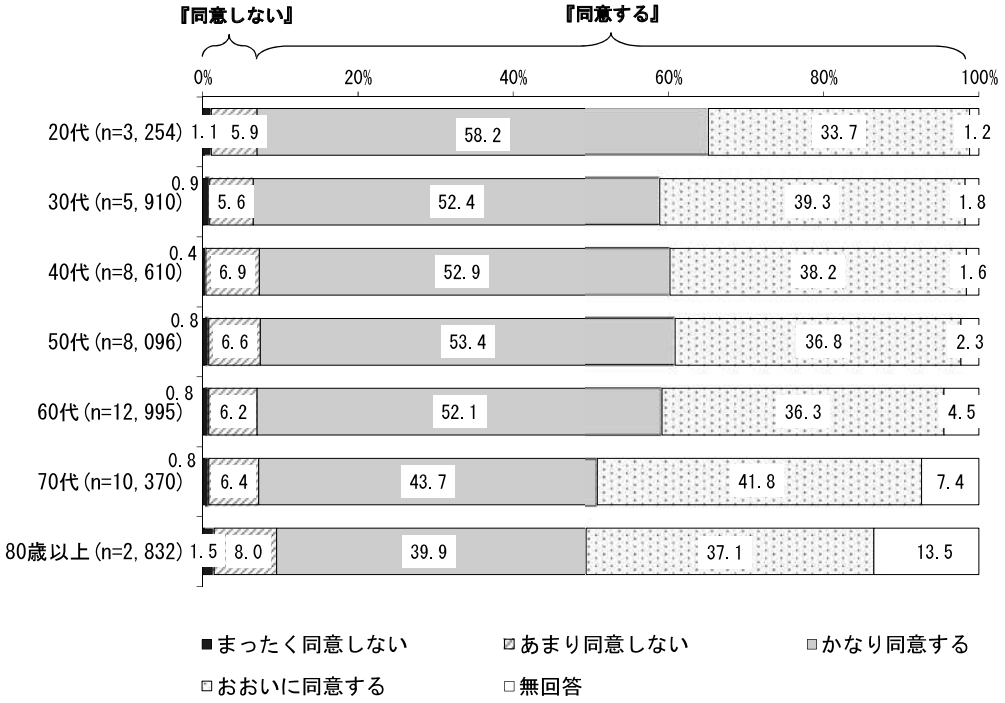
問 23　災害への備えについて，あなたはどう思いますか。下に挙げる考えに同意するかどうかをお答えください。該当する番号１つを○で囲んでください。



災害への備えの考え方について，『同意しない』（「まったく同意しない」と「あまり同意しない」を合わせた割合）との回答は「避難訓練は本当の災害時に役立つとは限らない」，「居住地域で防災活動に取り組むのは困難」で６割台半ば，「避難場所等を確認するのは面倒」で７割台半ばと高くなっている。一方，『同意する』（「おおいに同意する」と「かなり同意する」を合わせた割合）との回答は「避難場所等を確認しておけば災害時に困らない」，「非常用食料等を準備しておけば災害時に役立つ」で約９割と高くなっている。

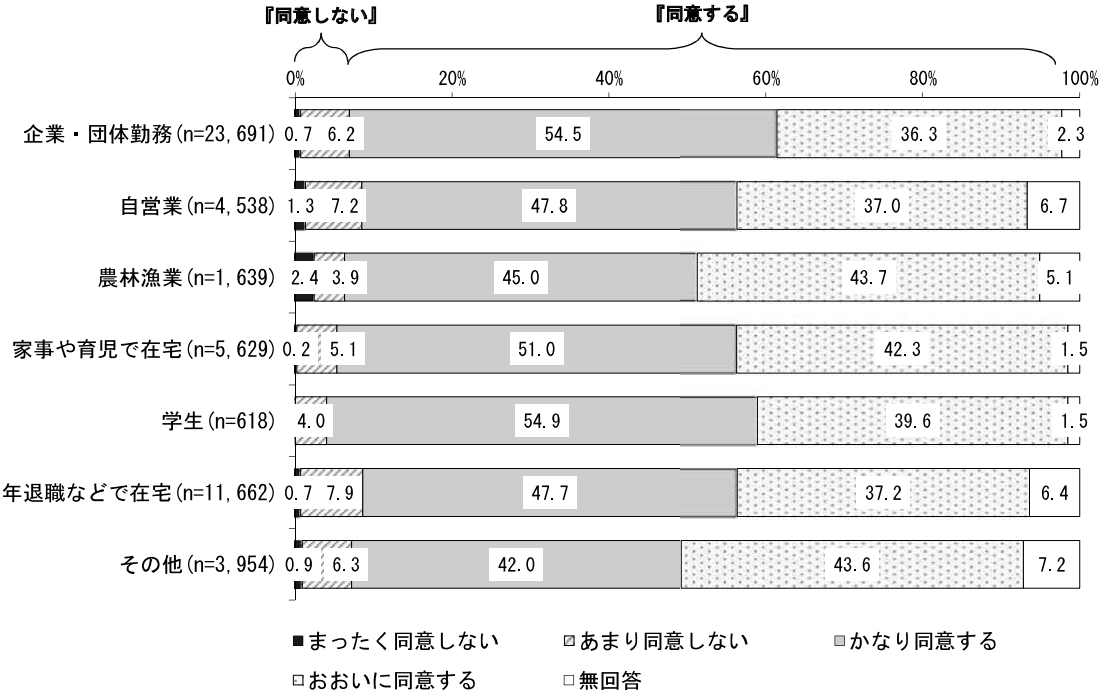
（１）避難場所等を確認しておけば災害時に困らない

【図表　避難場所等を確認しておけば災害時に困らない（年代別）】



避難場所等を確認しておけば災害時に困らないという意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は 20 代～40 代で９割超と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

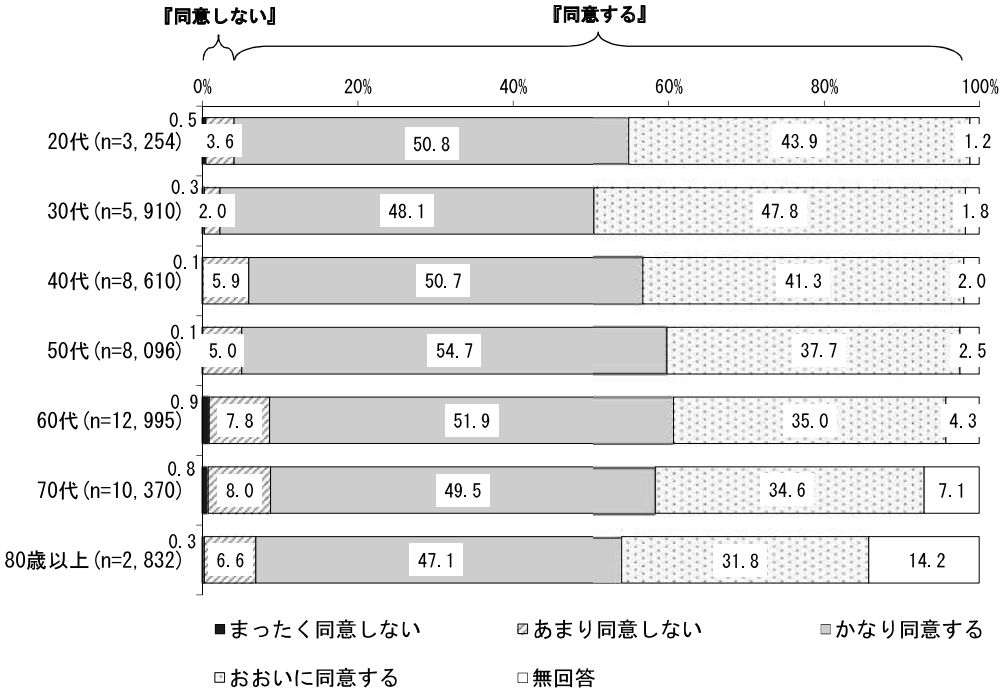
【図表　避難場所等を確認しておけば災害時に困らない（生活形態別）】



避難場所等を確認しておけば災害時に困らないという意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は家事や育児で在宅，学生で９割台半ばと高くなっている。

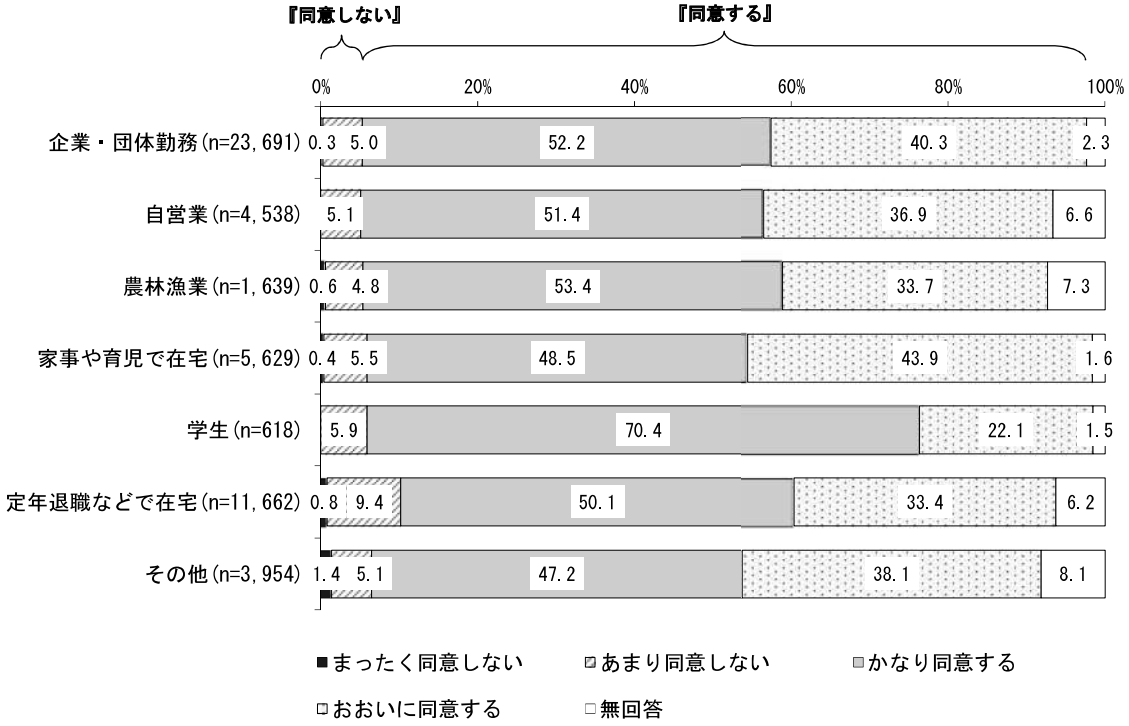
（２）非常用食料等を準備しておけば災害時に役立つ

【図表　非常用食料等を準備しておけば災害時に役立つ（年代別）】



非常用食料等を準備しておけば災害時に役立つという意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は 20 代，30 代で９割台半ばと高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

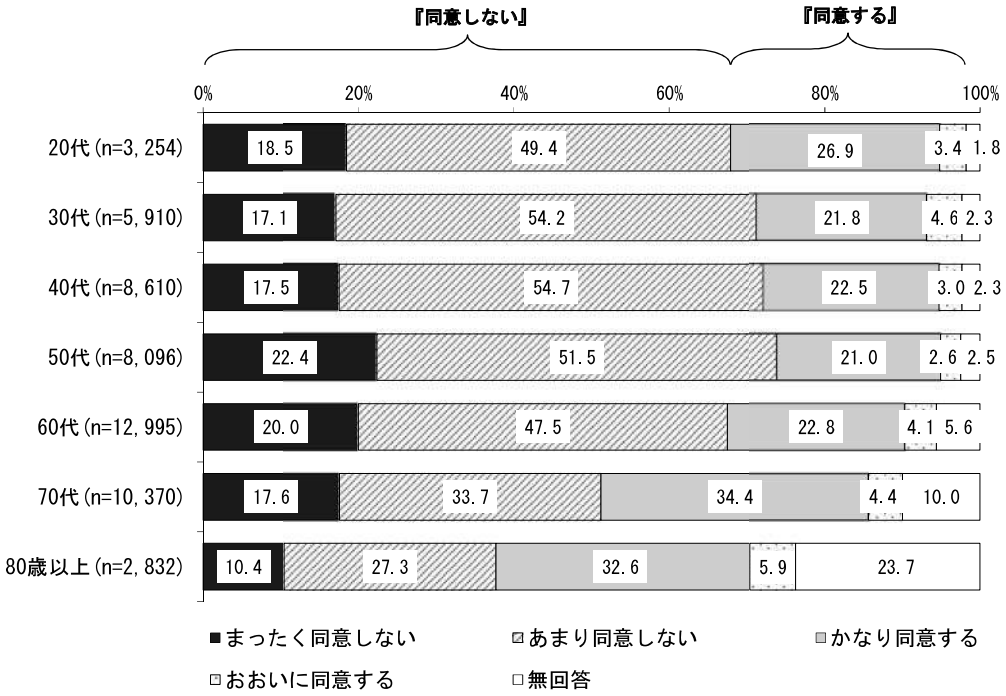
【図表　非常用食料等を準備しておけば災害時に役立つ（生活形態別）】



非常用食料等を準備しておけば災害時に役立つという意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅，学生で９割超と高くなっている。

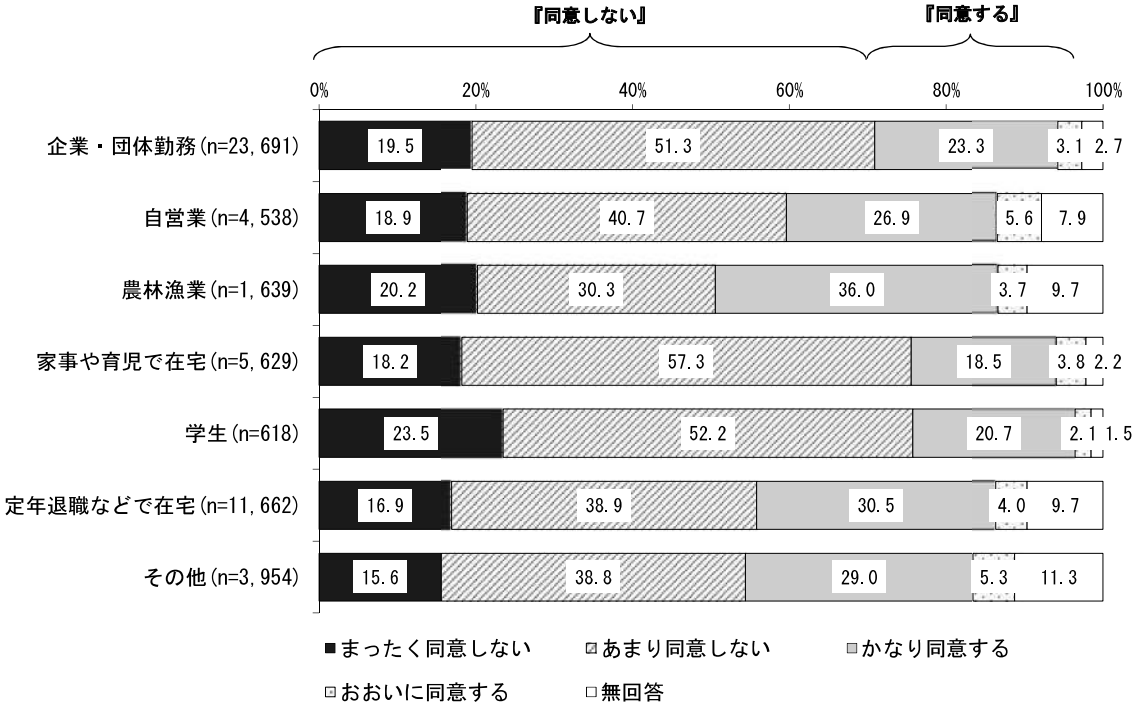
（３）避難訓練は本当の災害時に役立つとは限らない

【図表　避難訓練は本当の災害時に役立つとは限らない（年代別）】



避難訓練は本当の災害時に役立つとは限らないという意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は 70 代，80 歳以上で約４割と高くなっている。

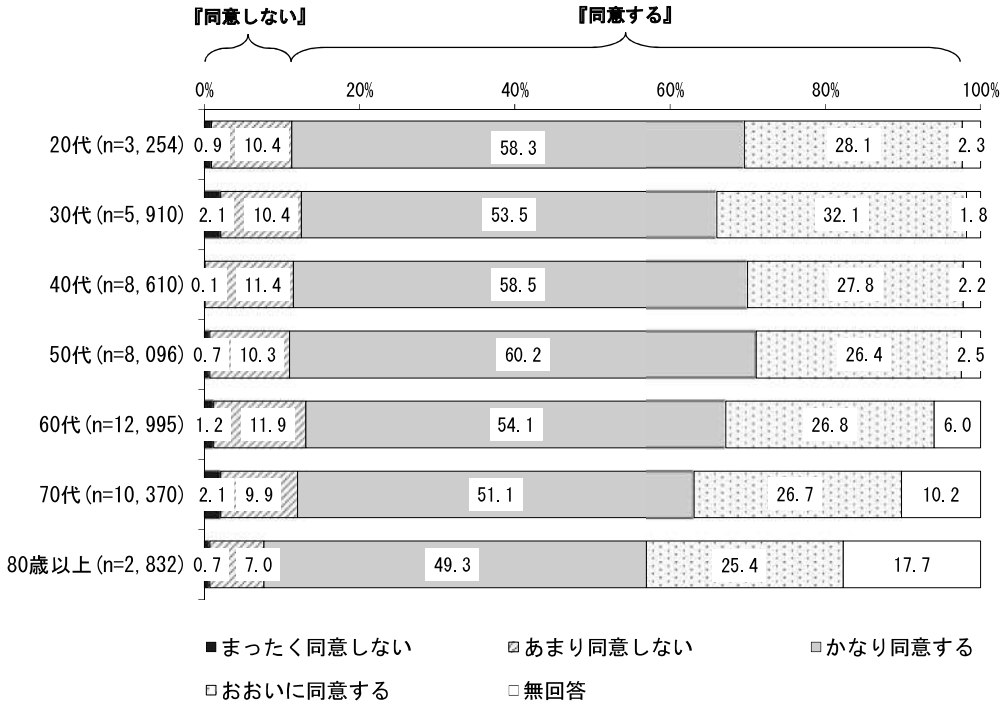
【図表　避難訓練は本当の災害時に役立つとは限らない（生活形態別）】



避難訓練は本当の災害時に役立つとは限らないという意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は農林漁業で約４割と高くなっている。

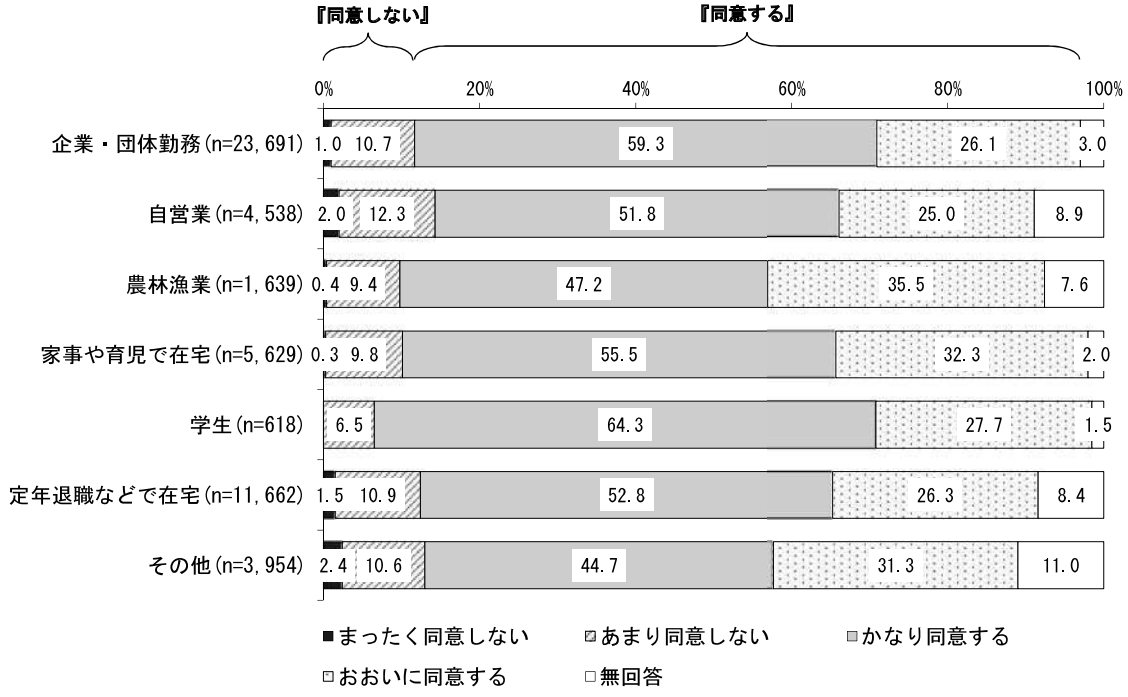
（４）地域全体での災害への備えで被害を減らすことができる

【図表　地域全体での災害への備えで被害を減らすことができる（年代別）】



地域全体での災害への備えで被害を減らすことができるという意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は 20 代～50 代で８割台半ばと高くなっている。

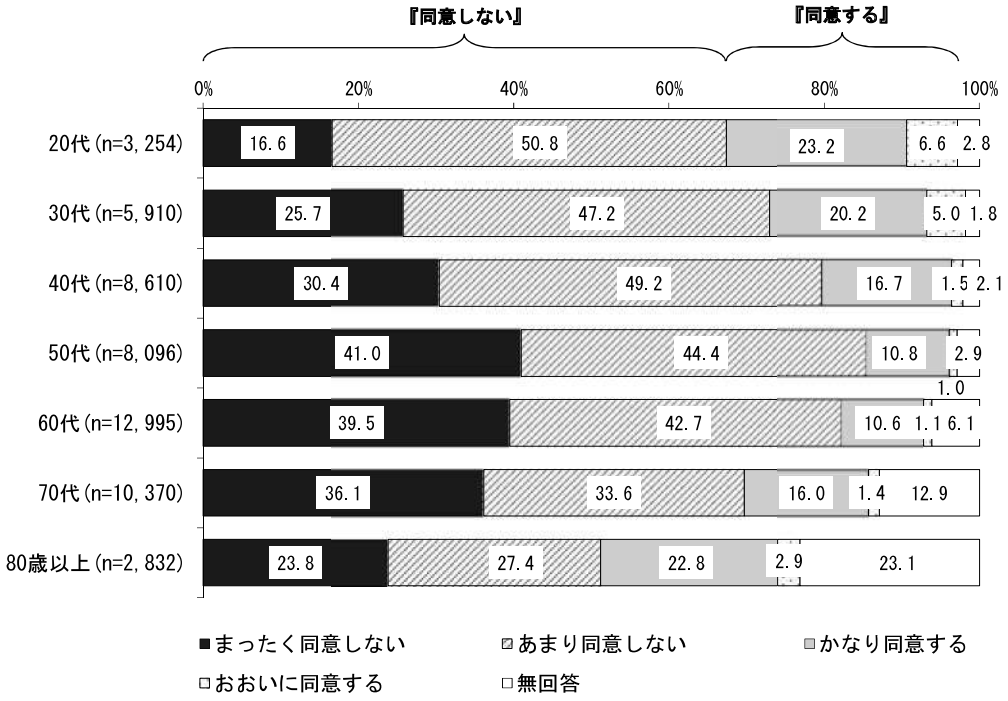
【図表　地域全体での災害への備えで被害を減らすことができる（生活形態別）】



地域全体での災害への備えで被害を減らすことができるという意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は学生で９割超と高くなっている。

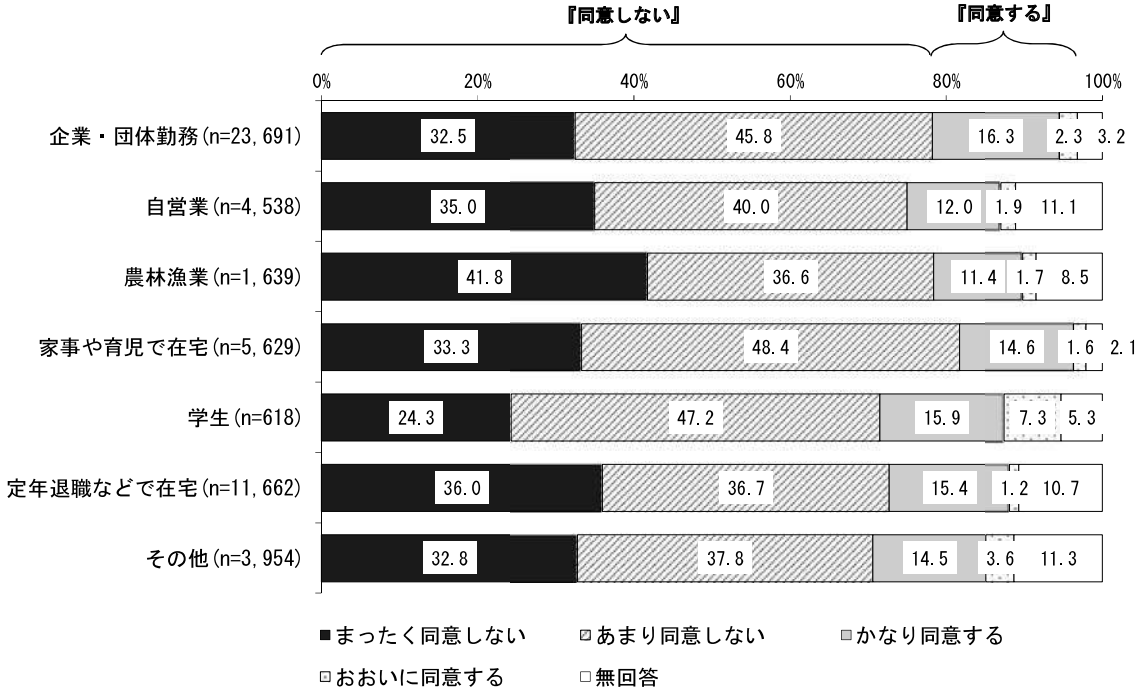
（５）避難場所等を確認するのは面倒

【図表　避難場所等を確認するのは面倒（年代別）】



避難場所等を確認するのは面倒という意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は20代で約３割と高くなっている。

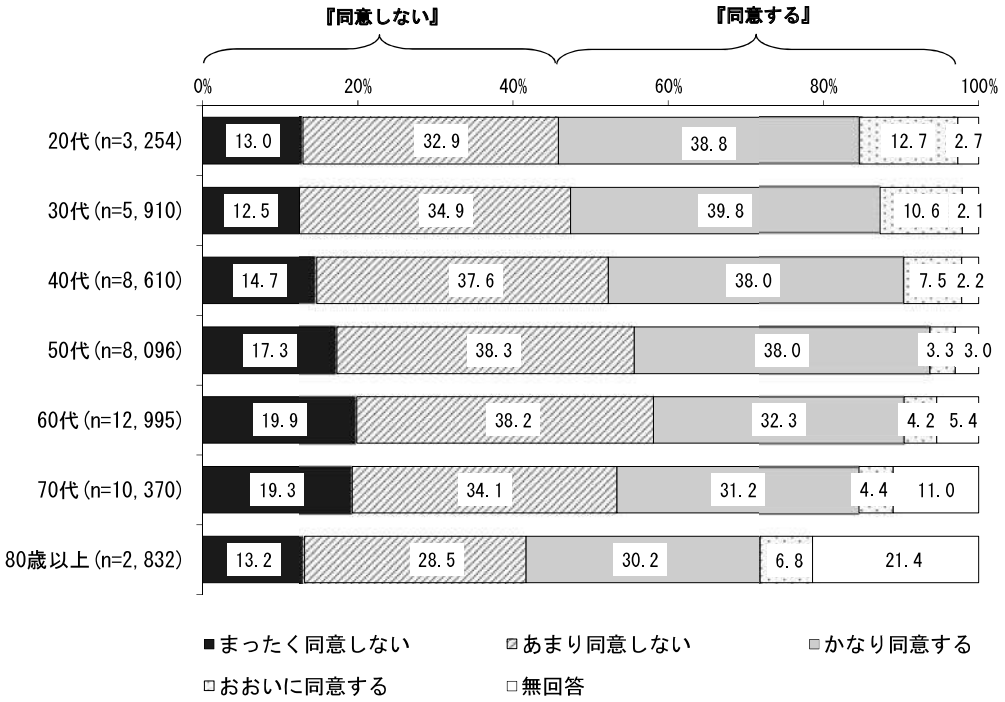
【図表　避難場所等を確認するのは面倒（生活形態別）】



避難場所等を確認するのは面倒という意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は学生で２割台半ばと他の生活形態に比べ高くなっている。

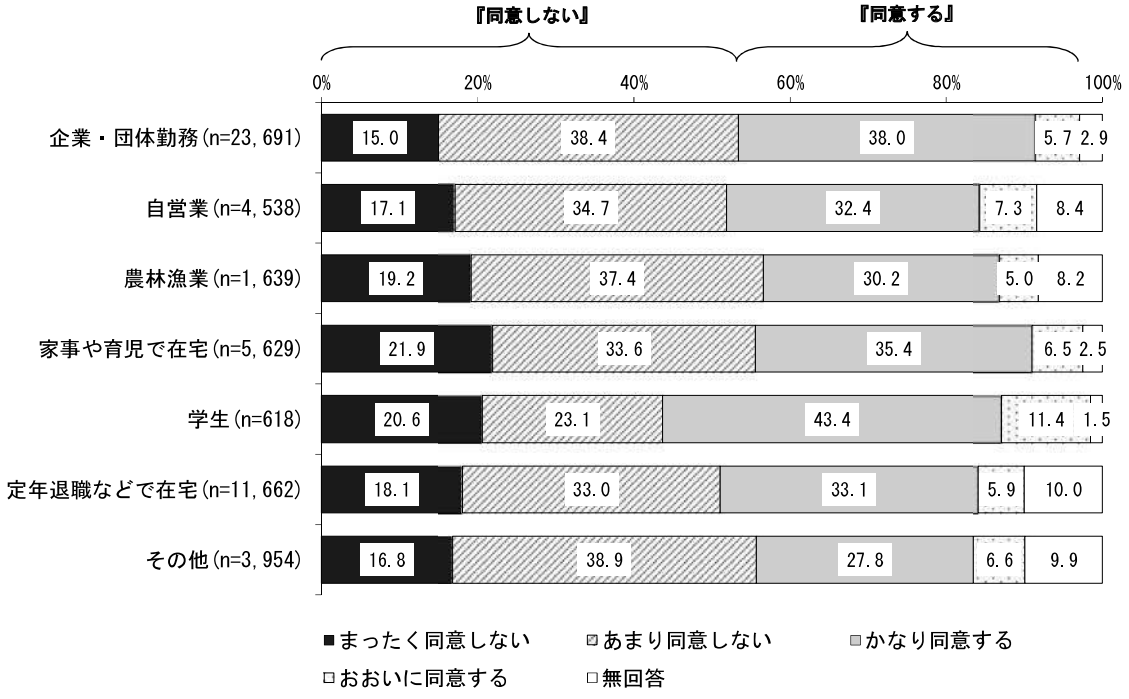
（６）非常用食料等を準備するのは大変

【図表　非常用食料等を準備するのは大変（年代別）】



非常用食料等を準備するのは大変という意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は 20 代，30 代で５割台と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

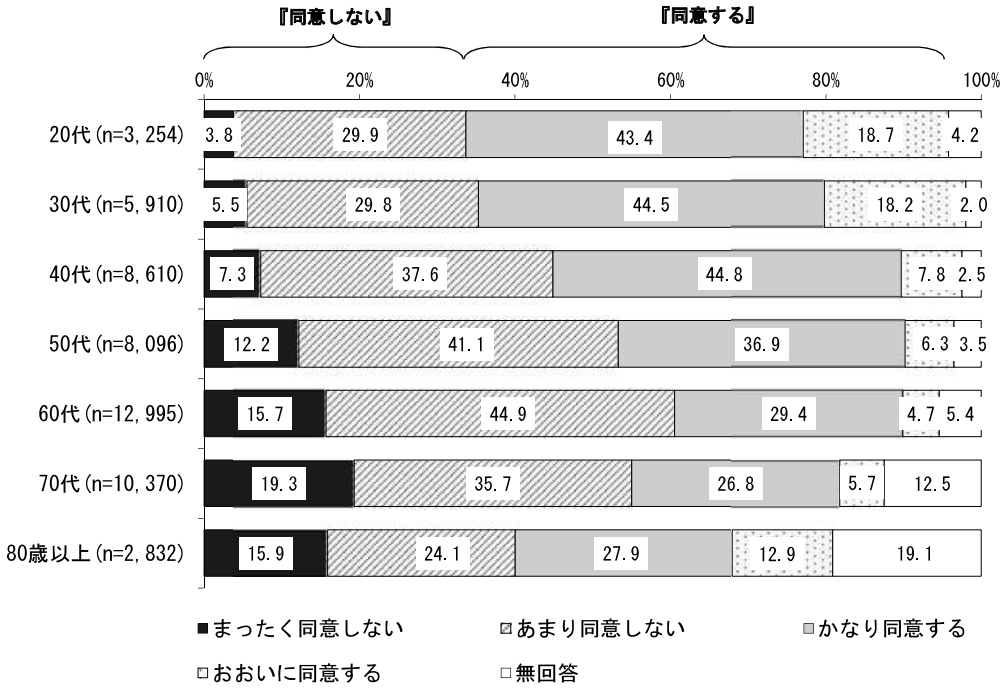
【図表　非常用食料等を準備するのは大変（生活形態別）】



非常用食料等を準備するのは大変という意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は学生で５割台半ばと高くなっている。

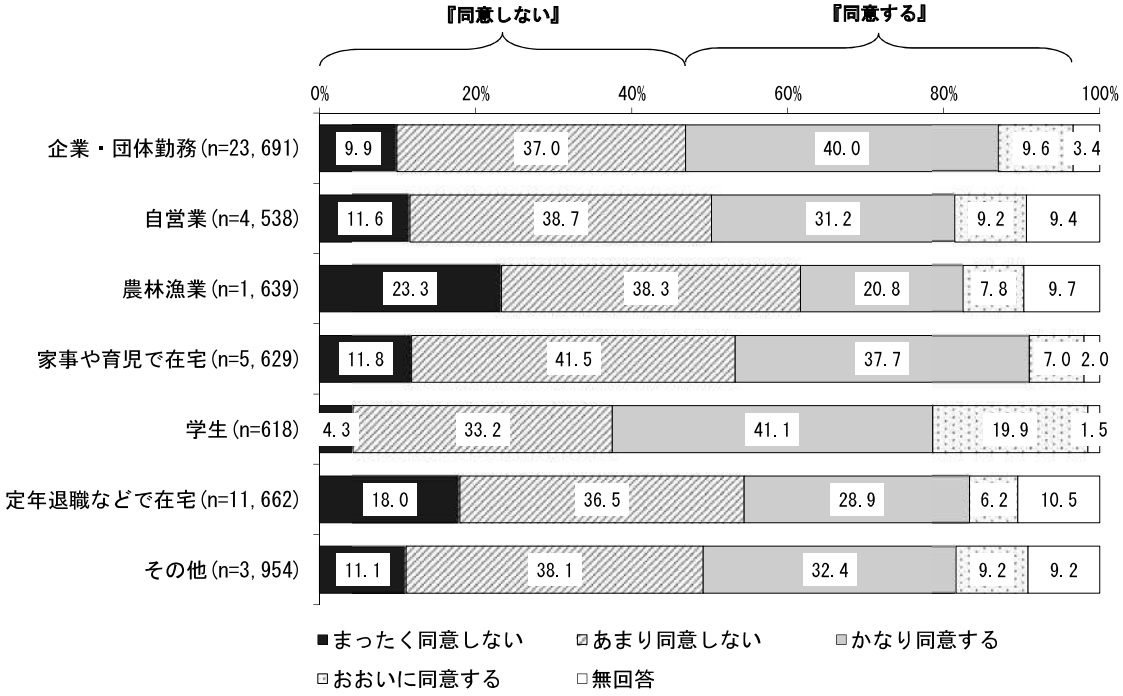
（７）避難訓練に参加するのはむずかしい

【図表　避難訓練に参加するのはむずかしい（年代別）】



避難訓練に参加するのはむずかしいという意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は 20 代，30 代で６割超と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

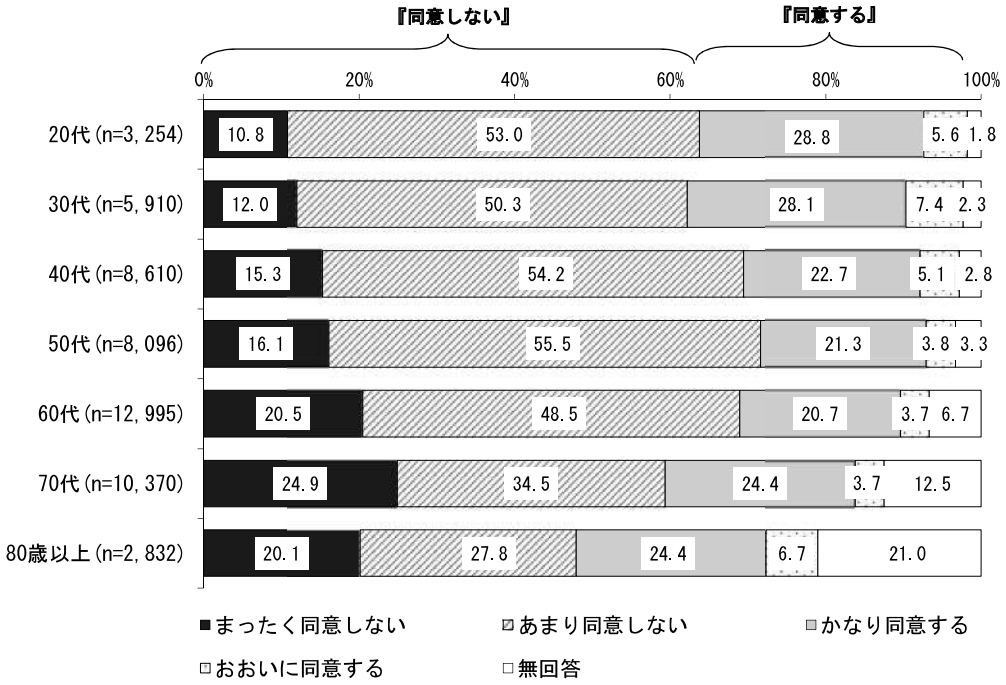
【図表　避難訓練に参加するのはむずかしい（生活形態別）】



避難訓練に参加するのはむずかしいという意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は学生で６割超と高くなっている。

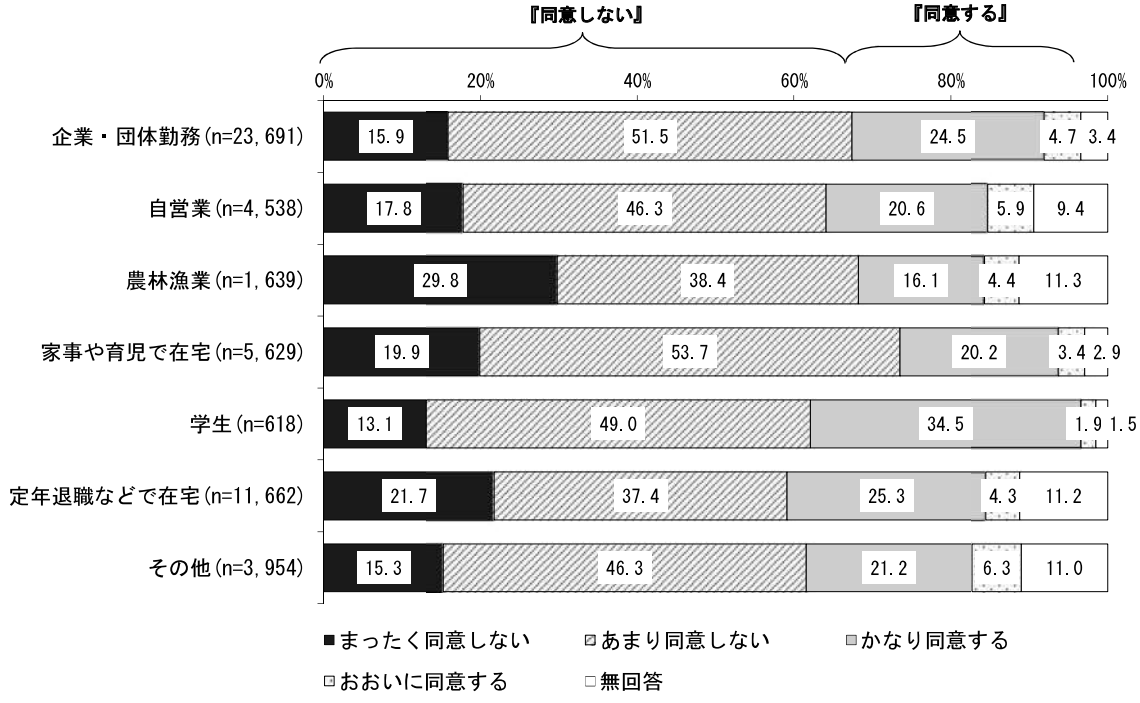
（８）居住地域で防災活動に取り組むのは困難

【図表　居住地域で防災活動に取り組むのは困難（年代別）】



居住地域で防災活動に取り組むのは困難という意見について，年代別にみると，『同意する』との回答は 20 代，30 代で３割台半ば，40 代，70 代で約３割と高くなっている。

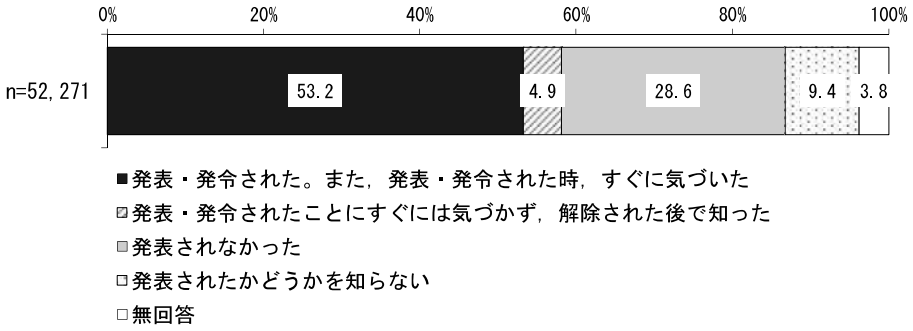
【図表　居住地域で防災活動に取り組むのは困難（生活形態別）】



居住地域で防災活動に取り組むのは困難という意見について，生活形態別にみると，『同意する』との回答は学生で３割台半ばと高くなっている。

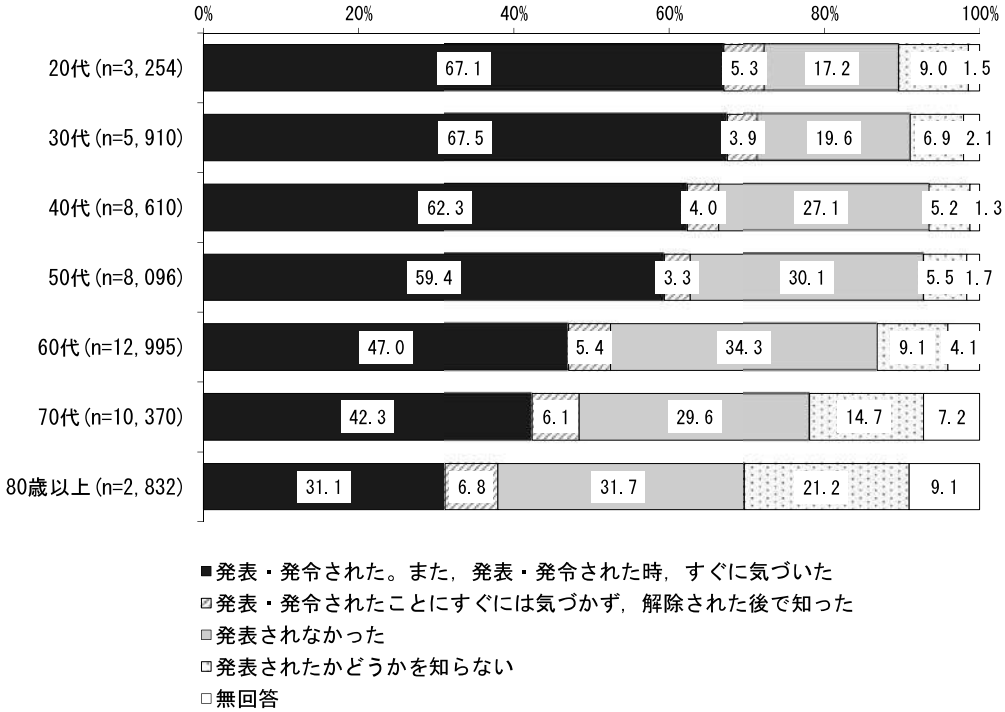
問 24　今年の６月～７月は，広島県下で大雨警報などの警報が何度か発表されました。このときのことについて，次の問いにお答えください。

１　この時期，あなたがお住まいの地域に，避難準備情報・避難勧告が発表・発令されましたか。（○は１つ）



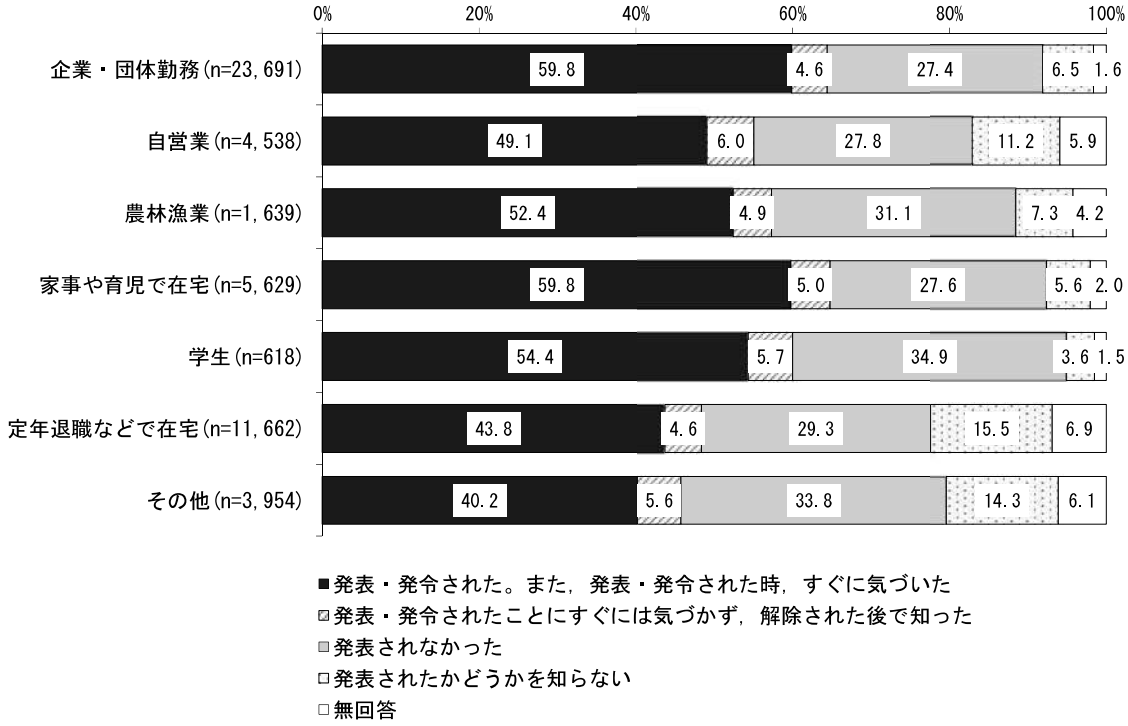
避難勧告等の発令の有無について，「発表・発令された。また，発表・発令された時，すぐに気づいた」との回答が 53.2%と最も高く，次いで「発表されなかった」(28.6%)，「発表されたかどうかを知らない」(9.4%) などの順となっている。

【図表　避難勧告等の発令の有無（年代別）】



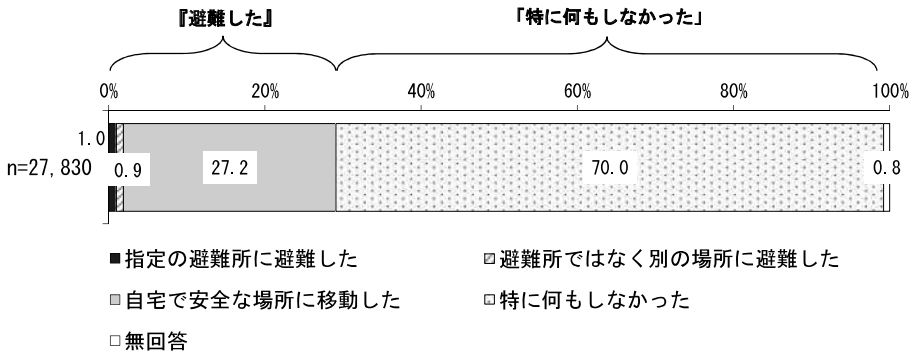
避難勧告等の発令の有無について，年代別にみると，「発表・発令された。また，発表・発令された時，すぐに気づいた」との回答は 20 代，30 代で約７割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。「発表されなかった」との回答は 60 代で３割台半ば，「発表されたかどうか知らない」との回答は 80 歳以上で２割超と高くなっている。

【図表　避難勧告等の発令の有無（生活形態別）】



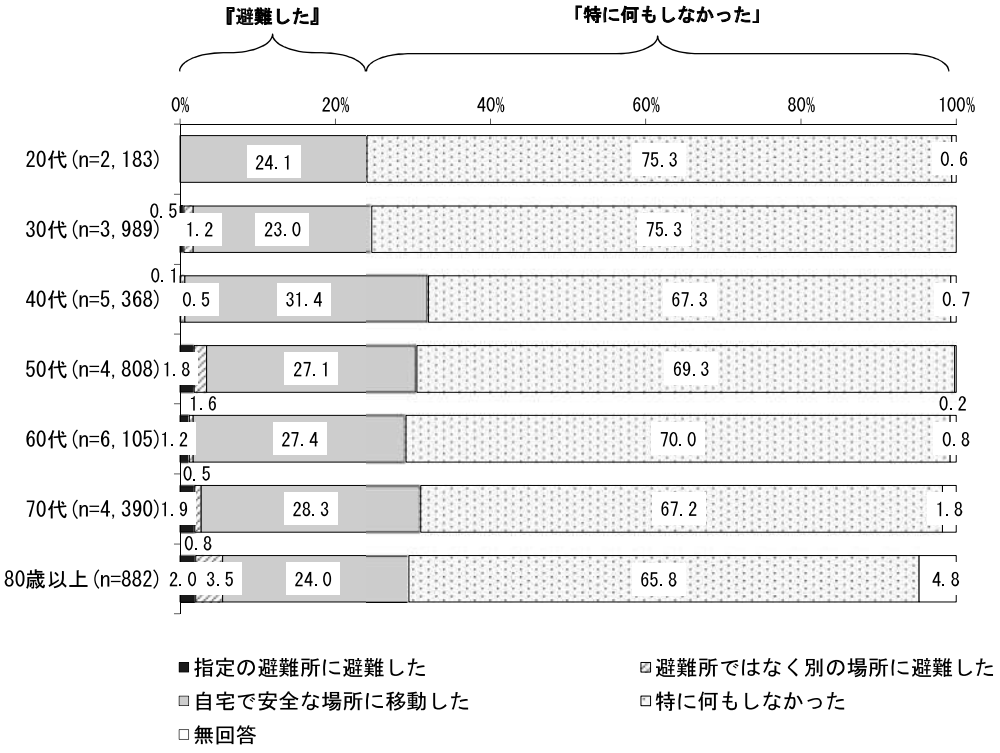
避難勧告等の発令の有無について，生活形態別にみると，「発表・発令された。また，発表・発令された時，すぐに気づいた」との回答は企業・団体勤務，家事や育児で在宅で約６割，「発表されなかった」との回答は学生で３割台半ば，「発表されたかどうかを知らない」との回答は定年退職などで在宅で１割台半ばと高くなっている。

問 24-２　避難準備情報・避難勧告が発表・発令されたとき，避難しましたか。（○は１つ）



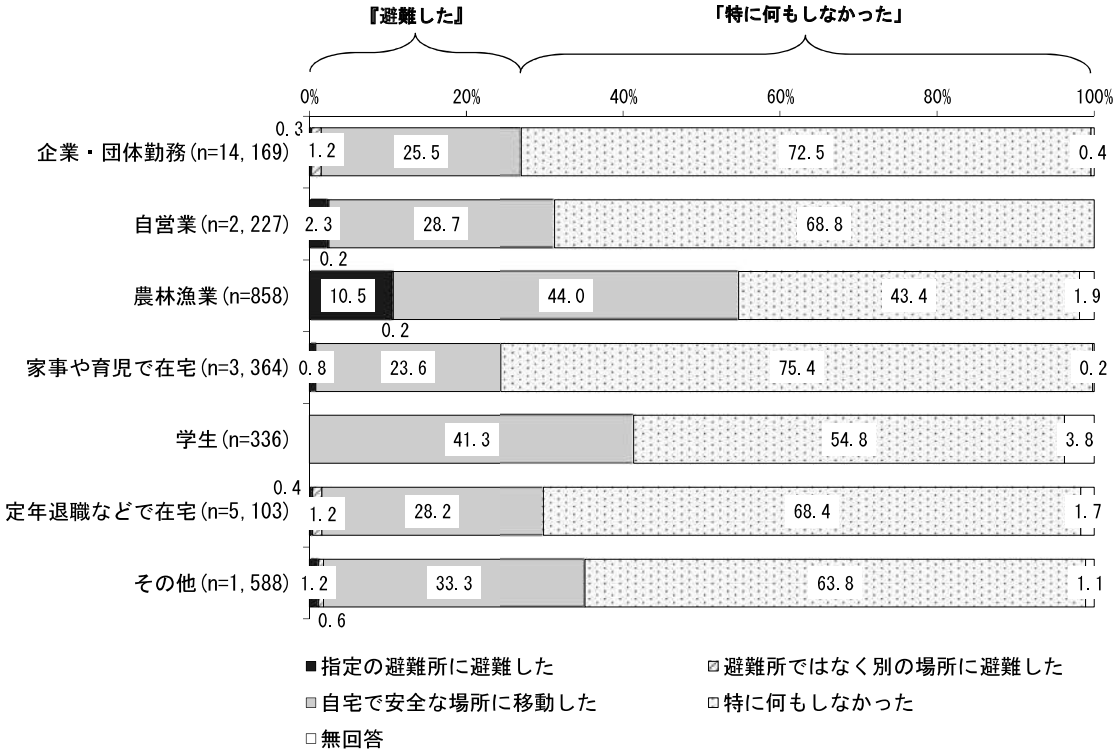
避難勧告等の発令時の避難状況について，『避難した』（「指定の避難所に避難した」と「避難所ではなく別の場所に避難した」と「自宅で安全な場所に移動した」を合わせた割合）との回答が 29.1%，「特に何もしなかった」との回答が 70.0%となっている。

【図表　避難勧告等の発令時の避難状況（年代別）】



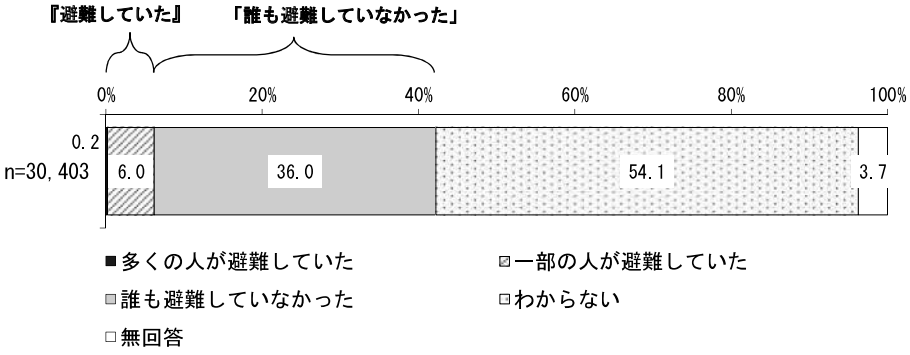
避難勧告等の発令時の避難状況について，年代別にみると，『避難した』との回答は 40 代～80 歳以上で３割前後と高くなっている。

【図表　避難勧告等の発令時の避難状況（生活形態別）】



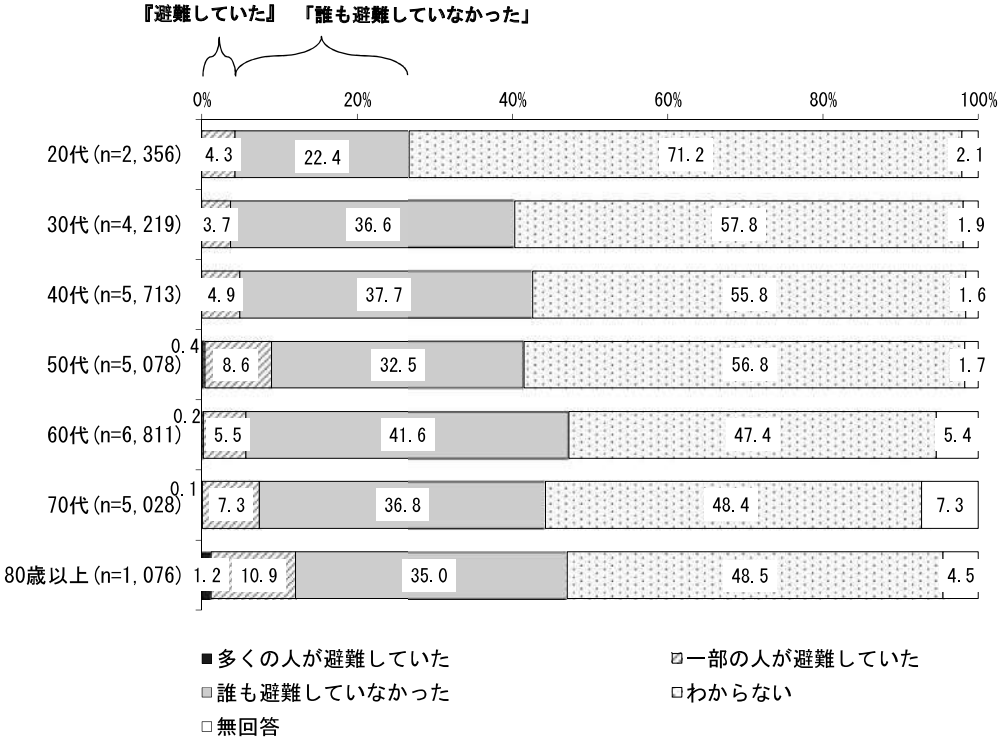
避難勧告等の発令時の避難状況について，生活形態別にみると，『避難した』との回答は農林漁業で５割台半ば，学生で４割超と高く，家事や育児で在宅で２割台半ばと低くなっている。

問 24-３　あなたの近所の人々は，避難していましたか。（○は１つ）



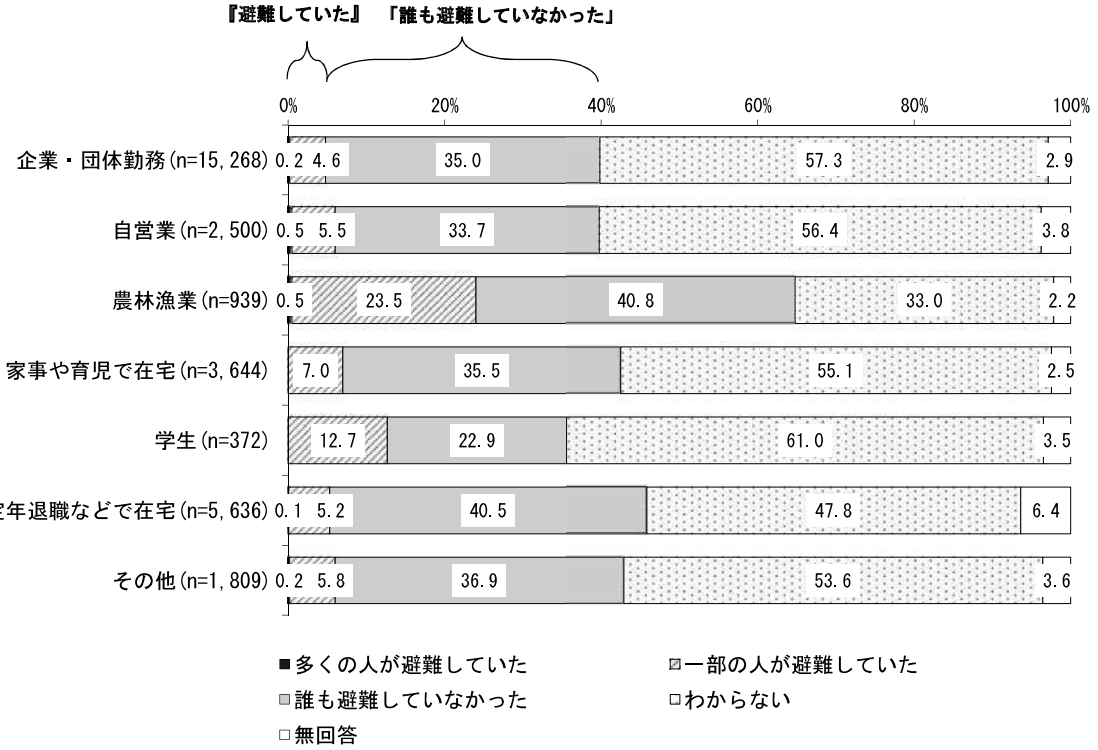
避難勧告等の発令時，近所の人の避難状況について，『避難していた』（「多くの人が避難していた」と「一部の人が避難していた」を合わせた割合）との回答が 6.2%，「誰も避難していなかった」との回答が 36.0%となっている。また，「わからない」との回答が 54.1%と高くなっている。

【図表　避難勧告等の発令時，近所の人の避難状況（年代別）】



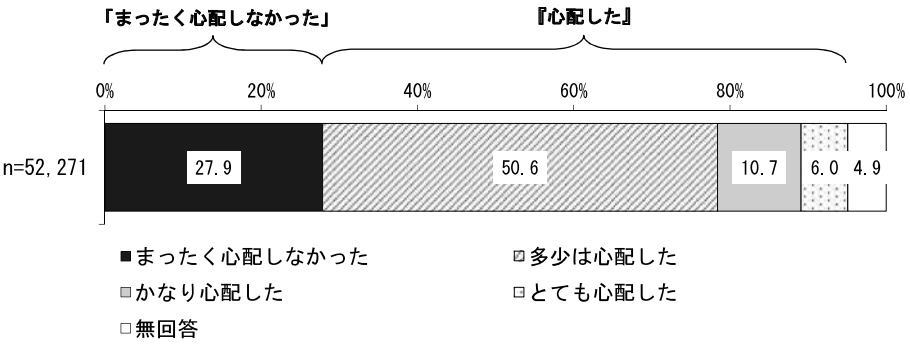
避難勧告等の発令時，近所の人の避難状況について，年代別にみると，『避難していた』との回答は 50 代，80 歳以上で１割前後と他の年代に比べ高くなっている。

【図表　避難勧告等の発令時，近所の人の避難状況（生活形態別）】



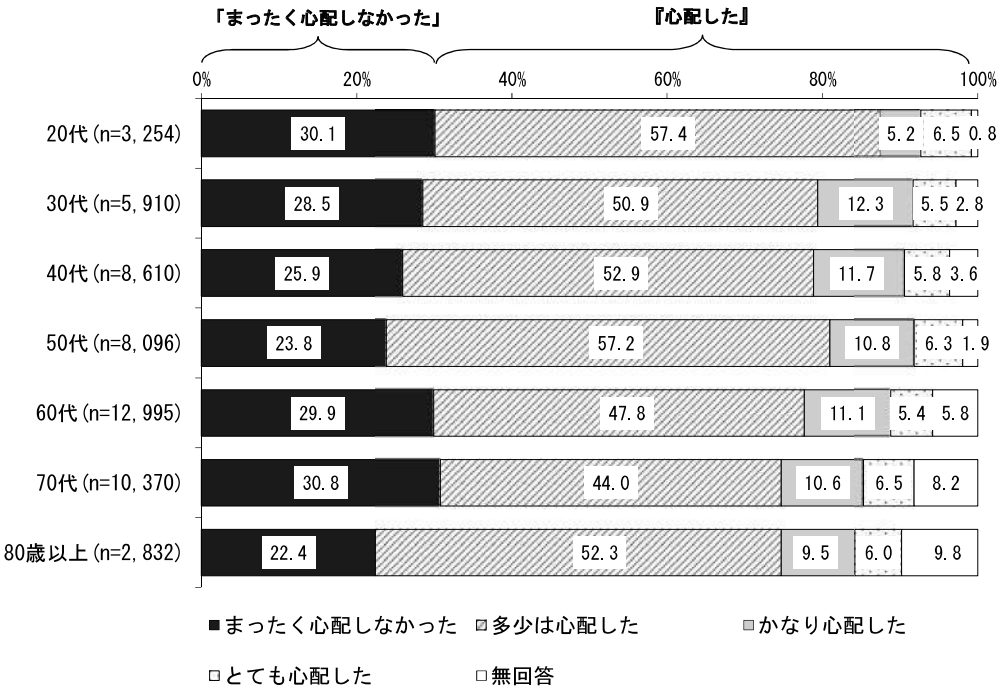
避難勧告等の発令時，近所の人の避難状況について，生活形態別にみると，『避難していた』との回答は農林漁業で２割台半ばと他の生活形態に比べ高くなっている。

問 24-4　大雨警報が発表されたとき，あなたは自分の家や自分自身が浸水や冠水，土砂崩れなど，何らかの被害を受けることを心配しましたか。



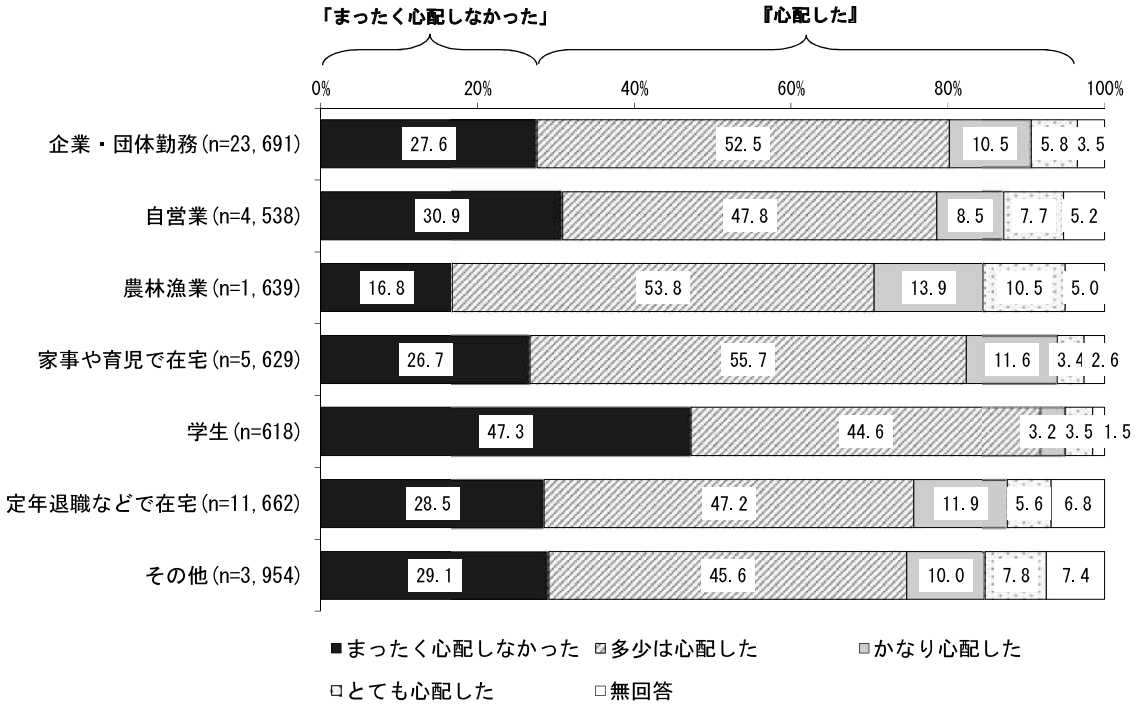
大雨警報発表時の被害の不安について，「まったく心配しなかった」との回答が 27.9%，『心配した』（「とても心配した」と「かなり心配した」と「多少は心配した」を合わせた割合）との回答が 67.3%となっている。

【図表　大雨警報発表時の被害の不安（年代別）】



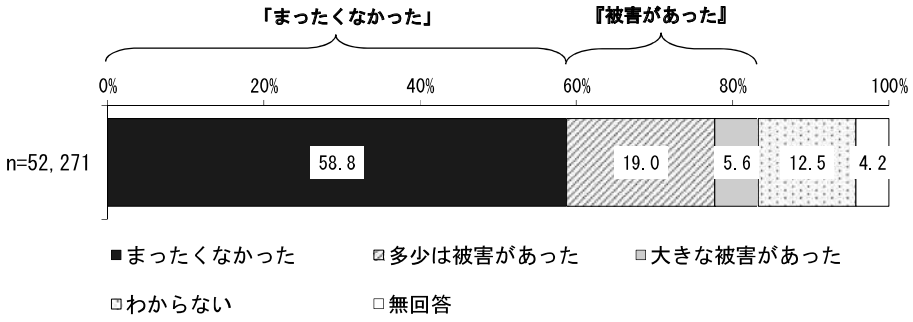
大雨警報発表時の被害の不安について，年代別にみると，『心配した』との回答は 50 代で 7 割台半ば，20 代～40 代で 7 割前後と高くなっている。

【図表　大雨警報発表時の被害の不安（生活形態別）】



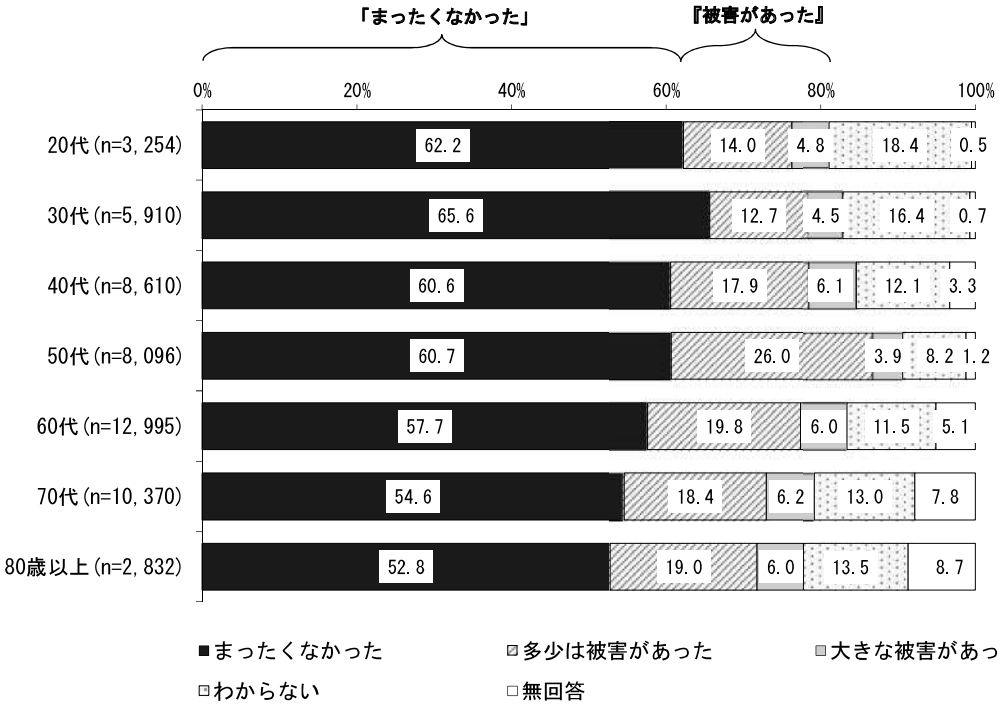
大雨警報発表時の被害の不安について，生活形態別にみると，『心配した』との回答は農林漁業で約８割と高く，学生で５割超と低くなっている。

問 24-５　あなたのお住まいの町内や近隣の町では，この時の大雨によって，浸水や冠水など何らかの被害がありましたか。（○は１つ）



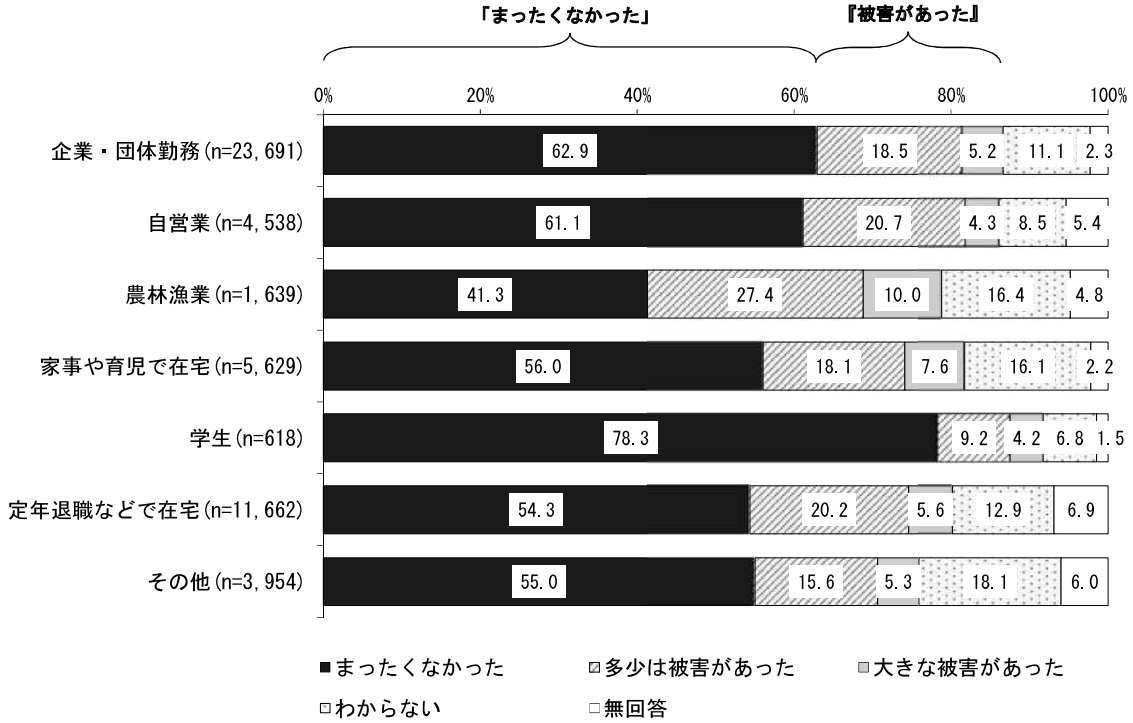
大雨による被害状況について，「まったくなかった」との回答が 58.8%，『被害があった』（「大きな被害があった」と「多少は被害があった」を合わせた割合）との回答が 24.6%となっている。

【図表　大雨による被害状況（年代別）】



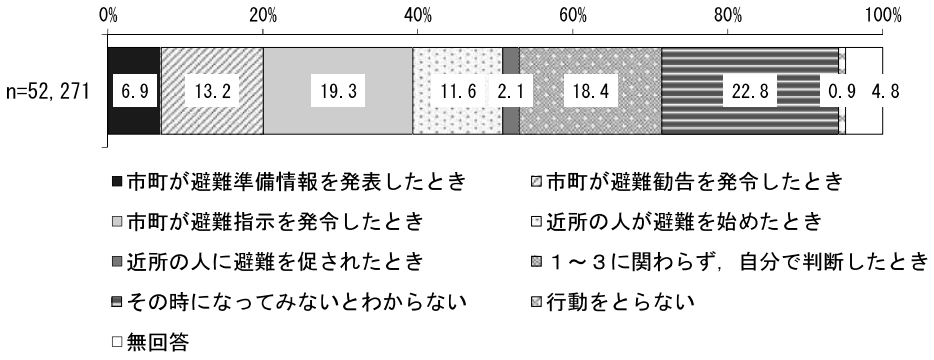
大雨による被害状況について，年代別にみると，『被害があった』との回答は 50 代で約３割と高くなっている。

【図表　大雨による被害状況（生活形態別）】



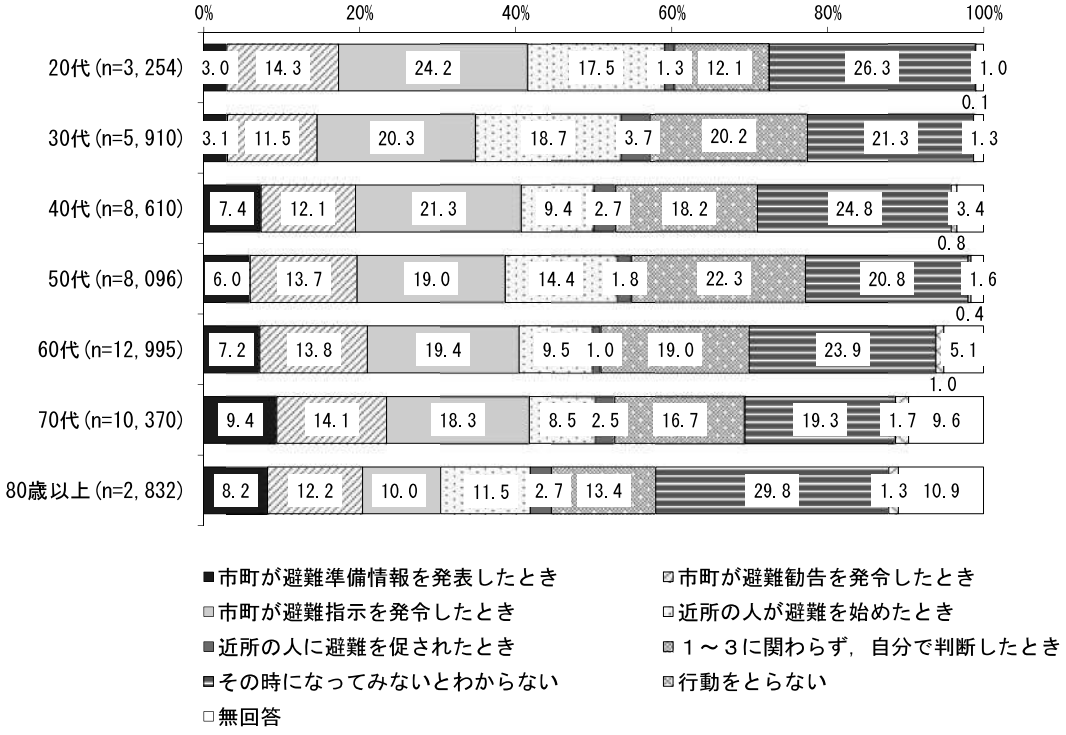
大雨による被害状況について，生活形態別にみると，『被害があった』との回答は農林漁業で約４割と高く，学生で１割台半ばと低くなっている。

問 24-６　大雨や台風による災害が想定されるとき，あなたはどの時点で避難行動を開始しますか。（○は１つ）



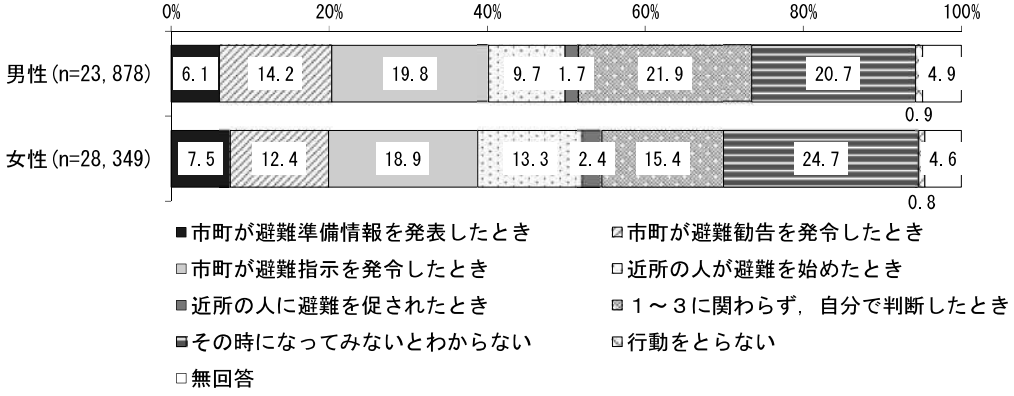
避難行動を開始するタイミングについて，「その時になってみないとわからない」との回答が22.8%と最も高く，次いで「市町が避難指示を発令したとき」(19.3%)，「１～３に関わらず，自分で判断したとき」(18.4%) などの順となっている。

【図表　避難行動を開始するタイミング（年代別)】



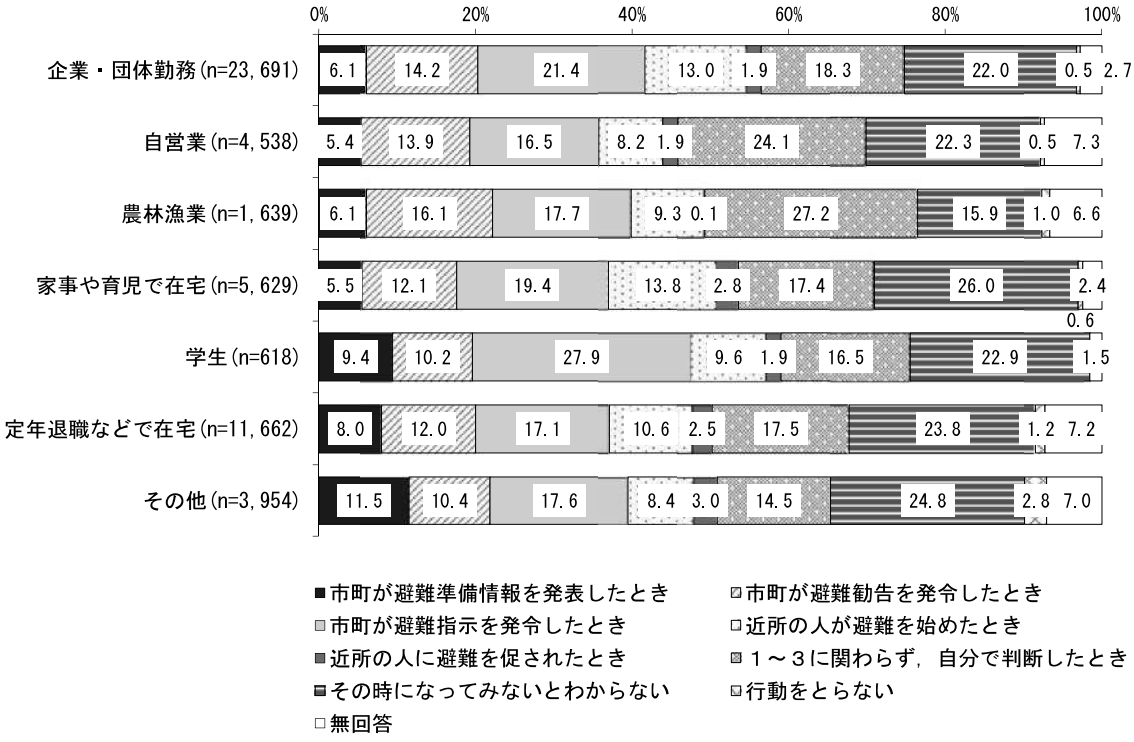
避難行動を開始するタイミングについて，年代別にみると，「市町が避難指示を発令したとき」との回答は 20 代で２割台半ば，「１～３に関わらず，自分で判断したとき」との回答は 30 代～60 代で２割前後，「その時になってみないとわからない」との回答は 80 歳以上で約３割と高くなっている。

【図表　避難行動を開始するタイミング（性別）】



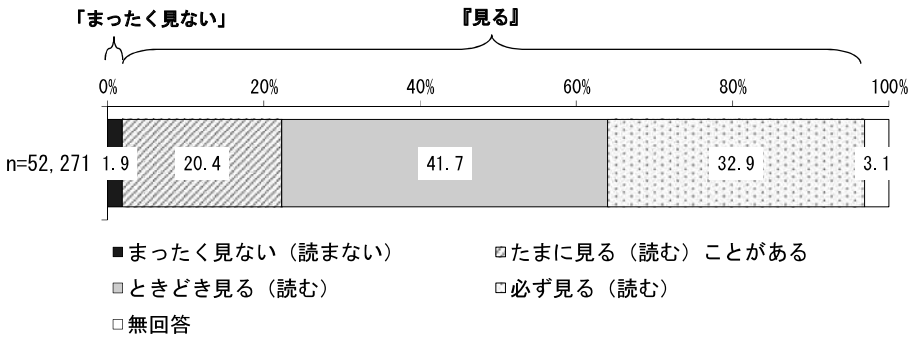
避難行動を開始するタイミングについて，性別にみると，「１～３に関わらず，自分で判断したとき」との回答は男性（21.9%）が女性（15.4%）を6.5ポイント上回っている。

【図表　避難行動を開始するタイミング（生活形態別）】



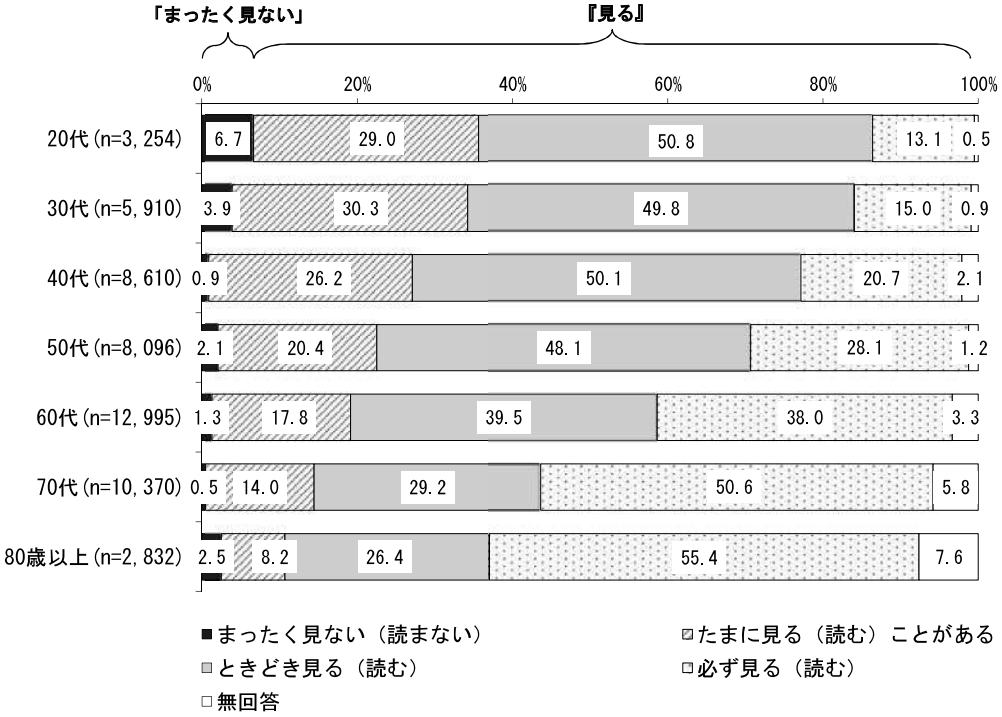
避難行動を開始するタイミングについて，生活形態別にみると，「市町が避難指示を発令したとき」との回答が学生で約３割，「１～３に関わらず，自分で判断したとき」との回答は農林漁業で約３割，「その時になってみないとわからない」との回答は家事や育児で在宅，定年退職などで在宅で２割台半ばと高くなっている。

問 25　あなたはふだん，テレビ（または新聞）で災害や防災に関する番組（または記事）があったら，どうしていますか。（○は１つ）



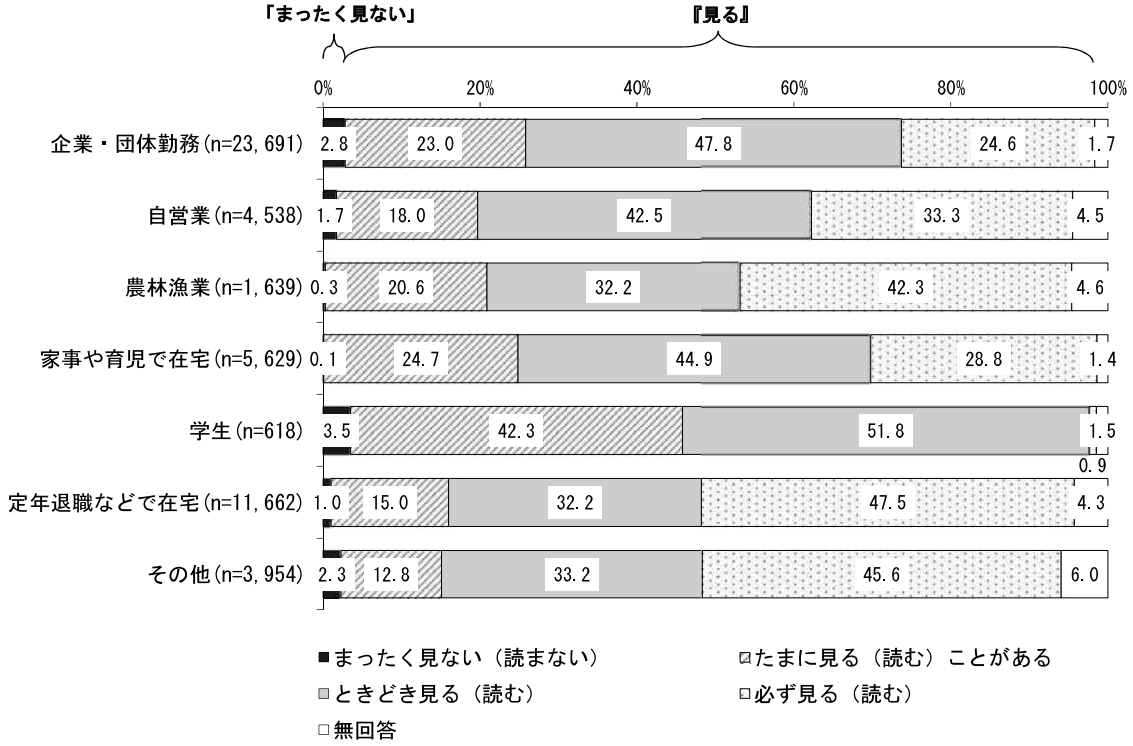
災害や防災に関する番組の視聴頻度について，「まったく見ない（読まない）」との回答が 1.9%，『見る』（「必ず見る（読む）」と「ときどき見る（読む）」と「たまに見る（読む）ことがある」を合わせた割合）との回答が 95.0%となっている。

【図表　災害や防災に関する番組の視聴頻度（年代別）】



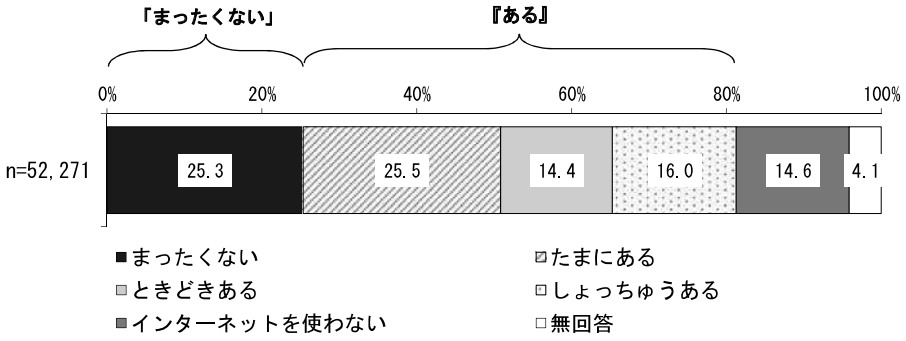
災害や防災に関する番組の視聴頻度について，年代別にみると，『見る』との回答はすべての年代において９割台と大きな差はみられない。

【図表　災害や防災に関する番組の視聴頻度（生活形態別）】



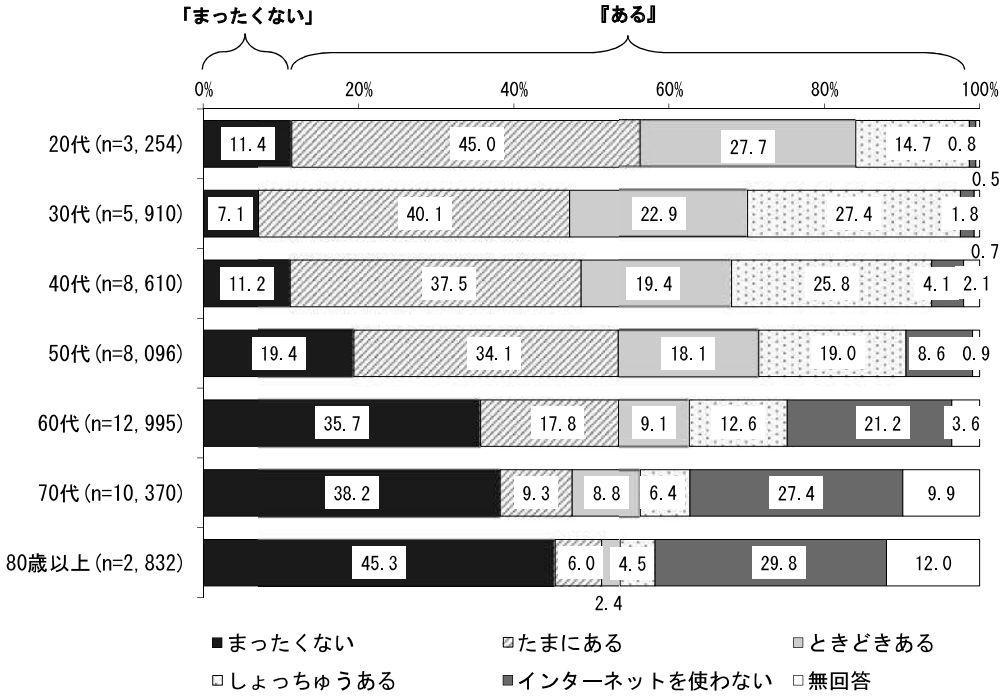
災害や防災に関する番組の視聴頻度について，生活形態別にみると，『見る』との回答はすべての生活形態において９割台と大きな差はみられない。

問 26　あなたはふだん，インターネットで災害や防災に関する情報を得ることがありますか。
（○は１つ）



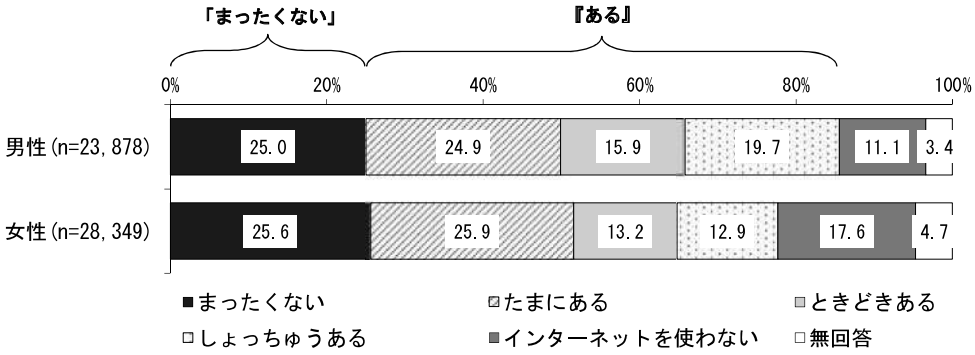
インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度について，「まったくない」との回答が 25.3%，『ある』（「しょっちゅうある」と「ときどきある」と「たまにある」を合わせた割合）との回答は 55.9%となっている。

【図表　インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度（年代別）】



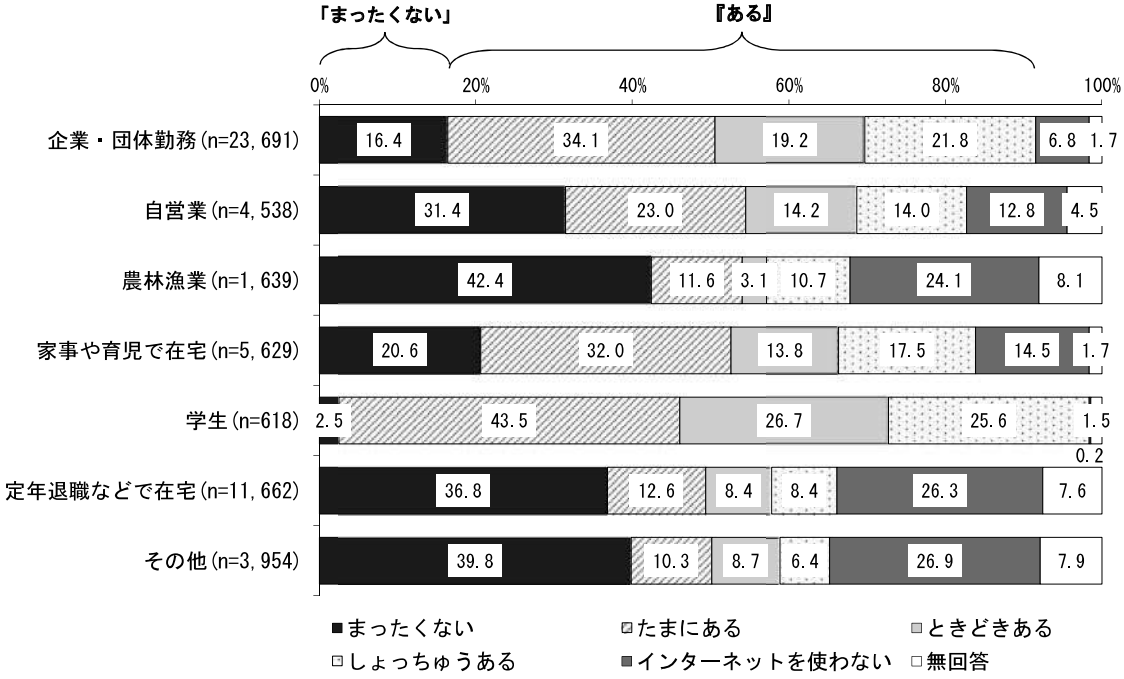
インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度について，年代別にみると，『ある』との回答は 20 代，30 代で約９割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度（性別）】



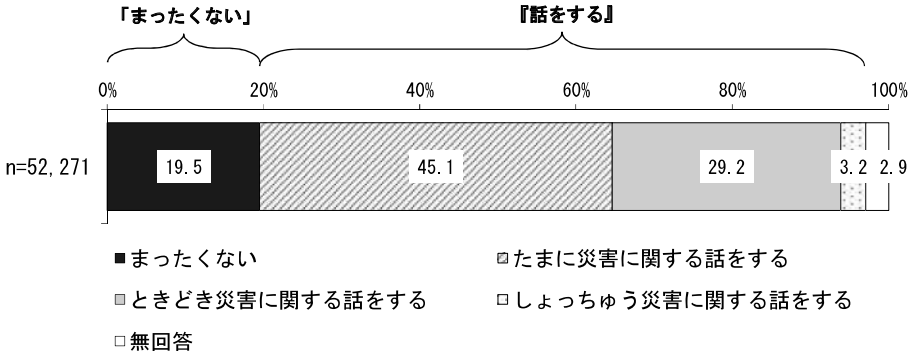
インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度について，性別にみると，『ある』との回答は男性（60.5%）が女性（52.0%）を8.5ポイント上回っている。

【図表　インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度（生活形態別）】



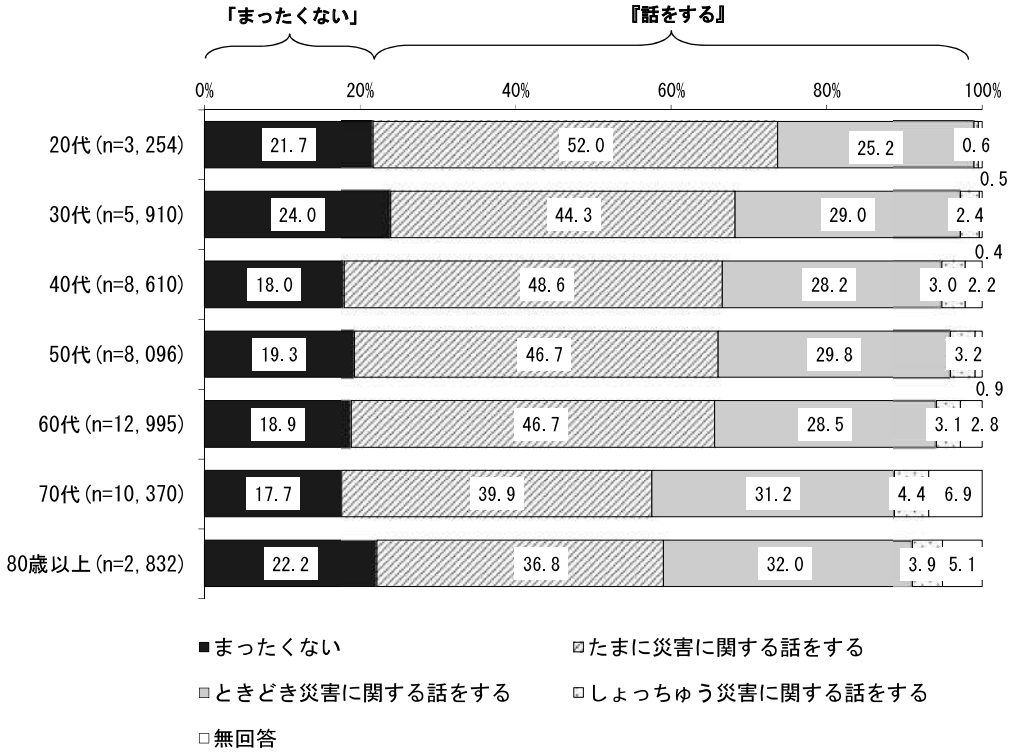
インターネットによる災害や防災に関する情報の入手頻度について，生活形態別にみると，『ある』との回答は学生で９割台半ばと高く，農林漁業，定年退職などで在宅で２割台と低くなっている。

問 27　あなたはふだん，家族や地域の人々と，災害や防災に関する話をすることがありますか。
（○は１つ）



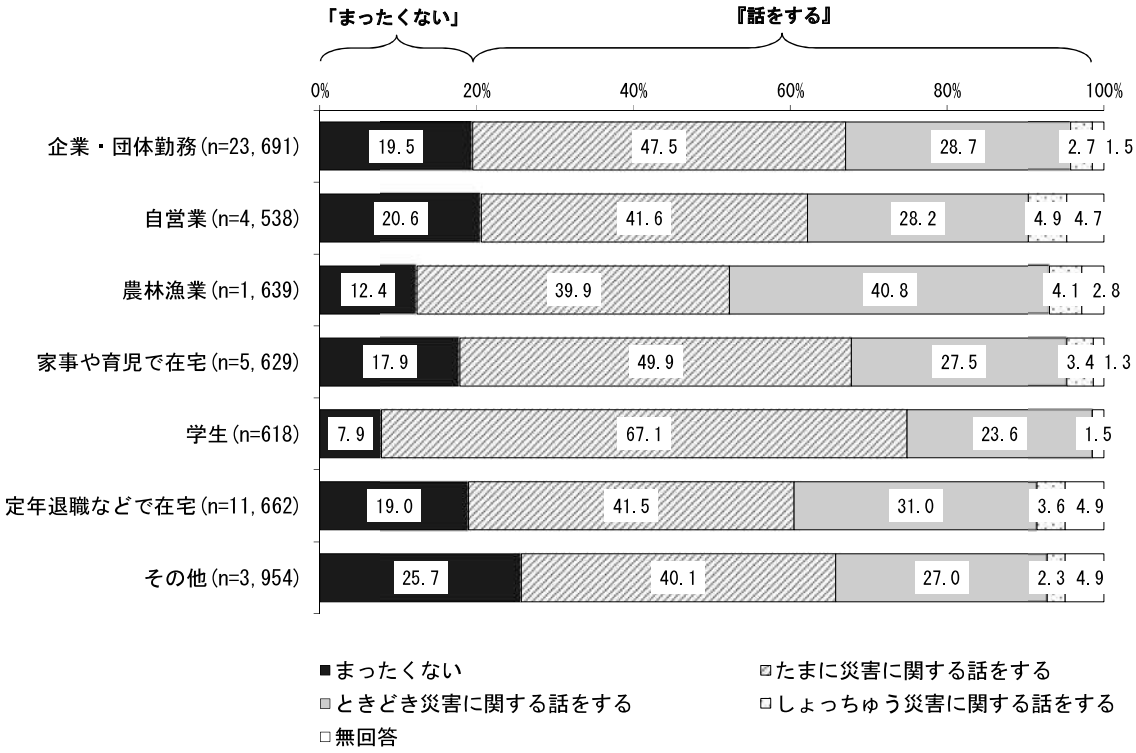
周囲の人と災害や防災に関する話をする頻度について，「まったくない」との回答が 19.5%，『話をする』（「しょっちゅう災害に関する話をする」と「ときどき災害に関する話をする」と「たまに災害に関する話をする」を合わせた割合）との回答が 77.5%となっている。

【図表　周囲の人と災害や防災に関する話をする頻度（年代別）】



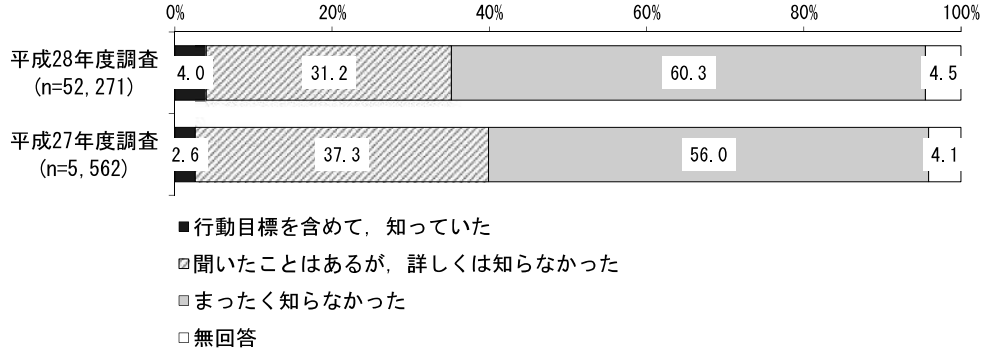
周囲の人と災害や防災に関する話をする頻度について，年代別にみると，『話をする』との回答はすべての年代において７割台と大きな差はみられない。

【図表　周囲の人と災害や防災に関する話をする頻度（生活形態別）】



周囲の人と災害や防災に関する話をする頻度について，生活形態別にみると，『話をする』との回答は学生で約９割と他の生活形態に比べ高くなっている。

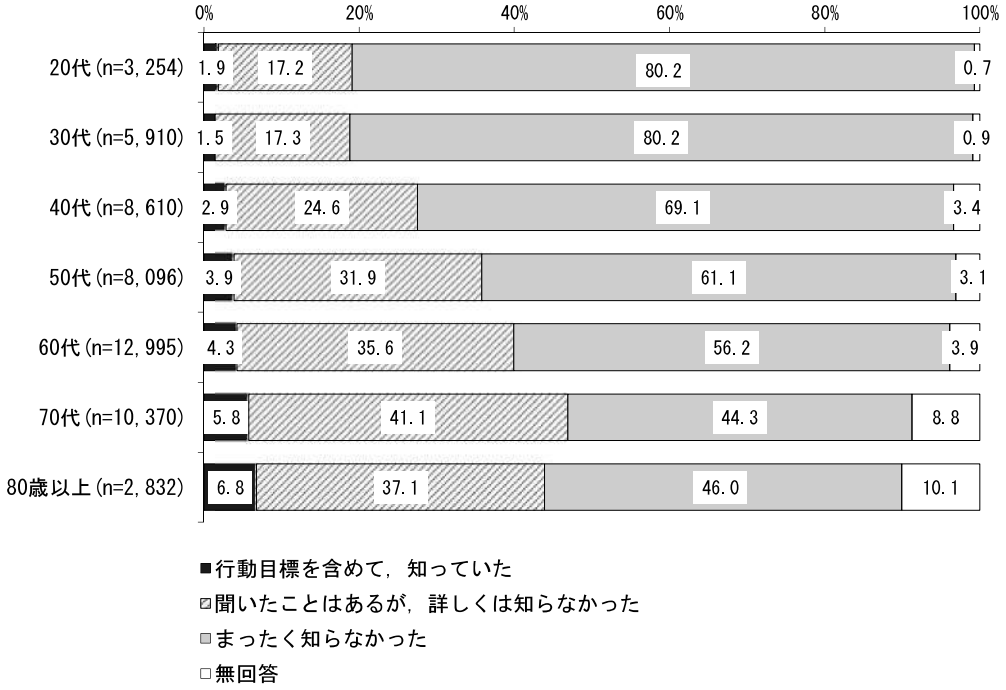
問 28　県では，平成 27 年４月から，「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。（○は１つ）



「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度について，「まったく知らなかった」との回答が 60.3％と最も高く，次いで「聞いたことはあるが，詳しくは知らなかった」(31.2％)，「行動目標を含めて，知っていた」（4.0％）の順となっている。

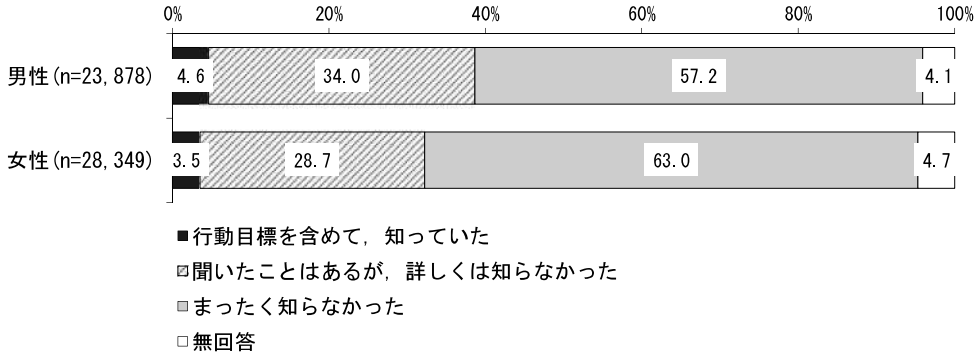
経年比較すると，「聞いたことがあるが，詳しくは知らなかった」との回答は平成 28 年度調査（31.2％）が平成 27 年度調査（37.3％）を 6.1 ポイント下回っている。

【図表　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度（年代別）】



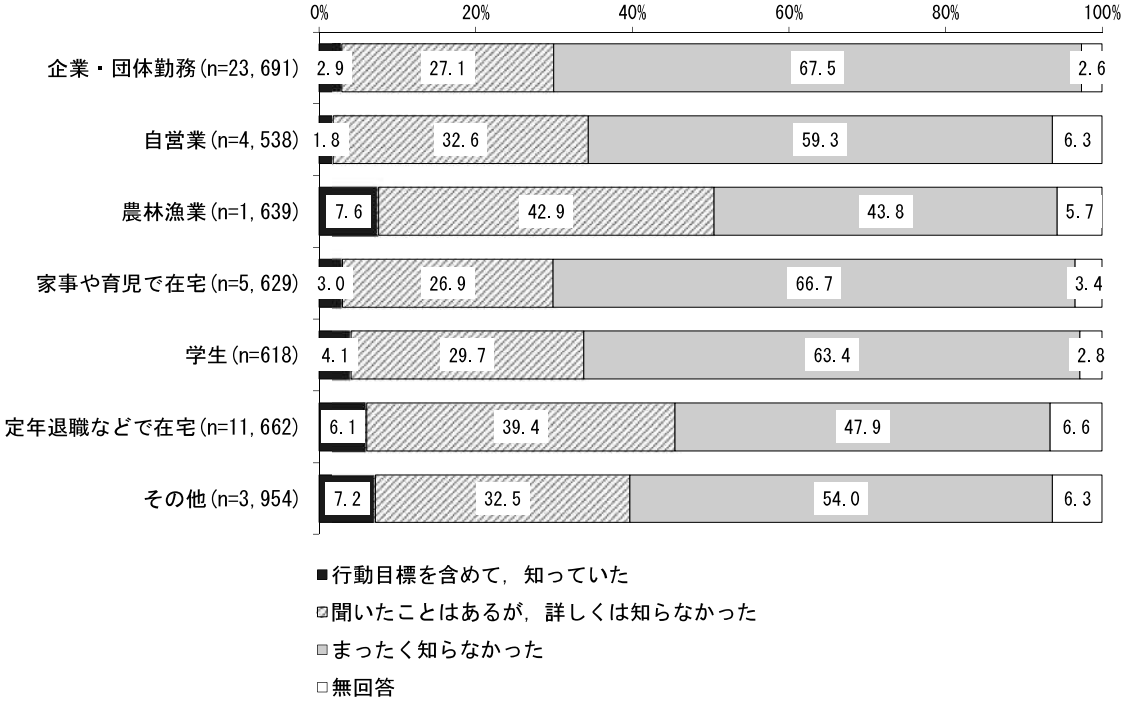
「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度について，年代別にみると，「聞いたことはあるが，詳しくは知らなかった」との回答は 70 代で４割超，「まったく知らなかった」との回答は 20 代，30 代で約８割と高くなっている。

【図表　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度（性別）】



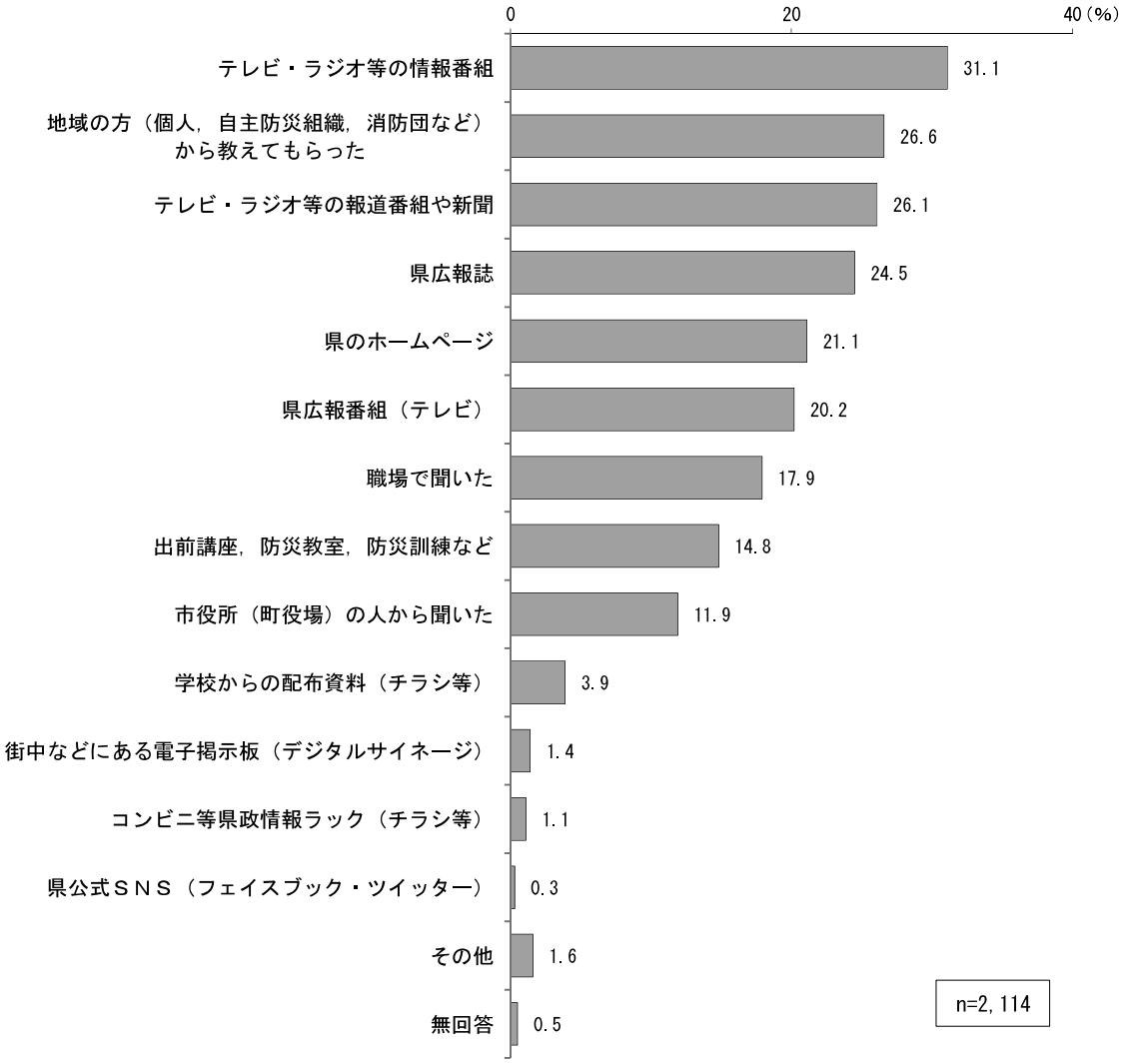
「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度について，性別にみると，「聞いたことはあるが，詳しくは知らなかった」との回答は男性（34.0%）が女性（28.7%）を5.3ポイント上回っている。一方，「まったく知らなかった」との回答は女性（63.0%）が男性（57.2%）を5.8ポイント上回っている。

【図表　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度（生活形態別）】



「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」の認知度について，生活形態別にみると，「行動目標を含めて，知っていた」との回答は農林漁業で約１割，「聞いたことはあるが，詳しくは知らなかった」との回答は農林漁業で４割超，「まったく知らなかった」との回答は企業・団体勤務で約７割と高くなっている。

問 29　問 28 で「１ 行動目標を含めて，知っていた」と回答した人にお尋ねします。
この運動を何で知りましたか。（○はいくつでも）



「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけについて，「テレビ・ラジオ等の情報番組」との回答が 31.1％と最も高く，次いで「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった」（26.6％），「テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞」（26.1％）などの順となっている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・家族から聞いた（２件）
・生協ひろしまのチラシ（１件）
・県職員から聞いた（１件）等

【図表　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけ（年代別）】

（%）

		地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	職場で聞いた	学校からの配布資料（チラシ等）	コンビニ等県政情報ラック（チラシ等）	県のホームページ	出前講座，防災教室，防災訓練など	県広報誌	県広報番組（テレビ）	県公式SNS（フェイスブック・ツイッター）	街中などにある電子掲示板（デジタルサイネージ）	テレビ・ラジオ等の情報番組	テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞	その他	無回答
全　体	(n=2,114)	26.6	11.9	17.9	3.9	1.1	21.1	14.8	24.5	20.2	0.3	1.4	31.1	26.1	1.6	0.5
年代別	20代 (n=62)	0.0	3.7	46.9	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	48.3	7.4	2.4	2.4
	30代 (n=89)	16.2	32.9	51.5	0.0	0.0	27.2	0.0	22.0	36.3	0.0	32.9	50.0	34.6	0.0	0.0
	40代 (n=250)	5.7	0.6	51.1	23.4	0.0	13.0	5.7	38.4	4.7	0.6	0.0	5.8	8.2	0.0	0.4
	50代 (n=314)	16.2	20.7	43.3	1.8	0.0	34.3	5.0	20.9	17.3	0.0	0.0	26.8	10.2	3.8	0.5
	60代 (n=559)	34.9	14.7	2.7	3.4	4.0	25.0	22.9	35.5	24.4	0.9	0.0	22.4	25.0	3.6	0.0
	70代 (n=606)	38.2	9.6	3.9	0.0	0.0	18.0	20.3	19.0	24.5	0.0	0.0	43.3	43.0	0.0	1.0
	80歳以上 (n=192)	28.9	6.8	0.7	0.0	0.0	0.0	16.7	7.2	17.5	0.0	0.0	45.5	32.3	0.0	0.0

「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけについて，年代別にみると，「職場で聞いた」との回答は 30 代，40 代で５割超，「テレビ・ラジオ等の情報番組」との回答は 20 代，30 代で５割前後と高く，40 代で１割未満と低くなっている。

【図表　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけ（性別）】

（%）

		地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	職場で聞いた	学校からの配布資料（チラシ等）	コンビニ等県政情報ラック（チラシ等）	県のホームページ	出前講座，防災教室，防災訓練など	県広報誌	県広報番組（テレビ）	県公式SNS（フェイスブック・ツイッター）	街中などにある電子掲示板（デジタルサイネージ）	テレビ・ラジオ等の情報番組	テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞	その他	無回答
全　体	(n=2,114)	26.6	11.9	17.9	3.9	1.1	21.1	14.8	24.5	20.2	0.3	1.4	31.1	26.1	1.6	0.5
性別	男性 (n=1,105)	30.3	12.2	22.0	1.9	0.2	26.7	14.9	21.0	16.4	0.0	2.6	28.1	20.2	2.9	0.4
	女性 (n=1,006)	22.6	11.6	13.5	6.1	2.0	14.9	14.8	28.3	24.4	0.6	0.0	34.3	32.5	0.1	0.6

「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけについて，性別にみると，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった」との回答は男性（30.3%）が女性（22.6%）を 7.7 ポイント，「職場で聞いた」との回答は男性（22.0%）が女性（13.5%）を 8.5 ポイント，「県のホームページ」との回答は男性（26.7%）が女性（14.9%）を 11.8 ポイント上回っている。一方，「県広報誌」との回答は女性（28.3%）が男性（21.0%）を 7.3 ポイント，「県広報番組（テレビ)」との回答は女性（24.4%）が男性（16.4%）を 8.0 ポイント，「テレビ・ラジオ等の情報番組」との回答は女性（34.3%）が男性（28.1%）を 6.2 ポイント，「テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞」との回答は女性（32.5%）が男性（20.2%）を 12.3 ポイント上回っている。

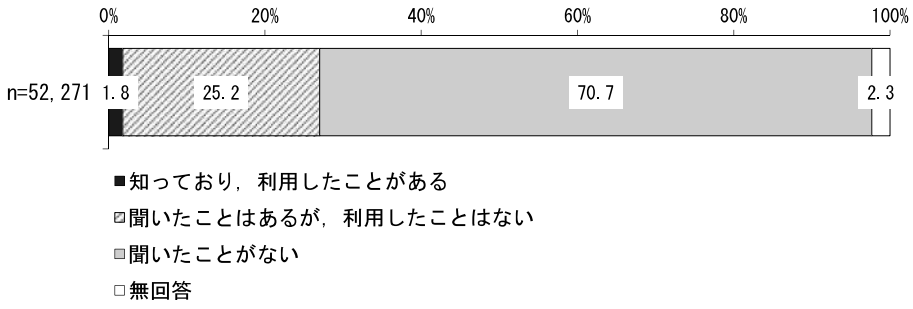
【図表　「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけ（生活形態別）】

（%）

		地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった	市役所（町役場）の人から聞いた	職場で聞いた	学校からの配布資料（チラシ等）	コンビニ等県政情報ラック（チラシ等）	県のホームページ	出前講座，防災教室，防災訓練など	県広報誌	県広報番組（テレビ）	県公式ＳＮＳ（フェイスブック・ツイッター）	街中などにある電子掲示板（デジタルサイネージ）	テレビ・ラジオ等の情報番組	テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞	その他	無回答
全体(n=2,114)		26.6	11.9	17.9	3.9	1.1	21.1	14.8	24.5	20.2	0.3	1.4	31.1	26.1	1.6	0.5
生活形態別	企業・団体勤務(n=685)	14.5	13.4	47.8	9.8	0.3	27.0	6.0	29.1	9.9	1.0	4.3	15.4	7.8	4.7	0.6
	自営業(n=83)	73.1	4.0	0.0	0.0	0.0	19.9	5.5	10.0	26.7	0.0	0.0	10.7	12.5	0.0	1.7
	農林漁業(n=124)	22.2	35.5	0.0	0.0	0.0	4.6	75.1	13.5	9.9	0.0	0.0	10.1	10.1	1.2	0.0
	家事や育児で在宅(n=170)	29.7	2.6	0.0	1.7	0.0	29.0	0.9	29.0	37.4	0.0	0.0	32.1	18.1	0.0	2.8
	学生(n=25)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	定年退職などで在宅(n=706)	30.5	9.1	0.2	0.0	2.9	21.5	13.4	23.5	33.2	0.0	0.0	51.3	41.5	0.0	0.0
	その他(n=283)	38.3	15.4	17.5	4.5	0.0	13.0	16.7	27.4	8.6	0.0	0.0	30.5	42.8	0.0	0.0

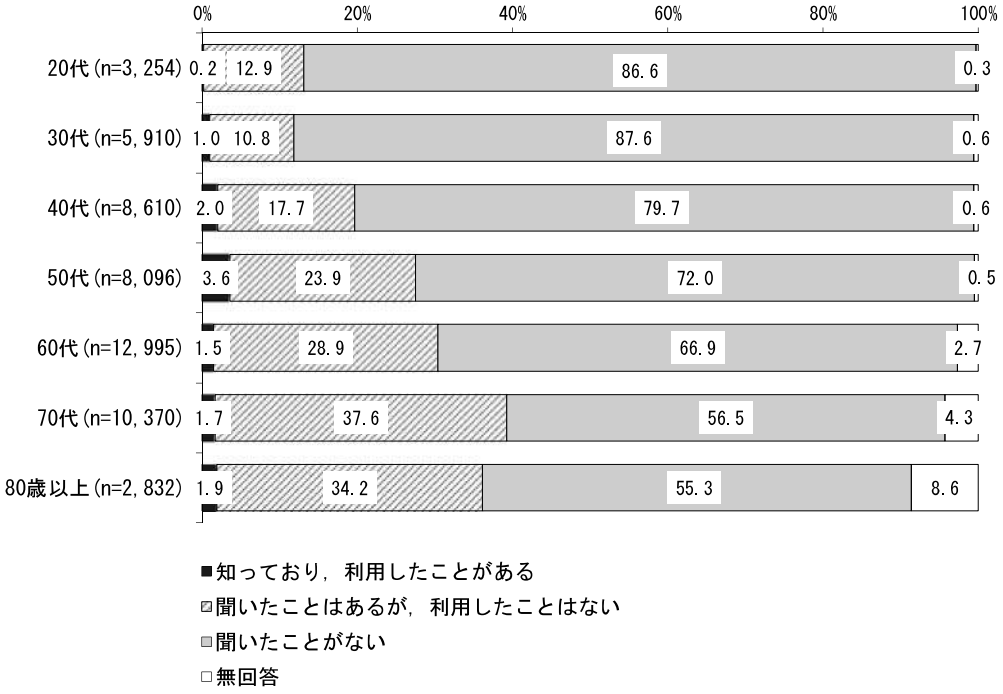
「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を知ったきっかけについて，生活形態別にみると，「地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった」との回答は自営業で７割台半ば，「職場で聞いた」との回答は企業・団体勤務で約５割，「出前講座，防災教室，防災訓練など」との回答は農林漁業で７割台半ば，「テレビ・ラジオの情報番組」との回答は定年退職などで在宅で５割超と高くなっている。

問 30　県では，災害から命を守るために，県民のみなさんにとっていただきたい行動などを分かり易く掲載した，ホームページ「みんなで減災 はじめの一歩」を開設しています。このホームページについてご存知ですか。（○は１つ）



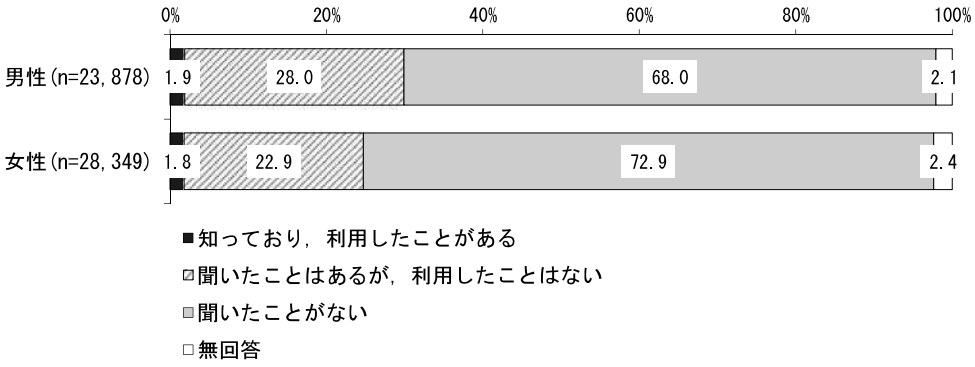
ホームページ「みんなで減災　はじめの一歩」の認知度について，「聞いたことがない」との回答が 70.7%と最も高く，次いで「聞いたことはあるが，利用したことはない」（25.2%），「知っており，利用したことがある」（1.8%）の順となっている。

【図表　ホームページ「みんなで減災 はじめの一歩」の認知度（年代別）】



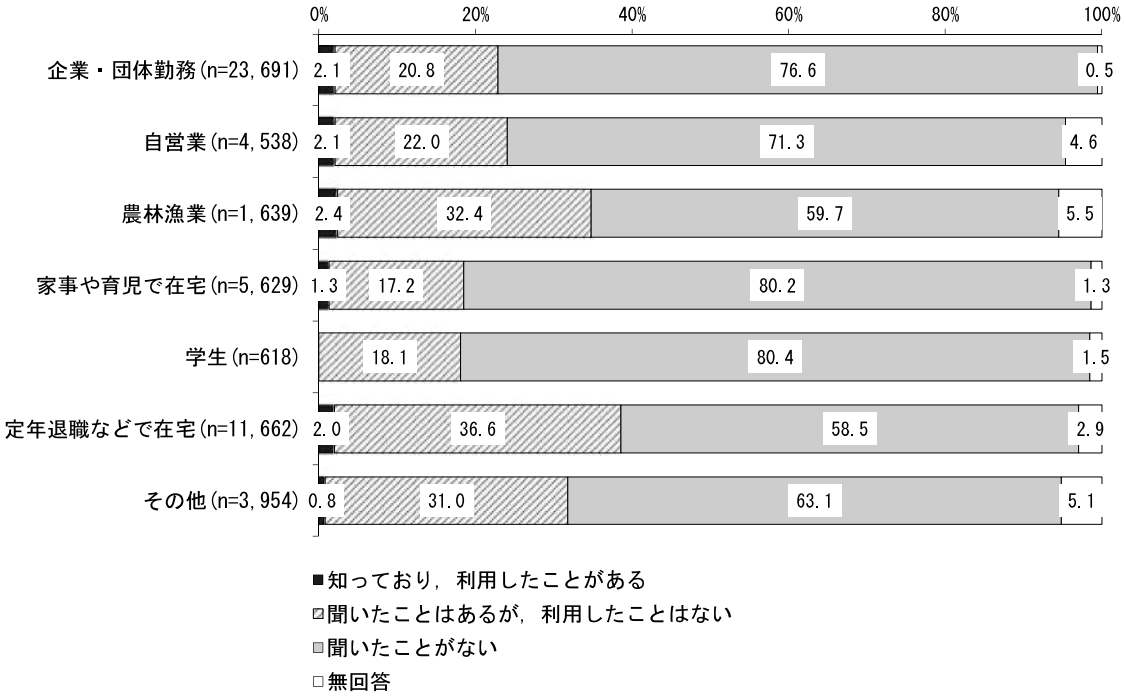
ホームページ「みんなで減災　はじめの一歩」の認知度について，年代別にみると，「聞いたことはあるが，利用したことはない」との回答は 70 代で約４割と高くなっている。「聞いたことがない」との回答は 20 代，30 代で約９割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　ホームページ「みんなで減災 はじめの一歩」の認知度（性別）】



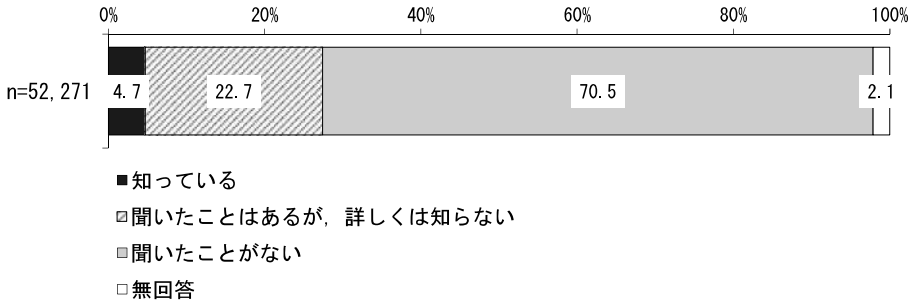
ホームページ「みんなで減災　はじめの一歩」の認知度について，性別にみると，「聞いたことはあるが，利用したことはない」との回答は男性（28.0%）が女性（22.9%）を5.1ポイント上回っている。

【図表　ホームページ「みんなで減災 はじめの一歩」の認知度（生活形態別）】



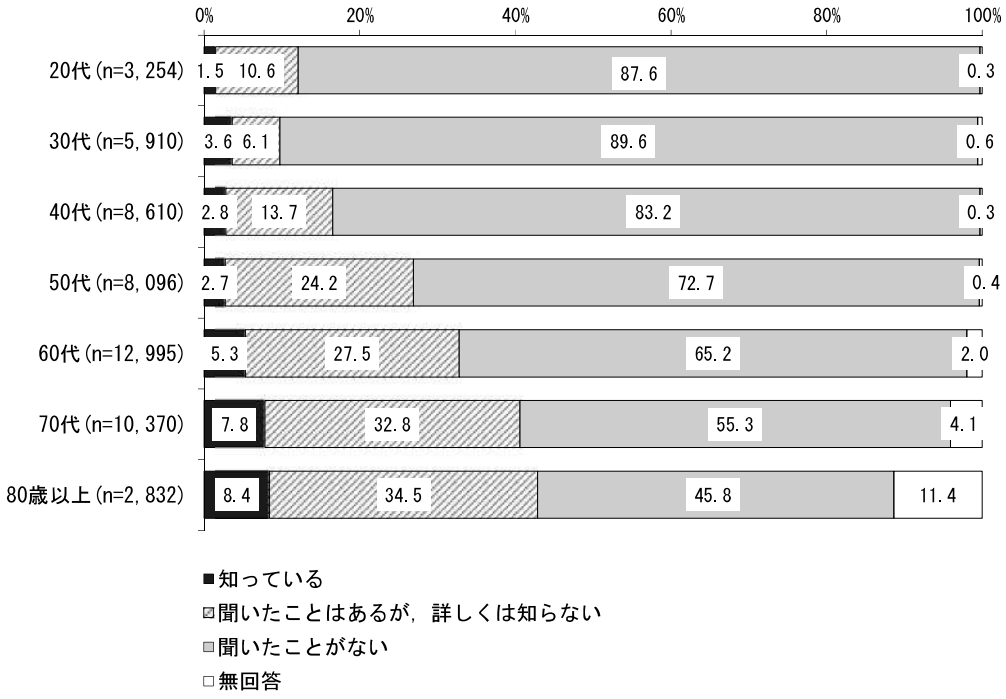
ホームページ「みんなで減災　はじめの一歩」の認知度について，生活形態別にみると，「聞いたことはあるが，利用したことはない」との回答は定年退職などで在宅で３割台半ば，「聞いたことがない」との回答は家事や育児で在宅，学生で約８割と高くなっている。

問 31　県では，「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の推進役として，テレビ・ラジオ各局の気象予報士・キャスターの方に「みんなで減災 推進大使」として，活動していただいていることをご存知ですか。（○は１つ）



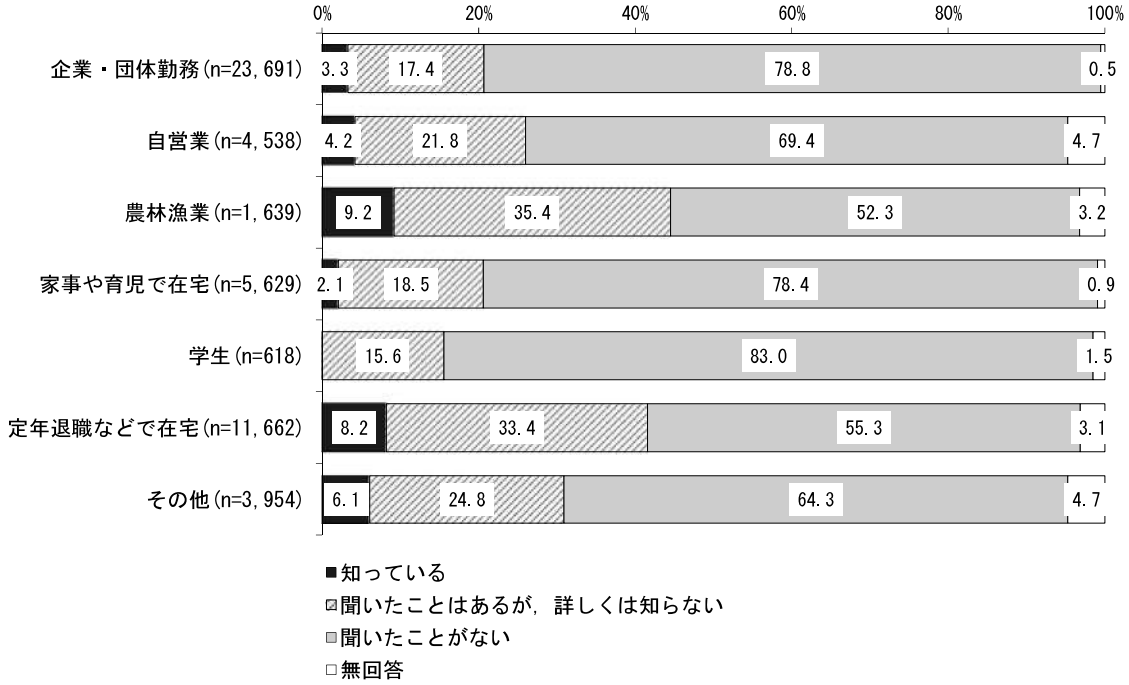
「みんなで減災　推進大使」の認知度について，「聞いたことがない」との回答が 70.5％と最も高く，次いで「聞いたことはあるが，詳しくは知らない」（22.7％），「知っている」（4.7％）の順となっている。

【図表　「みんなで減災 推進大使」の認知度（年代別）】



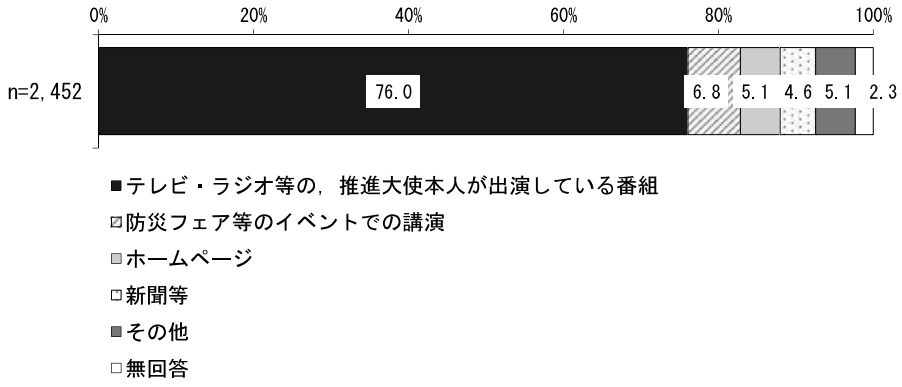
「みんなで減災　推進大使」の認知度について，年代別にみると，「聞いたことはあるが，詳しくは知らない」との回答は 80 歳以上で３割台半ばと高くなっている。「聞いたことがない」との回答は 20 代，30 代で約９割と高くなっており，年齢が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

【図表　「みんなで減災 推進大使」の認知度（生活形態別）】



「みんなで減災　推進大使」の認知度について，生活形態別にみると，「聞いたことはあるが，詳しくは知らない」との回答は農林漁業，定年退職などで在宅で３割台半ば，「聞いたことがない」との回答は学生で８割台半ばと高くなっている。

問 32　問 31 で「知っている」と回答した人にお尋ねします。「みんなで減災 推進大使」を何で知りましたか。（○は１つ）

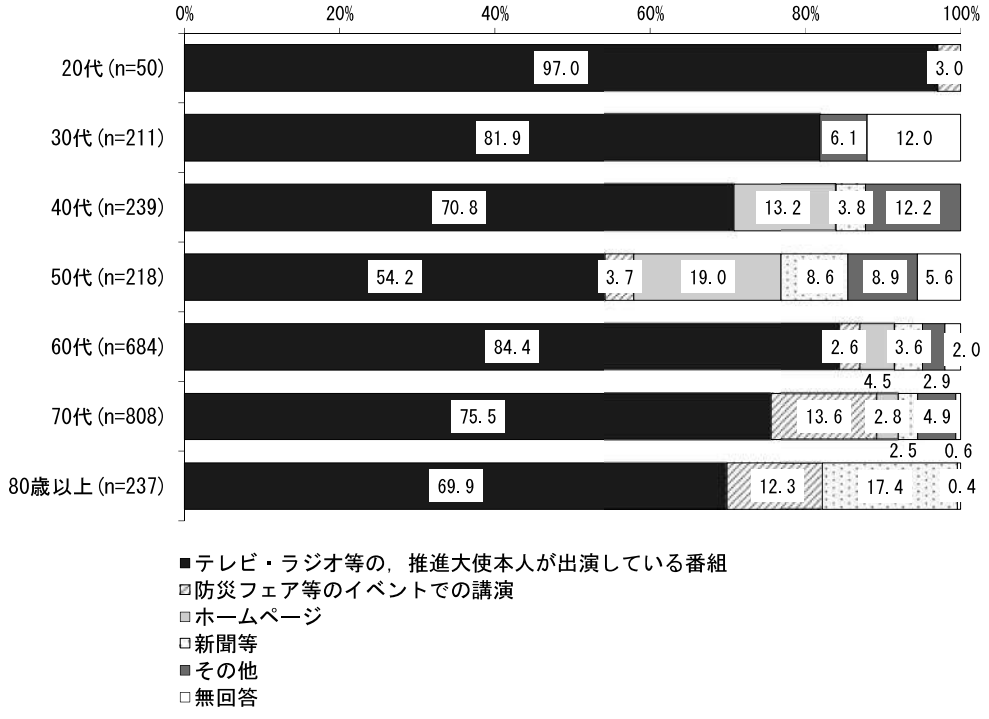


「みんなで減災　推進大使」を知ったきっかけについて，「テレビ・ラジオ等の，推進大使本人が出演している番組」との回答が 76.0％と最も高く，次いで「防災フェア等のイベントでの講演」（6.8％），「ホームページ」（5.1％）などの順となっている。

その他（具体的記述があるもののみ掲載）

・今回のアンケートで（６件）
・広報誌（２件）
・職場（２件）
・出張出前講座（１件）等

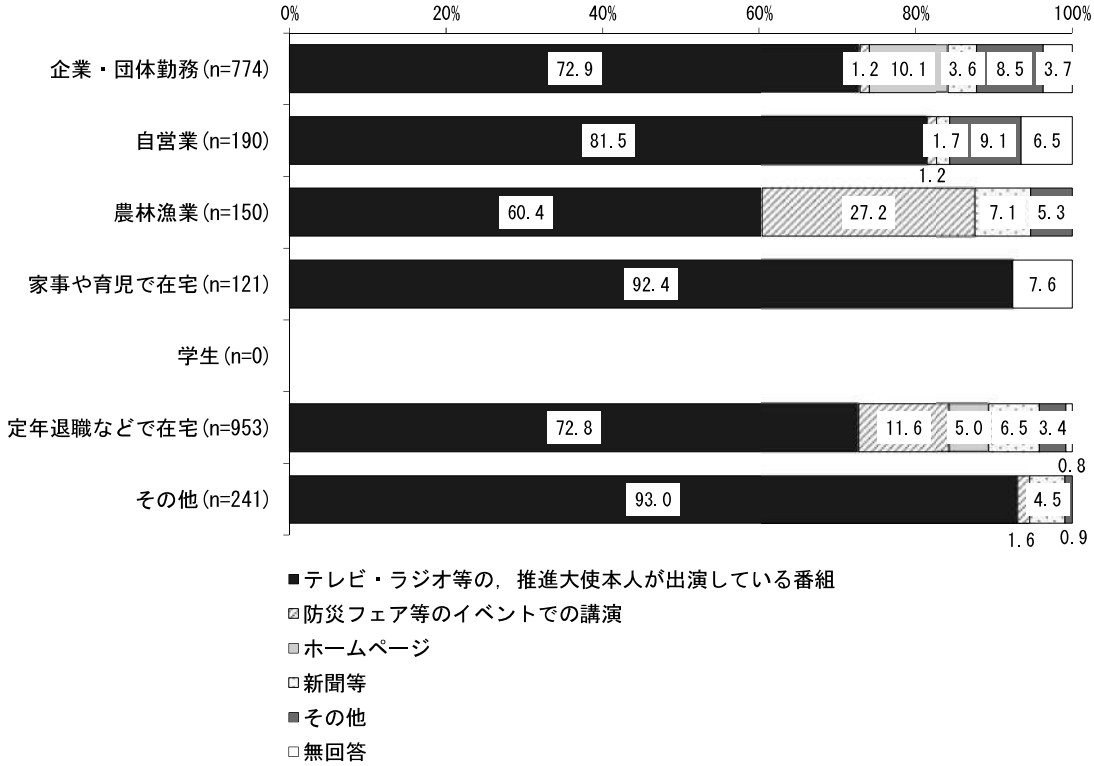
【図表　「みんなで減災 推進大使」を知ったきっかけ（年代別）】



「みんなで減災　推進大使」を知ったきっかけについて，年代別にみると，「テレビ・ラジオ等の，推進大使本人が出演している番組」との回答は 20 代で約 10 割，「防災フェア等のイベントで

の講演」との回答は 70 代で１割台半ば，「ホームページ」との回答は 50 代で約２割，「新聞等」との回答は 80 歳以上で約２割と高くなっている。

【図表　「みんなで減災 推進大使」を知ったきっかけ（生活形態別）】



「みんなで減災　推進大使」を知ったきっかけについて，生活形態別にみると，「テレビ・ラジオ等の，推進大使本人が出演している番組」との回答は家事や育児で在宅で９割超，「防災フェア等のイベントでの講演」との回答は農林漁業で約３割，「ホームページ」との回答は企業・団体勤務で約１割と高くなっている。

参　考　資　料

防災・減災に関するアンケートへのご協力のお願い

日頃から県行政の推進にご理解とご協力をいただき，誠にありがとうございます。

広島県では，平成 26 年８月の土砂災害の教訓を踏まえ，県民の皆様お一人お一人に，いつ，どこで起きるかも分からない自然災害から，ご自分の命を守るための行動をとっていただくことができるよう，昨年４月から，広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

この度，この運動の推進にあたり，防災・減災に関する県民の皆様の意識や行動内容及び情報の入手手段などの実態を把握して，今後の防災・減災対策に活かすため，防災・減災に関するアンケートを行うことにいたしました。

このアンケートは県内にお住まいの20歳以上の方10,000人を選挙人名簿から無作為に選んで行うものです。調査で得た結果はすべて統計的に処理をし，調査以外の目的では使用いたしませんので，皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが，自然災害による死者ゼロの実現をめざし，この取組を今後，さらに効果的に進めていくため，ご協力いただきますようお願いいたします。

平成 28 年 8 月

広島県危機管理監減災対策推進担当

ご記入にあたってのお願い

■質問は，全部で 33 問あります。ご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
　ご本人の記入が難しい場合は，ご本人の意向を確認いただき，ご家族の方等がご記入ください。

■全体で 15 分程度かかります。記入へのご協力をお願いします。

■ご回答は，番号に○をしてください。「その他」は〔　　〕内に内容を具体的にご記入ください。

■ご回答は，設問ごとに〔○は１つ〕〔○はいくつでも〕など指定されていますので，ご注意ください。

■お答えいただいた内容は，すべて統計的に処理し，今回の目的以外に利用することは一切ありません。調査，分析は，株式会社サーベイリサーチセンターに委託して実施しておりますが，同社におきましても個人情報の保護については徹底いたします。

■ご記入いただいた調査票は，同封の返信用封筒で９月５日（月）までに投函してください。

切手は不要です。また，封筒にあなたのご住所，お名前を記入する必要はありません。

広島県危機管理監減災対策推進担当（担当：平井）
住　所：〒730-8511　広島市中区基町 10 番 52 号
電　話：０８２－５１３－２７８１
ＦＡＸ：０８２－２２７－２１２２
Ｅメール：gensai@pref.hiroshima.jp

Ⅰ　あなたのことについてお尋ねします

問１　お住まいの市区町名をお答えください。（○は１つ）

1	中区	9	呉市	17	大竹市	25	坂町
2	東区	10	竹原市	18	東広島市	26	安芸太田町
3	南区	11	三原市	19	廿日市市	27	北広島町
4	西区	12	尾道市	20	安芸高田市	28	大崎上島町
5	安佐南区	13	福山市	21	江田島市	29	世羅町
6	安佐北区	14	府中市	22	府中町	30	神石高原町
7	安芸区	15	三次市	23	海田町		
8	佐伯区	16	庄原市	24	熊野町		

問２　お住まいのある場所は次のどれに当たりますか。

（１）　お住まいは次のどの地域にありますか。（○は１つ）

1　沿岸部
2　島嶼部
3　内陸部・山間部
4　その他（　　）

（２）　お住まいの場所や周囲の状況について，お答えください。（○はいくつでも）

1　なだらかな山の裾野にある
2　近くに急峻な山がある
3　山に挟まれた谷間にある
4　川の側にある
5　市街地にある
6　海沿いにある
7　周囲の地形は平坦である

問３　あなたの年齢はおいくつですか。（平成 28 年４月１日時点）

（　　）歳

問４　あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

1　男性　　2　女性

問５　主としてどのような生活形態ですか。（○は１つ）

１　企業・団体等で勤務している（正規の従業員，パート，派遣社員など）
２　自営業を営んでいる
３　農・林・漁業を営んでいる
４　家事や育児などで在宅している
５　学生
６　定年退職などで在宅している
７　その他（　　）

問６　あなたのお住まいは次のどれに当たりますか。住宅の種類の番号と，耐震性の有無等についても，○をつけてください。
なお，３，４の場合は（　　）欄に階数を数字で記入してください。

住宅の種類	耐震性の有無等		
１　一戸建て住宅（木造住宅）	有	無	分からない
２　一戸建て住宅（鉄骨造住宅）	有	無	分からない
３　２階建て以下の集合住宅の（　　）階	有	無	分からない
４　３階建て以上の集合住宅の（　　）階	有	無	分からない

問７　現在，あなたと同居している方についてお尋ねします。
（１）　同居している方はどなたですか。（○はいくつでも）

１　配偶者
２　親
３　乳幼児（未就学児）
４　小学生の子ども
５　中学生以上の子ども
６　親戚や知り合いなど
　→(2)へ
７　同居している人はいない（一人暮らし）　→問8へ
８　その他（　　）

（２）　１～６に○をつけた方にお尋ねします。同居している方のうち，災害時に自力で避難することが困難な方はいらっしゃいますか。（○は１つ）

１　いる　　２　いない

問８　地域での防災活動への関わりについて教えてください。（○はいくつでも）

１　自主防災組織で活動している
２　自主防災組織で役員等をしている
３　消防団・水防団に所属している
４　関わりはない
５　その他（　　）

問９　あなたは，町内会・自治会に入っていますか。
また，町内の人々とどれくらい親しく付き合っていますか。（○は１つ）

１　町内会・自治会に入っていて，町内に親しく付き合っている人がいる。
２　町内会・自治会に入っていて，会えば挨拶をする程度の人がいる。
３　町内会・自治会に入っているが，町内の人と付き合いがない。
４　町内会・自治会に入っていない。

問 10　現在の住所に住み始めてから，今年で何年になりますか。正確な年数がわからない場合は，おおよそでも構いません。

（　　）年

問 11　あなたは，「広島県」に愛着がありますか。（○は１つ）

１　まったく愛着がない
２　どちらかといえば愛着がない
３　どちらともいえない
４　どちらかといえば愛着がある
５　とても愛着がある

問 12　ここ最近のあなたの関心事項は何ですか。下記に挙げるもののうち，最も関心のあるものから３つを選び，回答欄にその番号を記入してください。

1　家計の状態や経済的な暮らし向き
2　仕事のこと
3　家族や家庭のこと
4　家族以外の友人など，対人関係のこと
5　趣味の活動や習い事など，余暇活動のこと
6　自分の健康や病気，精神的な不安のこと
7　将来の進路や生活のこと
8　地域に関すること
9　社会で起きている様々な問題
10　自然災害
11　その他（具体的に　　）

＜回答欄＞

１位	２位	３位

Ⅱ　次に，あなたの災害に対する意識とご経験についてお尋ねします

問１　あなたは，自然災害や防災・減災といった事柄にどれくらい関心がありますか。（○は１つ）

１　まったく関心がない
２　少しは関心がある
３　かなり関心がある
４　とても関心がある

問２　今後 10 年の間に，あなたがお住いの地域が以下の災害で被災する可能性はどれくらいあると思いますか。各項目について該当する番号１つを○で囲んでください。

	可能性はまったくない	少しは可能性がある	かなり可能性がある	可能性は非常に高い
震度６～７の地震（阪神・淡路大震災の大きさ。立っていることができず，飛ばされることもあり，地割れや家屋の倒壊が起きる）	１	２	３	４
震度４～５の地震（ものにつかまらないと歩けず，家具が倒れることがある）	１	２	３	４
土砂災害	１	２	３	４
暴風や竜巻による風害（人や物が飛ばされる，塩害など）	１	２	３	４
台風や豪雨による水害（高潮，河川の氾濫，家屋の浸水，耕地の冠水，堤防の決壊など）	１	２	３	４
津波による被害	１	２	３	４
豪雪・雪崩による雪害	１	２	３	４

問３　あなたはふだん，次の災害が来ることについてどれくらい心配していますか。
各項目について該当する番号１つを○で囲んでください。

	まったく心配ではない	少しは心配である	かなり心配である	非常に心配である
震度６～７の地震（阪神・淡路大震災の大きさ。立っていることができず，飛ばされることもあり，地割れや家屋の倒壊が起きる）	1	2	3	4
震度４～５の地震（ものにつかまらないと歩けず，家具が倒れることがある）	1	2	3	4
土砂災害	1	2	3	4
暴風や竜巻による風害 （人や物が飛ばされる，塩害など）	1	2	3	4
台風や豪雨による水害（高潮，河川の氾濫，家屋の浸水，耕地の冠水，堤防の決壊など）	1	2	3	4
津波による被害	1	2	3	4
豪雪・雪崩による雪害	1	2	3	4

問4　あなたやあなたのご家族は，これまで，災害によって何らかの被害（怪我，物損，２日以上の避難生活など）を受けたことがありますか。（○は1つ）

１　まったくない
２　それほど大きくはないが，被害を受けたことがある
３　比較的大きな被害を受けたことがある
４　非常に大きな被害を受けたことがある

問5 「気象警報が役立った（警報が出ていたおかげで危険を避けることができた）」と思うことが，これまでどれくらいありましたか。（○は1つ）

１　まったくなかった
２　たまにあった
３　たびたびあった
４　頻繁にあった

問６　次に，災害や防災・減災に関する様々な考え方を示しています。これらの考えは，あなた自身のお考えにどの程度あてはまりますか。各項目について該当する番号１つを○で囲んでください。

	まったくあてはまらない	少しあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる
１人１人が災害への備えをしっかりしておくことは重要だ	１	２	３	４
災害への備えをするかどうかは個人の自由だ	１	２	３	４
災害への備えは，「自分の命を自分で守る」ために行うものだ	１	２	３	４
災害への備えを行うことは，社会の一員としての義務だ	１	２	３	４
災害への備えをしておかなければ，地域の人々に迷惑をかけることになる	１	２	３	４
自分の居住地域で災害が起きたら，その時はその時のことだ	１	２	３	４
災害への備えは，自分にとって大切な人々を悲しませないようにするために行うものだ	１	２	３	４
いざという時，家族や親しい人々を助けることができるようにするためにも，備えが必要だ	１	２	３	４
災害に備えることに時間や手間を費やすのは無駄な気がする	１	２	３	４
気象警報が発表されても，結果的には大きな災害が来ないことが多い	１	２	３	４
広島県は，他の県に比べると災害が少ないと思う	１	２	３	４

問７　あなたがお住まいの町内では，町ぐるみの防災活動がどれくらい盛んですか。（○は１つ）

１　まったく盛んではない
２　盛んとは言えないが，たまに防災活動をやっている
３　どちらかといえば盛んな方だ
４　かなり盛んな方だ
５　わからない

問８　あなたの住んでいる場所で，どのような災害の危険性が想定されているかご存知ですか。（７または８以外は，○はいくつでも）

＊県の防災 Web や，市町のハザードマップなどで災害危険箇所を公開しています。

1　地震の危険性
2　津波で浸水する危険性
3　川の氾濫による浸水の危険性
4　内水氾濫※による浸水の危険性
5　高潮による浸水の危険性
6　土砂災害の危険性

→ **問 9 へ**

7　災害の危険性はない　→ **問 10 へ**

8　どんな危険性があるか知らない　→ **問 11 へ**

※　川の水位の上昇や流域内の多量の降雨などにより，河川外における住宅地などの排水が困難となり浸水すること

問９　問８で「１～６」と回答した人にお尋ねします。

（１）災害の危険性は，どのようなきっかけで知りましたか。（○はいくつでも）

1　自分で調べた　→**(2)へ**
2　家族に聞いた（話し合った）
3　地域の方（個人，自主防災組織，消防団）から教えてもらった
4　地域の住民ではない友人や知人から教えてもらった
5　市役所（町役場）の人から聞いた
6　職場で教えてもらった
7　学校で教えてもらった
8　自ら災害を体験した
9　家族（親戚）・知人が災害を体験した
10　その他　（　　）

→ **(3)へ**

（２）　問９の（１）で「１　自分で調べた」と回答した人にお尋ねします。
災害の危険性を知ろうと思った大きなきっかけは何ですか。数字を選んで回答欄にお書きください。（３つまで）

1　一昨年，広島市で大規模災害があったから
2　近年，各地で災害が起きているから
3　防災教室，出前講座，防災訓練，防災イベントで教わったから
4　子どもが学校で確認するよう教わったから
5　テレビ，新聞，ラジオなどで見聞きしたから
6　インターネット上の記事や情報を見たから
7　県・市町のホームページ，広報誌，広報番組で見聞きしたから
8　広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を知ったから
9　自主防災組織や町内の人から勧められたから
10　市役所（町役場）の人から勧められたから
11　自分が災害を経験したから
12　家族（親戚）・知人が災害を体験したから
13　職場で勧められたから
14　地域の住民ではない友人や知人から勧められたから
15　その他（　　）

回答欄		

（３）　問９の（１）で「２～10」と回答した人にお尋ねします。
災害の危険性を確認した方法をお答えください。（○はいくつでも）

1　県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ※
2　市町が紙に印刷して配布したハザードマップ※
3　県の防災Web や市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等
4　地域住民が独自に作成した防災マップ
5　実際に地域を歩いてみた
6　その他（　　）

※　自然災害（地震・津波・洪水・土砂災害等）による被害の軽減や防災対策に使用する目的で，被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

問 10　問８で「７　災害の危険性はない」と回答した人にお尋ねします。
災害の危険性はないとされた理由は何ですか。（○は１つ）

１　ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認している他，家屋の耐震化や家具の固定など，必要な備えを行っているから
２　家屋の耐震化や家具の固定などの備えは行っていないが，ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認しているから
３　ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどはしていないが，これまで近親者で，災害に遭った人はいないから
４　住んでいる地域で災害が起こっていないから
５　特に根拠はない
６　その他（　　）

問 11　問８で「８　どんな危険性があるか知らない」と回答した人にお尋ねします。
危険性を知らない理由をお答えください。（○はいくつでも）

１　知りたいが，誰（どこ）に聞いたらよいか分からない
２　知りたいが，忙しくて確認する時間がない
３　知りたいが，調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
４　危険性を確認する必要性を感じない
５　災害が起きたらその時はその時だと思っている
６　その他（　　）

問 12　台風の接近により，甚大な被害をもたらす可能性や，大雨により，河川の氾濫や土砂災害の危険性のある場合，次の情報を，どこから入手しますか。下記１～13 の中から，当てはまる数字をお選びください。（それぞれ３つまで）

1　テレビ（天気予報を含む）
2　テレビのデータ放送※
3　ラジオ
4　インターネット
　（県防災Web，気象庁ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ等）
5　県や市町の防災情報メール
6　防災行政無線
7　ツイッターやフェイスブックなどＳＮＳ
8　市町の広報車
9　町内会や自主防災組織から
10　消防署や消防団から
11　家族，友人，近所の方から
12　入手しない
13　その他（　　）

※ テレビのリモコンのｄボタンを押すと，雨量・水位などの観測データや気象予警報，土砂災害警戒情報などの情報を見たいときにいつでも見ることができるサービス

情報の種類	第1位	第2位	第3位	その他（13）を選んだ場合，その内容
雨量や水位，風速に関する情報				（　　）
注意報，警報，土砂災害警戒情報				（　　）
避難に関する情報				（　　）

問 13　県及び市町では，登録者に防災情報メール※をお送りしています。このことを，ご存じですか。（○は１つ）

※ 大雨や洪水に関する注意報や警報，土砂災害警戒情報及び地域の雨量などの情報を防災情報メールで登録者の携帯電話，スマートフォンなどにお知らせしています。防災情報メールの登録方法については，県防災 Web に掲載しています。

1　知っており，登録もしている
2　知っているが，登録しない　　→ **問 14 へ**
3　知らないが，今後登録したい
4　知らないし，登録も考えていない　→ **問 14 へ**

問 14　問 13 で「２　知っているが，登録しない」，「４　知らないし，登録も考えていない」と回答した人にお尋ねします。その理由は何ですか。（○は３つまで）

1　登録方法を知らないから
2　登録方法が複雑だから
3　防災情報アプリなど，他の入手方法があるから
4　住んでいる場所は安全だから登録する必要性がない
5　パソコンや携帯電話を持っていないから
6　役に立たないから（情報が少ないから）
7　その他（　　）

問 15　あなたは，過去１年間に，ご自宅，地域，職場，あるいは学校で，防災教室や防災訓練等に参加したことがありますか。（○はいくつでも）

1　地域の防災教室や防災訓練等に参加した
2　職場，または学校の防災教室や防災訓練等に参加した
3　県や市町が，本年６月に，同封の教材等により実施した「一斉防災教室」，または，昨年９月に実施した「一斉地震防災訓練」に参加した
4　同封の教材により，今回，身の周りの災害危険箇所や避難場所を確認した。
5　防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない　**→ 問16へ**
6　防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない　**→ 問17へ**

※　一斉防災教室：５月～６月にかけて行った災害危険箇所，避難場所及び避難経路の確認
　　一斉地震防災訓練：昨年９月に行った，地震から命を守るための行動をとる訓練

問16　問15で「５　防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない」と回答した人にお尋ねします。
防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは，なぜですか。（○は１つ）

1　たまたまその時に他に用事があったから
2　家事や育児で忙しかったから
3　仕事が忙しかったから
4　防災教室や防災訓練等は，時間が長いため
5　以前参加したことがあり，内容についてはすでに理解しているから
6　防災教室や防災訓練等は，敷居が高く，参加しにくい雰囲気があるから
7　防災教室や防災訓練等に参加する必要性を感じないから
8　防災教室や防災訓練等に関心がないから
9　その他（　　）

＊ 社会福祉施設等へ入所しているため。体調不良のため 等

問 17　問 15 で「６　防災教室や防災訓練が行われたかどうか知らない」と回答した人にお尋ねします。開催されることを知っていれば，参加されましたか。（○は１つ）

１　参加した
２　参加しなかった

問 18　今後実施される防災教室や防災訓練等を知る上で，有効な告知方法は何だと思いますか。数字を選んで回答欄にお書きください。（３つまで）

１　テレビ
２　新聞
３　フリーペーパー，タウン情報誌等
４　町内会の回覧
５　近所・知人からの口コミ
６　県または市町のホームページ等
７　県または市町の広報誌
８　ケーブルテレビ
９　市町の防災行政無線
10　職場，学校を通じた周知
11　その他（　　）

回答欄		

Ⅲ　あなたの災害に対する備えや災害時の行動についてお尋ねします

問 19　あなたは，今現在，下記のような「災害への備え」をどれくらいしていますか。
各項目について，該当する番号１つを○で囲んでください。
また，その「災害への備え」は，今年４月に起こった熊本地震の前からですか，それとも熊本地震の後からですか。「前」，「後」のいずれかを○で囲んでください。

	まったくしていない	少しはしている	かなりしている	十分にしている	熊本地震の前・後	
３日分以上の食糧や飲料水の備蓄	1	2	3	4	前	後
食糧と飲料水以外の非常持出品（携帯ﾗｼﾞｵ，懐中電灯，医薬品など）の準備	1	2	3	4	前	後
身の周りの避難場所及び避難経路の確認	1	2	3	4	前	後
立ち寄り先（職場や学校など）で被災した場合の避難場所や避難経路の確認	1	2	3	4	前	後
住んでいる場所の，発生の危険性のある災害に応じた避難場所や避難経路の確認	1	2	3	4	前	後
家具や冷蔵庫などの転倒の防止	1	2	3	4	前	後
家族や友人との緊急の連絡方法の確認	1	2	3	4	前	後
避難訓練などの防災訓練への参加	1	2	3	4	前	後
近所や町内の人々との日頃のコミュニケーション	1	2	3	4	前	後
災害時の自宅周辺の危険性や，防災・減災に関わる情報収集	1	2	3	4	前	後

問 20　避難場所は何で確認しましたか。（○はいくつでも）

１　市町が紙に印刷して配布したハザードマップ
２　県のホームページ（防災Web や「みんなで減災 はじめの一歩」）や市町のホームページ
３　地域住民が独自に作成した防災マップ
４　地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から避難場所を教えてもらった
５　市役所（町役場）の人から聞いた
６　その他（　　）

問 21　次の各項目について，該当する番号１つを○で囲んでください。

	まったくいない	少しはいる	かなりいる	ほぼ全員
あなたの親しい人たちの中に，災害への備えをしている人はどれくらいいますか。	1	2	3	4
あなたがお住いの地域では災害への備えをしている人はどれくらいいますか。	1	2	3	4
広島県には災害への備えをしている人がどれくらいいると思いますか。	1	2	3	4

問 22　次の各項目について，該当する番号１つを○で囲んでください。

	そう思わない	ややそう思う	かなりそう思う	まったくそう思う
あなたと親しい人たちは，あなたに災害への備えをしてほしいと期待していると思いますか。	1	2	3	4
あなたがお住いの地域の人々は，皆（あなたを含む）が災害への備えをすることを望んでいると思いますか。	1	2	3	4
災害への備えをすることは，社会的に望ましい行為だと思いますか。	1	2	3	4

問 23　災害への備えについて，あなたはどう思いますか。下に挙げる考えに同意するかどうかをお答えください。該当する番号１つを○で囲んでください。

	まったく同意しない	あまり同意しない	かなり同意する	おおいに同意する
避難場所や避難経路を確認しておけば，災害のとき困らなくてすむと思う	1	2	3	4
非常持ち出し用の食料や物品などを準備しておくことは，災害のときに役に立つだろう	1	2	3	4
避難訓練に参加しても，本当の災害のときに役立つとは限らないと思う	1	2	3	4
地域全体で災害に備えておけば，災害時の被害を減らすことができるだろう	1	2	3	4
避難場所や避難経路を確認するのは，正直，面倒だ	1	2	3	4
非常持ち出し用の食料や物品を準備するのは手間や費用がかかって大変だ	1	2	3	4
避難訓練に参加するのはむずかしい	1	2	3	4
自分の地域では，防災活動に取り組むのは困難だ	1	2	3	4

問 24　今年の６月～７月は，広島県下で大雨警報などの警報が何度か発表されました。このときのことについて，次の問いにお答えください。

（１）この時期，あなたがお住まいの地域に，避難準備情報・避難勧告が発表・発令されましたか。（○は１つ）

1　発表・発令された。また，発表・発令された時，すぐに気づいた　**→(2)へ**
2　発表・発令されたことにすぐには気づかず，解除された後で知った
3　発表されなかった
4　発表されたかどうかを知らない　**→(4)へ**

（２）避難準備情報・避難勧告が発表・発令されたとき，避難しましたか。（○は１つ）

1　指定の避難所に避難した
2　避難所ではなく別の場所に避難した
3　自宅で安全な場所に移動した
4　特に何もしなかった

（３）あなたの近所の人々は，避難していましたか。（○は１つ）

1　多くの人が避難していた
2　一部の人が避難していた
3　誰も避難していなかった
4　わからない

（４）大雨警報が発表されたとき，あなたは自分の家や自分自身が浸水や冠水，土砂崩れなど，何らかの被害を受けることを心配しましたか。

１　まったく心配しなかった
２　多少は心配した
３　かなり心配した
４　とても心配した

（５）あなたのお住まいの町内や近隣の町では，この時の大雨によって，浸水や冠水など何らかの被害がありましたか。（○は１つ）

１　まったくなかった
２　多少は被害があった
３　大きな被害があった
４　わからない

（６）大雨や台風による災害が想定されるとき，あなたはどの時点で避難行動を開始しますか。（○は１つ）

１　市町が避難準備情報を発表したとき
２　市町が避難勧告を発令したとき
３　市町が避難指示を発令したとき
４　近所の人が避難を始めたとき
５　近所の人に避難を促されたとき
６　１～３に関わらず，自分で判断したとき
７　その時になってみないとわからない
８　行動をとらない

問 25　あなたはふだん，テレビ（または新聞）で災害や防災に関する番組（または記事）があったら，どうしていますか。（○は１つ）

１　まったく見ない（読まない）
２　たまに見る（読む）ことがある
３　ときどき見る（読む）
４　必ず見る（読む）

問 26　あなたはふだん，インターネットで災害や防災に関する情報を得ることがありますか。（○は１つ）

１　まったくない
２　たまにある
３　ときどきある
４　しょっちゅうある
５　インターネットを使わない

問 27　あなたはふだん，家族や地域の人々と，災害や防災に関する話をすることがありますか。（○は１つ）

１　まったくない
２　たまに災害に関する話をする
３　ときどき災害に関する話をする
４　しょっちゅう災害に関する話をする

問 28　県では，平成 27 年４月から，「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。（○は１つ）

1　行動目標※を含めて，知っていた　　→ **問 29 へ**
2　聞いたことはあるが，詳しくは知らなかった
3　まったく知らなかった　　→**問 30 へ**

※５つの行動目標

【災害から命を守るための行動】

１「知る」	身の周りの災害危険箇所や災害の種類に応じた避難場所・経路の確認
２「察知する」	危険を知らせる気象情報・避難情報を確認する。
３「行動する」	災害から命を守るために自ら判断して適切に行動する。

【普段から災害に備えるための行動】

４「学ぶ」	学校，職場，地域で行われる防災教室・防災訓練に参加する。
５「備える」	非常持出品の準備。建物の耐震化や家具の転倒防止対策を進める。

問 29　問 28 で「１ 行動目標を含めて，知っていた」と回答した人にお尋ねします。この運動を何で知りましたか。（○はいくつでも）

1　地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった
2　市役所（町役場）の人から聞いた
3　職場で聞いた
4　学校からの配布資料（チラシ等）
5　コンビニ等県政情報ラック（チラシ等）
6　県のホームページ
7　出前講座，防災教室，防災訓練など
8　県広報誌
9　県広報番組（テレビ）
10　県公式ＳＮＳ（フェイスブック・ツイッター）
11　街中などにある電子掲示板（デジタルサイネージ）
12　テレビ・ラジオ等の情報番組
13　テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞
14　その他（　　）

→次頁の問 30 へ進んでください

問 30　県では，災害から命を守るために，県民のみなさんにとっていただきたい行動などを分かり易く掲載した，ホームページ「みんなで減災 はじめの一歩」（※同封のチラシ参照）を開設しています。このホームページについてご存知ですか。（○は１つ）

1　知っており，利用したことがある
2　聞いたことはあるが，利用したことはない
3　聞いたことがない

問 31　県では，「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の推進役として，テレビ・ラジオ各局の気象予報士・キャスターの方に「みんなで減災 推進大使」（※同封の「～『みんなで減災』推進大使のみなさん～」参照）として，活動していただいていることをご存知ですか。（○は１つ）

1　知っている　　**→ 問 32 へ**
2　聞いたことはあるが，詳しくは知らない
3　聞いたことがない

問 32　問 31 で「知っている」と回答した人にお尋ねします。「みんなで減災 推進大使」を何で知りましたか。（○は１つ）

1　テレビ・ラジオ等の，推進大使本人が出演している番組
2　防災フェア等のイベントでの講演
3　ホームページ
4　新聞等
5　その他（　　）

問 33　防災・減災について自由なご意見をお願いします。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

名　　称　平成 28 年度防災・減災に関する県民意識調査
発　　行　広島県　危機管理監　減災対策推進担当
所 在 地　〒730-8511　広島市中区基町 10 番 52 号
電　話　０８２－５１３－２７８１
ＦＡＸ　０８２－２２７－２１２２
E-mail: gensai@pref.hiroshima.jp
発行年月　平成 28 年 10 月